静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第226集

千福南山Ⅲ西遺跡

第二東名No.148－2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－6

2011

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第226集

千福南山Ⅲ西遺跡

第二東名№148－2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－6

２０１１

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

第二東名高速道路の建設に伴って静岡県内では多くの埋蔵文化財の発掘調査が行なわれました。本遺跡の所在する静岡県東部は、旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数存在する地域として知られており、過去においても調査が行なわれ多くの成果が得られています。今回の第二東名高速道路の建設に伴う発掘調査では、今まで知られていなかった遺跡を含めて多数の成果が得られており、その中には静岡県を代表する遺跡となった調査成果もあります。

今回、報告する千福南山Ⅲ西遺跡（第二東名№148－２地点）は愛鷹山東麓に所在します。従来この地域は、南麓に比べて周知の遺跡はやや少なく、今回の第二東名高速道路の建設に伴い新たに発見された遺跡が数多くあります。千福南山Ⅲ西遺跡もその中の一つです。

千福南山Ⅲ西遺跡は調査範囲の大半がかなりの急傾斜地であり、周辺の調査事例から、調査成果に多大な期待を寄せることはできない、と当初は考えていました。しかし、調査が進行するにつれ、続々と検出される縄文時代の陥穴状土坑により、当初の予想は覆ることになりました。検出された土坑は最終的に約170基に達し、静岡県下で最多を誇ります。また、一遺跡からの検出数において、全国的にも屈指の遺跡になりました。また、僅かな量ではありますが、静岡県東部では類例の稀な縄文時代後期中葉の遺物が出土しているのも注意すべきであると考えます。

今回の報告書では、この地域における縄文時代の狩猟活動の一端を明らかにすべく、多くのデータを盛り込みました。この成果が地域の歴史を明らかにするための資料として有効に活用されることを期待します。

最後になりましたが、調査及び報告書の作成にあたり多大なる援助・協力を頂きました中日本高速道路株式会社東京支社沼津工事事務所、静岡県教育委員会をはじめ、多くの関係諸機関の方々に厚くお礼を申し上げます。また、危険な傾斜地の調査であるにもかかわらず、無事故で調査を完了させた調査参加者の苦労をねぎらいたいと思います。

平成23年１月31日

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長　石田　彰

例　　言

１．本書は静岡県裾野市葛山字西ノ窪148他に所在する千福南山Ⅲ西遺跡（№148-2地点）の調査報告書である。

２．調査は、第二東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

３．千福南山Ⅲ西遺跡の確認調査、本調査および資料整理の期間は次のとおりである。

確認調査Ⅰ期　　平成18年４月～５月
本調査Ⅰ期　　平成18年６月～12月
確認調査Ⅱ期　　平成21年２月～３月
確認調査Ⅲ期　　平成21年４月
本調査Ⅱ期　　平成21年４月～９月
資料整理・報告書作成　平成21年10月～平成22年３月

４．本遺跡の調査・整理体制と、担当者は、以下のとおりである。

平成18年度（確認調査Ⅰ期、本調査Ⅰ期）
所長：斎藤　忠　常務理事兼総務部長：平松公夫　総務部次長兼総務課長：鈴木大二郎
調査研究部長：石川素久　調査研究部次長兼調査課長：及川　司　調査課係長：中鉢賢治
調査研究員：田中弘幸

平成20年度（確認調査Ⅱ期）
所長兼常務理事：清水　哲　次長兼総務課長：大場正夫　次長兼調査課長：及川　司
調査課東部総括係長：中鉢賢治　調査研究員：木崎道昭

平成21年度（確認調査Ⅲ期、本調査Ⅱ期、資料整理）
所長兼常務理事：天野　忍　次長兼総務課長：松村　享　次長兼調査課長：及川　司
次長兼東部総括係長：中鉢賢治　調査研究員：木崎道昭

５．本書の執筆は木崎道昭、大島秀俊（株式会社シン技術コンサル）が行った。分担は下記のとおりである。なお、全体の監修は木崎道昭が行なった。

木崎道昭：第Ⅰ章、第Ⅱ章第１節、第２節、第Ⅳ章第３節、附編の補註
大島秀俊：第Ⅱ章第３節、第Ⅲ章、第Ⅳ章第１節、第２節、第４節、第Ⅴ章、第Ⅵ章

６．出土遺物の接合・復元・実測・写真撮影および挿図・表・写真図版の作成、報告書の版組編集作業は当研究所の監修・指導のもと株式会社シン技術コンサルが行った（附編は除く）。

７．黒曜石の産地推定は、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授　望月明彦氏に依頼した。

８．黒曜石以外の石材の同定は当研究所元整理技術員森嶋富士夫が行った。

９．炭化物の年代測定・樹種同定については株式会社加速器分析研究所に委託した。

10．調査で実施した委託事項および委託先は下記のとおりである。

平成18年度（確認調査Ⅰ期、本調査Ⅰ期）　掘削業務　株式会社集組
測量業務　株式会社シン技術コンサル
平成20年度（確認調査Ⅱ期）　掘削業務　セリザワ建設株式会社
測量業務　株式会社シン技術コンサル
平成21年度（確認調査Ⅲ期、本調査Ⅱ期）　掘削業務　セリザワ建設株式会社

測量業務　株式会社シン技術コンサル

11. 発掘調査および資料整理については以下の方にご指導・ご助言を賜った。厚く御礼申し上げる。
及川良彦　倉石広太　小林謙一　柴田　徹　長谷川　徹　福嶋正史　細野高伯（五十音順・敬称略）
12. 発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管している。
13. 本報告書における「文」・「紋」の使い分けに関しては、「縄文時代」・「縄文土器」については「文」を使用した。縄文土器の記述中においては「紋」を用いた。ただし「文様帯」については「文」を使用している。

凡　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

1．本書で用いた遺物、遺構等の位置を表す国土座標値は、すべて旧日本測地系による。
2．調査区の方眼設定は旧日本測地系座標第Ⅷ系を使用し、Ｘ（-88980）、Ｙ（35540）の南西角を原点とし、Ｘ軸（南北）はアルファベットのＡ～、Ｙ軸（西東）はアラビア数字を１～から順次附番した。
3．出土遺物は、それぞれの遺物番号にＸ，Ｙの座標と標高を記録して取り上げている。
4．本文中または土器観察表に用いた色彩に関する用語、記号は『新版標準土色帖　1992 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局．財団法人日本色彩研究所色票監修 1992）を使用した。
5．石器実測図、石器・剥片・礫観察表に使用した記号は以下の表の通りである。

岩石略号一覧

和　名	英　名	標準資料略号
玄武岩	basalt	Ba
玄武岩(多孔質)	vesicular basalt	VBa
ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAn
輝石安山岩	pyroxene andesite	An(Py)
ホルンフェルス	hornfels	Hor
安山岩(多孔質)	vesicular andesite	VAn
石英閃緑岩	quartz diorite	QD
緑色片岩	green schist	GS
緑色凝灰岩	green tuff	GT
黒曜石	obsidian	Ob

黒曜石産地略号一覧

略　語	産　地	
WDTY	和田(WD)	鷹山群
SWHD	諏訪	星ヶ台群
HNHJ	箱根	畑宿群
AGKT	天城	柏峠群
KZOB	神津島	恩馳島群

6．石器実測図中で使用したスクリーントーンのうち□は磨面の範囲を、▨は被熱の範囲、▨は敲打痕、■は新規の破損部を表す。
7．出土遺物の縮尺は、土器 1/3、石器は剥片石器 4/5、打製石斧 1/2、磨石類・台石・礫器 1/3 として、それぞれスケールを付している。

目　　次

序／例言／凡例

第Ⅰ章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯……1
第２節　調査の方法と経過……1

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　地理的環境……6
第２節　歴史的環境……9
第３節　基本層序……11

第Ⅲ章　旧石器時代

第１節　旧石器時代の概要……18
第２節　遺構……18
第３節　石器……18

第Ⅳ章　縄文時代

第１節　縄文時代の概要……23
第２節　遺構……23
第３節　土器……69
第４節　石器……82

第Ⅴ章　中世以降

第１節　中世以降の概要……94
第２節　遺構……94

第Ⅵ章　調査の成果

第１節　旧石器時代……99
第２節　縄文時代……99
第３節　中世以降……105

附編　自然科学分析

第二東名千福南山Ⅲ西遺跡出土黒曜石産地推定結果……109
千福南山Ⅲ西遺跡における放射性炭素測定（AMS 測定）……112
千福南山Ⅲ西遺跡出土炭化材の樹種……119

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第１図　調査区とグリッド配置図 ……３
第２図　テストピット配置図 ……４
第３図　周辺の遺跡と地形図 ……７
第４図　路線内の遺跡と周辺の遺跡 ……８
第５図　柱状図（１） ……12
第６図　柱状図（２） ……14
第７図　本調査Ⅰ・Ⅱ期土層断面図 …… 15.16
第８図　旧石器時代遺構配置図 ……19
第９図　配石遺構（ＨＳ１）実測図 ……19
第10図　旧石器時代石器・剥片・礫分布図 …20
第11図　旧石器時代石器実測図 ……21
第12図　縄文時代遺構配置図 ……24
第13図　縄文時代土坑実測図（１） ……29
第14図　縄文時代土坑実測図（２） ……30
第15図　縄文時代土坑実測図（３） ……31
第16図　縄文時代土坑実測図（４） ……32
第17図　縄文時代土坑実測図（５） ……33
第18図　縄文時代土坑実測図（６） ……34
第19図　縄文時代土坑実測図（７） ……35
第20図　縄文時代土坑実測図（８） ……36
第21図　縄文時代土坑実測図（９） ……37
第22図　縄文時代土坑実測図（10） ……38
第23図　縄文時代土坑実測図（11） ……39
第24図　縄文時代土坑実測図（12） ……40
第25図　縄文時代土坑実測図（13） ……41
第26図　縄文時代土坑実測図（14） ……42
第27図　縄文時代土坑実測図（15） ……43
第28図　縄文時代土坑実測図（16） ……44
第29図　縄文時代土坑実測図（17） ……45
第30図　縄文時代土坑実測図（18） ……46
第31図　縄文時代土坑実測図（19） ……47
第32図　縄文時代土坑実測図（20） ……48
第33図　縄文時代土坑実測図（21） ……49
第34図　縄文時代土坑実測図（22） ……50
第35図　縄文時代土坑実測図（23） ……51
第36図　縄文時代土坑実測図（24） ……52
第37図　縄文時代土坑実測図（25） ……53
第38図　縄文時代土坑実測図（26） ……54
第39図　縄文時代土坑実測図（27） ……55
第40図　縄文時代土坑実測図（28） ……56
第41図　縄文時代土坑実測図（29） ……57
第42図　縄文時代土坑実測図（30） ……58
第43図　縄文時代土坑実測図（31） ……59
第44図　縄文時代土坑実測図（32） ……60
第45図　縄文時代土坑実測図（33） ……61
第46図　縄文時代土坑実測図（34）・焼土遺構・ピット実測図 ……62
第47図　縄文時代炭化物集中実測図 ……63
第48図　縄文土器・石器・剥片・礫分布図 …70
第49図　縄文土器分布図（前期） ……71
第50図　縄文土器分布図（中・後期） ……72
第51図　縄文土器（１） ……74
第52図　縄文土器（２） ……75
第53図　縄文土器（３） ……76
第54図　縄文土器（４） ……77
第55図　縄文時代石器分布図 ……83
第56図　縄文時代石器実測図（１） ……84
第57図　縄文時代石器実測図（２） ……85
第58図　縄文時代石器実測図（３） ……87
第59図　縄文時代石器実測図（４） ……88
第60図　縄文時代石器実測図（５） ……89
第61図　縄文時代石器実測図（６） ……90
第62図　縄文時代石器実測図（７） ……91
第63図　縄文時代石器実測図（８） ……92
第64図　中世以降の遺構配置図 ……95
第65図　道路実測図 ……96
第66図　道路図 ……97
第67図　中世以降　土坑・ピット実測図 ……98
第68図　陥穴と周辺の地形図 …… 101
第69図　棚返遺跡の打製石斧分布図 …… 103
第70図　梅ノ木沢遺跡の打製石斧分布図 … 104

挿表目次

表１　旧石器礫計測表（1 号配石遺構）……18
表２　旧石器計測表……22
表３　旧石器礫計測表……22
表４　旧石器剥片計測表……22
表５－１・２・３　遺構計測表（焼土 / 炭化物 / ピット）……63
表５－４　遺構計測表（土坑①～⑤）… 64 ～ 68
表６　土器観察表①～③…… 80 ～ 82
表７　石器計測表……93
表８－１・２・３　遺構計測表（土坑 / 近代道路 / ピット）……98

写真図版目次

図版１　本調査Ⅱ期　縄文時代遺構検出状況（合成写真）
図版２　本調査Ⅰ期　縄文時代完掘状況
本調査Ⅱ期　調査区近景（南から）
図版３　本調査Ⅰ期土層断面（Ｅライン北壁）
本調査Ⅰ期土層断面（土層帯 01）
本調査Ⅱ期土層断面（a-b ライン）
ＴＰ９土層断面（東から）
５号土坑土層断面
82 号土坑土層断面
86 号土坑完掘状況
87 号土坑完掘状況
図版４　本調査Ⅰ期ＫＧＰ層遺物出土状況（南から）
本調査Ⅰ期ＫＵ層遺物出土状況（東から）
本調査Ⅱ期加曽利Ｂ式土器出土状況
本調査Ⅱ期打製石斧出土状況
1 号配石遺構検出状況（旧石器時代）
２～４号土坑完掘状況
図版５　６～ 11 号土坑完掘状況
12 号土坑土層断面
12 ～ 13 号土坑完掘状況
図版６　14 ～ 22 号土坑完掘状況
図版７　23 ～ 30 号土坑完掘状況
図版８　31 ～ 38 号土坑完掘状況
図版９　39 ～ 46 号土坑完掘状況
図版 10　47 ～ 55 号土坑完掘状況
図版 11　56 ～ 63 号土坑完掘状況
図版 12　64 ～ 71 号土坑完掘状況
図版 13　72 ～ 79 号土坑完掘状況
図版 14　80 ～ 85.88.89 号土坑完掘状況
図版 15　90 ～ 97 号土坑完掘状況
図版 16　98 ～ 105 号土坑完掘状況
図版 17　106 ～ 113 号土坑完掘状況
図版 18　114 ～ 121 号土坑完掘状況
図版 19　122 ～ 129 号土坑完掘状況
図版 20　130 ～ 137 号土坑完掘状況
図版 21　138 ～ 145 号土坑完掘状況
図版 22　146 ～ 153 号土坑完掘状況
図版 23　154 ～ 161 号土坑完掘状況
図版 24　162 ～ 169 号土坑完掘状況
図版 25　１号焼土遺構完掘状況
２号焼土遺構検出状況
２号焼土遺構完掘状況
炭化物集中１（北から）
炭化物集中１（西から）
１号土坑完掘状況
８号土坑完掘状況
道路遺構完掘状況（西から）
図版 26　縄文土器（１）
図版 27　縄文土器（２）
図版 28　縄文土器（３）
図版 29　縄文土器（４）
図版 30　旧石器時代の石器
縄文時代の石器（１）
図版 31　縄文時代の石器（２）
図版 32　縄文時代の石器（３）
図版 33　縄文時代の石器（４）

第Ⅰ章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

静岡県下における第二東名自動車道建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯については、平成19年３月刊行の『佛ケ尾遺跡　第二東名№147地点』（静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第175集）に詳しく述べられている。ここでは裾野市内における第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて若干触れるに留めたい。

平成８年９月25日付けで締結された「第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」は長泉町～掛川市の遺跡を対象としたものであり、他地域の遺跡については、協定変更によって地点を追加するという形で調査対象となった。裾野市域の遺跡も同様であり、平成11年12月22日付けの第５回協定変更により、№144地点～№155地点の計12箇所が調査の対象となった。その後、平成13年度から平成16年度にかけての４度にわたる協定変更により、新たに９つの地点が追加され、合計21箇所の地点が当財団が調査を担当する遺跡となった。本書で報告する千福南山Ⅲ西遺跡（№148-2地点）は平成17年３月31日付けの第18回協定変更で、南山Ⅲ東遺跡（№148-3地点）とともに追加された遺跡である。裾野市内の遺跡については、その後の踏査及び確認調査の結果、№147-2・148・152・155の４つの地点が本調査の対象からは外れたため、当財団が本調査を実施したのは合計17箇所の遺跡である。

第２節　調査の方法と経過

１．発掘調査の方法

遺跡全体に旧日本測地系座標第Ⅷ系原点の座標値（Ｘ＝-88980、Ｙ＝35540）を使用し、10ｍ方眼を設定して調査を開始した（第１図）。確認調査Ⅰ期、本調査Ⅰ期、確認調査Ⅱ期では、遺構の実測と遺物の取り上げ記録についてはトータルステーションを使用し、土層図作成は全て手実測で行なった。確認調査Ⅲ期及び本調査Ⅱ期では、遺構実測、土層図作成、遺物の取り上げ記録は全てトータルステーションで行った。全ての調査において、現場での遺構・遺物の管理はパソコン内で行っている。

写真撮影には35㎜サイズの小型カメラ、及び６×７サイズの中型カメラ、及びデジタルカメラを使用した。地区ごとの全景写真撮影にはローリングタワーを使用し、航空写真についてはラジコンヘリコプターにカメラを搭載して全景写真を撮影している。フィルムは35㎜カラー、同リバーサル、ブローニー版の白黒フィルムを使用している。

２．確認調査（第２図）

確認調査は、平成18年４月～５月（確認調査Ⅰ期）と、平成21年２月～３月（確認調査Ⅱ期）、平成21年４月（確認調査Ⅲ期）に実施した。確認調査Ⅰ期では2,000㎡の面積を対象とし、６箇所（ＴＰ01～06）のテストピットを設定した。調査の結果、土坑１基、土器、石器、礫などが検出され、旧石器時代から縄文時代までの遺物包含層が存在することが確認された。その結果、1,343㎡が本調査の必要な箇所とされ、本調査Ⅰ期の調査区を設定した。

確認調査Ⅱ期では、調査対象面積は4,673㎡で、８箇所（ＴＰ07～14）のテストピットを設置した。

調査の結果、土坑３基、炭化物集中１基、土器を検出し、縄文時代の遺構と遺物包含層が存在することが確認された。確認調査Ⅲ期は、確認調査Ⅱ期で対象とした尾根頂部のさらに北側部分に２箇所（ＴＰ15・16）のテストピットを設置した。調査の結果、縄文時代の土坑１基を検出した。これにより、確認調査Ⅱ期及びⅢ期で遺構・遺物が確認されたテストピットを中心として本調査Ⅱ期の調査区を設定した。

３．本調査

本調査は、平成18年６月～12月（本調査Ⅰ期）と平成21年４月～９月（本調査Ⅱ期）の２回に分けて実施した。

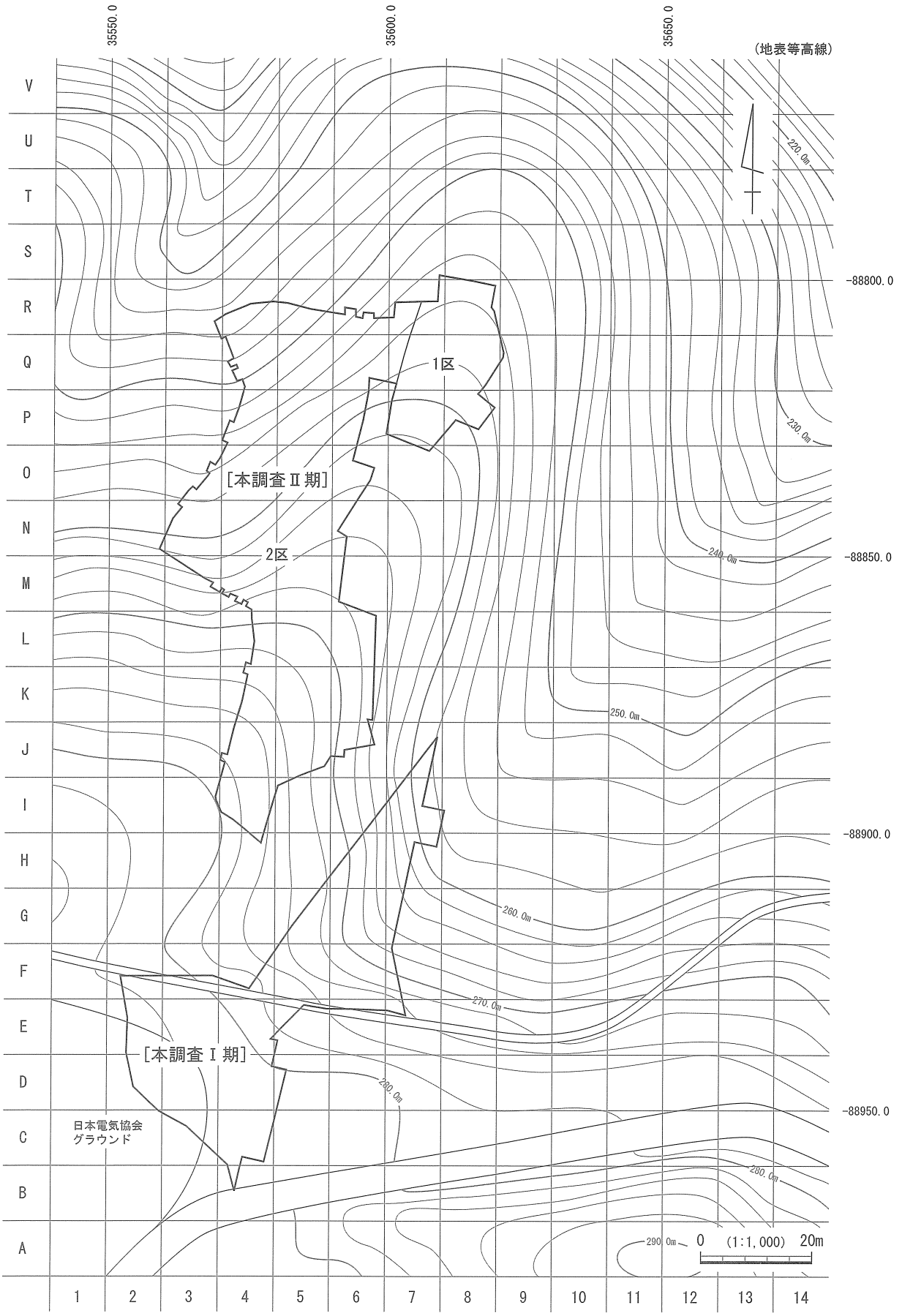
本調査Ⅰ期では、平成18年６月27日から重機で表土層及び上部層の除去を行い、７月７日より人力による縄文時代包含層の調査を開始した。縄文時代の遺物は各層から出土しているが、平面的には調査区南側の丘陵平坦部と北端の斜面部に集中する傾向が見られた。10月からは遺構検出面での作業を行い、土坑、焼土遺構を検出、調査した。その後、10月19日に縄文遺構の空撮を行っている。10月20日からは旧石器時代調査のため、新たに７箇所のテストピット（深掘り区）（ＴＰＥ３・４、ＴＰＦ３・４、ＴＰＧ６、ＴＰＨ６、ＴＰＪ７）（第２図）を設定し、調査を開始した。この過程において旧石器時代の遺物を検出したことから、出土箇所の周囲約700㎡を対象に休場層相当層を掘削した。調査の結果、配石遺構１基と同時代の石器を検出した。近代の道路遺構の調査を含めて12月までに全体の調査を終了した。最終的に調査対象面積は1,447㎡となった。

本調査Ⅱ期は、平成21年４月６日から開始、北東側の尾根部を１区、西側の斜面部を２区とした。検討の結果、１区ではＹＬＬ層上面で遺構の検出作業を行うこととし、上部層除去と遺構調査を進めた。６月８日までにこの区の調査を終了した。２区は１区と同時平行で調査を進めた。ＴＰ14の周囲から調査を開始、確認調査時に周囲で縄文土器が出土していることから、包含層の人力掘削を行いＫＧＰ層～ＺＮ層までの各層で遺物の検出作業を行ったが、遺物は極めて少なかった。また土坑以外の遺構はほとんど存在しないため、検討の結果、２区の範囲を拡張し、色調的に土坑を確実に検出できるＹＬＭ層上面まで重機で掘り下げて、土坑の検出と掘削作業を行うことにした。遺構の調査が終了した８月13日にラジコンヘリコプターによる空撮を行った。その後、２区として当初設定した調査範囲からさらに南側にも遺構が広がることが予想されたため、中日本高速道路株式会社と協議の上、南側へ調査区を広げて遺構検出作業を行った。９月10日までに遺構調査を全て終了し、拡張部分の空撮を行い、補足調査を含めた全ての作業を翌11日で終了した。本調査Ⅱ期では調査可能な範囲において、全ての遺構を調査することを前提としたため、数度にわたって調査範囲の拡張を行なった。その結果、最終的な調査対象面積は、2,730㎡となった。

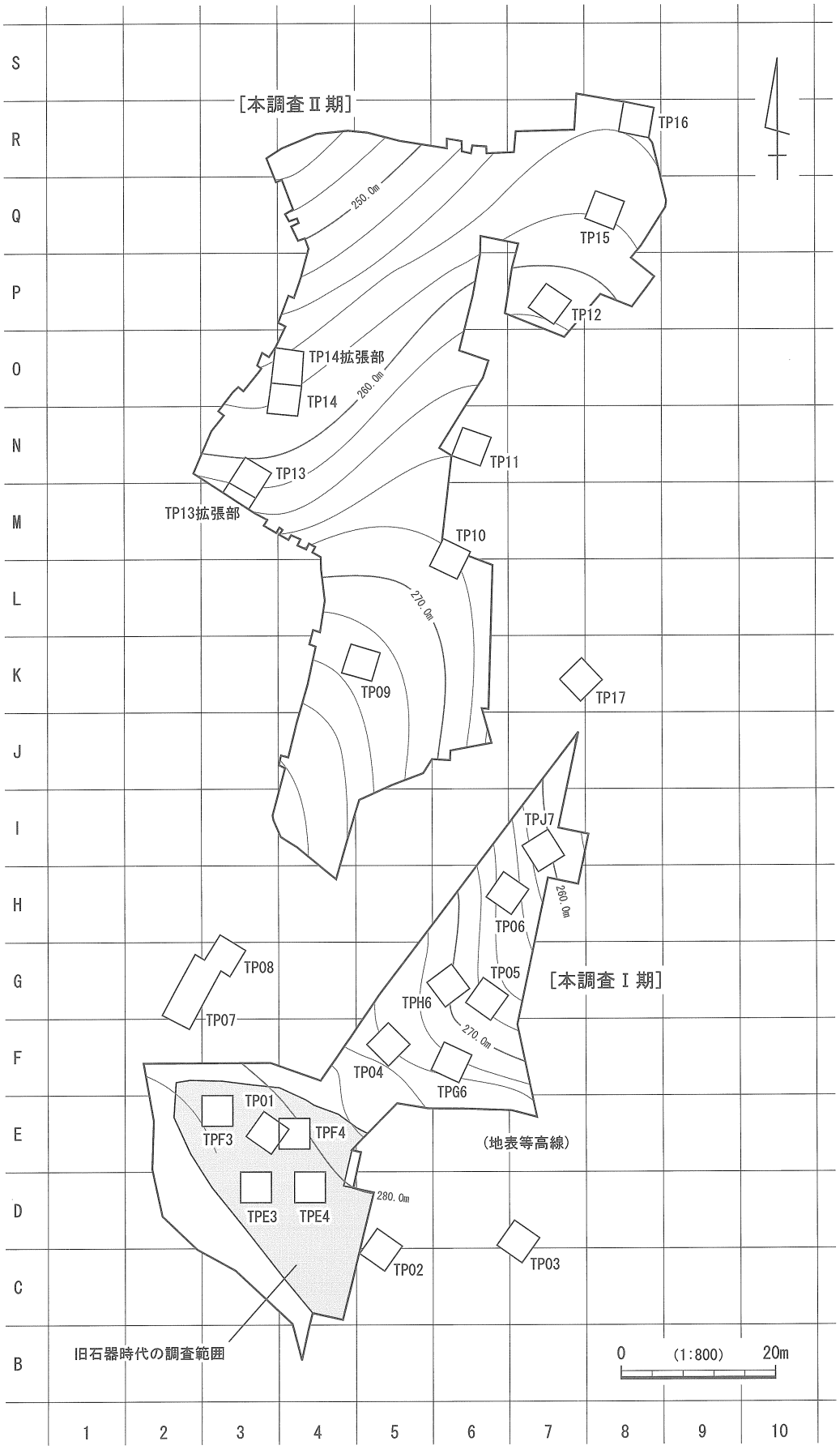
本調査Ⅱ期では、調査対象範囲では、確認調査及び本調査を通じて旧石器時代の遺構・遺物は全く見られなかった。そのために旧石器時代の調査は行なっていない。なお、本調査Ⅱ期を行なっている間に、縄文時代の遺物の分布を調査する目的で、ＴＰ17の調査を行なった。本調査Ⅰ期の調査範囲のうち北端部の遺物集中部分に極めて近い箇所に、テストピットを設置し、縄文時代層及び休場層相当層の掘削を行なったが、遺構・遺物は全く検出されなかった。

４．資料整理・報告書作成

資料整理・報告書の作成は平成21年10月～平成22年３月にかけて行った。整理・報告対象の遺構は旧石器時代の配石遺構１基、縄文時代の土坑167基、焼土遺構２基、炭化物集中１基、ピット１基、中世以降の土坑２基、ピット１基、近代の道路遺構１条である。出土した遺物は、旧石器時代の石器８点、剥片３点、礫23点、縄文時代の土器417点、石器51点、剥片23点、礫992点である。報告書には土器417点中73点、石器については全点を掲載した。剥片・礫のうち旧石器時代に属するものについては、計測表で掲載した。



第１図　調査区とグリッド配置図



第２図　テストピット配置図

本報告書の作成形態がデジタル製版であるため、遺構図及び挿図の編集作業は全てコンピューター上で行った。作図および版組は、現場で取得したデジタルデータを基に、株式会社シン技術コンサルのソフト『遺跡管理システム』を用いて補筆修正し、これをドローイングソフト（Adobe Illustrator Ver. CS2）でデジタルトレースし、DTP ソフト（Adobe Indesign Ver.CS2）を使用して版組を行った。写真図版については、現場で撮影した６×７サイズフィルムをスキャナーで読み込みデジタル化した上で、同様に版組を行った。カラー写真の色調調整はドラムスキャナーを用いて行っている。土器については、接合・復元作業の後、接合できない土器片についても、文様のあるものや口縁部・底部破片については可能な限り拓本・断面図を作成した。石器については、全点写真実側を行った。遺物実測図は全てデジタルトレースした後、DTP ソフトにて版組を行った。トレースした断面図と拓本はスキャナーで読み込み、DTP ソフトで編集し版組を行った。

遺構の事実記載については現場で取得した情報を基に検討を重ね、検出層位、遺構覆土、切り合い関係を再検討した上、事実関係に齟齬のないよう留意して記述を行った。また遺物については出土状況の記録と観察結果をまとめて分類と記述を行い、合わせて観察表を作成した。石器のうち黒曜石製のものについては、出土した全点を対象に産地推定を独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授望月明彦氏に依頼し、結果を掲載している。また検出された炭化木片については樹種同定と年代測定を、土器に付着した炭化物については年代測定を株式会社加速器分析研究所に依頼し、結果を掲載している（附編参照）。

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　地理的環境

愛鷹山麓は、静岡県東部、富士山の南麓～南東麓に接する場所に立地する。昨今の第二東名関連の発掘調査において、愛鷹山南麓～東麓にかけての丘陵上に、多くの旧石器・縄文時代の遺跡が確認されている。千福南山Ⅲ西遺跡もそれらの遺跡の一つである。

愛鷹山は約40万年前に活動を開始し、約10万年前に活動を停止した円錐形をした成層火山である。この活動は旧期から最新期の４段階に区分され、玄武岩質や凝灰角礫岩質と安山岩質の噴出物によって形成される。その後、これらの噴出物の上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層と呼ばれている何層もの火山灰層が厚く堆積し、現在の愛鷹山麓が形成されている。中でも約８万年前に活動していた古富士火山及び約１万年前に活動していた新富士火山を供給源とする愛鷹ローム層は上・中・下の３層のローム層に分けられる。今までのところ、これらのうち上部ローム層以上においてのみ人類の遺跡が確認されている。

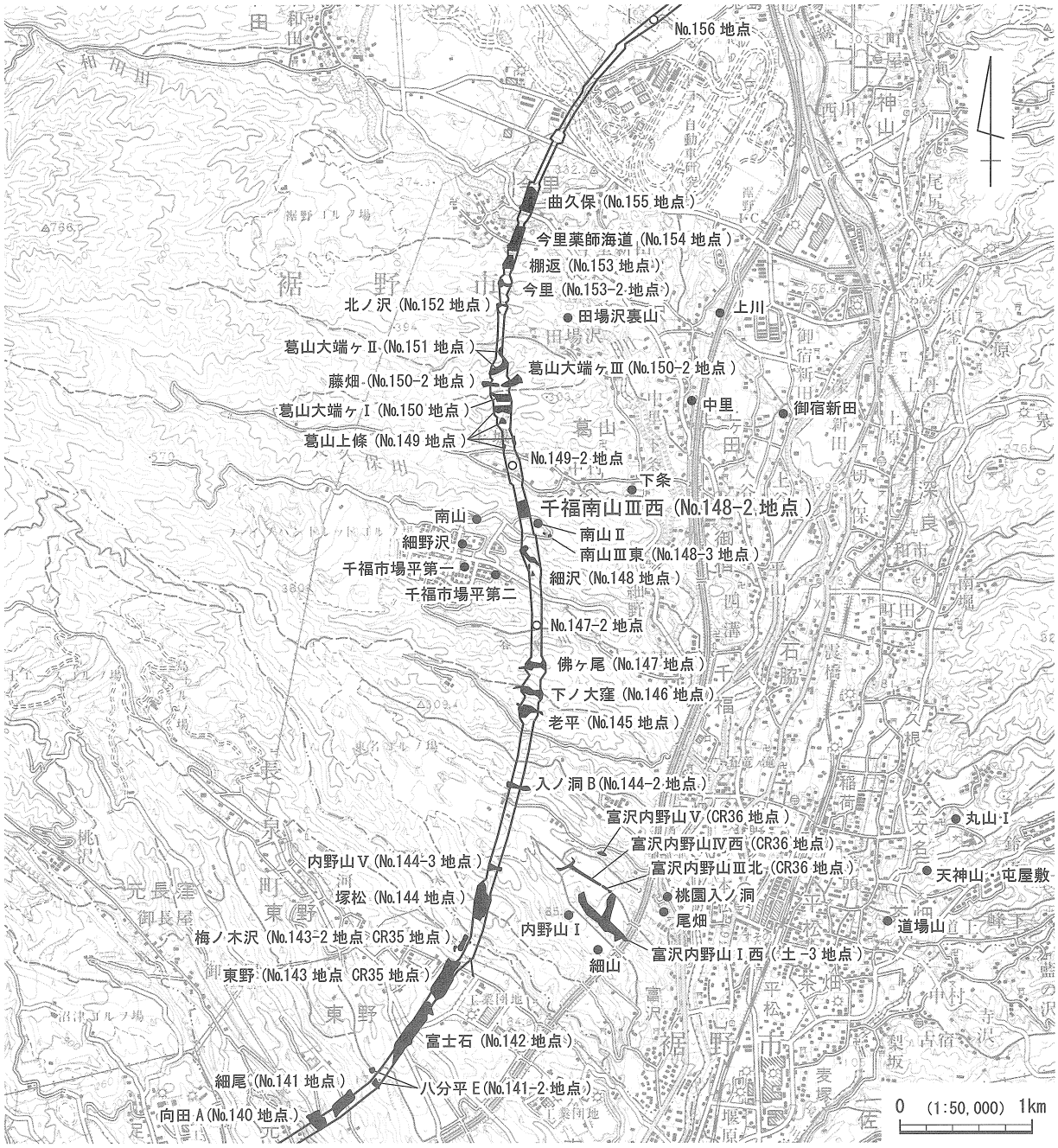
現在の愛鷹山麓は複数の峰に分岐しており、主峰は愛鷹岳で標高1,187.5ｍ、最高峰である越前岳は標高1,504ｍを測る。複数の峰より生ずる水系は、浸食作用によって多数の入り組んだ開析谷を形成し、黄瀬川などの主流となる水系に合流する。広い丘陵地を擁し、南に駿河湾、南東に伊豆半島、東に箱根山麓を望む地形は、遺跡が主に営まれた狩猟・採集時代には適合的な環境であったことが推察できる。本遺跡の存在する愛鷹山東麓も枝尾根が深く入り込み、旧石器時代及び縄文時代の遺跡の多くが、尾根上の平坦な場所を選ぶようなかたちで存在している。

千福南山Ⅲ西遺跡は、愛鷹山麓東側を南北に流下する黄瀬川支流の大久保川南岸で、ＪＲ御殿場線岩波駅より南西方向約５㎞の愛鷹山東麓の丘陵上、千福ニュータウンの北側に位置する。遺跡は大久保川が東流する谷部に面した丘陵斜面部に立地する（第３図）。

千福南山Ⅲ西遺跡は概ね３つの地形に分かれて立地している（第１図）。第一は東西方向に走る丘陵頂部に近い平坦部で、本調査Ⅰ期の南側部分である。調査範囲内の最高部であり、標高は282ｍをはかる。第二は、大久保川が東流する谷部に向かって北東方向に傾斜する丘陵端部の尾根上の箇所である。本調査Ⅱ期の１区及び２区南側拡張区が該当する。第三は第二の箇所の両脇にある斜面～谷部であり、本調査Ⅰ期の北側、本調査Ⅱ期の２区が該当する。なお、本調査を行なった部分で最も低い箇所は本調査Ⅱ期の２区の北西角で、標高246ｍであった。本調査実施箇所の最高所との比高は36ｍに及ぶ。平坦な箇所は少なく、急斜面をなす部分が多く、調査の進行上安全対策が必要であった。

本遺跡の存在する支丘陵の南側の谷部には南山Ⅲ東遺跡（第二東名〔以下略〕№.148-3地点）（(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所〔以下、静文研と略〕　2006）が存在する。また、この支丘陵から東西方向の谷をはさんだ南側の丘陵頂部付近には細沢遺跡（№.148地点）（静文研　2005）がある。何れも第二東名高速道路の建設に伴い、本研究所により調査された（本報告書は未刊行）。両遺跡ともに本遺跡と同様の陥穴状土坑が検出されている。また、細沢遺跡の西側、千福南山Ⅲ西遺跡から南西約500ｍの箇所には、縄文前期諸磯ｂ式期の集落である細野沢遺跡（井上他　1982）が存在する（現在裾野市立千福が丘小学校が所在）。また、本遺跡の南東に隣接した丘陵頂部（みはらし公園から日本電気協会裾野研修センター敷地にかけて）には南山Ⅱ遺跡が存在し、縄文時代の遺跡とされているが、詳細は不明である。さらに、本遺跡の西側の丘陵上は南山遺跡であり、弥生時代の遺跡とされている（第３図）。

第３図　周辺の遺跡と地形図



第４図　路線内の遺跡と周辺の遺跡

千福南山Ⅲ西遺跡の北側は大久保川の東流する低地であり、第二東名本線建設部分に関しては、No. 149-2 地点として調査を行なったが、遺跡の存在は確認できなかった（袴田　2002）。従って、葛山の丘陵上に位置するNo. 149 ～ 151 地点の諸遺跡（本研究所により調査済、本報告書は未刊行）が、千福南山Ⅲ西遺跡の北側近接遺跡となる。何れも陥穴状土坑が検出されており、特に葛山上條遺跡（No. 149 地点）（静文研　2004・2005）からは、60 基以上発見された。本遺跡との関係で注目される（第４図）。

第２節　歴史的環境

本遺跡の所在する裾野市域は、愛鷹山東麓及び箱根山西麓の丘陵と、その間に挟まれた緩やかな傾斜地によって形成されている。富士山・愛鷹山と箱根山麓とに挟まれた平地が南北に走り、古代以降関東甲信越地方との交通の要所として活用され、地形の持つ重要性から中世以降は各地に多くの城砦が設けられた。ここでは本遺跡の主要な遺構・遺物の該当時代である旧石器・縄文時代を中心に、ほぼ裾野市域に限定して主要遺跡を取り上げながら概観する（第４図参照）。

１．旧石器時代

裾野市域の旧石器時代の遺跡は、南側の長泉町、三島市、沼津市に比べて発見例も少なく、不明確な状況が従来まで続いていた。然るに、第二東名高速道路の建設に伴って、多数の遺跡で大規模な調査が行なわれ、急速にデータが蓄積されつつある。ここでは本遺跡周辺の遺跡について、成果を簡単に述べる。先ず裾野市内では、本報告書が刊行された遺跡として、棚返遺跡（No.153 地点）（壬生他　2008）、佛ヶ尾遺跡（No.147 地点）（野田他　2007）、下ノ大窪遺跡（No.146 地点）（阿部他　2008a）、老平遺跡（No.145 地点）（阿部他　2008b）、入ノ洞Ｂ遺跡（No.144-2 地点）（三好他　2008）、内野山Ｖ遺跡（No.144-2 地点）（三好他　2008）、塚松遺跡（No.144 地点）（三好他　2008）等がある。大半が複数の文化層が検出された重層遺跡である。このうち、塚松遺跡からは第Ⅲ黒色帯から 26 基の土坑が検出されている。箱根・愛鷹山麓で近年多く発見されている旧石器時代の陥穴状土坑検出遺跡のうち、最も北に位置する例である。また、入ノ洞Ｂ遺跡からは、第Ⅳ黒色帯より局部磨製石斧が出土している。

本遺跡近隣の旧石器時代の遺跡としては、本報告書未刊行であるが、葛山大端ヶⅢ遺跡（No.150-2 地点１区）（静文研　2004）、葛山大端ヶⅠ遺跡（No.150 地点）（静文研　2005・2007）、葛山上條遺跡、細沢遺跡等がある。ただし、これらの遺跡は何れも小規模で、ほとんどが単一の文化層から少数の遺構・遺物が検出されているにすぎない点など、千福南山Ⅲ西遺跡の旧石器時代のあり方と類似している。また、同様に本報告書未刊行であり、千福南山Ⅲ西遺跡よりかなり南側に離れた丘陵下段部に所在する遺跡として、富沢内野山Ⅰ西遺跡（第二東名土－３地点）（静文研　2003･2004）、富沢内野山Ⅲ北遺跡（第二東名ＣＲ 36 地点）（静文研　2003）がある。

２．縄文時代

現在、愛鷹山麓では縄文時代の遺跡が多数確認されているが、その遺跡数は縄文時代を通じて安定しているわけではない。遺跡数は、早期に増加し前期には一時減少する。中期には再び隆盛を迎えるが後期から晩期にかけて極端に減少する。以下本遺跡周辺の縄文時代について各期ごとに概観する。ただし、本遺跡で発見されている遺構・遺物は前期～後期のみなので、他の時期（草創期・早期・晩期）については簡易に述べる。また、ほとんど裾野市に限定して記述する。

①草創期及び早期

愛鷹山麓においては草創期土器の発見例は少ない。その大半は南麓に位置する沼津市に存在する。これまで裾野市域からは草創期の土器の出土例がなかったが、富沢内野山Ⅰ西遺跡で草創期のものと考えられる土器片が出土している。また、有舌尖頭器は、少量ずつだが各遺跡から出土している。

早期における遺跡数増加の傾向は、特に後半に顕著になる。前半の遺跡には駿豆地方独特の縄紋と撚糸紋を持つ土器が見られる。また、押型紋土器の出土例はかなり多く、併行する沈線紋系の判ノ木山西式も老平遺跡等から出土している。後半に入ると関東系の条痕紋土器や、それに併行する在地の土器が多く見られ、胎土に繊維を混入させる手法が目立つ。また、東海系の土器型式も多く見られる。裾野市域では、清水柳Ｅ類や打越式といった土器がかなり目立つ。特に後者は、本遺跡の南側近隣の佛ヶ尾遺

跡で多量に出土した。

②前期

続く前期であるが、初頭の遺跡は木島式土器を伴う遺跡が比較的多く見られる。前葉の遺跡は少ないが、後葉の諸磯式期の遺跡は多く見られる。裾野市域では、本遺跡周辺に該期の住居跡がやや集中的に発見されている。葛山大端ケⅡ遺跡（№151地点）（静文研　2004）、細野沢遺跡、千福市場平第１遺跡（井上他　1982）、入ノ洞Ｂ遺跡（№144-2地点）などが挙げられる。このうち前三者は本遺跡の近隣地であり、何れも諸磯ｂ式期の住居ということで、本遺跡との関連が注意される。

終末期（十三菩提式期）の土器は比較的多くの遺跡で見出されるが、遺構は乏しい。

③中期

中期には愛鷹山麓でも再び遺跡数が増加する。ただし、中期初頭の遺跡は裾野市内では少なく、道場山遺跡（中野他　1992）、上川遺跡（袴田他　1987）等があるにすぎない。中葉（勝坂式期）から後葉（曽利式・加曽利Ｅ式期）にかけては縄文時代のピークをなしており、本遺跡周辺でも遺跡は増加する。市内の中葉・後葉の遺跡としては、道場山遺跡、天神山・屯屋敷遺跡（中野他　1992）、尾畑遺跡（中野他　1992）、細山遺跡（中野他　1992）、桃園入ノ洞遺跡（渡瀬他　1989）、細野沢遺跡、御宿新田遺跡（中野他　1992）、下条遺跡（中野他　1992）（袴田　2002）、老平遺跡、棚返遺跡、塚松遺跡、葛山大端ヶⅠ遺跡、富沢内野山Ⅲ北遺跡等がある。遺物・遺構で注目すべきものとして、尾畑遺跡出土の顔面把手付土器や翡翠の大珠、細山遺跡近辺で採取された釣手形土器、富沢内野山Ⅲ北遺跡で検出された県東部地域最大級の大型住居跡などがある。

④後期

後期になると愛鷹山麓の遺跡数は再び減少してゆく。後期の遺跡は裾野市域ではわずかな遺物が出土しているのみであり、富沢内野山Ⅰ遺跡（中野他　1992）、田場沢裏山遺跡（中野他　1992）、中里遺跡（中野他　1992）、下条遺跡、下ノ大窪遺跡等が挙げられる。

⑤晩期とそれ以降

裾野市域における晩期の明確な資料は、今のところ発見されていない（**註１**）。裾野市域においては、これに続く弥生時代の遺跡も少ない。

３．近世以降

棚返遺跡で炭焼き窯、長方形の土坑が検出されているほか、各地で中世以降とされる円形の土坑が発見されている。また、江戸時代の遺物・遺構は各地で出土している。

（註１）

下条遺跡の報告書（袴田　2002）では「晩期の土器」として掲載されている。しかし、報告書の写真・拓本・実測図を見る限りにおいて、これらの土器は全て後期の範疇に納まるものと考えられる。なお、当遺跡からは安行Ⅰ式の帯縄紋系の土器（第24図１）とそれに併行すると思われる在地系の土器が出土しており、該期（後期後葉）の遺物の極めて乏しい県東部域において、貴重な類例となっている。また、丸山Ⅰ遺跡（中野他　1992）の土器も弥生前期？～中期初頭のものと思われる。従って、裾野市内では明確に晩期の遺物が出土した遺跡は確認されていない。

参考文献

阿部　敬他　　2008ａ　『下ノ大窪遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第190集

阿部　敬他　　2008ｂ　『老平遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第192集

井上輝夫・宮井栄一他　1982　『裾野市千福市場平第１、第２　小杉平第１、第２　細野沢遺跡発掘調査報告書』　裾野市文化財調査報告　第３集　裾野市教育委員会

（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所　2003『静岡県埋蔵文化財研究所　年報　19』
（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所　2004『静岡県埋蔵文化財研究所　年報　20』
（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所　2005『静岡県埋蔵文化財研究所　年報　21』
（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所　2006『静岡県埋蔵文化財研究所　年報　22』
（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所　2007『静岡県埋蔵文化財研究所　年報　23』
中野國雄他　1992『裾野市史　第一巻　資料編　考古』裾野市
野田正人他　2007『佛ヶ尾遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第175集
袴田　稔他　1987『上川遺跡』裾野市教育委員会他
袴田　稔　2002『下条遺跡』裾野市教育委員会他
町田　洋他　2006『日本の地形５　中部』東京大学出版会
壬生亮輔他　2008『棚返遺跡・今里遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第191集
三好元樹他　2008『裾野市富沢・桃園の遺跡群』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第193集
渡瀬　治他　1989『富沢原・千福馬場添・大畑・桃園入ノ洞』裾野市教育委員会他

第３節　基本層序

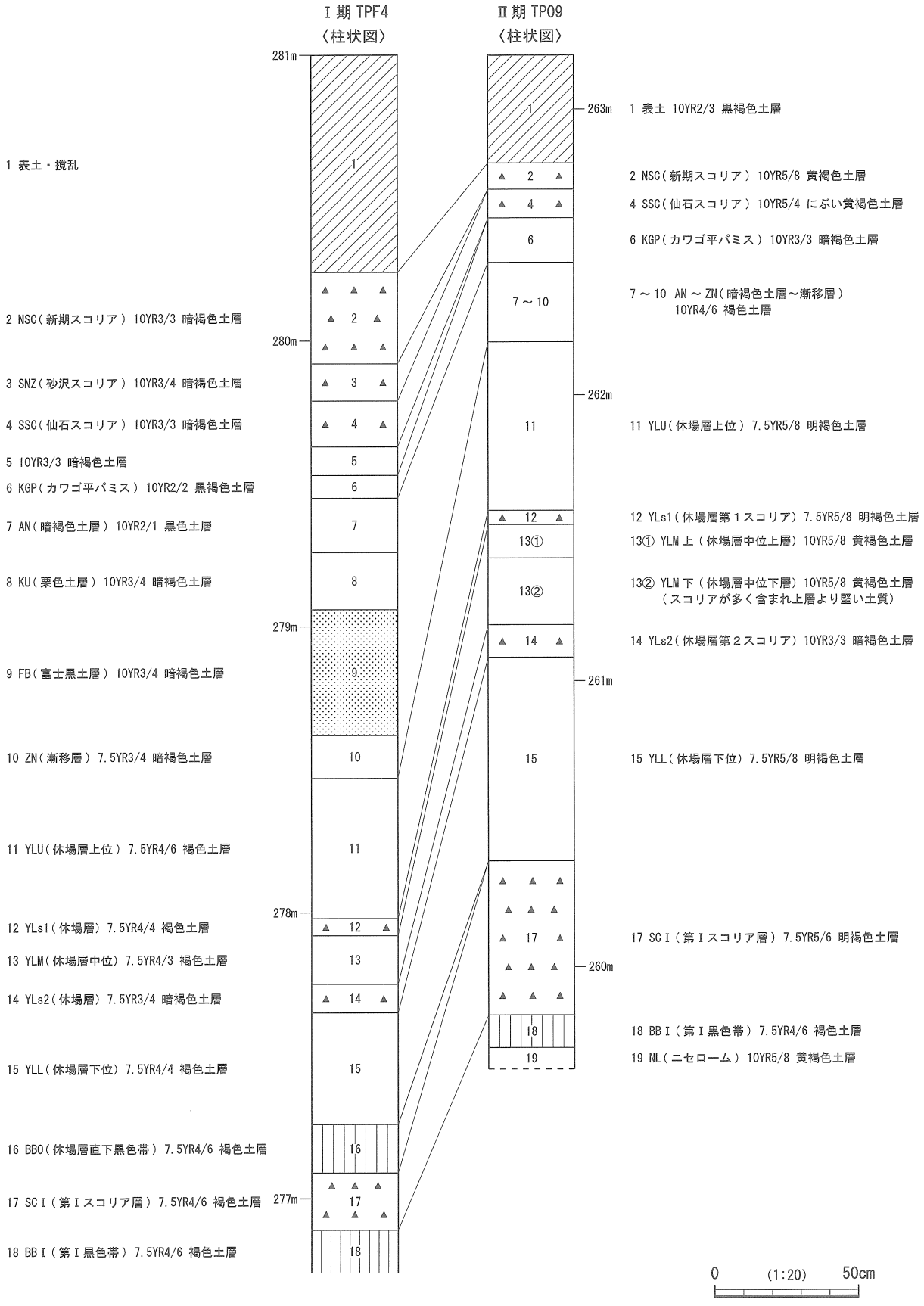
調査区は南西から北東へ傾斜する斜面にその大部分が位置する。遺跡の最高点は標高282ｍ、最低点は246ｍ、比高差は36ｍで平均斜度は約22度になる（第１図）。本調査はⅠ期とⅡ期に分けて行われ、Ⅰ期の調査区は南北方向のグリッドラインＢ～Ｊまでと東西方向のグリッドライン２～８まで、Ⅱ期の調査区は南北方向のグリッドラインＨ～Ｓまでと、東西方向のグリッドライン２～９までである。確認調査Ⅰ期のテストピットＴＰ２・３が設置された、南北方向のグリッドラインＣ・Ｄ、東西方向のグリッドライン４～８の間は、見かけ上平坦な地形を呈していたが、確認調査の結果すでに削平されていた（ＴＰ２ではＹＬ層まで、ＴＰ３ではＳＣⅢ層まで）ことが判明し、本調査では調査の対象から除外した。

本調査Ⅰ期での検出遺構の多くは、南北方向のグリッドラインＣ～Ｆ、同東西方向３・４の、北東方向に傾斜する面で検出された。土層の堆積も比較的安定していることから、この箇所の西壁土層帯01を掲載（第７図）するとともに、Ｅ４グリッドに新たに設置した深掘り調査坑ＴＰＦ４の層序を柱状図（第５図）に示した。また本調査Ⅱ期の層序については、調査区がやや北東方向に傾斜した斜面に位置すること、同調査区の東側の一部で再堆積と見られる土層の乱れがみられること、岩盤の露出などがあり、良好な堆積状況を示していないことから、Ｋ４・５グリッドに跨って設定したテストピットＴＰ９の層位を柱状図（第５図）で示した。また、堆積状況が良好で、最も長いセクションラインを確保できたⅡ期調査区西壁のａ－ｂライン（第７図）を示した。

土層の分層・記述については、愛鷹・箱根標準土層の名称・記号を使用したが、その際、当研究所と沼津市教育委員会との間での平成19年度合意事項に基づいて行なった（**註１**）。本節では、本調査Ⅰ期の調査区とⅡ期調査区の土層を１層から順次双方を比較しながら記述していく。なお色調の記載は標準土色帖（1992）による。以下第５図の土層番号順に記述する。

１層は表土・攪乱層である。表土は黒褐色の腐食土層である。締まりが無く、やや粘性が強い。木の根を多く含む。

２層は新期スコリア層（ＮＳＣ）で、本調査Ⅰ期調査区では暗褐色土層、Ⅱ期調査区では黄褐色土層である。やや暗い色調の上層（①と表記）と、締まりが強く上層と比較してやや黄色が強い下層（②と


Ⅰ期 TPF4
〈柱状図〉
Ⅱ期 TP09
〈柱状図〉
281m
280m
279m
278m
277m
263m
262m
261m
260m
1 表土・撹乱
2 NSC（新期スコリア） 10YR3/3 暗褐色土層
3 SNZ（砂沢スコリア） 10YR3/4 暗褐色土層
4 SSC（仙石スコリア） 10YR3/3 暗褐色土層
5 10YR3/3 暗褐色土層
6 KGP（カワゴ平パミス） 10YR2/2 黒褐色土層
7 AN（暗褐色土層） 10YR2/1 黒色土層
8 KU（栗色土層） 10YR3/4 暗褐色土層
9 FB（富士黒土層） 10YR3/4 暗褐色土層
10 ZN（漸移層） 7.5YR3/4 暗褐色土層
11 YLU（休場層上位） 7.5YR4/6 褐色土層
12 YLs1（休場層） 7.5YR4/4 褐色土層
13 YLM（休場層中位） 7.5YR4/3 褐色土層
14 YLs2（休場層） 7.5YR3/4 暗褐色土層
15 YLL（休場層下位） 7.5YR4/4 褐色土層
16 BBO（休場層直下黒色帯） 7.5YR4/6 褐色土層
17 SCⅠ（第Ⅰスコリア層） 7.5YR4/6 褐色土層
18 BBⅠ（第Ⅰ黒色帯） 7.5YR4/6 褐色土層
1 表土 10YR2/3 黒褐色土層
2 NSC（新期スコリア） 10YR5/8 黄褐色土層
4 SSC（仙石スコリア） 10YR5/4 にぶい黄褐色土層
6 KGP（カワゴ平パミス） 10YR3/3 暗褐色土層
7～10 AN～ZN（暗褐色土層～漸移層） 10YR4/6 褐色土層
11 YLU（休場層上位） 7.5YR5/8 明褐色土層
12 YLs1（休場層第１スコリア） 7.5YR5/8 明褐色土層
13① YLM 上（休場層中位上層） 10YR5/8 黄褐色土層
13② YLM 下（休場層中位下層） 10YR5/8 黄褐色土層
（スコリアが多く含まれ上層より堅い土質）
14 YLs2（休場層第２スコリア） 10YR3/3 暗褐色土層
15 YLL（休場層下位） 7.5YR5/8 明褐色土層
17 SCⅠ（第Ⅰスコリア層） 7.5YR5/6 明褐色土層
18 BBⅠ（第Ⅰ黒色帯） 7.5YR4/6 褐色土層
19 NL（ニセローム） 10YR5/8 黄褐色土層
0 (1:20) 50cm

第５図　柱状図（１）

表記）に分層できる箇所がある。Ⅰ期調査区では30㎝と厚く、Ⅱ期調査区では10～20㎝程度の層厚である。

3層は砂沢スコリア層（ＳＮＺ）である。本調査Ⅰ期調査区では暗褐色土層、Ⅱ期調査区ではＴＰ9の柱状図から外れているが、西壁（ａ－ｂライン）では明瞭に遺存していた。概して、暗灰色を呈する粒径が大きいスコリアが下位にあり、黒褐色を呈する粒径の小さなスコリアが上位にある。パッチ状に堆積する箇所も見られた。

4層は仙石スコリア層（ＳＳＣ）である。本調査Ⅰ期調査区では暗褐色土層、Ⅱ期調査区では、にぶい黄褐色土層である。粒径0.5～1㎝程度のスコリアによって構成される。乾燥すると黄白色化するため、Ⅰ期調査区との土色の違いは乾燥度の差から生じている可能性がある。

5層は暗褐色土層である。本調査Ⅱ期調査区では分層されずにＫＧＰ層に一括されている。

6層はカワゴ平パミス層（ＫＧＰ）で本調査Ⅰ期調査区では黒褐色土層、Ⅱ期調査区では暗褐色土層である。黒色土中に白色パミスが含まれる。締まりは弱くやや粘性がある。Ⅱ期調査区ではこの層の下位から縄文時代後期の土器が出土している。

7層は暗褐色土層（ＡＮ）である。本調査Ⅰ期では黒色を呈して締まりがあり、やや粘性もある。Ⅱ期調査区ではこの層からＺＮ層までは分層が困難であったため一括してＡＮ～ＺＮ層とした。多くの遺構がこの層から掘りこまれていると思われるが、色調差による同層中での遺構プラン検出は困難である。Ⅰ期調査区では縄文時代の遺物包含層である。

8層は栗色土層（ＫＵ）。暗褐色を呈し、本調査Ⅰ期調査区では縄文時代の遺物包含層である。

9層は富士黒土層（ＦＢ）。暗褐色を呈す。本調査Ⅰ期調査区では、南側平坦部のＴＰＥ3付近で厚く堆積し、層厚は40㎝程度である。部分的にＦＢａ、ＦＢｂに分層できる箇所もある（ＦＢａよりＦＢｂのほうがより褐色の度合いが強くなることで分層できる）。本調査Ⅰ期調査区では縄文土器が出土した。なお、本調査Ⅰ期のロングセクション土層帯01（第7図）では、本層と次の10層の間（Ｄ－3グリッド付近）に浅い窪みがあり、この部分に谷2、谷2－1、谷4と記載した層があるが、これはこの窪みに流れこみ再堆積した土を分層したものである。

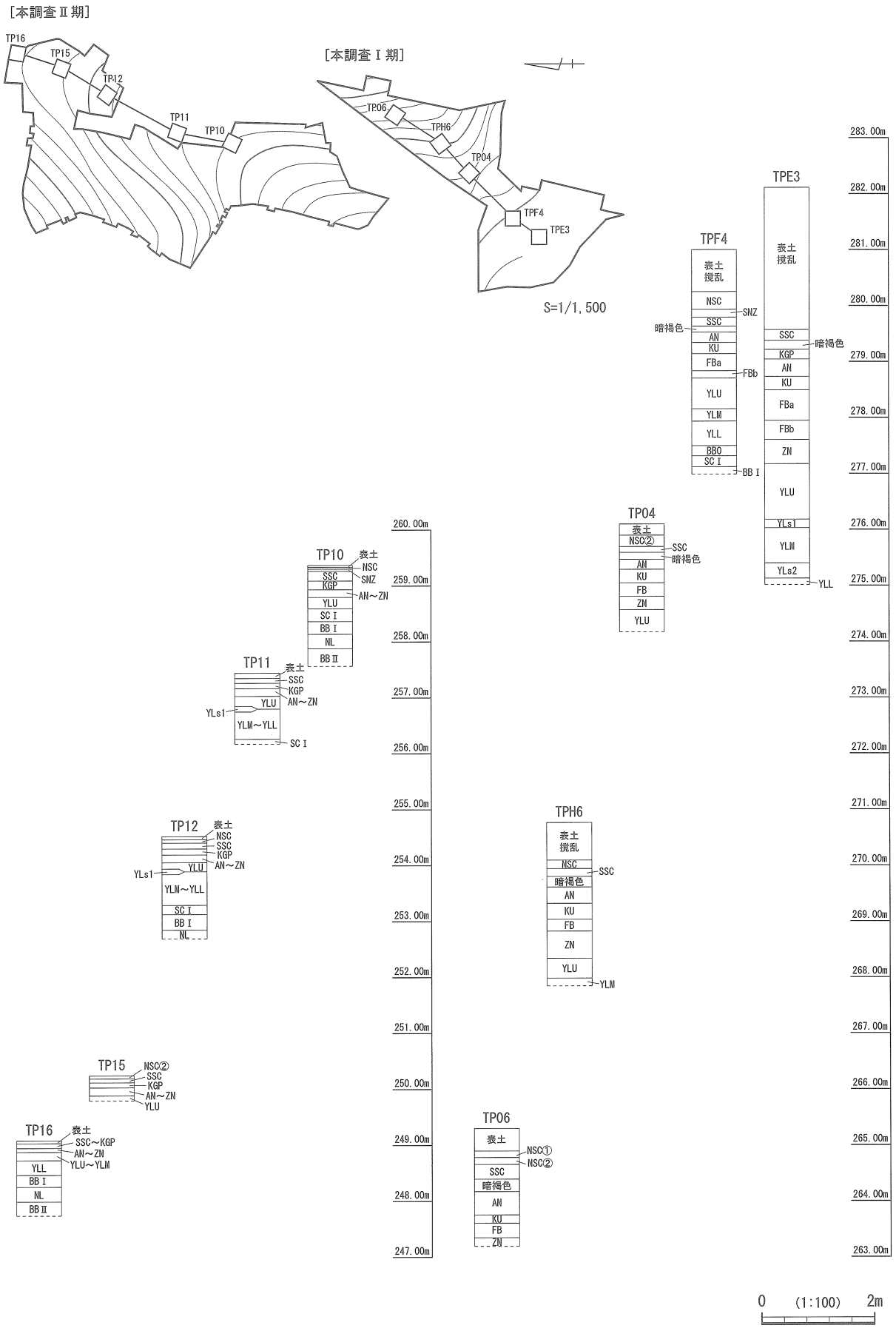
10層は漸移層（ＺＮ）で暗褐色土層である。

11層は休場層上位（ＹＬＵ）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では明褐色土層となっている。締まりは小でやや粘性がある。わずかに微細な橙色スコリア、暗灰色スコリアが混じる。Ⅰ期調査区では旧石器時代の遺構・遺物が検出されているが、Ⅱ期調査区では確認されていない。

12層は休場層第1スコリア層（ＹＬs1）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では明褐色土層である。Ⅱ期調査区のＴＰ9では赤褐色のスコリアが明瞭に観察されたが、調査区北側及び東側ではほとんど観察されなかった。調査区西壁ａ－ｂラインでは、明確なスコリアではなく5㎝程度の赤みを帯びた土層として認識された。

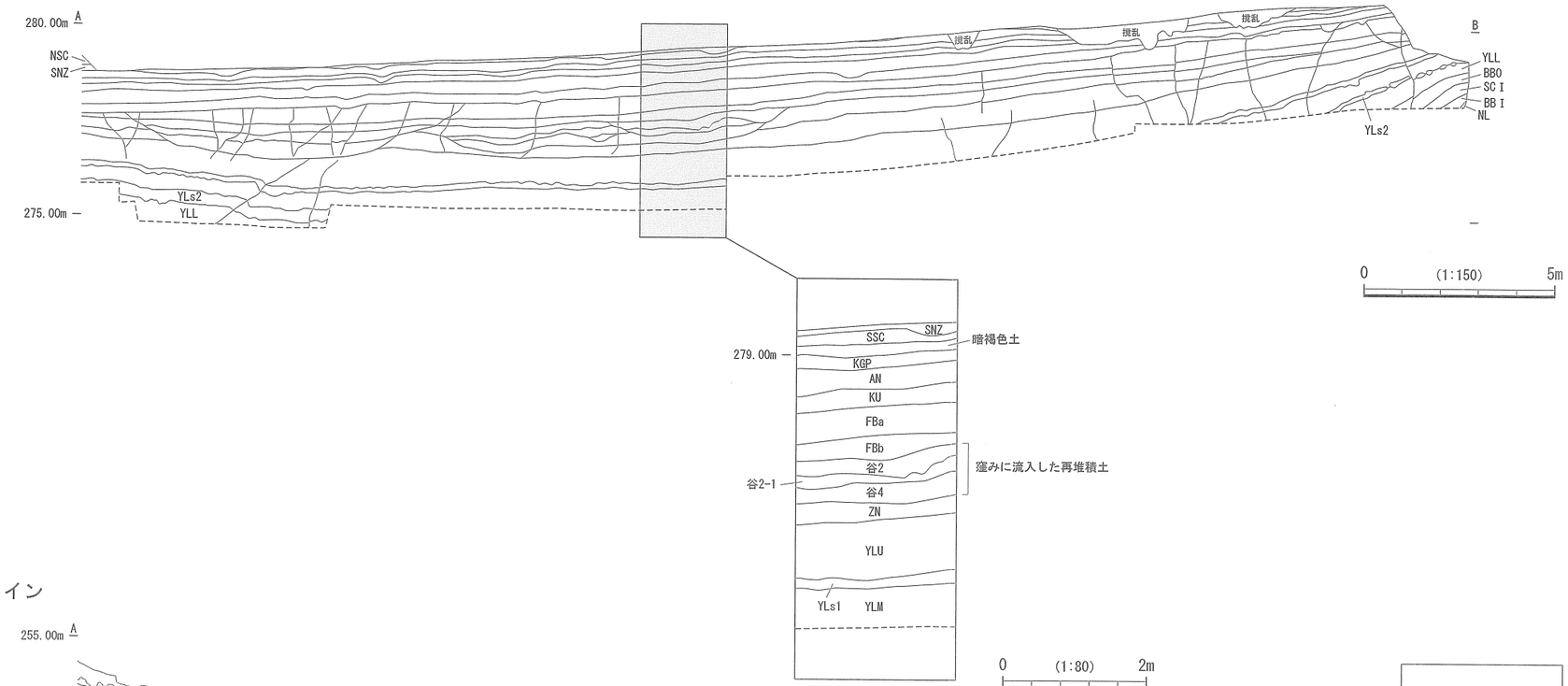
13層は休場層中位（ＹＬＭ）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では黄褐色土層であった。同層は概して橙色スコリア、暗灰色スコリアが多く含まれる層であるが、上部と下部では明確にスコリアを含む量が異なり、下部でのスコリア含有量が多いことや、上部に比べて下部は土質も硬い点などから、Ⅱ期調査区で西側の大部分はこの面（下部層の上面）で縄文遺構の検出を行っている。本調査Ⅱ期では便宜的に上部層をＹＬＭ上（13①層）、下部層をＹＬＭ下（13②層）とし、遺構の土層注記にも用いている。

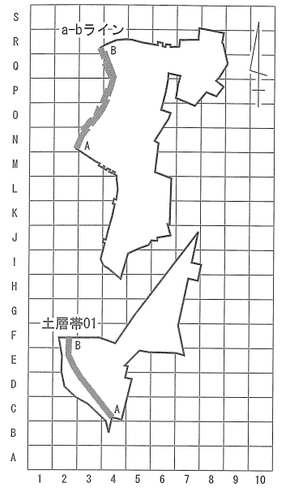
14層は休場層第2スコリア層（ＹＬs2）である。本調査Ⅰ期・Ⅱ期ともに暗褐色土層である。同層は乾燥すると淡い黄白色に変化する。土層断面での産状は黄色のスコリア粒と黒色のスコリア粒がブロック状に連なっている。この層が検出される箇所は限定され、検出されてもパッチ状を呈す。Ⅱ期調


[本調査Ⅱ期]
[本調査Ⅰ期]
TP16
TP15
TP12
TP11
TP10
TP06
TPH6
TP04
TPF4
TPE3
S=1/1,500
283.00m
282.00m
281.00m
280.00m
279.00m
278.00m
277.00m
276.00m
275.00m
274.00m
273.00m
272.00m
271.00m
270.00m
269.00m
268.00m
267.00m
266.00m
265.00m
264.00m
263.00m
260.00m
259.00m
258.00m
257.00m
256.00m
255.00m
254.00m
253.00m
252.00m
251.00m
250.00m
249.00m
248.00m
247.00m
0 (1:100) 2m

第６図　柱状図（２）

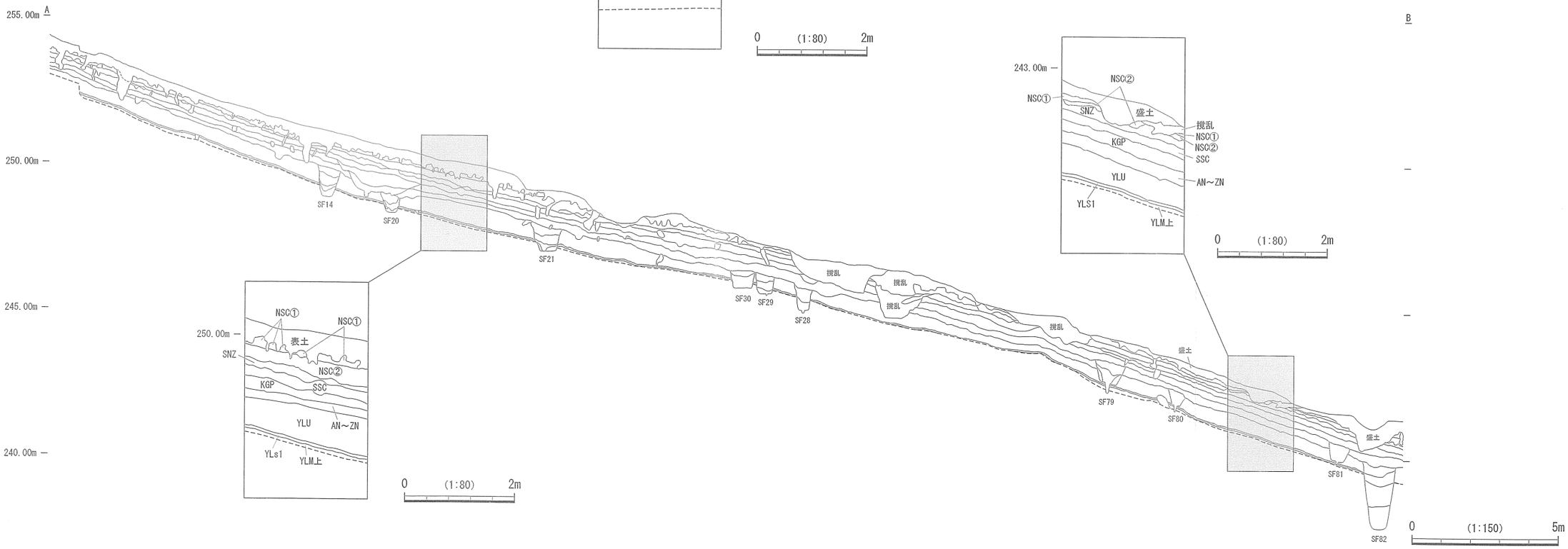
土層帯01





S=1/2,500

a-bライン



第７図　本調査Ⅰ・Ⅱ期土層断面図

査区では、柱状図に使用したＴＰ９付近と、１区とした調査区の北東側で部分的に確認されているが、その他の箇所では検出されなかった。

15層は休場層下位（ＹＬＬ）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では明褐色土層である。スコリアを多く含み、硬いが、ボロボロとした土質である。Ⅱ期調査区の西側ではこの層が遺構検出面となっている。

16層は休場層直下黒色帯（ＢＢＯ）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層である。Ⅱ区調査区では認識できていない。

17層は第Ⅰスコリア層（ＳＣⅠ）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層である。Ⅱ期調査区では明褐色土層である。ＹＬＬより明るい色調でスコリアの密度がＹＬＬより粗である。Ⅱ期調査区ではⅠ期調査区と比較して同層が厚く約50㎝と記録されている。ＢＢＯが分層できずに同層に含まれている可能性があることを付記しておく。

18層は第Ⅰ黒色帯（ＢＢⅠ）である。本調査Ⅰ期調査区・Ⅱ期調査区ともに褐色土層である。本遺跡における黒色帯はＹＬＬ層よりやや暗い色調として認識される。

19層はニセローム層（ＮＬ）である。本調査Ⅱ期調査区では明確に認識された。黄褐色土層中に暗い黄色のＡＴパッチが疎らにはいる。

（註１）

裾野市の第二東名関連遺跡のうち、本遺跡を含む北側に所在する遺跡の旧石器時代の土層は、いわゆる箱根・愛鷹山麓の標準土層と概ね一致している。ただし、相違点も存在する。大きな相違点は、色調とスコリアの入り具合が大きく異なっていることである。特に第Ⅰスコリア層以下の層に顕著であり、黒色帯とスコリア層が不明確で、分層に困難を伴う場合がある。ただし、本書では他の呼称を使用せず、共通する土層名を使用した。

引用・参考文献

愛鷹ローム団研グループ　1969　「愛鷹山麓のローム層－東名高速道路工事現場を中心として」『第四紀研究』 第８巻第１号 日本第四紀学会

町田　洋・新井房夫　1992　『新編火山灰アトラス』 東京大学出版会

町田　洋・松田時彦・海津正倫・小泉武栄編　2006 『日本の地形５中部』 東京大学出版会

農林水産省農林水産技術会議．財団法人日本色彩研究所色票監修　1992 『新版　標準土色帖　1992年版』

第Ⅲ章　旧石器時代

第１節　旧石器時代の概要

旧石器時代の遺構・遺物は本調査Ｉ期で検出されたが、本調査Ⅱ期では確認されなかった。本調査Ｉ期で検出した遺構は配石遺構１基（第９図）である。出土した遺物（第 11 図）は、石器８点（石槍３点、ナイフ形石器３点、使用痕のある剥片（Ｕ・Ｆ）２点、剥片３点、礫 23 点（配石の礫２点を含む）である。石器及び配石の検出層位は休場層上位（ＹＬＵ層）から中位（ＹＬＭ層）までである。中位層、Ⅰ－７グリッド出土の石槍（第 11 図２）以外は全てＤ－３・Ｄ－４グリッド内の直径 10 ｍの範囲に集中（第 10 図）していることから、小規模な石器ブロックと考えている。これらの遺構・遺物は愛鷹・箱根旧石器編年（高尾　2006）の４期後半の所産と思われる。

第２節　遺　構

１号配石遺構（第８・９・11 図）

Ｄ－３グリッドの休場層上位層（ＹＬＵ）の最下位で粒径１㎜程度の微細な炭化物の広がりを確認した。炭化物の範囲は 2.95 × 1.25 ｍの規模で東西方向に広がりを持つ長楕円形を呈する。炭化物の範囲の中央からやや西に寄って配石と思われる礫２点（表 1）を検出した。礫の石材は玄武岩である。礫から 0.95 ｍ東へ寄った地点でガラス質黒色安山岩製の石槍（第 11 図３）が出土した。礫との比高差は約 17 ㎝であるが、浮き沈みのある堆積状況からこの配石に伴う遺物と判断した。

表１　旧石器礫計測表（１号配石遺構）

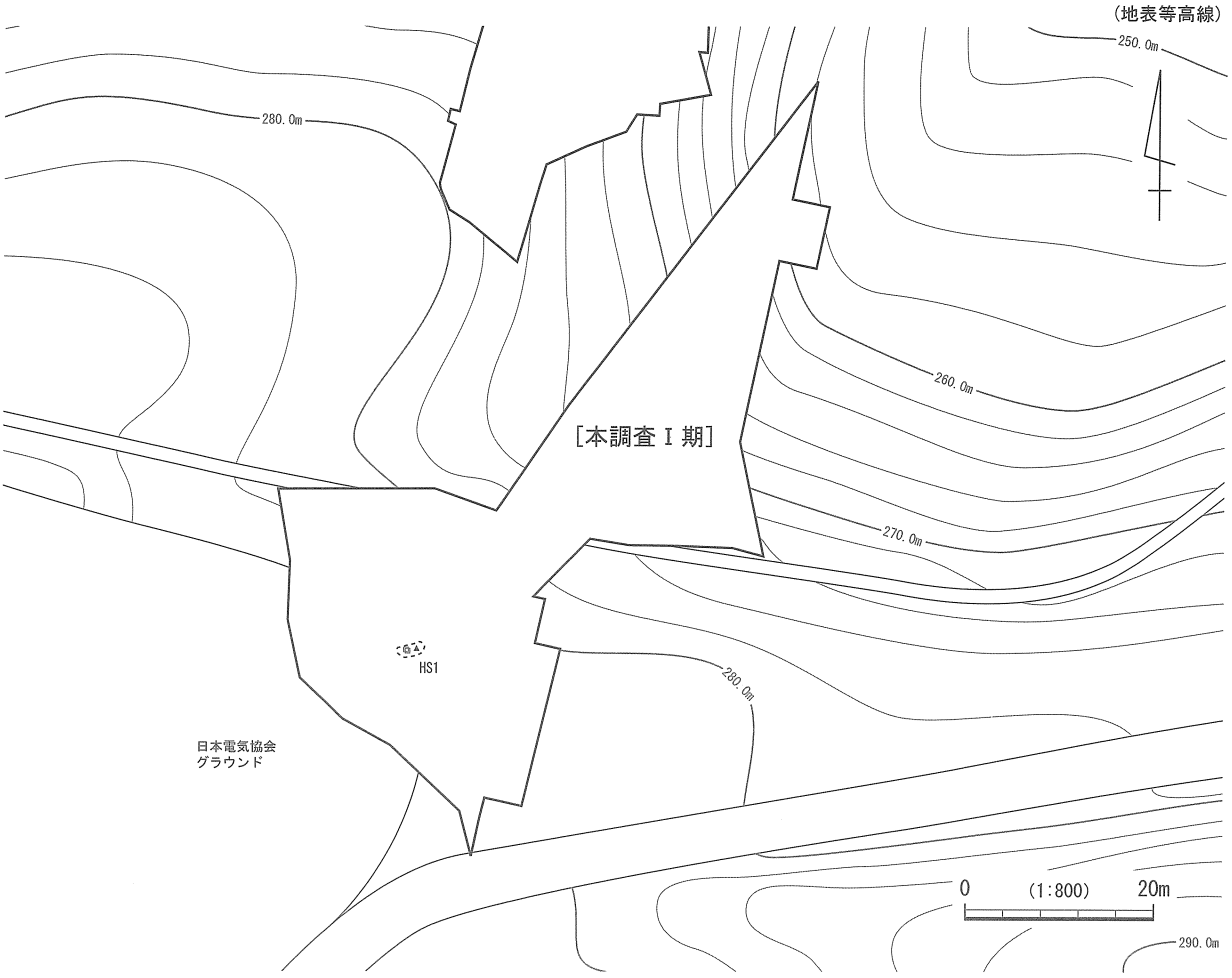
遺物番号	層位	グリッド・遺構	石材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)
1427	YLU	1号配石遺構	Ba	420	9.9	8.9	4.5	-88943.016	35566.165	275.903
1428	YLU	1号配石遺構	Ba	500	12.6	7.5	5.5	-88938.884	35566.007	275.919

第３節　石　器

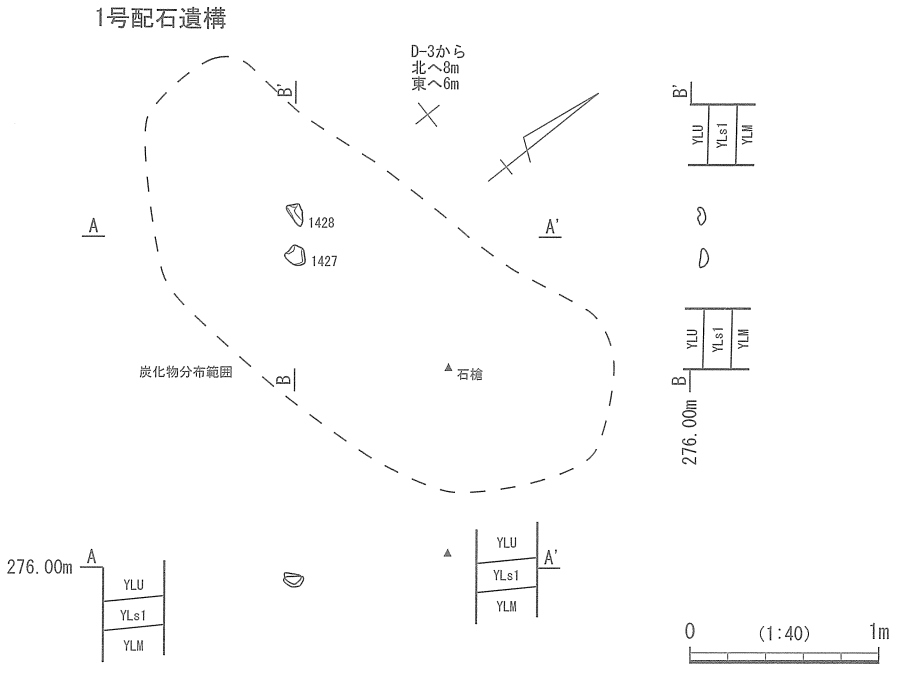
旧石器時代に相当する休場層からは、石槍３点、ナイフ形石器３点、使用痕のある剥片（Ｕ・Ｆ）２点が出土した。出土層位はＹＬＵ層からＹＬＭ層までである。石器のほかに、配石遺構を含め、礫・剥片の出土があった。出土した礫・剥片は計測表（表３・４）に記載した。

石槍（第 11 図１～３）

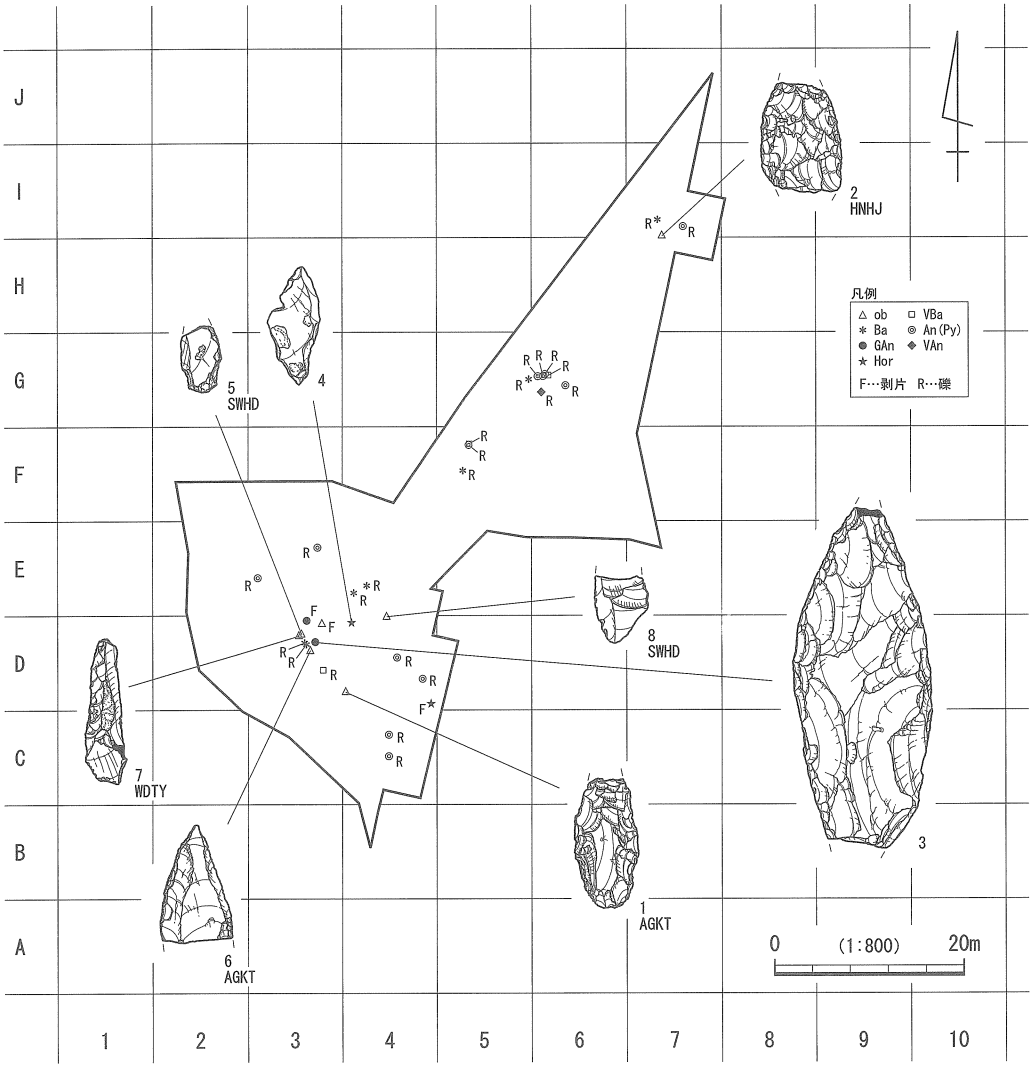
１は、ＹＬＵ層から出土した。黒曜石製で表面の右側縁には打撃による急角度の剥離が見られ、左側面および下端は大きな剥離面の縁部を細かく調整している。先端部は衝撃剥離によると思われる細かな剥離が重なっている。裏面は平坦剥離と貝殻状の剥離が見られる。２は、ＹＬＭ層で出土した。黒曜石製で１より水和層が厚く、光沢がにぶい。表裏面に丁寧な剥離調整を行っている。基部と先端部は双方



第８図　旧石器時代遺構配置図



第９図　配石遺構（HS1）実測図



第 10 図　旧石器時代石器・剥片・礫分布図

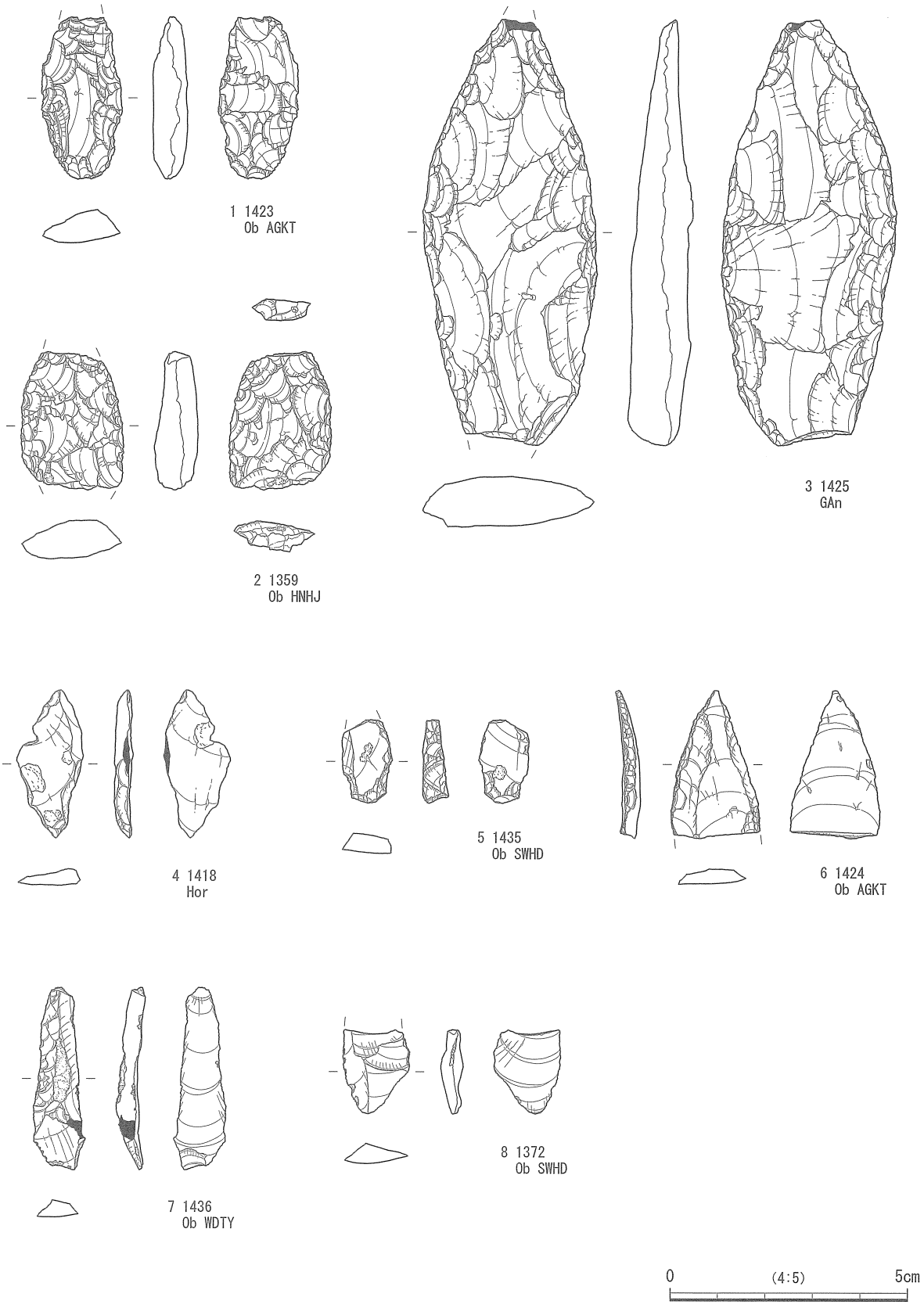
とも折損している。３は、ＹＬＵ層中で検出された１号配石遺構に伴う。石材はガラス質黒色安山岩である。先端部と基部を欠損している。表面は丁重な剥離調整が一部見られるが、裏面は中央に大きな剥離面を残し、側縁は小さな剥離により調整されている。

ナイフ形石器（第 11 図４～６）

４は、ＹＬＵ層から出土した。石材はホルンフェルスである。縦長剥片を利用したものと思われるが風化が著しく、細部の加工については観察できない。５は、ＹＬＭ層から出土した。縦長剥片を利用したナイフ形石器で、黒曜石製である。わずかに基部調整が見られる。先端部を欠損している。６は、ＹＬＵ層から出土した。黒曜石製で薄い縦長剥片の右側縁と左側縁の上部に刃潰し状の加工が見られる。打面側を折損しているため全体形は不明である。

使用痕のある剥片（Ｕ・Ｆ）（第 11 図７．８）

７は、ＹＬＭ層出土の表面側に風化面を残す縦長剥片で、黒曜石製である。先端部側に鋭角な剥離面があり、この剥離面の縁部には使用痕と思われる微細剥離が見られる。８は、ＹＬＵ層出土で黒曜石製の縦長剥片で打点側を欠損している。右側縁の一部に刃潰し状の小さな剥離が見られる。また、左側縁に使用痕と思われる微細剥離が見られる。



第 11 図　旧石器時代石器実測図

礫（表１・３）

ＹＬＵおよびＹＬＭ層中から配石遺構とした礫を含めて23点の礫が出土した。礫は約３～15㎝ほどの大きさで、礫の形状は亜角礫、亜円礫である。被熱しているものが２点ある。石材は輝石安山岩が一番多く12点、玄武岩が７点、多孔質玄武岩が３点、多孔質安山岩が１点である。

表２　旧石器計測表

図版番号	遺物番号	器種	層位	グリッド・遺構	石材	Ob産地	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)
11-1	1423	石槍	YLU	D-4	Ob	AGKT	4.25	3.45	1.70	0.71	-88948.032	35570.337	276.418
11-2	1359	石槍	YLM	I-7	Ob	HNHJ	5.94	2.95	2.10	0.90	-88899.755	35603.719	258.222
11-3	1425	石槍	YLU	1号配石遺構	GAn		42.77	9.00	3.70	1.30	-88942.753	35567.110	276.080
11-4	1418	ナイフ	YLU	D-4	Hor		1.45	3.10	1.40	0.40	-88940.732	35570.962	278.203
11-5	1435	ナイフ	YLM	D-3	Ob	SWHD	1.04	1.80	1.10	0.55	-88941.947	35565.652	275.561
11-6	1424	ナイフ	YLU	D-3	Ob	AGKT	1.96	3.10	1.92	0.39	-88943.678	35566.605	276.213
11-7	1436	U・F	YLM	D-3	Ob	WDTY	1.36	3.90	1.10	0.55	-88942.102	35565.393	275.459
11-8	1372	U・F	YLU	D-4	Ob	SWHD	0.80	1.70	1.40	0.50	-88940.059	35574.677	277.895

表３　旧石器礫計測表

遺物番号	層位	グリッド・TP	石材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	備　考
33	YLU	TP04	VBa	80	9.00	3.60	4.00	-88921.888	35583.385	273.085	
34	YLU	TP04	An(Py)	100	6.70	5.00	3.00	-88921.953	35583.349	273.129	
36	YLU	TP04	Ba	145	9.60	5.40	2.60	-88924.639	35582.749	274.348	
1358	YLU	G-5	Ba	30	2.85	2.85	2.50	-88914.985	35589.721	267.810	
1363	YLU	G-6	VBa	130	5.30	4.90	4.10	-88914.592	35591.754	267.042	
1364	YLU	G-6	An(Py)	30	3.80	3.10	1.20	-88914.433	35591.424	267.304	
1365	YLU	G-6	An(Py)	120	7.60	4.60	4.35	-88914.661	35591.207	267.382	
1366	YLU	G-6	VAn	130	6.90	5.00	4.40	-88916.343	35591.038	267.831	
1367	YLU	G-6	An(Py)	40	4.8	3.10	2.60	-88915.649	35593.589	266.216	
1369	YLU	G-6	An(Py)	40	4.80	3.50	2.50	-88914.676	35590.670	266.981	
1370	YLM	I-7	Ba	70	7.70	6.70	5.40	-88898.106	35603.261	258.185	
1371	YLM	I-7	An(Py)	390	10.70	6.95	7.10	-88898.817	35605.928	257.560	
1441	YLM	D-4	An(Py)	30	5.40	3.90	1.50	-88946.690	35578.488	278.700	
1442	YLM	C-4	An(Py)	400	11.50	5.60	5.20	-88954.885	35574.903	275.977	被熱か
1443	YLL	C-4	An(Py)	880	15.10	11.40	6.40	-88952.606	35574.907	276.022	
1444	YLM	D-3	VBa	40	4.60	4.50	1.80	-88945.75	35567.963	275.568	
1445	YLM	D-4	An(Py)	20	3.80	3.20	1.60	-88944.429	35575.782	277.673	
1447	YLU	E-4	Ba	190	6.80	5.55	4.50	-88937.596	35571.193	277.738	
1448	YLU	E-3	An(Py)	30	5.70	4.50	1.10	-88936.018	35561.020	276.806	
1449	YLU	E-3	An(Py)	150	6.70	5.20	5.00	-88932.793	35567.365	278.539	焼きはじけによる割れ痕
1451	YLM	E-4	Ba	140	8.15	4.55	3.40	-88936.842	35572.591	277.481	

表４　旧石器剥片計測表

遺物番号	層位	グリッド	石材	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)
1380	YLU	D-4	Hor	1.70	3.05	1.60	0.40	-88949.333	35579.398	279.514
1432	YLM	D-3	Ob	2.21	1.80	1.45	0.80	-88940.863	35567.804	276.141
1433	YLM	D-3	GAn	1.37	2.90	1.95	0.31	-88940.545	35565.779	275.521

第Ⅳ章　縄文時代

第１節　縄文時代の概要

本遺跡では、調査区の大半が斜面であるにもかかわらず、縄文時代の少なくない遺構・遺物が検出されている。遺構の大半は陥穴状の土坑であるが、分布の上では、満遍なく分布するわけではなく、場所により疎密が見られる。最も集中するのは、本遺跡の中心に位置する東北方向に突き出した尾根の西側斜面部と尾根の中央部分であり、ここが本調査Ⅱ期の調査区の中心部分であった。これに対して、尾根の先端部（Ⅱ期調査区の１区）や、尾根の基部となる平坦部及び尾根東側谷部（本調査Ⅰ期調査区）は、非常に少ないか全く検出できないなど、対照的なあり方となっている。

遺物についても同様の分布の偏りを示す。遺物がやや多く検出できたのは、尾根の基部となる平坦部及び尾根東側斜面部の下方であり、それ以外の部分ではほとんど検出されなかった（第 48 図）。土器型式の上では縄文時代前期から後期に至る各型式が発見されて、長期に亘る人間の活動の痕跡が残されている。ただし、今回の調査区の範囲内では、本遺跡内において、確実な居住の場としての証拠を見出すことが出来なかった。

第２節　遺　構

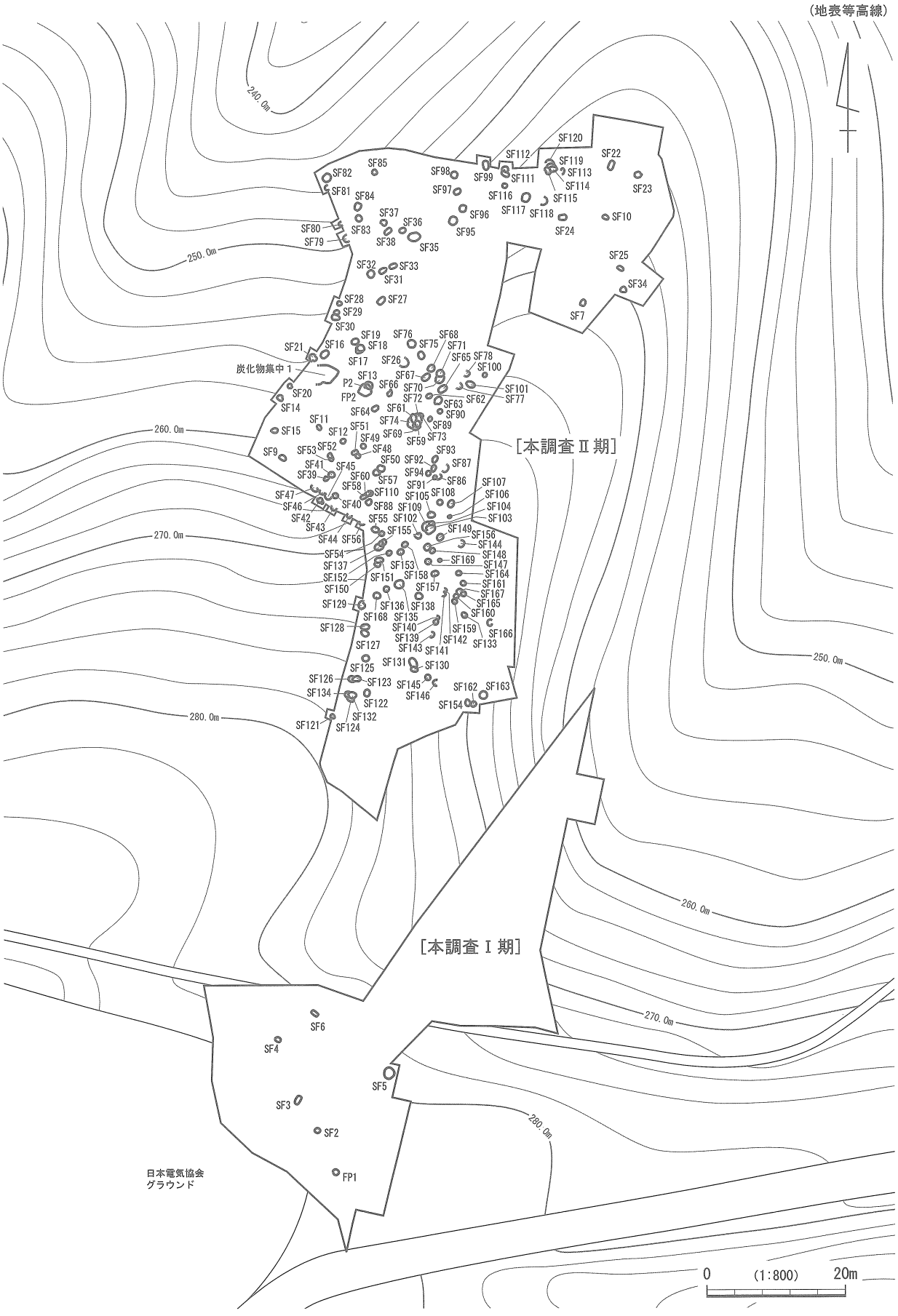
縄文時代の遺構は、土坑 167 基（うち陥穴と思われる土坑 164 基）、焼土遺構２基、炭化物集中１基、ピット１基からなる（第 12 図）。遺構の検出面は、本調査Ⅰ期調査区では暗褐色土層（ＡＮ）、栗色土層（ＫＵ）、富士黒土層（ＦＢ）である。ＫＵ層で、土坑２基（２、３号土坑）と焼土遺構１基（１号焼土遺構）が、ＦＢ層で土坑１基（４号土坑）が検出されている。他の遺構（５、６号土坑）については、縄文時代の包含層中で確認できず、５号土坑がＹＬＵ層主体の二次堆積層、６号土坑がＳＣⅠ層まで掘り下げた段階で確認された。遺構の形状、覆土の観察から縄文時代の陥穴と判断した。本調査Ⅰ期調査区では、ＫＵ層とＦＢ層に遺構の掘り込み面が確認されたことになる。

本調査Ⅱ期調査区では、縄文時代に属する土層のうちＡＮ～ＺＮ層の堆積が薄く分層ができなかったことから、各層位中での遺構検出はできなかった。しかし、ＫＧＰ層の最下位で縄文後期の加曽利Ｂ式土器が出土していることや、調査区境界の壁面で検出した土坑の掘り込み層位にＫＧＰ層下からのものがあった。さらにＡＮ～ＺＮ層中から掘り込まれた土坑があり、炭化物集中（第 47 図）がＡＮ～ＺＮ層中から検出され、生活面がこの層中にあることが推定できた。従って、本調査Ⅱ期調査区では、ＫＧＰ層とＡＮ～ＺＮ層中に遺構の掘り込み面が存在した可能性が高い。

本調査Ⅰ期調査区では、ＫＵ層とＦＢ層から遺構の検出をしているが、遺物との関係がつかめていない。本調査Ⅱ期を含めこれらの土坑が縄文時代のどの時期に帰属するものか、明確には判断できていない。

１．土　坑

ＫＧＰ～ＺＮ層までの層をある程度分層できた本調査Ⅰ期調査区と異なり、多くの土坑を検出したⅡ期調査区での土坑覆土は発色の悪いＡＮ～ＺＮ層土とＹＬ層土からなるため、壁面で検出した土坑を除いてＫＧＰ～ＺＮ層中での平面プラン検出は困難であった。このため大半の土坑を便宜的にＹＬＭ上面



第 12 図　縄文時代遺構配置図

（２区）およびＹＬＬ層上面（１区）まで掘り下げて検出をしている。本来、検出層位毎の分類作業が必要であるが、以上の経緯からここでは、検出面での土坑の平面形の差異による分類にとどめた。

土坑の平面形の分類は、以下のとおりである。

Ⅰ類：円形土坑　長軸の計測値が短軸の計測値の 1.2 倍未満のもの。

Ⅱ類：楕円形土坑　長軸の計測値が短軸の計測値の 1.2 倍以上、1.5 倍未満のもの。

Ⅲ類：長楕円形土坑　長軸の計測値が短軸の計測値の 1.5 倍以上であるもの。

（※ただし壁面で検出されたものや重複があって本来の形状が残されていないものについては、図上で推定復元し、その数値をもとに分類した。）

類別の土坑数は、Ⅰ類が 82 基、Ⅱ類が 58 基、Ⅲ類が 27 基である。これを全体比率に置き換えると、Ⅰ類が約 49.1%、Ⅱ類が約 34.7%、Ⅲ類が約 16.2%という比率を示す。土坑は、底面に逆茂木状の小ピットを持つものが多い。形態別にみるとピットを持たないものの比率がⅠ類土坑で約 18.3%、Ⅱ類土坑では約 17.2%、Ⅲ類土坑では約 11.1%である。全体としては、ピットを持つ土坑と持たない土坑の比率は、持たないものが約 16.7%、持つものが約 83.3%と、底面にピットを持つ土坑が多数を占めている。本調査Ⅱ期の土坑は、大多数が本来の掘り込み面より下位で検出した関係で、平面形の形状・規模において正確な数値を示すことができない。このため本節では、調査区の壁面で検出されたことによって掘り込み面が確認された土坑を対象に記載する。その他の土坑については、遺構計測表（表５－４）に長軸、短軸、深さ、長軸の方向などの計測値や形状、覆土、検出面、ピットの有無・規模、重複関係などを記載し、本文中への記載は割愛する。

（１）Ⅰ類：円形土坑

円形土坑には、ＫＧＰ、ＫＵ、ＡＮ～ＺＮ層で検出した土坑がある。以下各層ごとに記載する。

①ＫＧＰ層の土坑

57 号土坑（第 23 図）は、覆土に多量のＫＧＰ層土が入ることから、同層からの掘り込みと判断した。断面形は筒型で、底面にピットは見られない。102 号土坑（第 32 図）は、上面の最大径 0.85 ｍに対して底面の最大径が 0.25 ｍと小さく土坑の断面形はコップ型である。深さは、1.16 ｍでＡＮ～ＺＮ層中から掘り込まれた大半の土坑とほぼ同じ規模である。底面中央にピット１基が検出されている。

②ＫＵ層の土坑

２号土坑（第 13 図）は、本調査Ⅰ期で検出された土坑である。掘り込みが 0.39 ｍと浅く上面の最大径が 0.81 ｍに対し底面の最大径は 0.61 ｍで断面形は逆台型を呈する。覆土にＫＧＰ層土が見られることから掘り込み面はもう少し上層である可能性がある。

③ＡＮ～ＺＮ層中の土坑

同層からの掘り込みが確認できたものに、20（第 16 図）、26、28、29（第 18 図）、42、43（第 21 図）、44 ～ 46（第 22 図）、50、57（第 23 図）、54（第 24 図）、59、69（第 25 図）、77（第 27 図）、78、79（第 28 図）、82（第 29 図）、109（第 34 図）、112、120（第 35 図）、121（第 36 図）、139（第 40 図）、141 ～ 144（第 41 図）、162 号土坑（第 44 図）がある。このうち、37、42、44、54、79、112、121 号土坑はＫＧＰ層直下から掘り込まれているが、覆土中にＫＧＰ粒子を全く含まないか、含んでも僅かであるため、ＡＮ～ＺＮ層中から掘り込んだものと判断した（Ⅱ・Ⅲ類も同様）。土坑の規模から見た特徴は以下のとおりである。

１）掘り込みが 1.62 ～ 2.3 ｍと深く、上面の最大径が１～ 1.2 ｍに対し底面の径が最大径で 0.29 ～ 0.42 ｍと小さいもの（50、82 号土坑）。

２）掘り込みが 0.7 ～ 1.25 ｍと浅く、上面の最大径が 0.6 ～ 0.9 ｍに対し、底面の径が最大径で 0.3 ～ 0.41 ｍと小さいもの（20、28、43、102、112、121 号土坑）。

3）掘り込みが0.45～1.38ｍと浅く、上面の最大径が0.74～1.13ｍに対し、底面の径が最大径で0.38～0.68ｍとやや大きいもの（26、29、42、44、54、57、59、69、77～79号土坑）。

4）掘り込みの深さは2）の範疇だが、上面の最大径が1.6ｍとやや大型で、底面の最大径が0.5ｍと小さく窄まるもの（109号土坑）。

5）掘り込みの深度が0.43ｍと浅く、上面の最大径0.81～0.96ｍ、下面の最大径が0.49～0.75ｍのもの（45、46号土坑）。

底面のピットは1基だけのものが40.2%、次いで2基が23.2%、3基が11%、4基が6.1%、5基が1.2%、なしが18.3%、となる。ピットの土坑底面における位置は、中央に1基だけのものが35.8%、中央に2基まとまるものが7.5%、直列するもの6.0%、中央から外れて位置するものが29.9%、配置に規則性を持たないものが20.9%である。

（2）Ⅱ類：楕円形土坑

楕円形土坑には、ＫＧＰ、ＦＢ、ＡＮ～ＺＮ層で検出された土坑がある。

①ＫＧＰ層の土坑

同層から掘り込まれたⅡ類土坑に56号土坑（第24図）、86号土坑（第29図）がある。56号土坑は、上面の最大径が0.73ｍと小型の土坑である。底面は、最大径が0.4ｍと上面の径と比較するとやや大きめである。深さは0.63ｍと浅く、掘り込みはＡＮ～ＺＮ層中で終了している。上面はＳＳＣ層に被覆されている。86号土坑は深さ1.33ｍで、上面の最大径は現存値で0.84ｍ、底面の最大径は0.34ｍと上面に対し小さい。ＫＧＰ層を掘り込んでいるが、ＫＧＰ層の上位が攪乱で削り取られているためＳＳＣ層との関係は不明である。底面はＹＬM層中を掘り込んでいる。

②ＦＢ層の土坑

4号土坑（第13図）は、本調査Ⅰ期でＦＢｂ層からの掘り込みが確認された土坑である。平面形、底面形ともに楕円形で、ＹＬs1層まで掘り込まれている。上面の最大径が0.84ｍ、底面の最大径は0.51ｍで、深さは1.1ｍを測る。底面にピットは検出されていない。

③ＡＮ～ＺＮ層の土坑

同層中からの掘り込みが確認されたⅡ類土坑には、9、10号土坑（第14図）、14号土坑（第15図）、21号土坑（第17図）、30号土坑（第18図）、55、58、60号土坑（第24図）、80、81号土坑（第28図）、87号土坑（第30図）、103号土坑（第33図）、114号土坑（第35図）、129号土坑（第37図）、154号土坑（第43図）がある。このうち10、81、114、129号土坑については、ＫＧＰ層に被覆されている。Ⅱ類土坑は、ＡＮ～ＺＮ層の上層からと中層からの掘り込みが想定される。本層検出土坑の規模による特徴は以下のとおりである。

1）掘り込みが1.87ｍと深く、上面の最大径が1.02ｍに対して底面の最大径が0.28ｍと小さいもの（9号土坑）。

2）掘り込みが0.7～1.22ｍとやや浅く、上面の最大径が0.7～0.95ｍに対して、底面の最大径が0.28～0.4ｍと小さなもの（14、81、154号土坑）。

3）掘り込みが0.6～1ｍとやや浅く、上面の最大径が0.6～1.15ｍに対し、底面の最大径が0.6～0.85ｍと前者と比較すると大きいもの（21、30、55、58、60、80、114号土坑）。

4）平面の規模が最大径で1～1.5ｍとやや大型のもの（87、103、129号土坑）。

土坑底面のピット数は、1基のものが25.9%、2基のものが34.5%、3基が8.6%、4基が10.3%、5基が3.4%、なしが17.2%である。ピットの土坑底面における位置は、中央に1基あるもの18.8%、中央に2基あるもの8.3%、中央に3基あるもの4.2%、中央に4基あるもの2.1%、中央に5基あるもの2.1%、直列するもの20.8%、中央から外れて位置するもの25%、配置に規則性を持たないもの

18.8％である。

（３）Ⅲ類：長楕円形土坑

この類の土坑は、ＫＧＰ、ＫＵ、ＡＮ～ＺＮ層で検出された（６号土坑については、検出面がＳＣＩ層であるが覆土の状況からＡＮ層からの掘り込みが推定されるため同層で扱った）。このうち、壁面で確認されたのは、３号土坑（第13図）、47号土坑（第22図）、99号土坑（第32図）、113号土坑（第34図）、115号土坑（第35図）、140号土坑（第40図）だけである。したがってこの類については、土坑の数量的な傾向を掴むため、壁面以外で検出したものも含めて検討する。

①ＫＧＰ層の土坑

47号土坑（第22図）は、ＫＧＰ層から掘り込まれていると思われるが掘り込み面は判然としない。上面の最大径は1.15ｍ、底面の最大径は現存値で0.56ｍである。深さは0.34ｍと浅い。113号土坑（第34図）は、長軸が現存値で0.7ｍ、短軸が現存値で0.5ｍとやや小型の土坑で、深さは1.03ｍを測る。底面中央にピットがある。

②ＫＵ層の土坑

３号土坑（第13図）は、本調査Ⅰ期で検出した土坑である。平面の規模は、長軸1.28ｍ、短軸0.7ｍ、とやや大型だが、深さは0.29ｍと浅く掘り込みはＦＢ層中で終わる。底面にピットはみられない。ＦＢ層中で掘り込みが終わる土坑はⅠ類の２号土坑も同様であり、この二つの土坑の位置は本調査Ⅰ期の遺物集中区に重なっており、陥穴以外の目的に使用された可能性がある。

③ＡＮ～ＺＮ層の土坑

この層に属する土坑（６（第13図）、22、25（第17図）、27（第18図）、31、33（第19図）、38（第20図）、51（第23図）、61（第25図）、65、66、67（第26図）、92（第30図）、93（第31図）、99（第32図）、111（第34図）、115（第35図）、118（第36図）、123、124（第37図）、128（第38図）、137、140（第40図）、151（第42図）、157（第43図））の計測値を集計すると、上面の長軸1.39～0.96ｍ、短軸0.9ｍ～0.53ｍ、底面の長軸は1.28～0.4ｍ、短軸は0.65～0.25ｍで上面の径に対し底面の径が著しく小さなものは見られないが、底面の径がやや小さいもの（61、128、137、157土坑）がわずかに見られる。深さは推定復元で１～1.5ｍ程度であり、Ⅰ類土坑やⅡ類土坑のように２ｍを超えるものは見られない。土坑底面のピット数は、１基が7.4％、２基が25.9％、３基が22.2％、４基が18.5％、５基が7.4％、６基が3.7％、７基が3.7％、ピットなしが11.1％である。ピットの土坑底面における配置は、土坑長軸に沿って直列するもの45.8％、並列するもの12.5％、サイコロの５目のように配列するもの4.2％、配置に規則性が認められないもの20.8％、中央からはずれて位置するもの16.7％がある。

（４）重複する土坑について

本調査Ⅱ期の調査区内には重複する土坑が15例見られる。愛鷹・箱根山麓地域では陥穴と考えられる土坑同士の重複例は少ないが、裾野市棚返遺跡（壬生他　2008）では数例の重複が報告されており、全国的にみても重複例は少数だが存在する。土坑の性格を陥穴とすると、その配置がどのように行われるのかが問題になると思われるが、ここでは重複の事実関係だけを述べておく。

本遺跡での重複例としては、ほぼ規模が同じで長軸方向が一致している、52・53号土坑（第23図）、58・60号土坑（第24図）、70・71号土坑（第27図）については、いずれも覆土が自然埋没の状況を示しており、埋没後に同じ地点に再度、掘り直した可能性がある。また、109・103・104号土坑（第34図）の例のように、109号土坑が人為的に埋め戻した可能性がある堆積状況を示しており、埋め戻したあとに104号土坑（第33図）が掘られ、さらに103号土坑（第33図）が自然埋没した104号土坑を切って構築したと推定されるものである。平面形が異なり長軸方向も異なるもの同士の重複に114・115号土坑（第35図）、130・131号土坑（第38図）の例がある。また、132・134号土坑（第39図）の例では、

132号土坑が深さ0.62ｍ、134号土坑は深さ1.85ｍと規模が異なる。次に、同じ箇所に土坑が集中して掘られている例が２例ある。59・61・69・72・73・74号土坑（第25図）と114・115・119・120号土坑（第35図）例である。前者のグループでは、61、69号土坑が直列し、59、69号は重複し、いずれも長軸方向は一致している。重複する69号と59号の覆土はいずれも自然埋没の状況を示していることから、尾根上から沢へ向かう獣道上に時間差を持って繰り返し掘られた可能性もある。また、東西方向に長軸を持つ120号、119号、114号が南北方向に連続して重複しており、同様のパターンであると考えられる。

２．焼土遺構（第46図）

焼土遺構は、本調査Ⅰ期調査区とⅡ期調査区で１基ずつ検出された。１号焼土遺構は、本調査Ⅰ期調査区の南側平坦部においてＫＵ層上面で検出されたが、覆土にＡＮ層土が含まれることからＡＮ層中から掘り込まれたものと考えられる。掘り込みの平面形はやや歪んだ円形、断面形は浅い皿状を呈する。内部には焼土のブロックとＡＮ層土、微量の炭化物の混合土がみられる。周囲は土器・石器の集中区でなんらかの生活関連遺構と考えられる。

２号焼土遺構は、Ⅱ期調査区の北西斜面でＡＮ～ＺＮ層中において検出された。不整円形の浅い掘り込みを持ち、底面の西側に長楕円形の窪みがみられる。検出面にスクリーントーンで示した約0.8×0.8ｍの範囲に炭化物の広がりがあり、その下位には焼土のブロックが不規則に散布する。焼土は掘り込みの覆土の上部に濃く集中し、下位層では薄くなっている。掘り込みの底面および壁には被熱による硬化等は見られないことから、焼土や炭化物は流れ込み、もしくは人為的に投げ入れた可能性が高い。

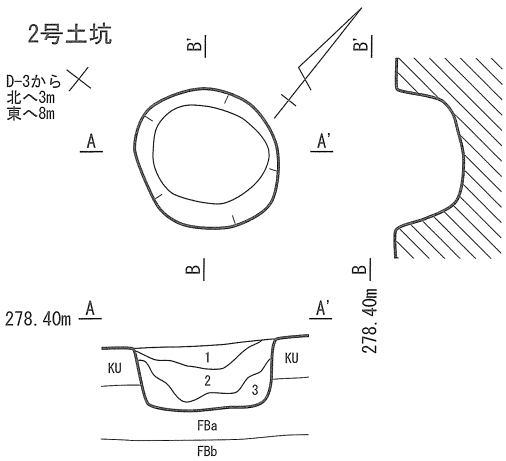
なお、２号焼土遺構では採取した炭化物の年代測定と樹種同定を行った。試料の年代についてはｙｒＢＰ3,990年とされており、中期末頃と推定されている。樹種についてはケヤキという結果を得ている（附編参照）。

３．炭化物集中（第47図）

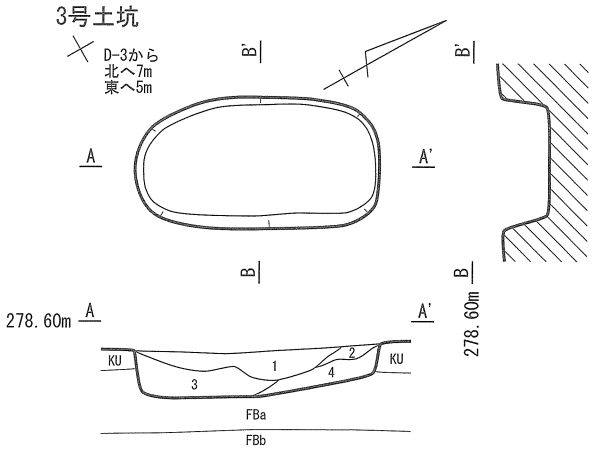
本調査Ⅱ期調査区のＴＰ14の北側で、ＡＮ～ＺＮ層中で検出した。炭化物の範囲は東西方向に長軸を持ち楕円形状に広がるが、堆積は西側に向かって薄くなる。遺物は伴わず焼土も見られない。採取した炭化物の年代測定と樹種同定を行った。その結果、複数採取した試料の年代についてはｙｒＢＰ4,500年代後半の範囲内で重なっており、中期前葉と推定されている。樹種についてはケヤキという結果を得ている（附編参照）。

４．ピット（第46図）

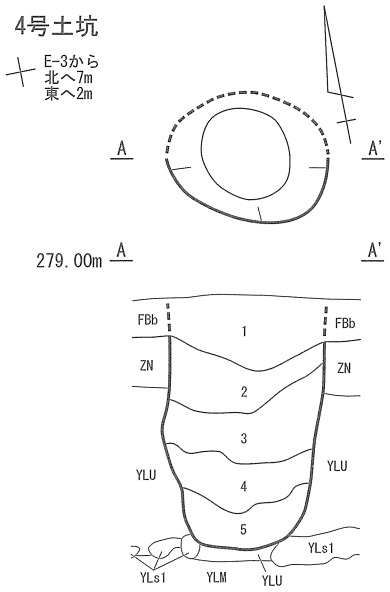
２号焼土遺構の北側に重複している13号土坑の南側で検出した。現存径0.2ｍ、深さ0.22ｍの規模をもつ。13号土坑となんらかの関係があるピットの可能性があるが、性格は不明である。

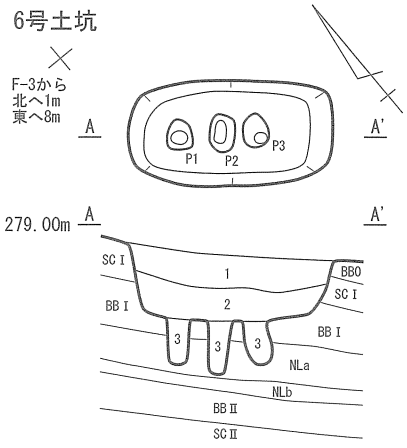


2号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色　締まり小、粘性なし。KGP 主体、極少量の橙色スコリアを含む。
2. 10YR2/1 黒色　締まり小、粘性なし。AN 層土を主体とする微量の橙色スコリアを含む。
3. 10YR3/4 暗褐色　締まり小、粘性なし。KU 層土に AN 層土が混じる。
微量の炭化物を含む。

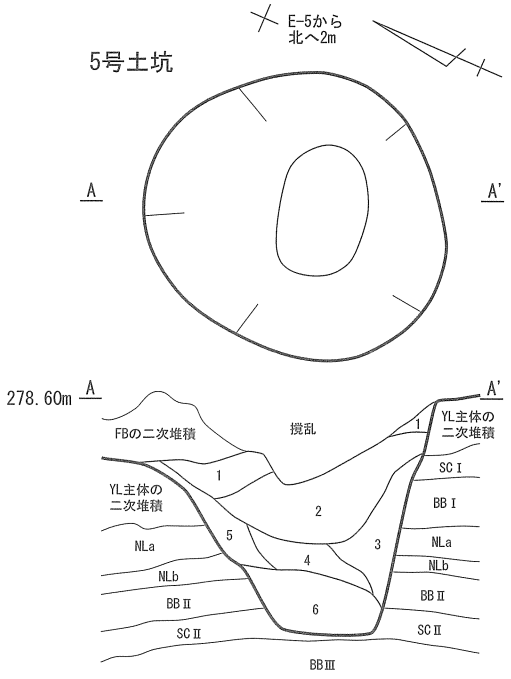


3号土坑
1. 10YR2/1 黒色　締まり小、粘性なし。AN 層土を主体とする。微量の橙色スコリアを含む。
2. 10YR3/2 黒褐色　締まり小、粘性なし。AN 層土に少量の KU 層土を含む。極少量の炭化物を含む。
3. 10YR3/1 黒褐色　締まり小、粘性なし。AN 層土に少量の KU 層土と微量の炭化物を含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり強、粘性なし。KU 層土に AN 層土がブロックで入る。



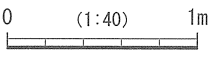


6号土坑
1. 10YR3/3 暗褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの赤褐色スコリア、褐色土を少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土　締まり小、粘性なし。YLU 層土が主体。径 0.2 ～ 0.5 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの褐色土粒を少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土　締まり小、粘性なし。BBO 層土相当のブロックを少量含む。

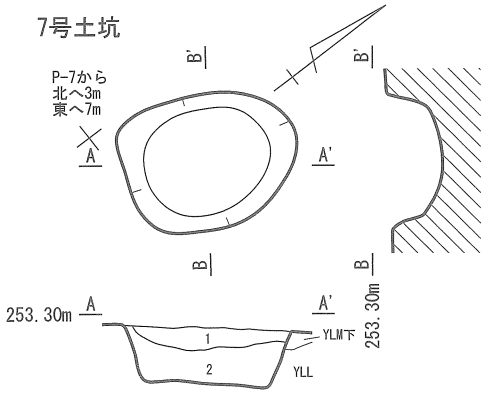


4号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗褐色スコリアを少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.2 ～ 0.5 cmの赤褐色スコリア、褐色土のブロックを少量含む。ブロックは粘性あり。
3. 10YR3/4 暗褐色土　締まり小、粘性なし。FB 層土が主体。径 0.1 ～ 0.5 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗褐色スコリアを少量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色土　締まり中、粘性なしボソボソの土質。YLU 層土が主体である。
径 0.1 ～ 0.3 cmの赤褐色スコリア、径 0.5 cmの炭化物を少量含む。

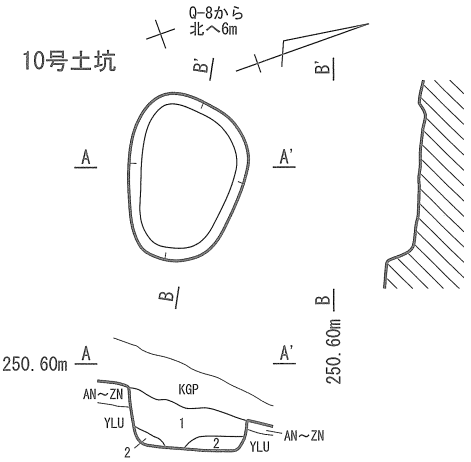
5号土坑
1. 7.5YR3/4 暗褐色土　締まり中、粘性なし。FB 層土が主体。径 0.1 ～ 0.2 cmの赤褐色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cm黒褐色スコリア、褐色土のブロックを少量含む。
2. 7.5YR3/4 暗褐色土　締まり中、粘性なし。YLU 層土が主体。径 0.1 ～ 0.2 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cm黒褐色スコリアを少量含む。
3. 7.5YR3/3 暗褐色土　締まり中、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.8 cm黒褐色スコリアを少量含む。
4. 7.5YR3/4 暗褐色土　締まり中、粘性なし。YLU 層土が主体。径 0.1 ～ 0.5 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cm黒褐色スコリアを少量含む。
5. 7.5YR3/3 暗褐色土　締まり中、粘性なし。崩落土。径 0.1 ～ 0.2 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cm黒褐色スコリア、褐色土ブロックを少量含む。
6. 7.5YR3/3 暗褐色土　締まり中、粘性なし。YLM ～ YLL 層土が主体。径 0.1 ～ 0.3 cmの赤褐色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cm黒褐色スコリアを少量含む。



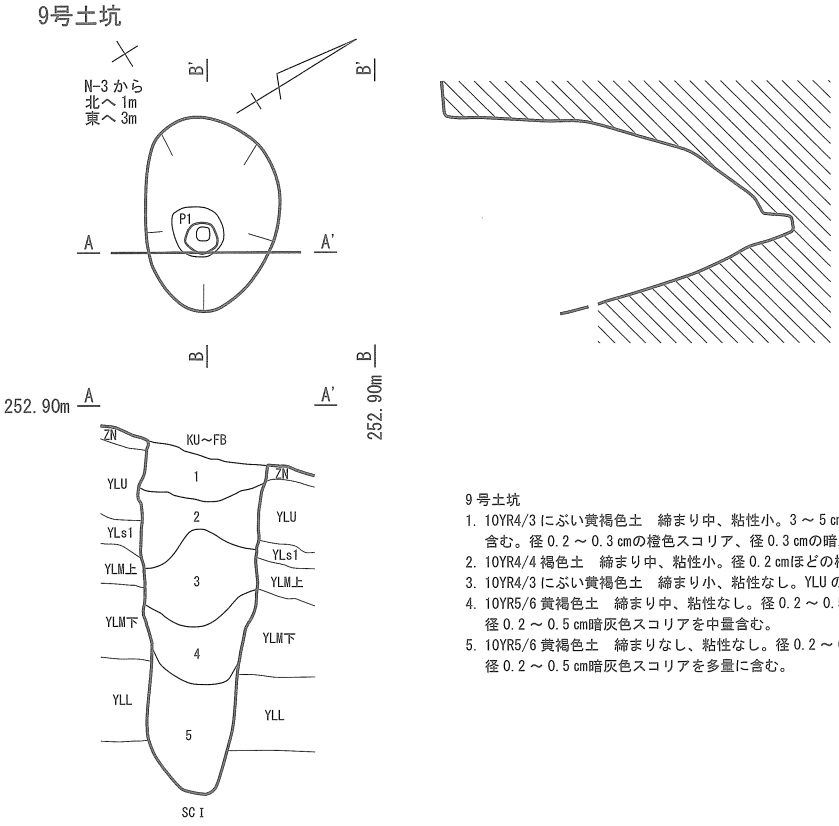
第 13 図　縄文時代 土坑実測図（１）



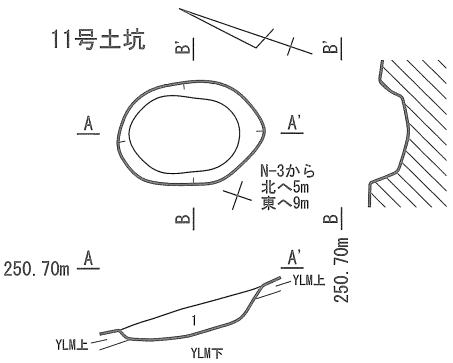
7号土坑
1. 10YR4/3にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。3～5cm大のYLUブロックを含む。径0.2～0.3cmの橙色スコリア、径0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4褐色土　締まり中、粘性小。径0.2cmほどの橙色スコリアを少量含む。



10号土坑
1. 10YR4/3にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。3～5cm大のYLUブロックを含む。径0.2～0.3cmの橙色スコリア、径0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4褐色土　締まり中、粘性小。径0.2cmほどの橙色スコリアを少量含む。



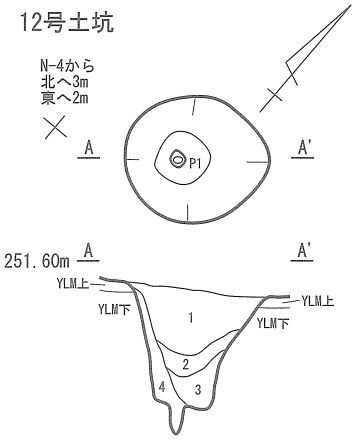
9号土坑
1. 10YR4/3にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。3～5cm大のAN～ZNのブロックを含む。径0.2～0.3cmの橙色スコリア、径0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4褐色土　締まり中、粘性小。径0.2cmほどの橙色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLUの小ブロックを含む。
4. 10YR5/6黄褐色土　締まり中、粘性なし。径0.2～0.5cmの橙色スコリア、径0.2～0.5cm暗灰色スコリアを中量含む。
5. 10YR5/6黄褐色土　締まりなし、粘性なし。径0.2～0.5cm橙色スコリア、径0.2～0.5cm暗灰色スコリアを多量に含む。



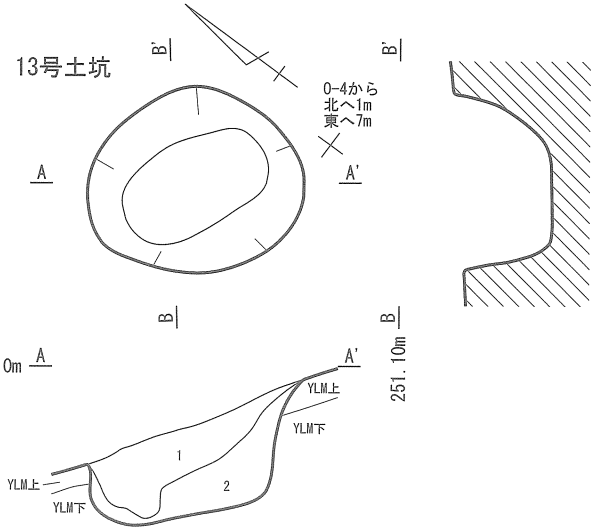
11号土坑
1. 10YR4/3にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。3～5cmのYLUブロック、径0.5cmの橙色スコリア、径0.2～0.4cm暗灰色スコリアの少量含む。

0　(1:40)　1m

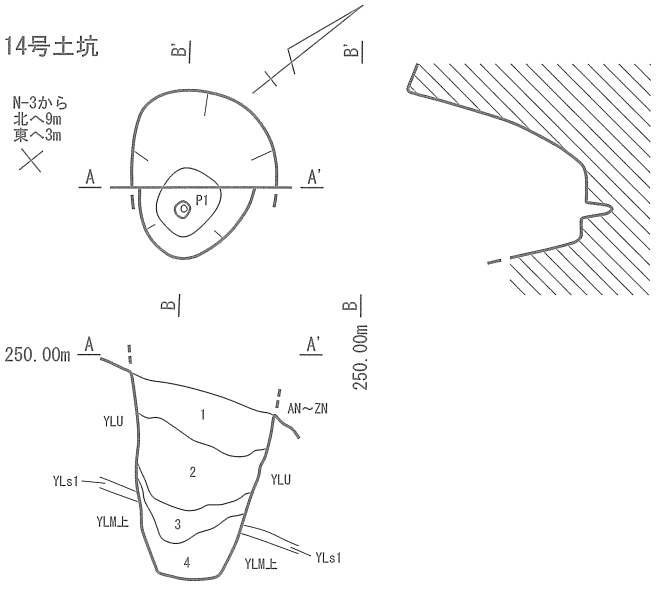
第14図　縄文時代 土坑実測図（２）



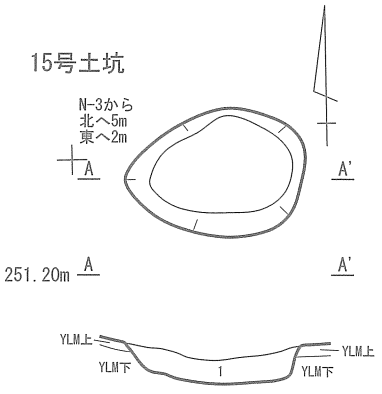
12 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。3 ～ 5 ㎝大の YLU ブロックを含む。
　径 0.2 ～ 0.3 ㎝の橙色スコリア、径 0.3 ㎝の暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まり中、粘性小。径 0.2 ㎝ほどの橙色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM および YLL の小ブロックを含む。
4. 10YR5/6 黄褐色土　締まり中、粘性なし。YLL の小ブロックを多く含む。
　微細な橙色スコリア、暗灰色スコリアを少量含む。
5. 10YR5/6 黄褐色土　締まりなし、粘性なし。微細な橙色スコリア、暗灰色スコリアを
　少量含む。



13 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。3 ～ 5 ㎝大の YLU ブロックを含む。
　径 0.1 ～ 0.2 ㎝の橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 ㎝の暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まり中、粘性なし。YLM の小ブロック、径 0.2 ～ 0.5 ㎝の
　橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 ㎝の暗灰色スコリアを多量に含む。



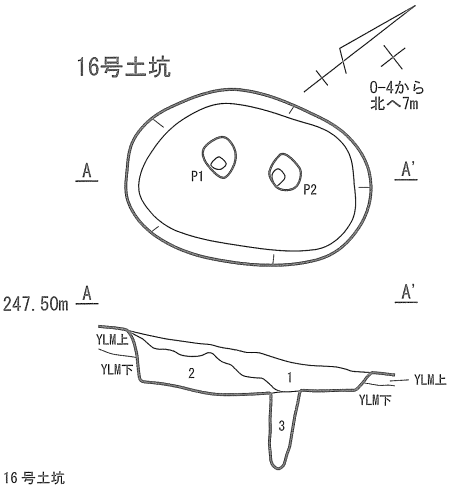
14 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。AN ～ FB 土がブロックで入る。
　0.2 ～ 0.5 ㎝の炭化物、橙色スコリアを含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まり中、粘性小。3 ～ 5 ㎝大の YLU ブロックを含む。
　径 0.1 ～ 0.2 ㎝の橙色スコリアを含む。
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。YLU の小ブロック、径 0.1 ～
　0.2 ㎝の橙色スコリアを含む。
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。YLM のブロック、径 0.2 ～
　0.5 ㎝の橙色スコリアを多量に含む。



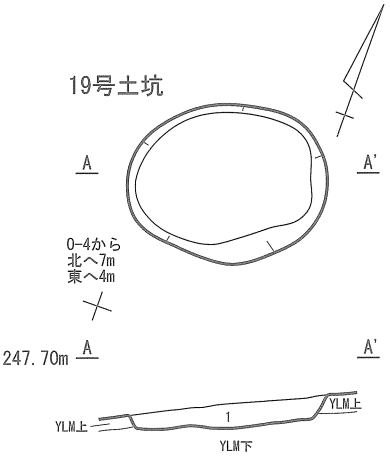
15 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まりなし、粘性なし。
　YLL のブロック、径 0.2 ～ 0.4 ㎝の橙色スコリア、
　径 0.5 ㎝の暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

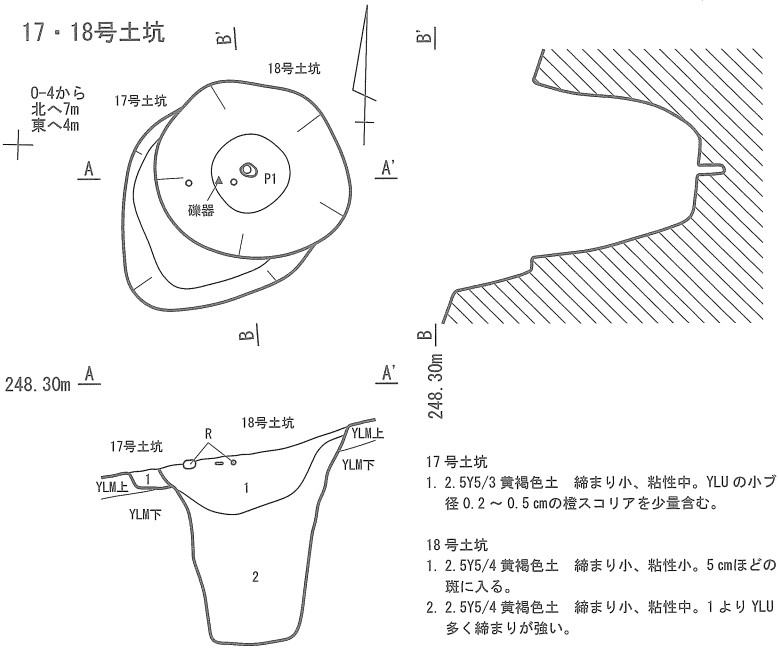
第 15 図　縄文時代 土坑実測図（３）



16号土坑
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、やや粘性あり。3～5cmの YLU ブロック、径 0.1～0.2cmの橙スコリアを含む。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性あり。径 0.1～0.3cmの橙色スコリア、径 0.3～0.5cmの暗灰色スコリアを多量に含む。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1～0.3cmの橙色スコリア、径 0.3～0.5cmの暗灰色スコリアを多量に含む。

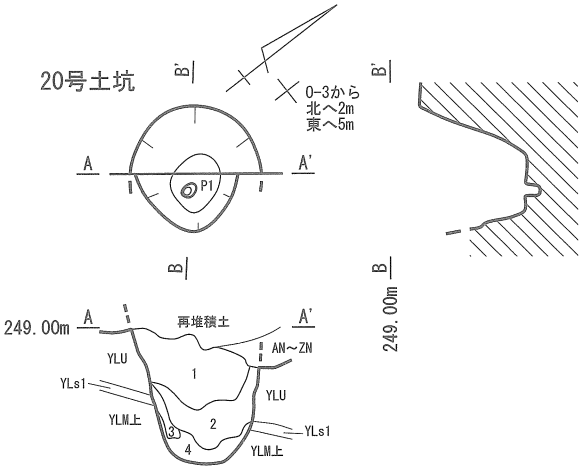


19号土坑
1. 2.5Y5/4 黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1～0.3cmの橙色スコリア、径 0.3～0.5cmの暗灰色スコリアを多量に含む。



17号土坑
1. 2.5Y5/3 黄褐色土　締まり小、粘性中。YLU の小ブロックが入る。径 0.2～0.5cmの橙スコリアを少量含む。

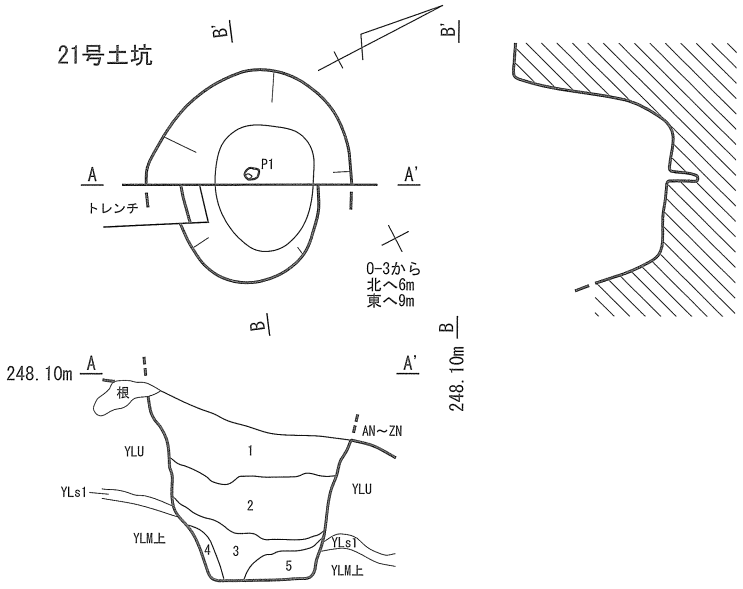
18号土坑
1. 2.5Y5/4 黄褐色土　締まり小、粘性小。5cmほどの YLU ブロックが斑に入る。
2. 2.5Y5/4 黄褐色土　締まり小、粘性中。1 より YLU ブロックの混入量が多く締まりが強い。



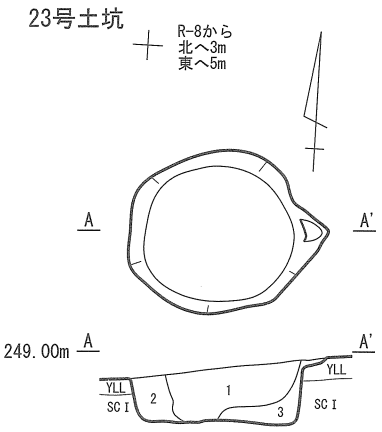
20号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。3～5cmの YLU ブロック、径 0.2～0.4cmの橙色スコリアを含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性あり。径 0.1～0.3cmの暗灰色スコリア、径 0.1～0.2cmの橙色スコリアを含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性あり。YLM のブロックを少量含む。
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性なし。YLU ブロック、YLM ブロックが混じる。

0　(1:40)　1m

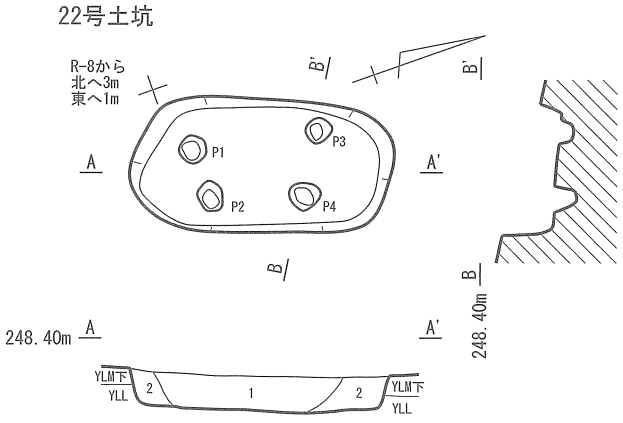
第 16 図　縄文時代 土坑実測図（４）



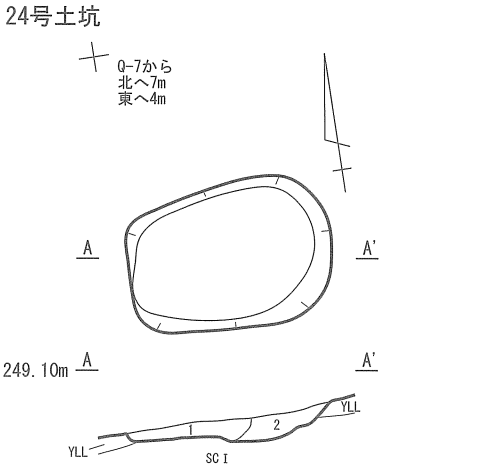
21 号土坑
1. 2.5Y5/4 黄褐色土　締まり中、粘性小。AN ～ ZN の小ブロックが混じる。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 2 ～ 4 cmの YLU ブロック、径 0.1 ～ 0.4 cmの橙色スコリアを含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。YLM のブロックが少量混じる。径 0.2 cmの橙色スコリアが混じる。
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM ブロック、橙色スコリア、暗灰色スコリアを多く含む。
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM ブロック、橙色スコリア、暗灰色スコリアを多量に含む。



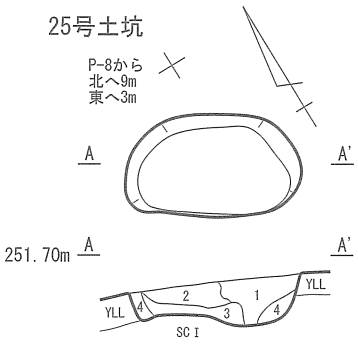
23 号土坑
1. 7.5YR5/4 褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを多量に含む。
2. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.5 cmの炭化物、径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリアを含む。
3. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。YLL の小ブロックを含む。



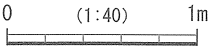
22 号土坑
1. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性あり。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、暗灰色スコリアを含む。
2. 10YR4/4 褐色土　1 よりやや暗い色調である。締まり中、粘性小。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを含む。



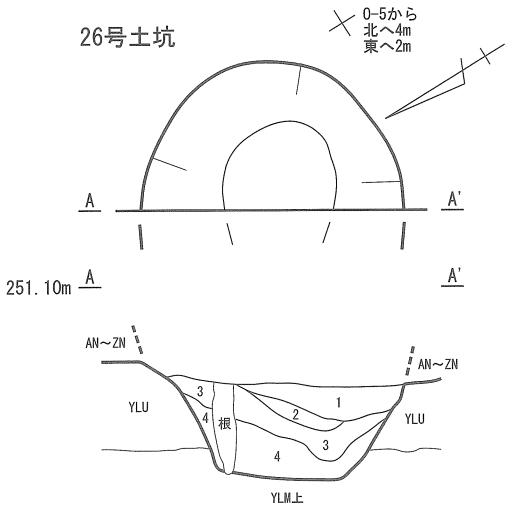
24 号土坑
1. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土　締まり中、粘性小。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを含む。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性あり。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 cmの暗灰色スコリアを含む。



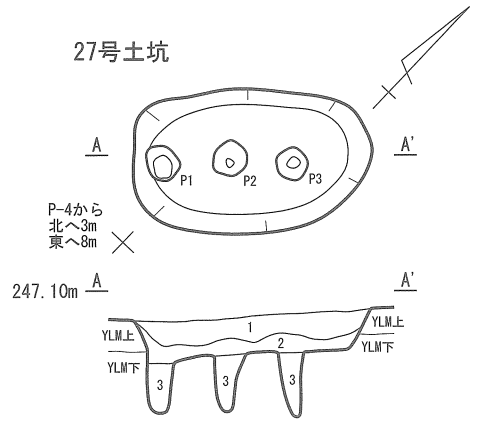
25 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、径 0.1 cmの橙色スコリアを少量含む。
3. 7.5YR4/3 褐色土　締まりなし。粘性なし。YLL のブロックを含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、径 0.1 cmの橙色スコリアを少量含む。



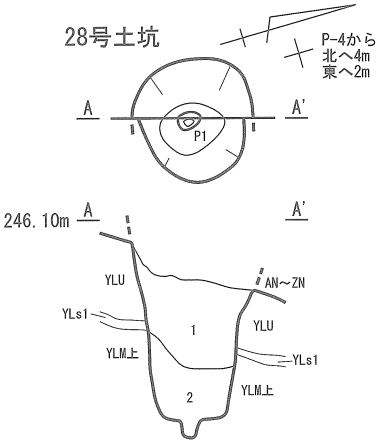
第 17 図　縄文時代 土坑実測図（５）



26 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。4 ～ 5 cmの YLU ブロック、径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



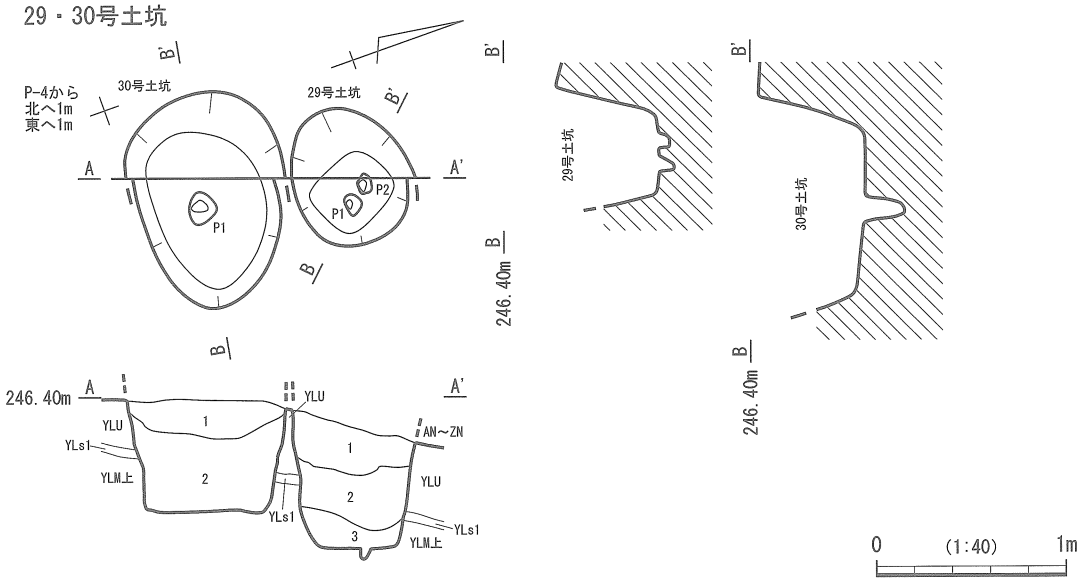
27 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリアを少量含む。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。微細な橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



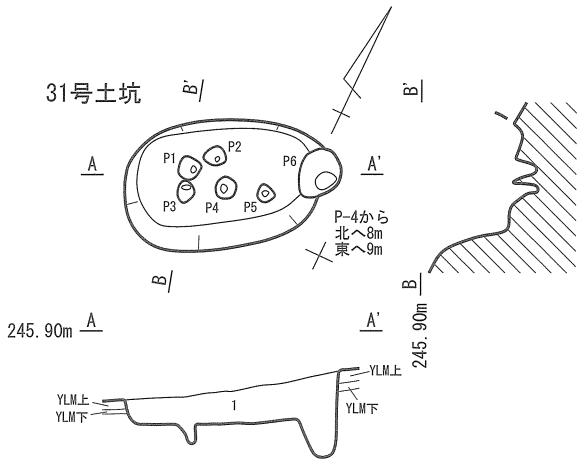
28 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLL のブロックを少量含む。

29 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

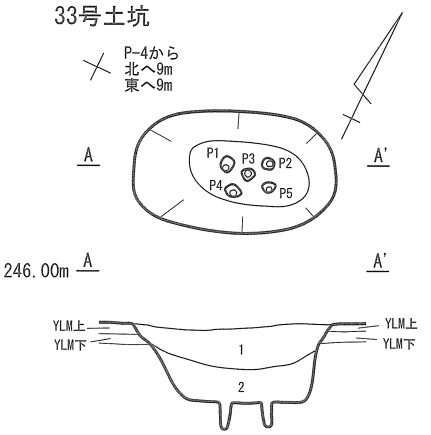
30 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



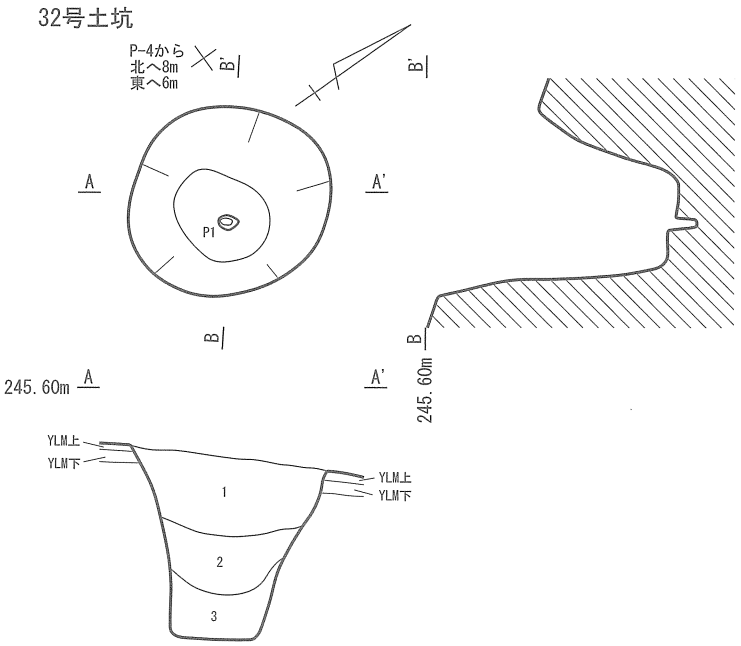
第 18 図　縄文時代 土坑実測図（６）



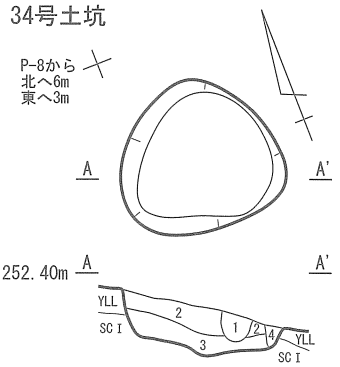
31 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 cmの橙色スコリア、
径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



33 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



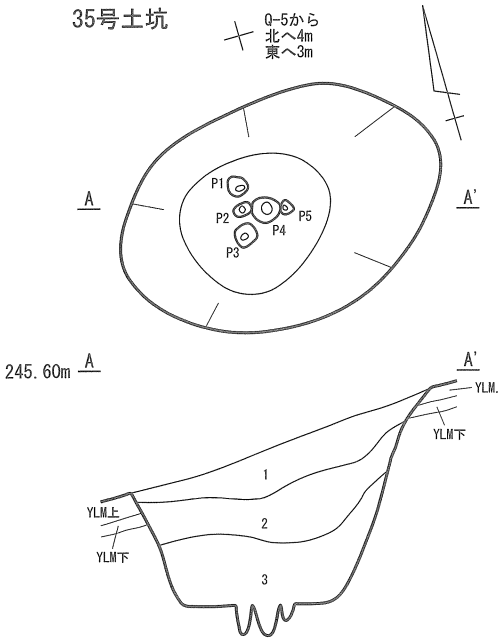
32 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、
径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、
径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを 2 より多く含む。



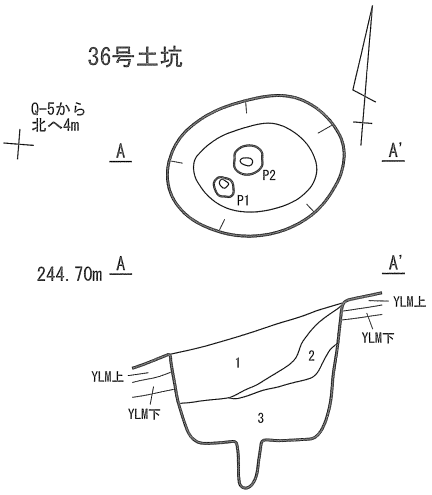
34 号土坑
1. YLM のブロック。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性小。径 2 ～ 3 cmの
YLM ブロックを多く含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.3 cmの
橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性小。径 2 ～ 3 cmの
YLM ブロックを多く含む。

0　(1:40)　1m

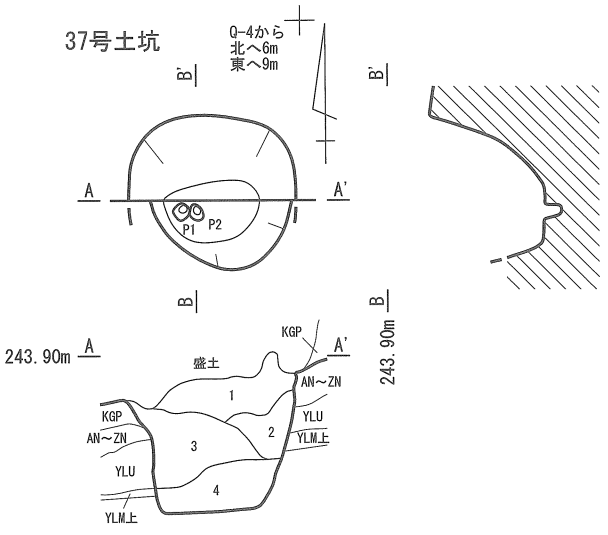
第 19 図　縄文時代 土坑実測図（7）



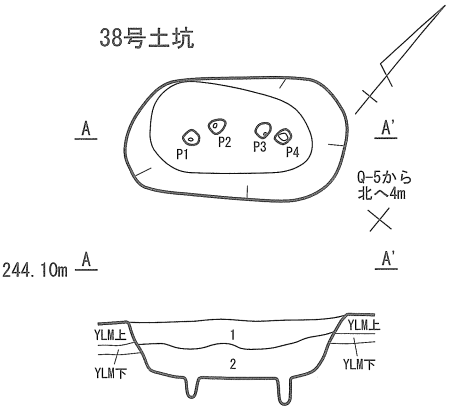
35 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLL の小ブロックを少量含む。



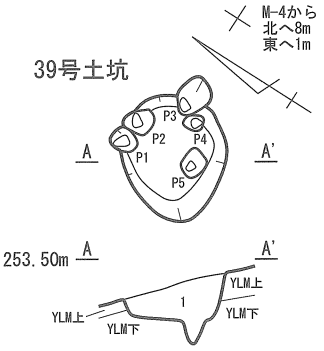
36 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.4 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLL ブロックを少量含む。



37 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.4 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリア、YLU の 5 cm大のブロック、AN ～ ZN の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.4 cmの暗灰色スコリア、YLU の 5 cm大のブロックを少量含む。
4. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM のブロックを少量含む。



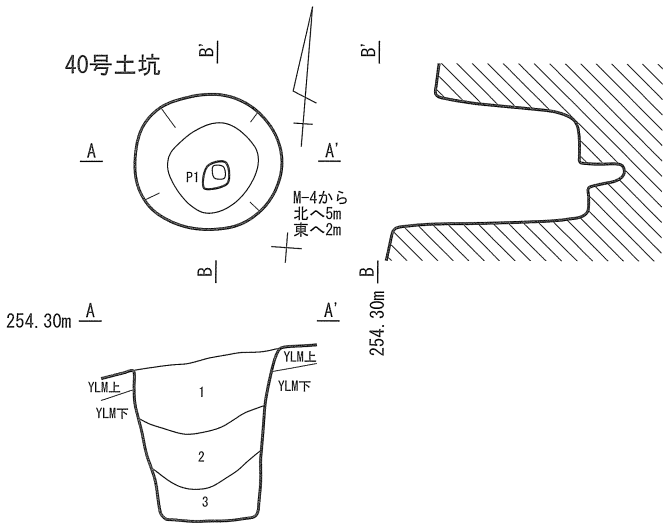
38 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.4 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



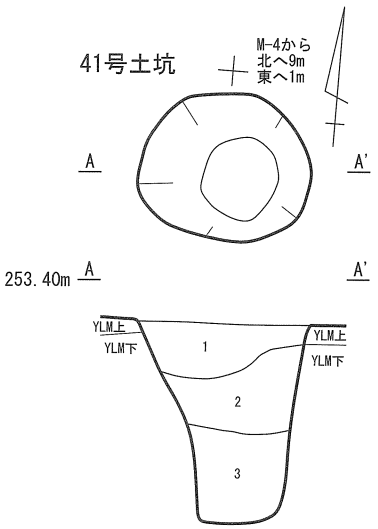
39 号土坑
1. 7.5YR4/4 褐色土　締まり中、粘性小。YLM の小ブロックを少量含む。

0　(1:40)　1m

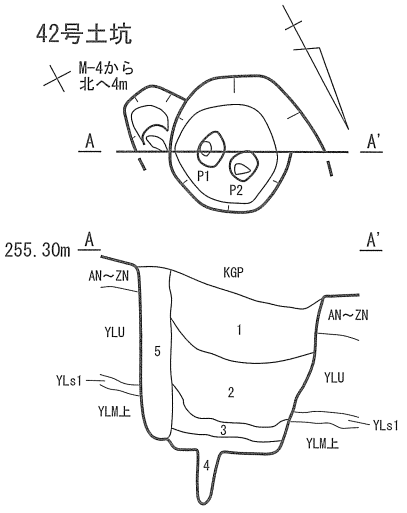
第 20 図　縄文時代 土坑実測図（８）



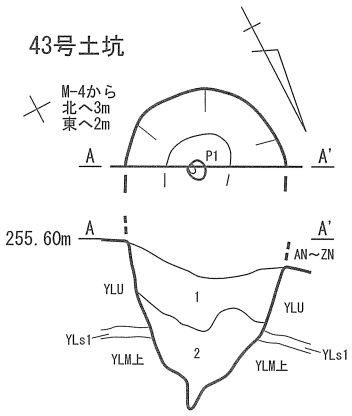
40 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア YLM の小ブロックを少量含む。



41 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア YLM の小ブロックを少量含む。



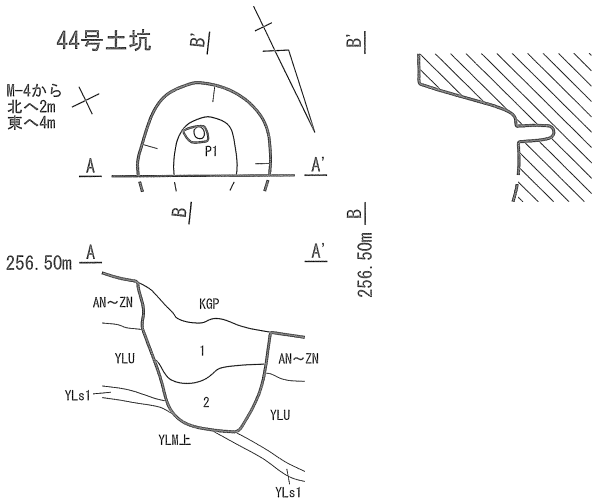
42 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM のブロックを少量含む。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



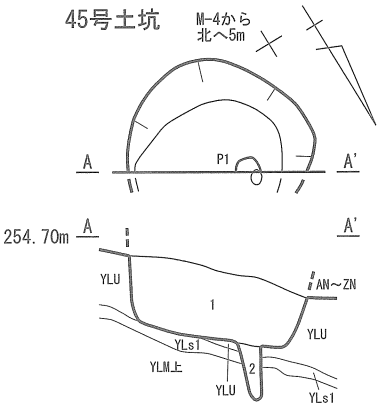
43 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の 2 ～ 3 cmのブロックを少量含む。

0　(1:40)　1m

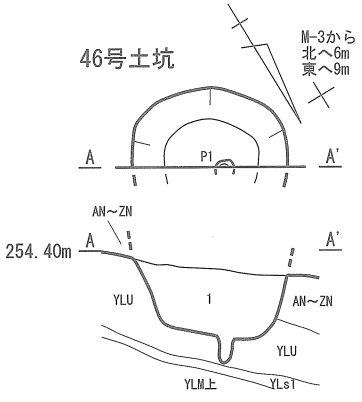
第 21 図　縄文時代 土坑実測図（９）



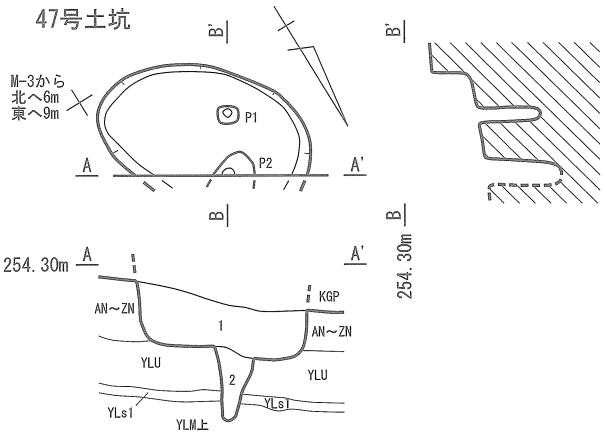
44 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



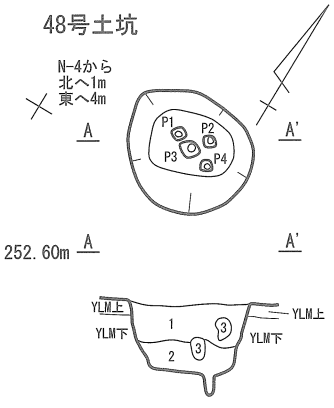
45 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM の小ブロックを多く含む。



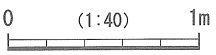
46 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



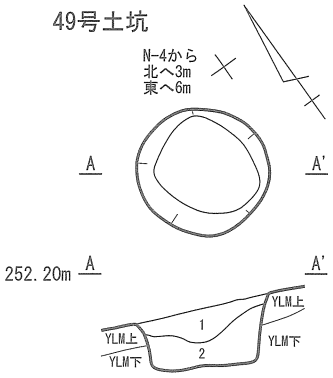
47 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



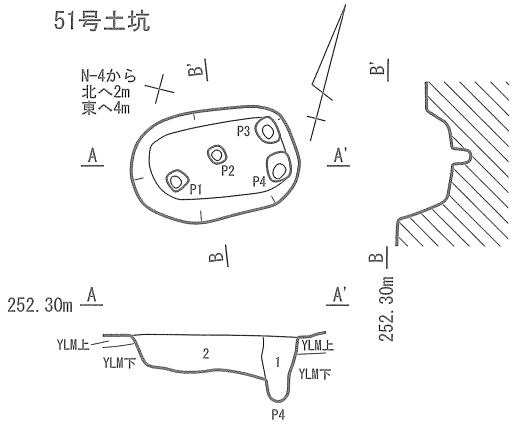
48 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の 3 ～ 4 cmほどの小ブロックを少量含む。
2. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。YLM の小ブロックを多く含む。
3. YLL のブロック。



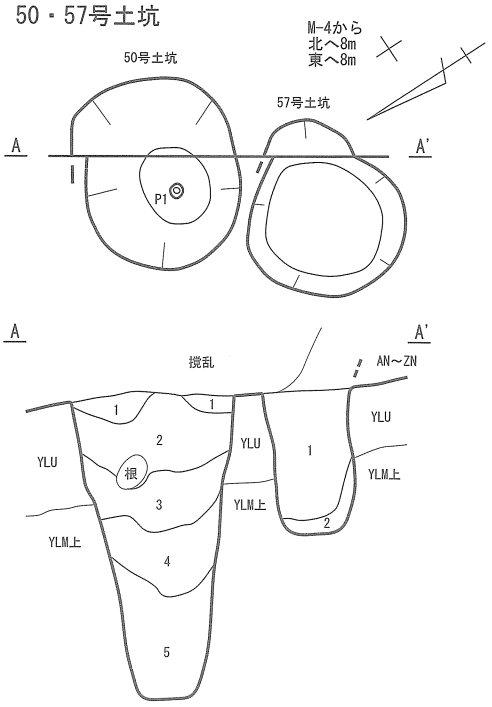
第 22 図　縄文時代 土坑実測図（10）



49 号土坑
1. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の 3 ～ 4 cmほどの小ブロックを多量に含む。

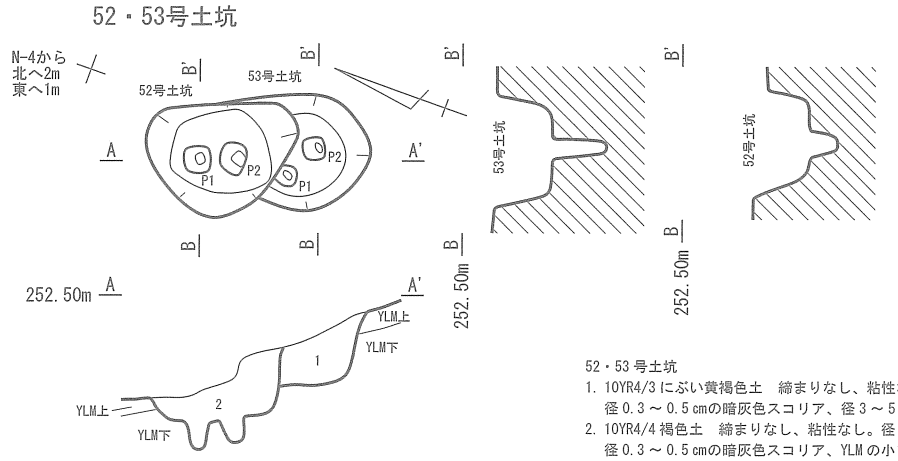


51 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まりなし、粘性なし。径 3 ～ 5 cmほどの SC Ⅰの ブロックを多量に含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の 3 ～ 4 cmほどの小ブロックを少量含む。



50 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　2 よりやや暗い色調。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア 4 ～ 5 cmの YLU ブロックを少量含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを YLL の小ブロックを少量含む。

57 号土坑
1. 10YR4/1 褐色土　締まりなし、粘性なし。KGP を多量に含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まりなし、粘性なし。YLL の小ブロックを多量に含む。

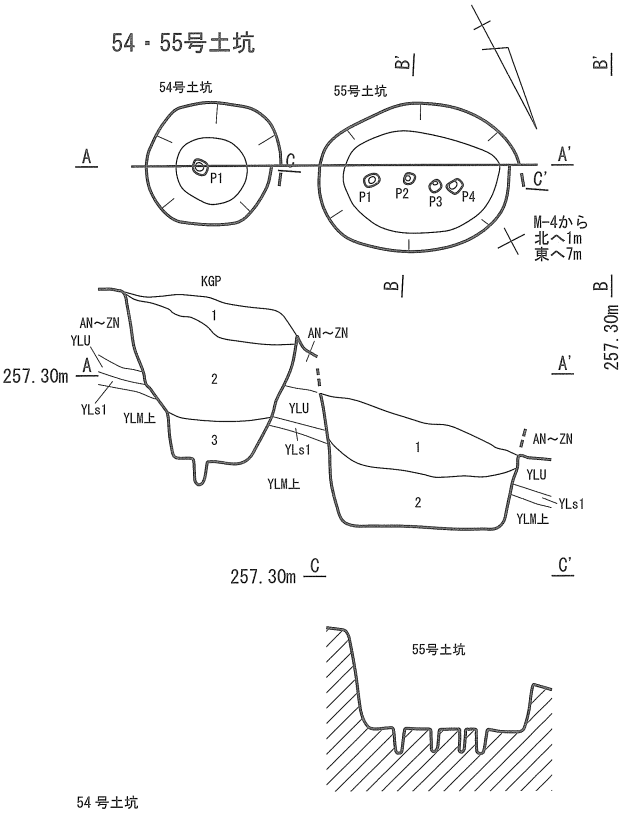


52・53 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まりなし、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、径 3 ～ 5 cmほどの YLU のブロックを多量に含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まりなし、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを含む。

0　(1:40)　1m

第 23 図　縄文時代 土坑実測図（11）

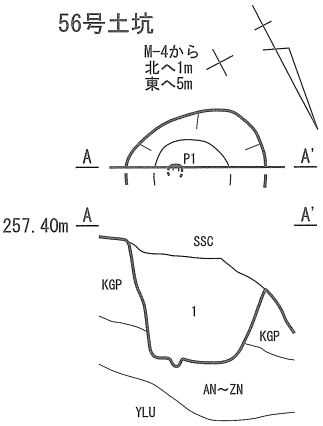
54・55号土坑



54 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。焼土・KGP を少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性小。AN ～ ZN の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを含む。

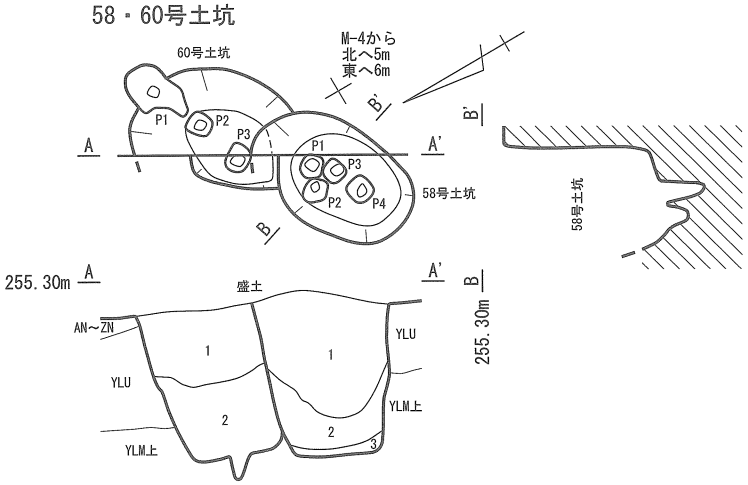
55 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.7 cmの暗灰色スコリアを多量に含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、径 2 ～ 10 cmの YLM 小ブロックを少量含む。

56号土坑



56 号土坑
1. 10YR4/1 褐灰色土　締まり中、粘性小。KGP、径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの黒色粒、炭化物を少量含む。

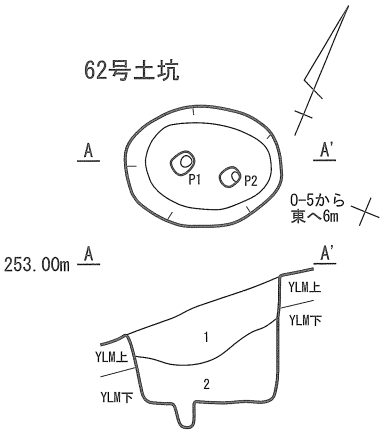
58・60号土坑



58 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中 1 よりさらに粘性が強い。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性小。YLM の小ブロックを少量含む。

60 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　1 よりやや暗い。締まり小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

62号土坑

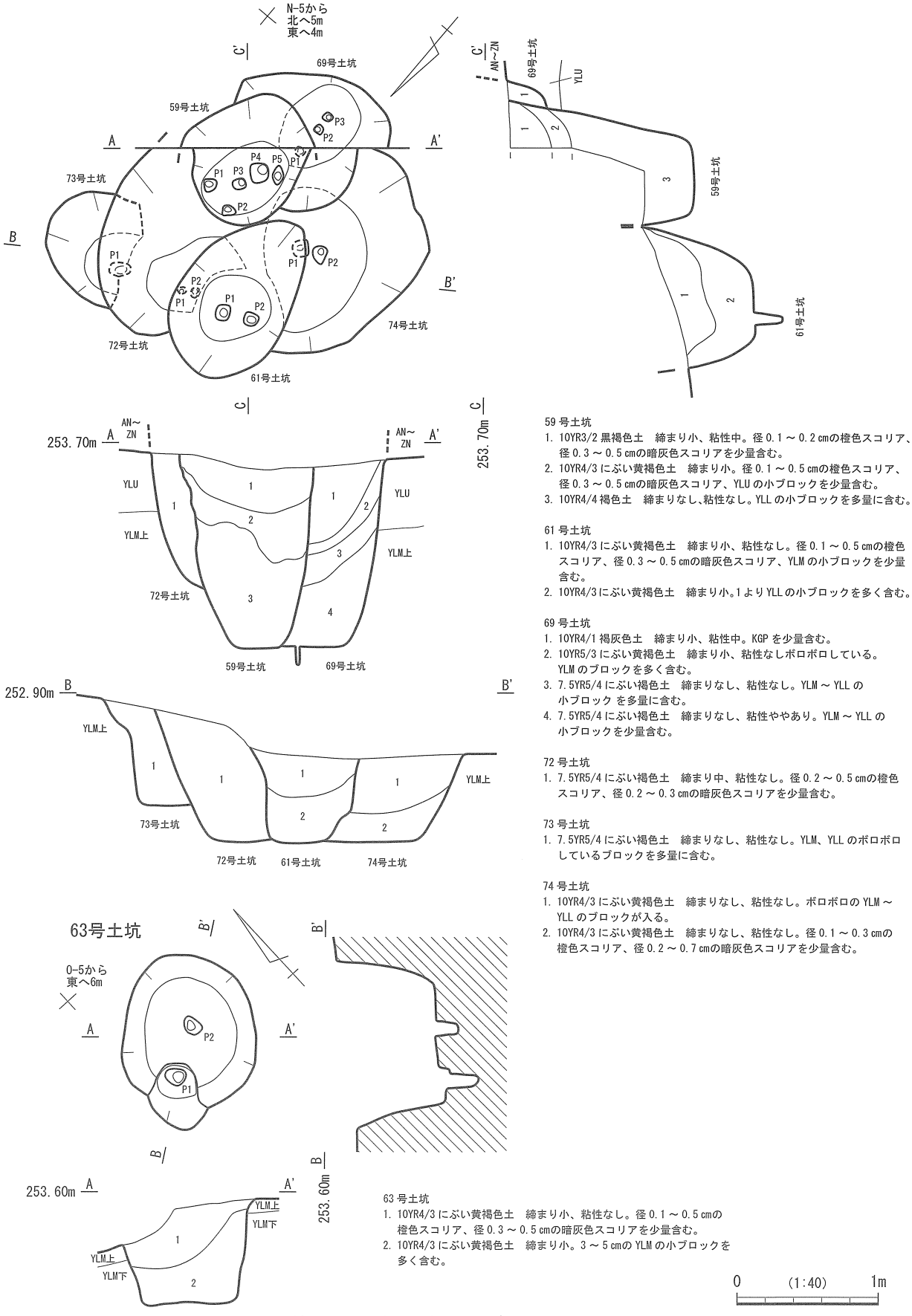


62 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小。1 より YLM の 5 cmほどのブロックを多く含む。

0　(1:40)　1m

第 24 図　縄文時代 土坑実測図（12）

59・61・69・72・73・74号土坑



59 号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土　締まりなし、粘性なし。YLL の小ブロックを多量に含む。

61 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小。1 より YLL の小ブロックを多く含む。

69 号土坑
1. 10YR4/1 褐灰色土　締まり小、粘性中。KGP を少量含む。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なしボロボロしている。YLM のブロックを多く含む。
3. 7.5YR5/4 にぶい褐色土　締まりなし、粘性なし。YLM ～ YLL の小ブロック を多量に含む。
4. 7.5YR5/4 にぶい褐色土　締まりなし、粘性ややあり。YLM ～ YLL の小ブロックを少量含む。

72 号土坑
1. 7.5YR5/4 にぶい褐色土　締まり中、粘性なし。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

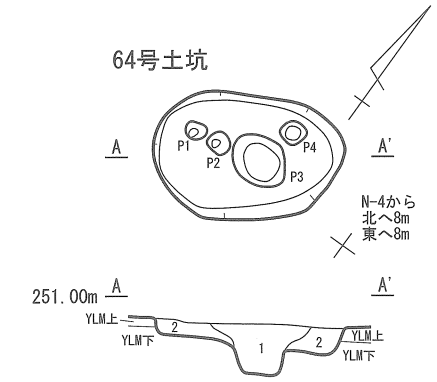
73 号土坑
1. 7.5YR5/4 にぶい褐色土　締まりなし、粘性なし。YLM、YLL のボロボロしているブロックを多量に含む。

74 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボロボロの YLM ～ YLL のブロックが入る。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まりなし、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.7 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

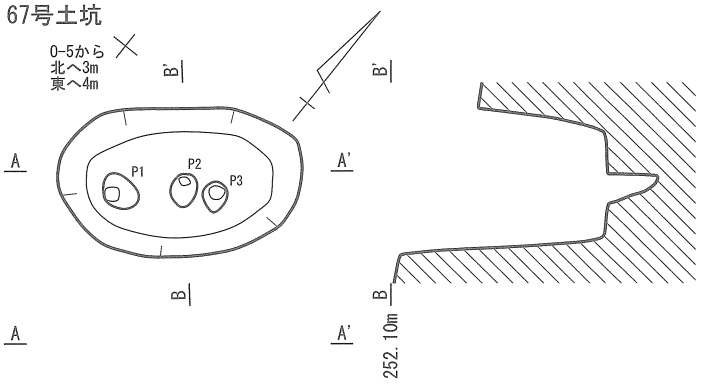
63 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小。3 ～ 5 cmの YLM の小ブロックを多く含む。

0　(1:40)　1m

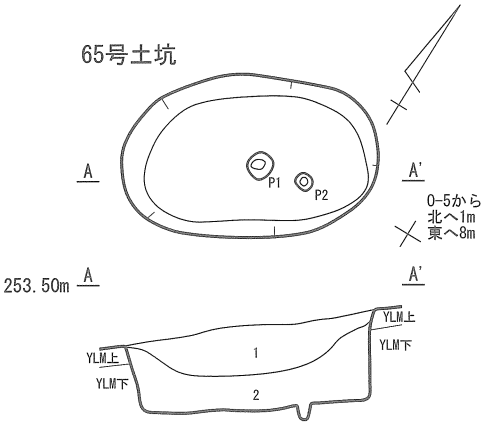
第 25 図　縄文時代 土坑実測図（13）



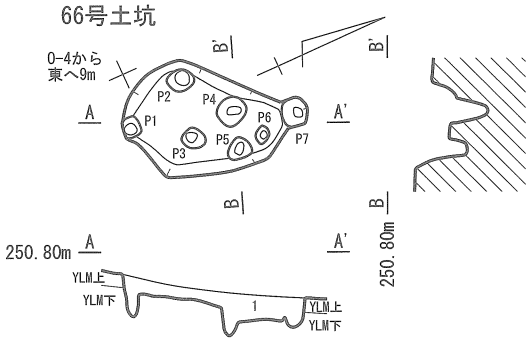
64 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小。YLM の小ブロックを少量含む。



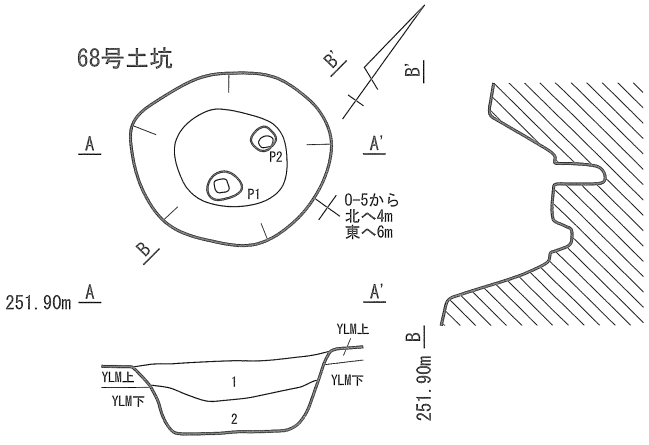
67 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.2 ～ 0.4 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM、YLL の小ブロックを少量含む。



65 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.2 ～ 0.4 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、3 ～ 5 cmの YLM の小ブロックを多く含む。



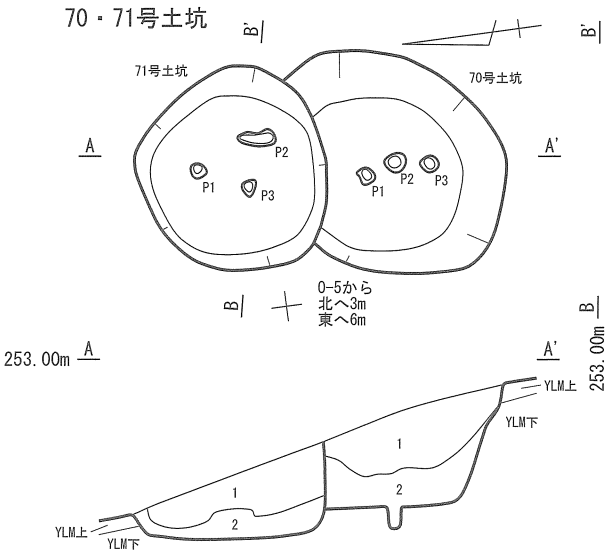
66 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

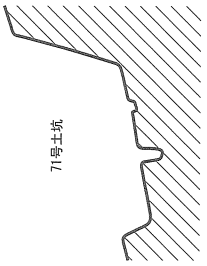


68 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.4 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

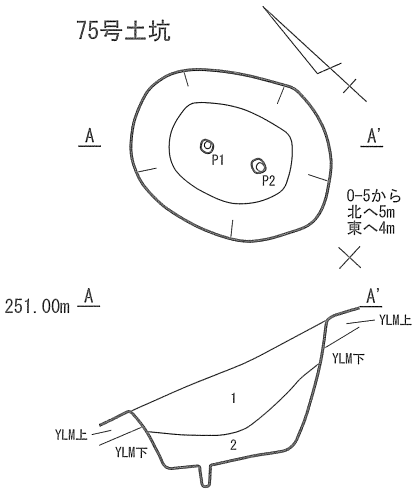
第 26 図　縄文時代 土坑実測図（14）

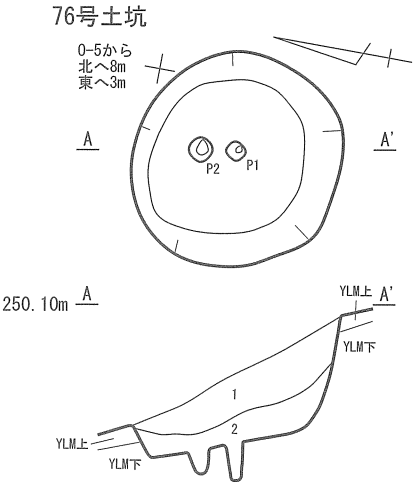




70 号土坑
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

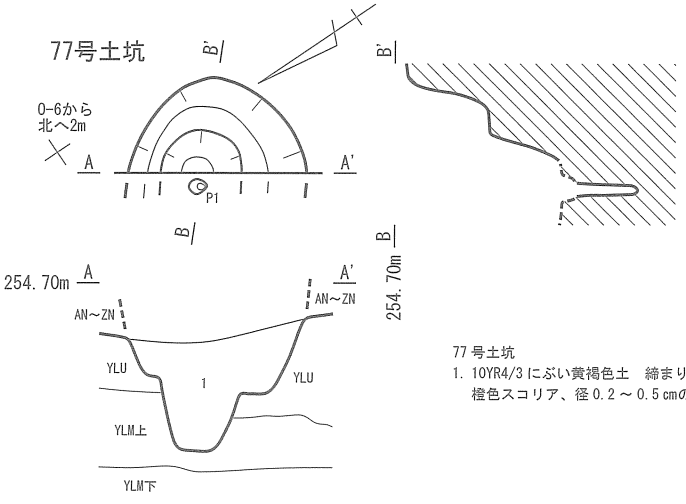
71 号土坑
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　SF70-1 よりやや暗い色調。締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。





75 号土坑
1. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.6 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

76 号土坑
1. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.6 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

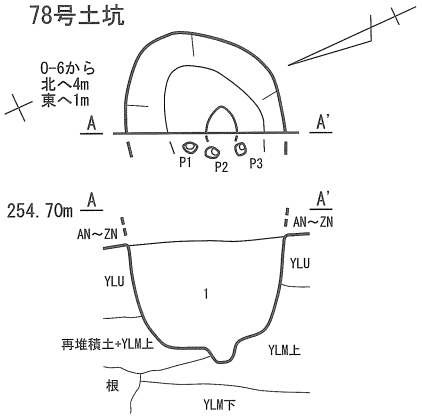


77 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

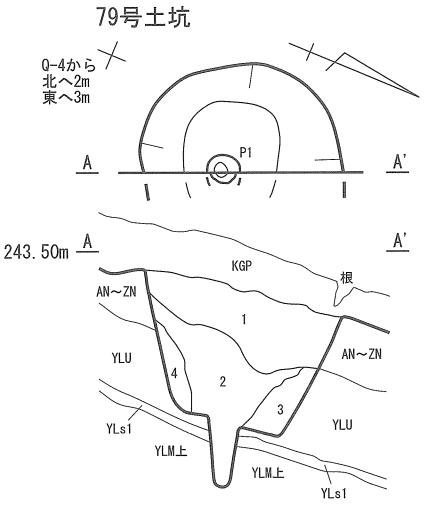
第 27 図　縄文時代 土坑実測図（15）

78号土坑



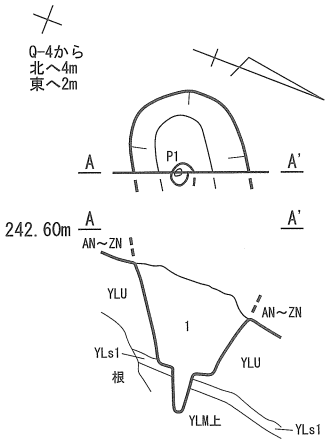
78 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

79号土坑



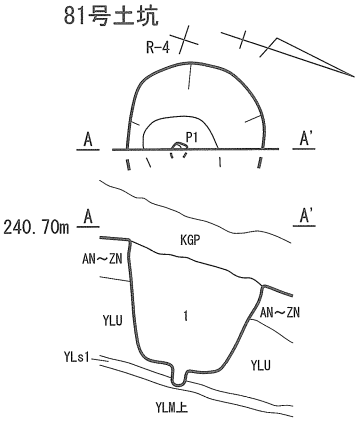
79 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。わずかに KGP を含む。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLU ブロックを少量含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLU ブロックを少量含む。

80号土坑



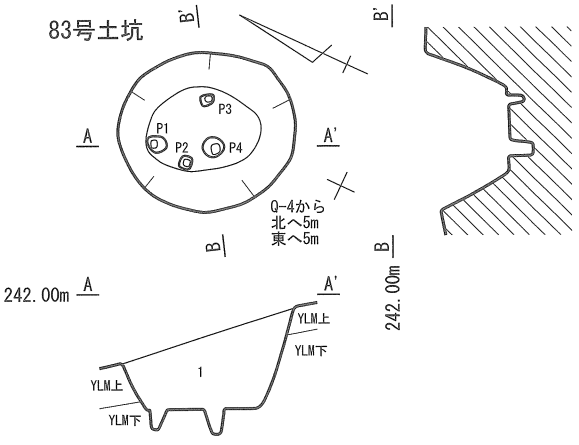
80 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLU ブロック、AN ～ ZN の径 3 ～ 5 cmのブロックを少量含む。

81号土坑



81 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLU ブロック、AN ～ ZN の径 3 ～ 5 cmのブロックを少量含む。

83号土坑

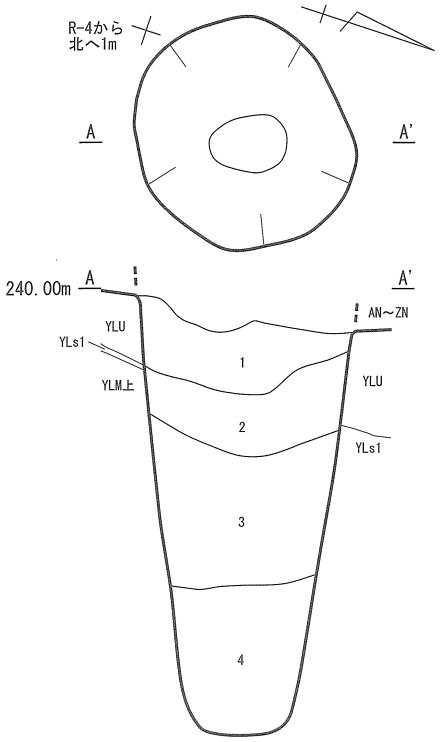


83 号土坑
1. 7.5YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

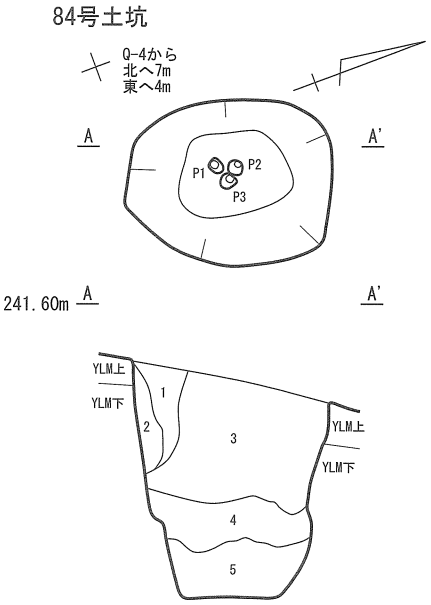
第 28 図　縄文時代 土坑実測図（16）

82号土坑



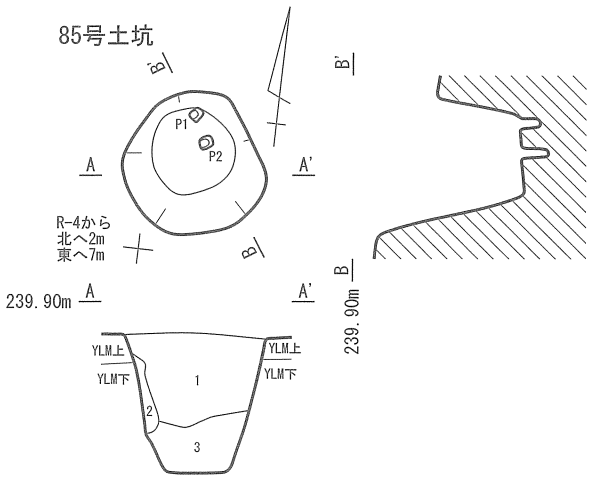
82 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。KGP パミス、径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLU ブロックを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。ボサボサしている。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

84号土坑



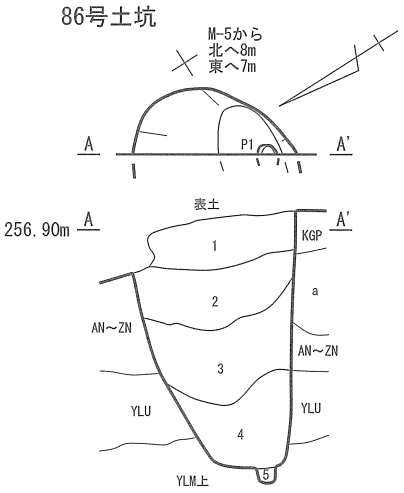
84 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土　3 よりやや暗い色調。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM ～ YLL の崩落土を少量含む。

85号土坑

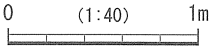


85 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLL の小ブロックを少量含む。

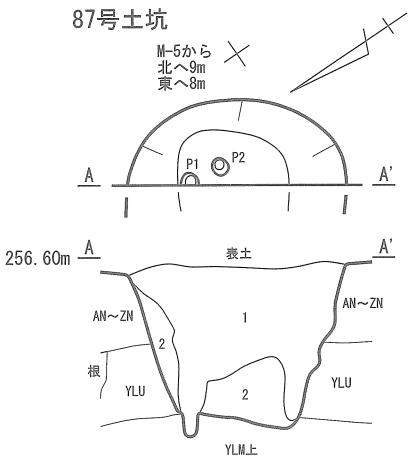
86号土坑



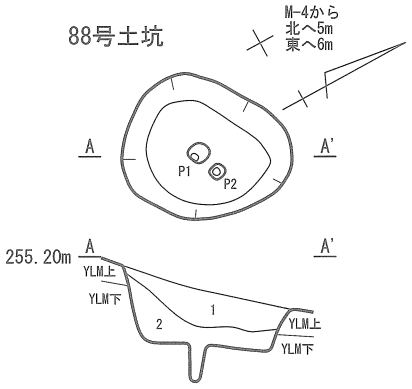
86 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　2 よりやや暗い色調。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。砂質がやや強い。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
5. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。



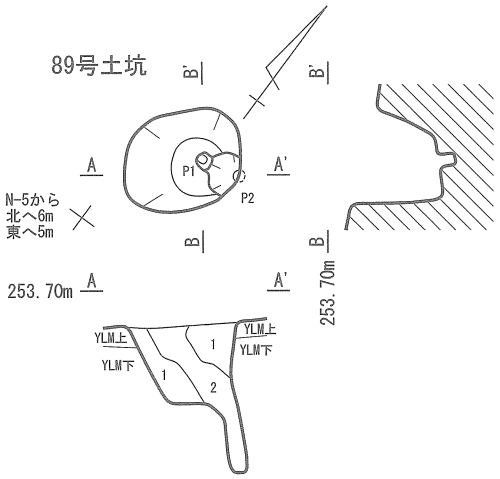
第 29 図　縄文時代 土坑実測図（17）



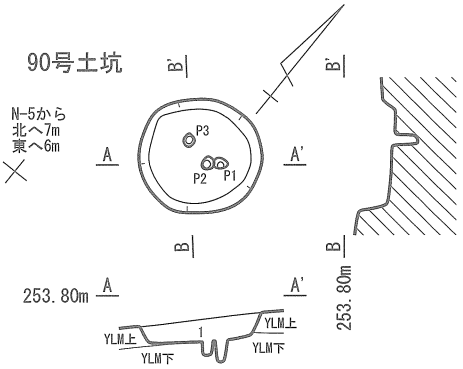
87 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。1 よりやや暗い色調。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



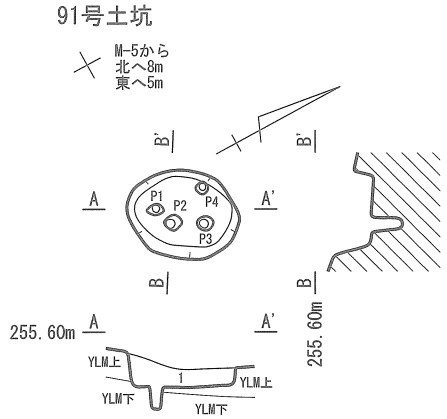
88 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/3 褐色土径　締まり小、粘性中。0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。



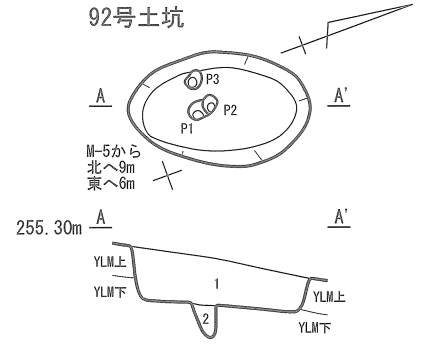
89 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/1 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



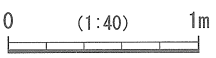
90 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



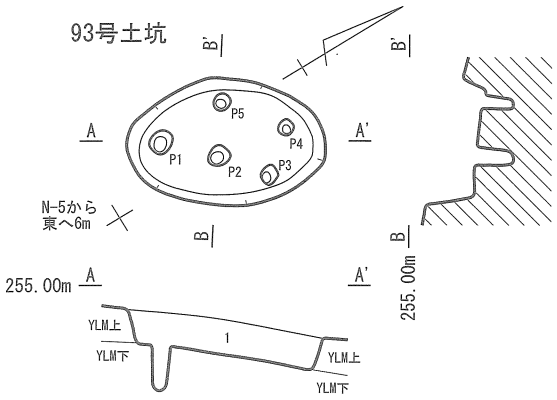
91 号土坑
1. 7.5YR4/4 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。



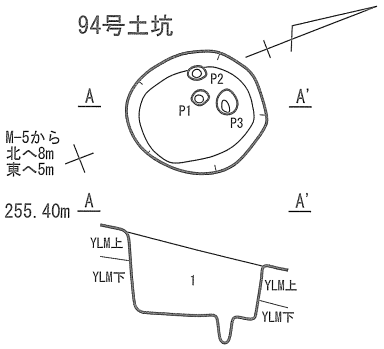
92 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 1 よりやや暗い色調、締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmを少量含む。



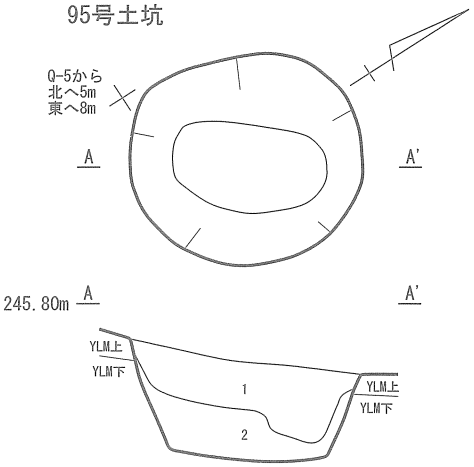
第 30 図　縄文時代 土坑実測図（18）



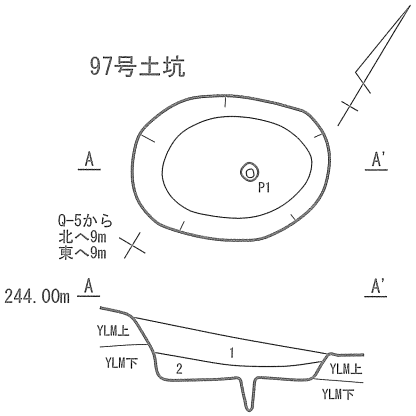
93 号土坑
1. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



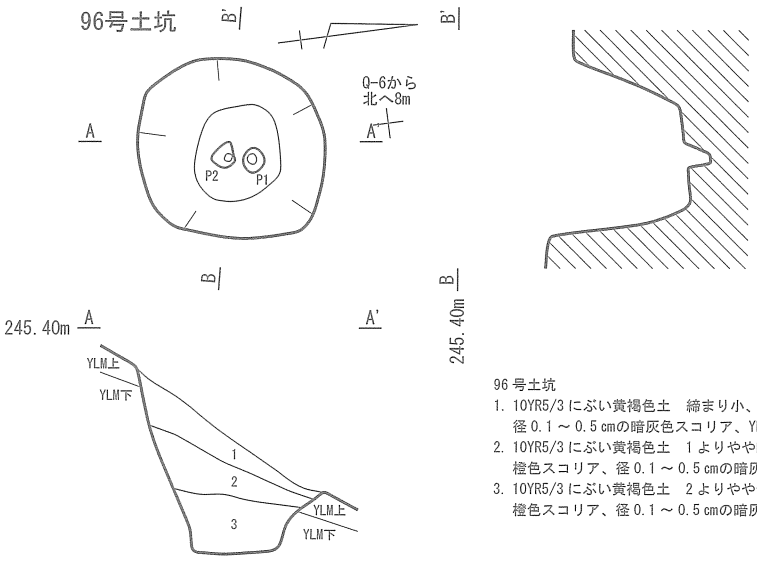
94 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



95 号土坑
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。



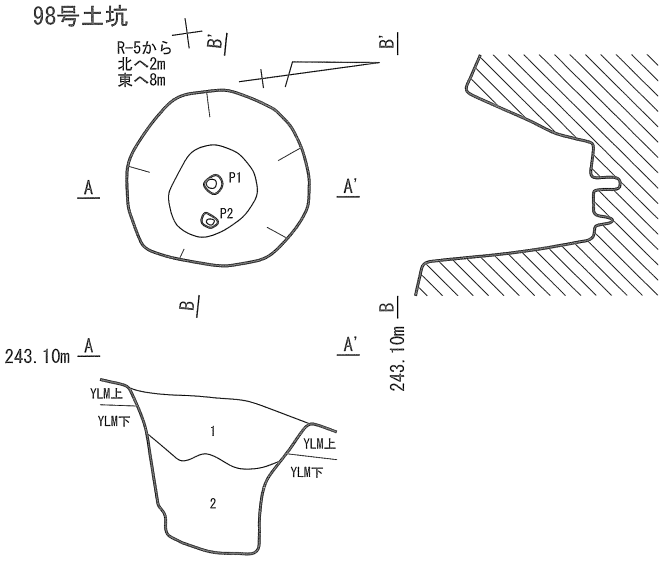
97 号土坑
1. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土　1 よりやや暗い色調。締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



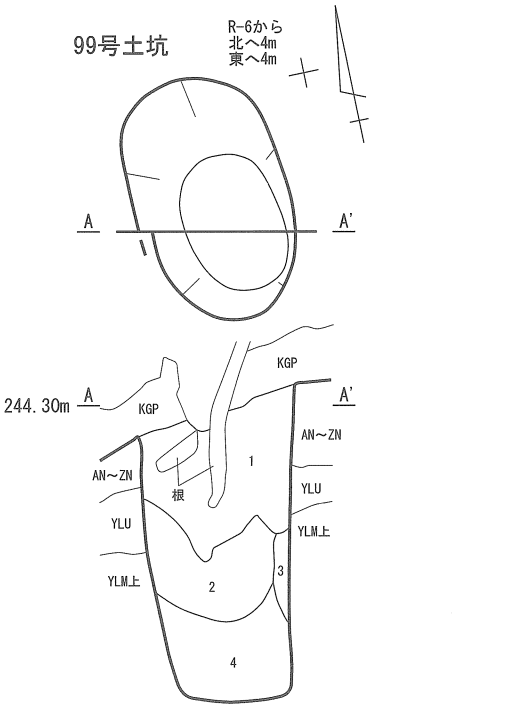
96 号土坑
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　1 よりやや暗い色調。締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　2 よりやや赤みのある色調。締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

0　(1:40)　1m

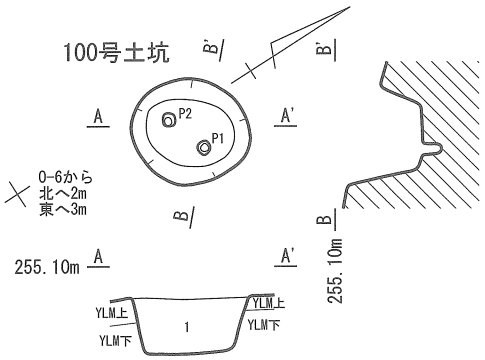
第 31 図　縄文時代 土坑実測図（19）



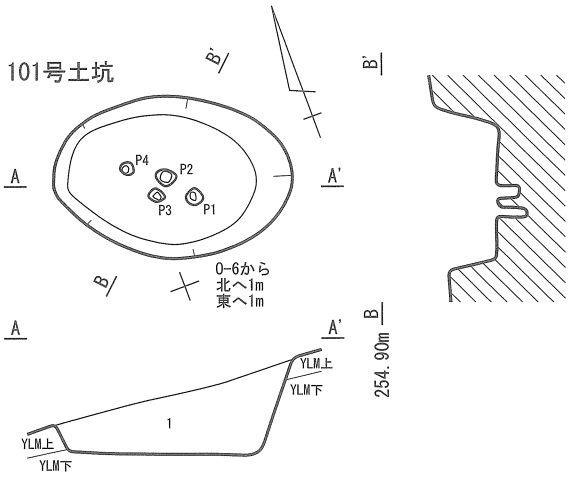
98 号土坑
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。



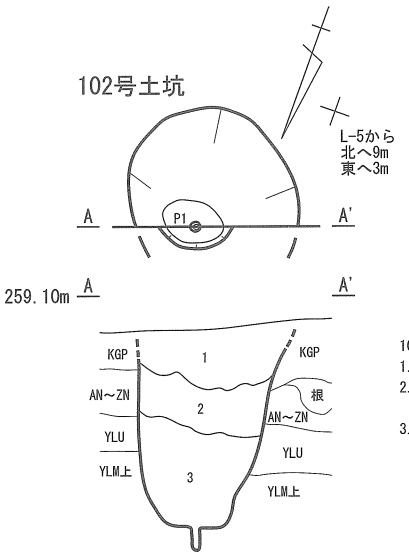
99 号土坑
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　2 よりやや赤みのある色調。締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、KGP のパミスを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM ブロック、YLL ブロックを少量含む。



100 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。



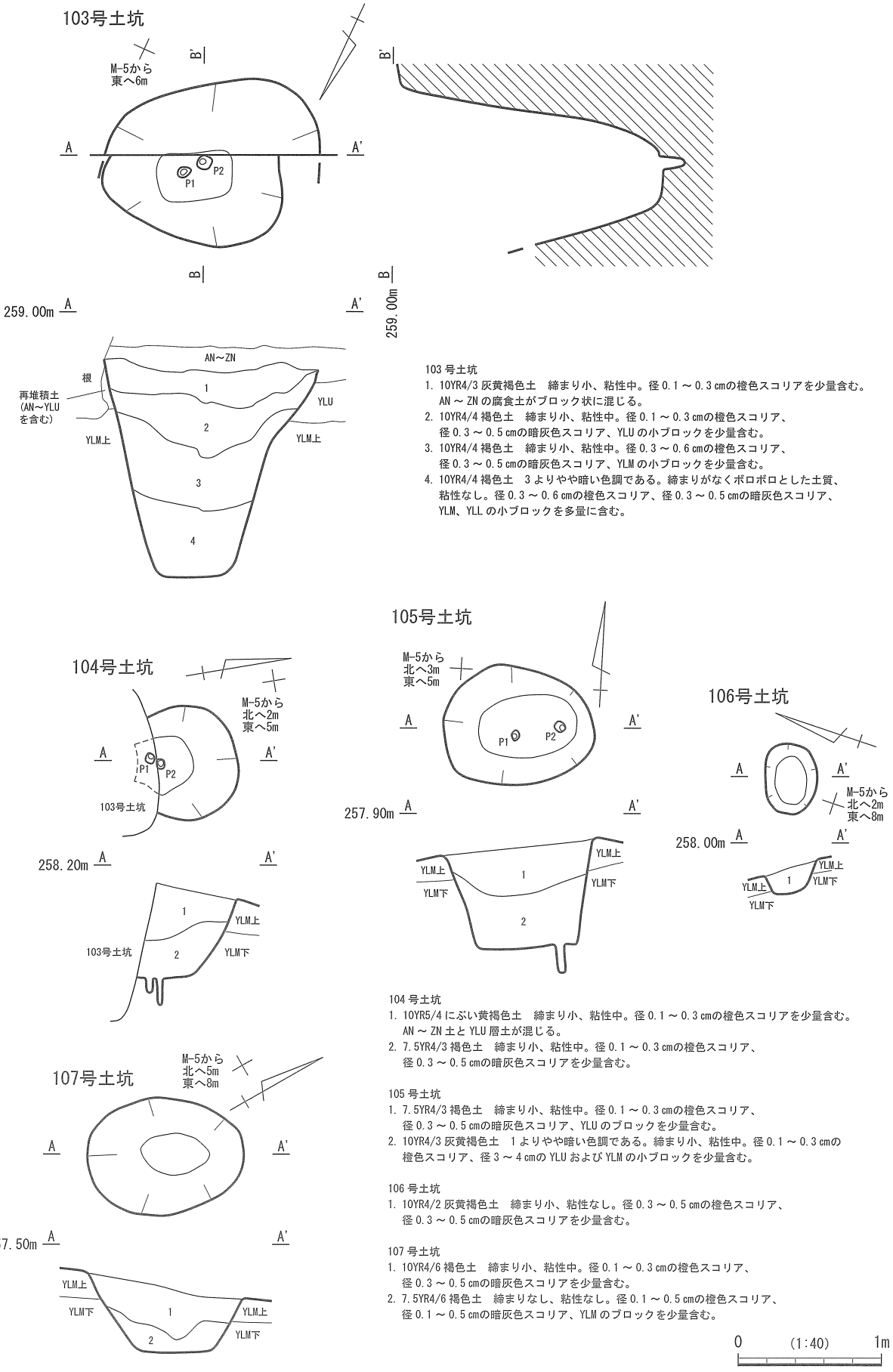
101 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロック、YLM の小ブロックを少量含む。



102 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。KGP のパミス、径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリアを少量含む。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLU ブロックを少量含む。
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLM ブロックを少量含む。

0　(1:40)　1m

第 32 図　縄文時代 土坑実測図（20）



103 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリアを少量含む。
   AN ～ ZN の腐食土がブロック状に混じる。
2. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
   径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.3 ～ 0.6 cmの橙色スコリア、
   径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。
4. 10YR4/4 褐色土　3 よりやや暗い色調である。締まりがなくボロボロとした土質、
   粘性なし。径 0.3 ～ 0.6 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、
   YLM、YLL の小ブロックを多量に含む。

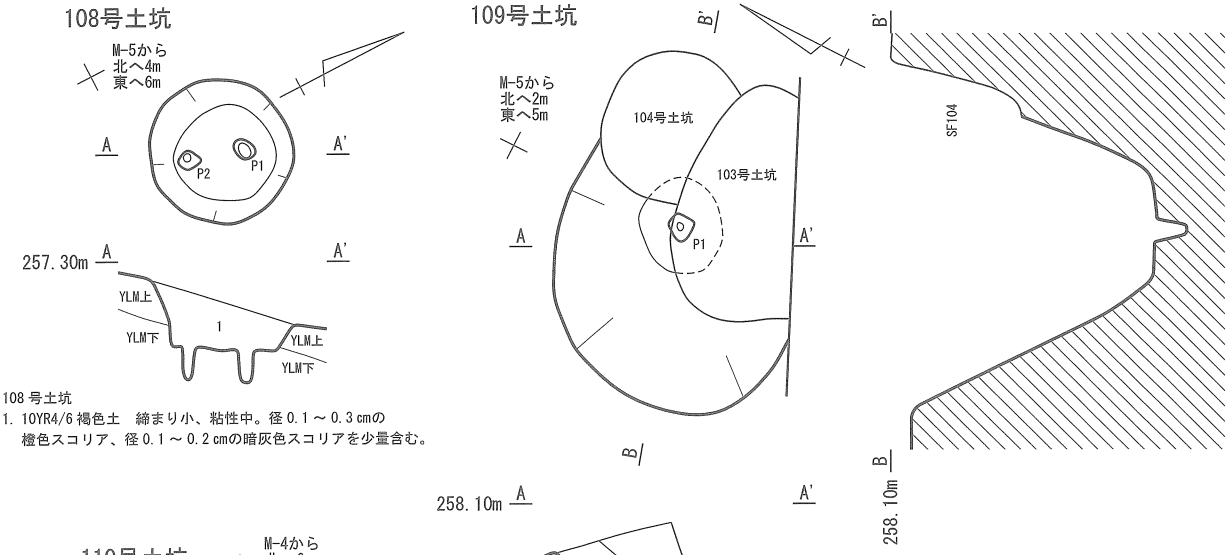
104 号土坑
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリアを少量含む。
   AN ～ ZN 土と YLU 層土が混じる。
2. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
   径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

105 号土坑
1. 7.5YR4/3 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
   径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU のブロックを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　1 よりやや暗い色調である。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの
   橙色スコリア、径 3 ～ 4 cmの YLU および YLM の小ブロックを少量含む。

106 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.3 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、
   径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

107 号土坑
1. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
   径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/6 褐色土　締まりなし、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、
   径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM のブロックを少量含む。

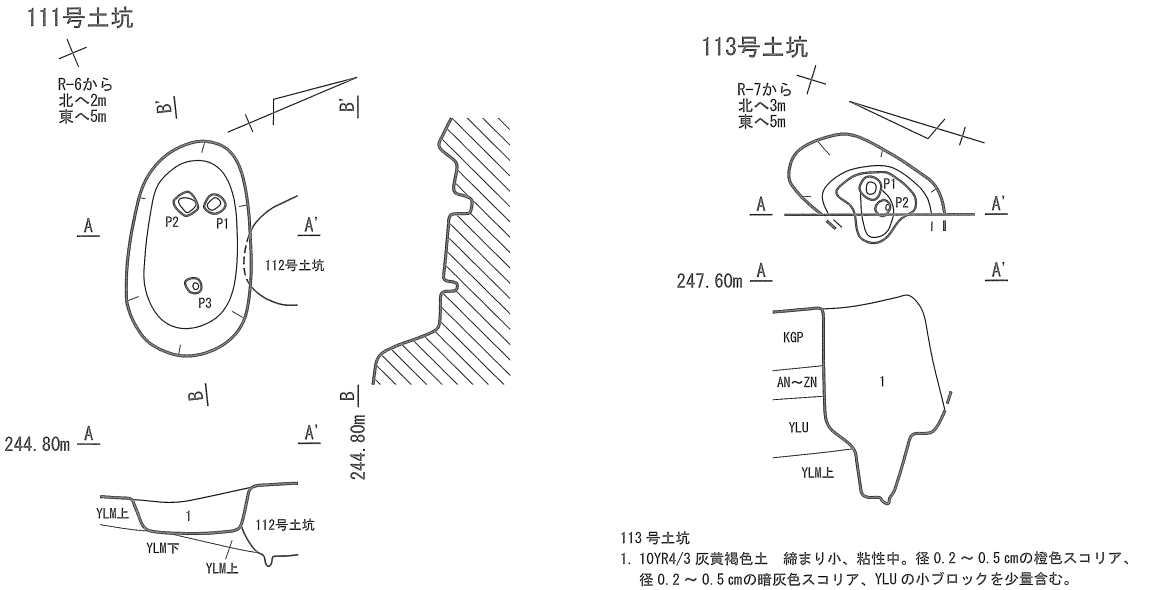
第 33 図　縄文時代 土坑実測図（21）



108 号土坑
1. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの
橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

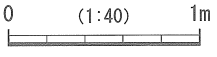
110 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの
橙色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。

109 号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.3 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、
径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　2 よりやや暗い色調をもつ。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの
橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなしボロボロしている、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの
橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM、YLL のブロックを多量に含む。



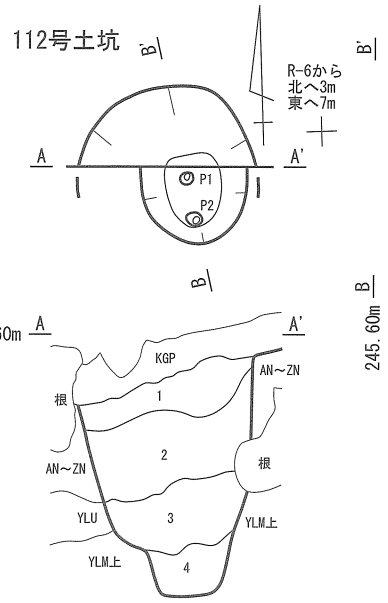
111 号土坑
1. 7.5YR4/2 灰褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、
径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM のブロックを多量に含む。

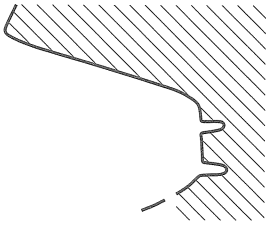
113 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、
径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。



第 34 図　縄文時代 土坑実測図（22）

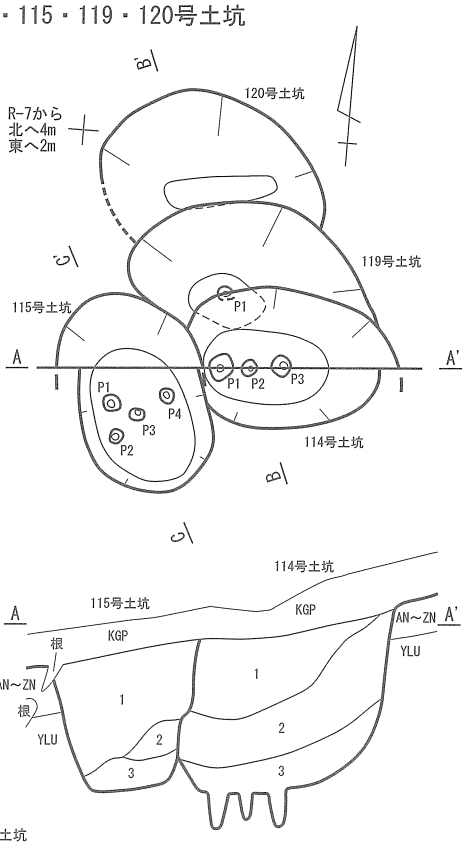
112号土坑

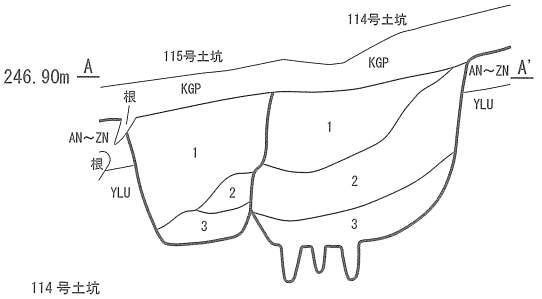


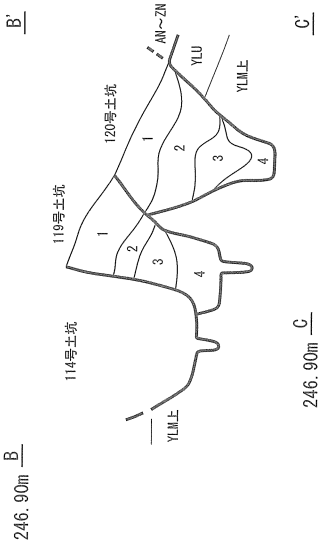


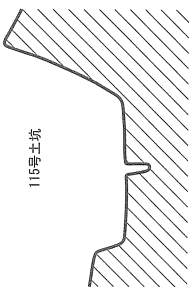
112 号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 cmの黒色粒を多量に含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土　締まり中、粘性。小径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 cmの黒色粒を多量に含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
4. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

114・115・119・120号土坑









114 号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色土　締まり中、粘性。小径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 cmの黒色粒を多量に含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

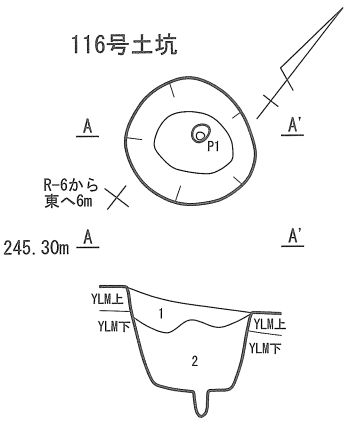
115 号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色土　締まり中、粘性。小径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.2 cmの黒色粒、YLU の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
1 より YL の量が多い。
3. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.2 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

119 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの黒色粒、KGP パミスを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色　締まり中、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの黒色粒、炭化物を少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cm暗灰色スコリアを少量含む。
4. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cm暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

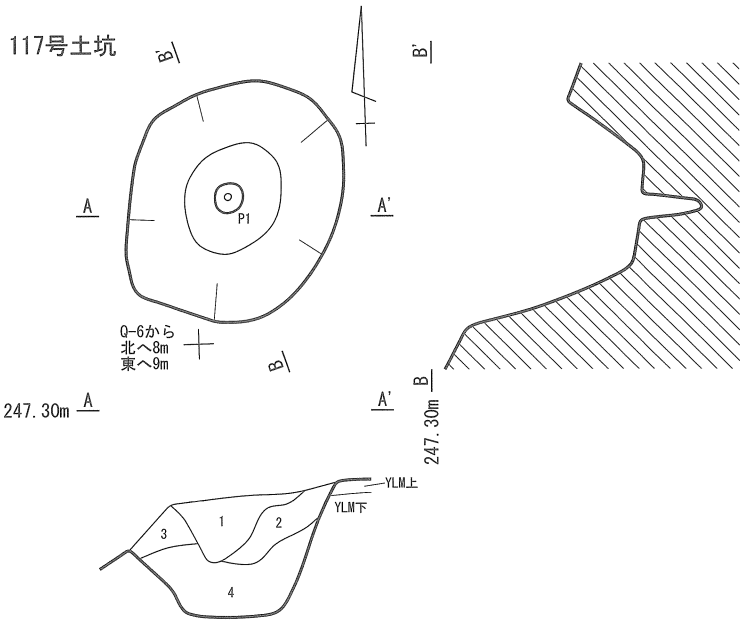
120 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色　締まり中、粘性小。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの黒色粒、YLU のブロックを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm黒色粒、YLU の小ブロックを少量含む。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm黒色粒、 YLM.、YLL の小ブロックを多量に含む。
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM、YLL の小ブロックを多量に含む。

0　(1:40)　1m

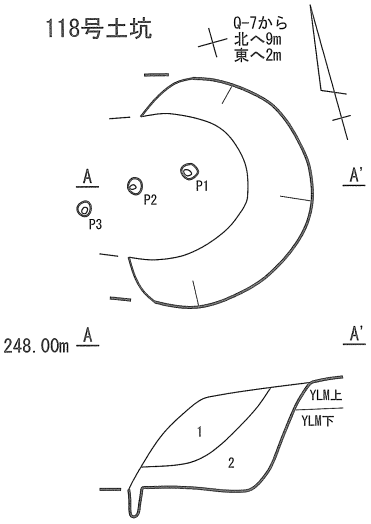
第 35 図　縄文時代 土坑実測図（23）



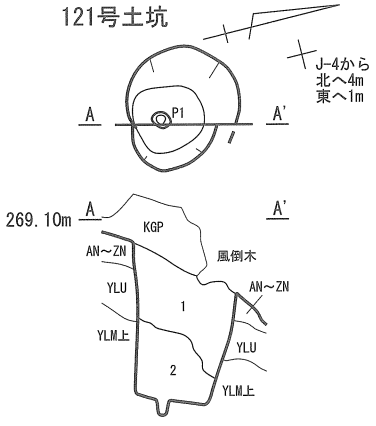
116 号土坑
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 の橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の 5 cm大のブロックを少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM の小ブロックを少量含む。



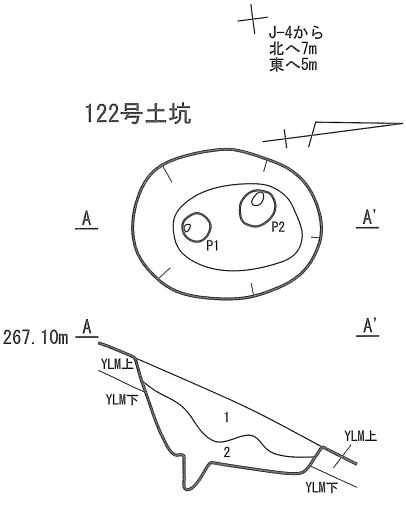
117 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　1 よりやや明るい色調。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリア、YLU ブロックを少量含む。
3. 2 と同じ。
4. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。



118 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。



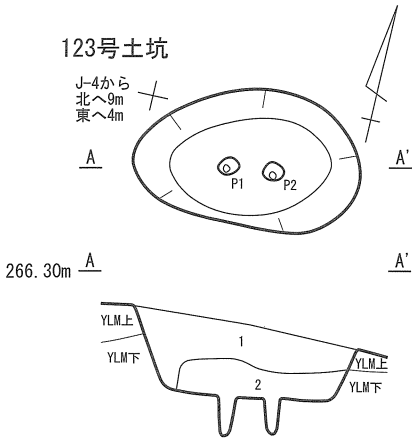
121 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり中、粘性小。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの黒色粒、YLM のブロックを少量含む。
2. 10YR4/6 褐色土　締まりなし、粘性なし。YLM、YLL の小ブロックを多量に含む。



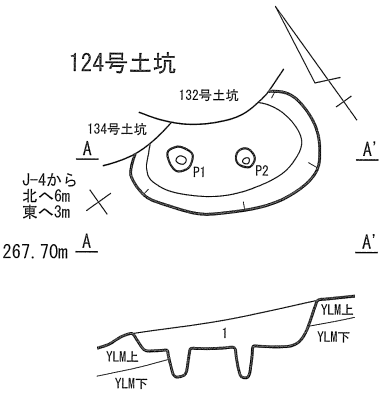
122 号土坑
1. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.3 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cm暗灰色スコリアを中量含む。
2. 10YR4/6 褐色土　締まりなし、粘性なし。YLM.、YLL の小ブロックを多量に含む。

0　(1:40)　1m

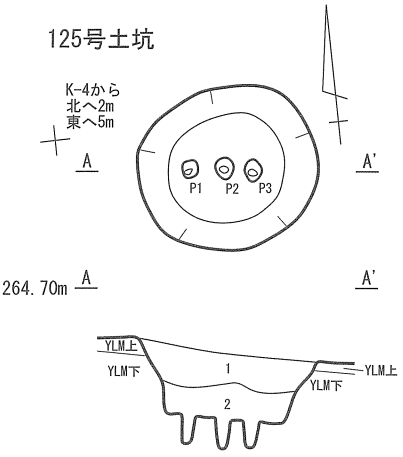
第 36 図　縄文時代 土坑実測図（24）



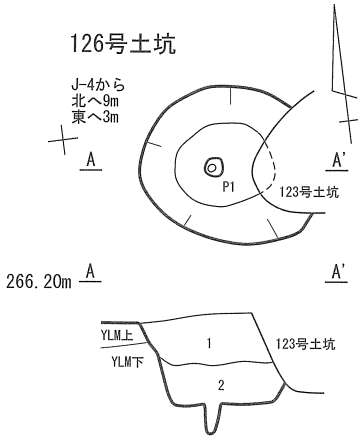
123 号土坑
1. 2.5Y4/2 暗灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.3 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cm暗灰色スコリアを中量含む。
2. 10YR4/6 褐色土　締まりなし、粘性なし。YLM の小ブロックを多量に含む。



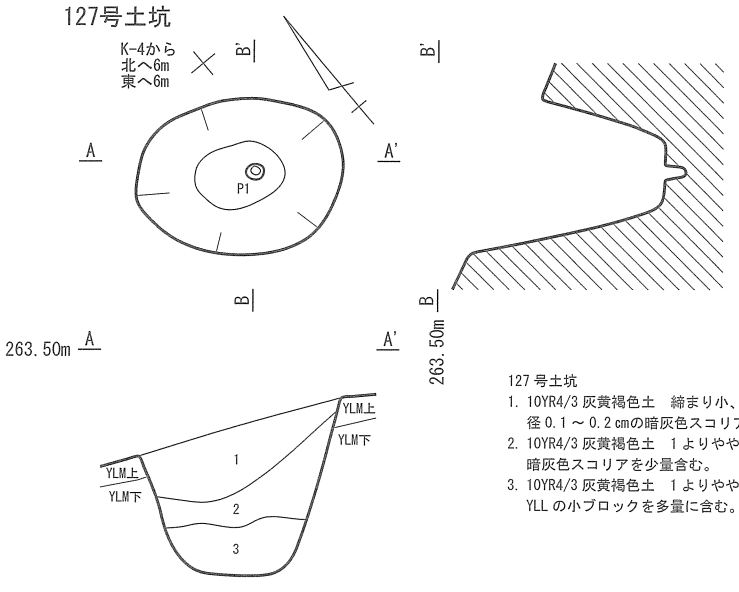
124 号土坑
1. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗灰色スコリアを少量含む。



125 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　1 よりやや暗い色調。締まりなし、粘性なし。YLL の小ブロックを多量に含む。



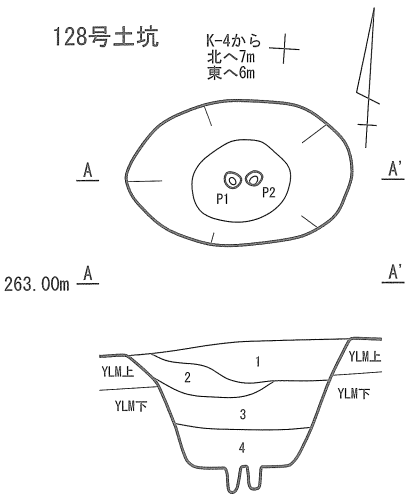
126 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　1 よりやや暗い色調。締まりなし、粘性なし。YLM の小ブロックを多量に含む。

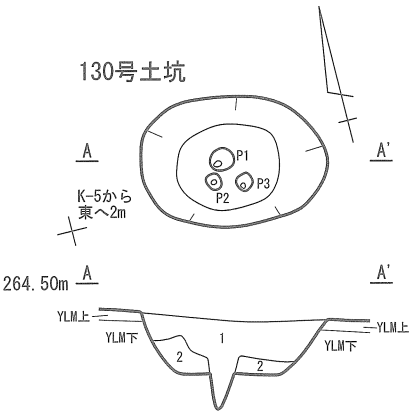


127 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　1 よりやや暗い色調。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　1 よりやや暗い色調。締まりなし、粘性なし。YLM、YLL の小ブロックを多量に含む。

0　(1:40)　1m

第 37 図　縄文時代 土坑実測図（25）

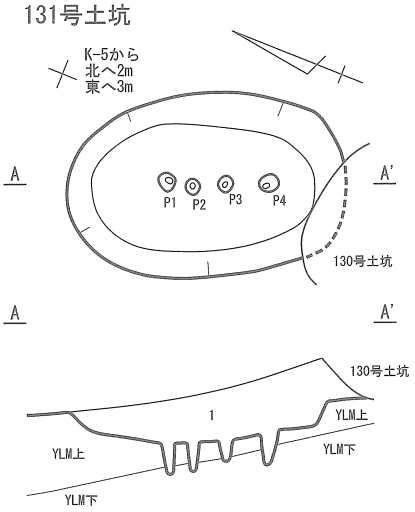


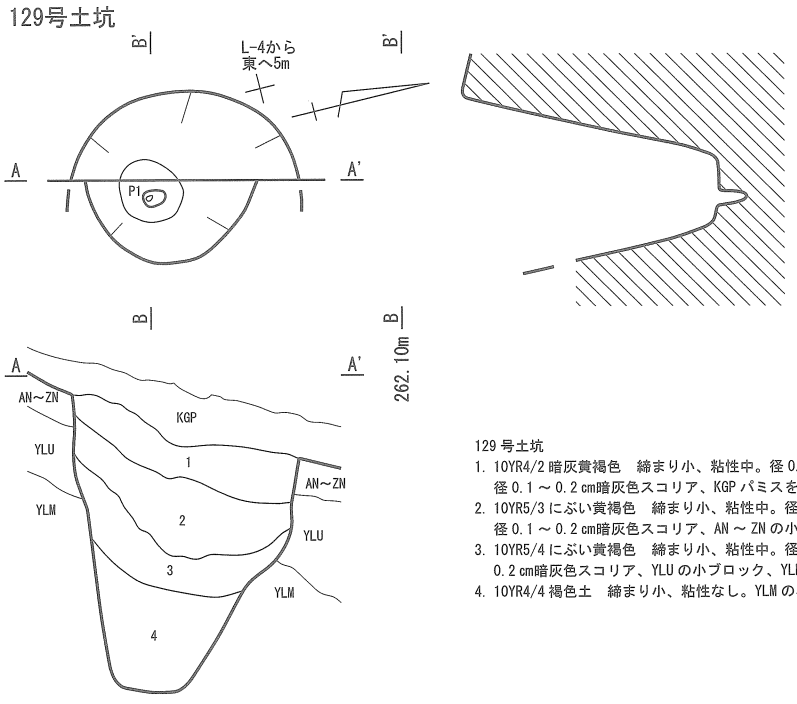


128 号土坑
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　2 よりやや暗い色調。締まりなし、粘性なし。YLL の小ブロックを少量含む。
4. 10YR4/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし。YLM、YLL の小ブロックを多量に含む。

130 号土坑
1. 10YR4/2 暗灰黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/4 褐色土　YLM のブロックを多く含む。締まりなし、粘性なし。

131 号土坑
1. 10YR4/2 暗灰黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗灰色スコリアを少量含む。

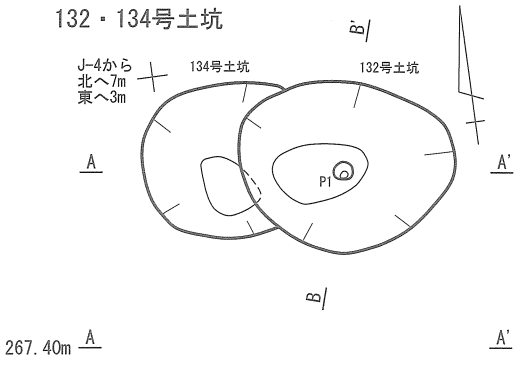


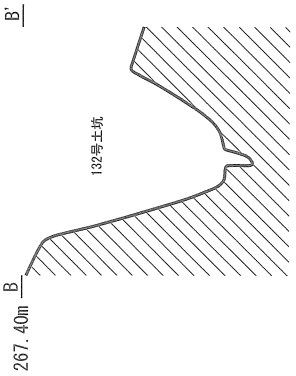


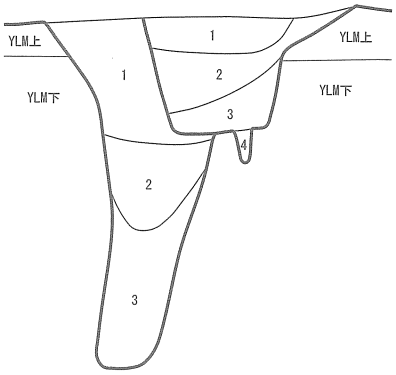
129 号土坑
1. 10YR4/2 暗灰黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗灰色スコリア、KGP パミスを少量含む。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗灰色スコリア、AN ～ ZN の小ブロック、YLU の小ブロックを中量含む。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗灰色スコリア、YLU の小ブロック、YLM の小ブロックを少量含む。
4. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性なし。YLM の小ブロックを中量含む。

0　(1:40)　1m

第 38 図　縄文時代 土坑実測図（26）

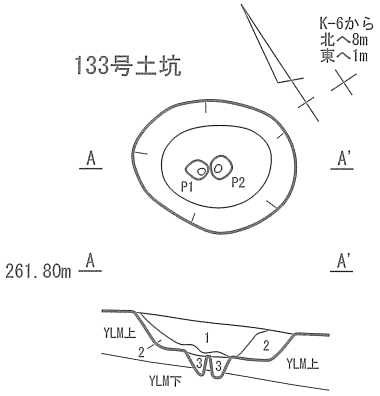


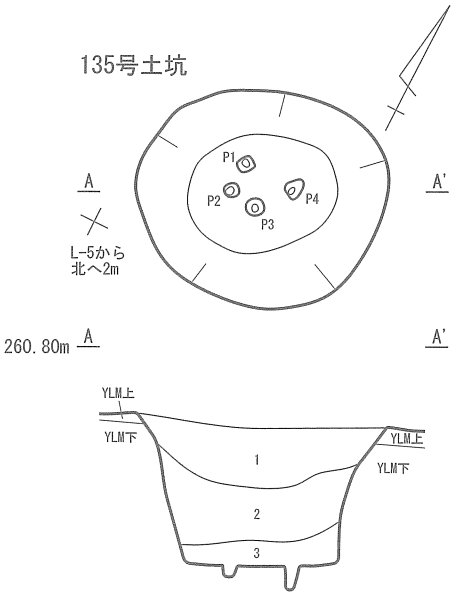




132 号土坑
1. 10YR4/2 暗灰黄褐色　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cm暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/4 褐色土　YLM のブロック。
3. 10YR4/2 暗灰黄褐色　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cm暗灰色スコリアを少量含む。
4. 7.5YR4/3 褐色土　締まりなし、粘性中。YLM、YLL のブロックを多量に含む。

134 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLL のブロックを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLL、SC Ⅰ の崩落土が多量に入る。



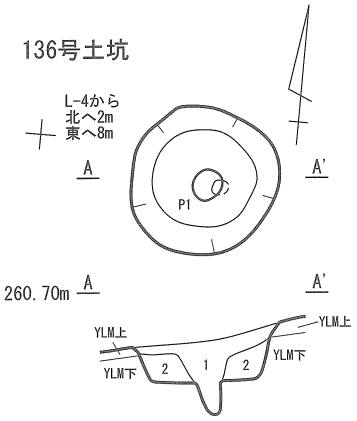


133 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLL のブロックを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLL のブロックを少量含む。

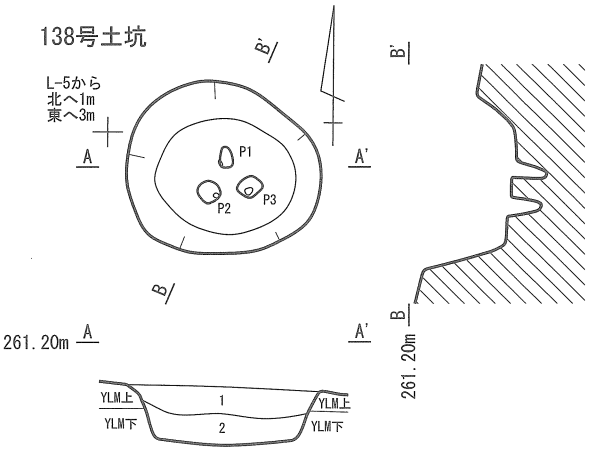
135 号土坑
1. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土　締まり小、粘性なし。YLM、YLL の小ブロックを多量に含む。

0　(1:40)　1m

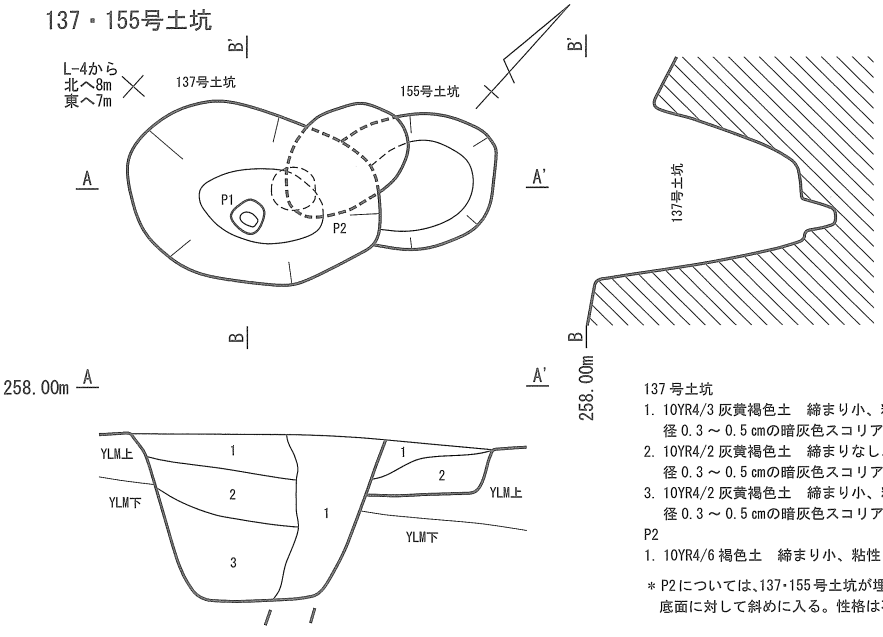
第 39 図　縄文時代 土坑実測図（27）



136 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



138 号土坑
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土　1 よりやや暗い色調。締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

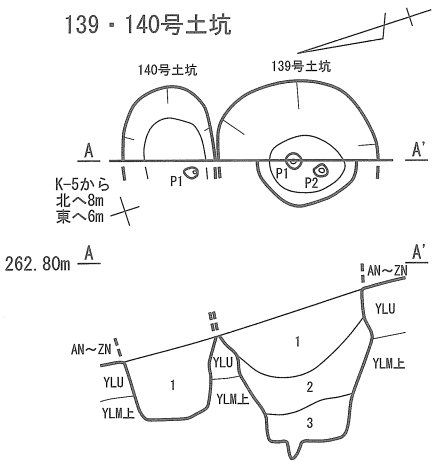


137 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLL のブロックを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLL のブロックを少量含む。

P2
1. 10YR4/6 褐色土　締まり小、粘性あり。YLU のブロックと AN ～ ZN 土が斑状に入る。

＊ P2 については、137・155 号土坑が埋没してから掘られたもので、円柱状の掘方を呈する。底面に対して斜めに入る。性格は不明である。

155 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



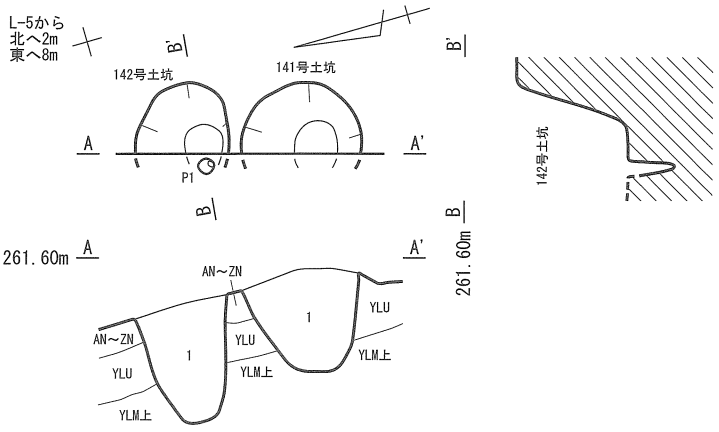
139 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　1 よりやや暗い色調。　締まり小、粘性なし。径 0.3 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし、ぼそぼそしている。径 0.3 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

140 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

第 40 図　縄文時代 土坑実測図（28）

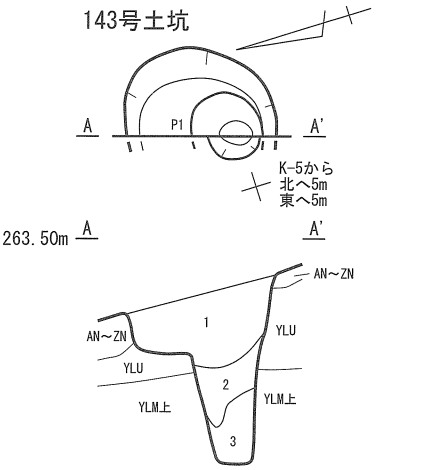
141・142号土坑



141 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

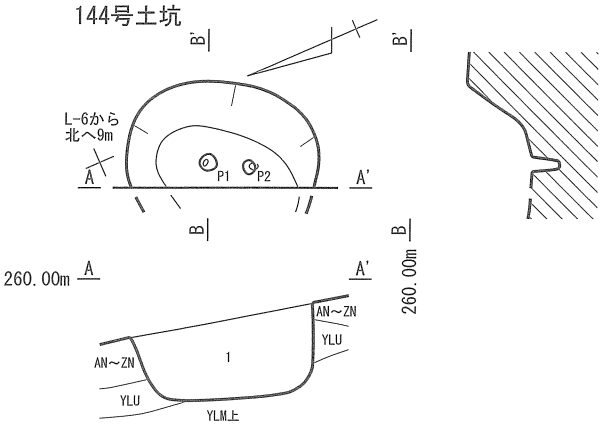
142 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

143号土坑



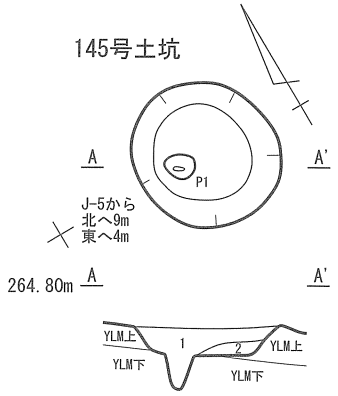
143 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

144号土坑



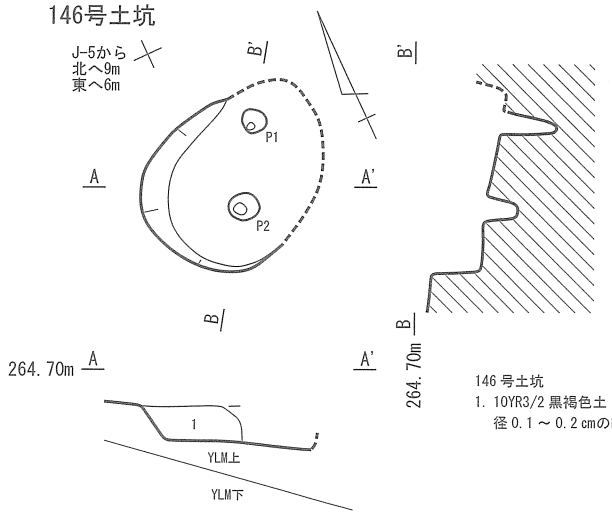
144 号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

145号土坑



145 号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/4 褐色土　締まり小、粘性小。YLL の小ブロックを多く含む。

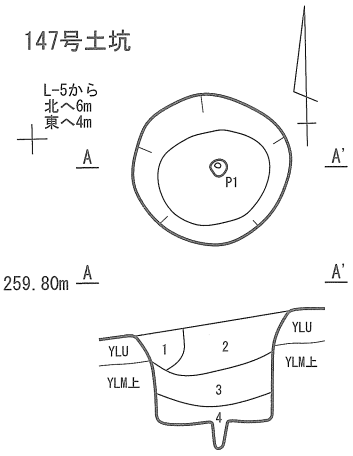
146号土坑



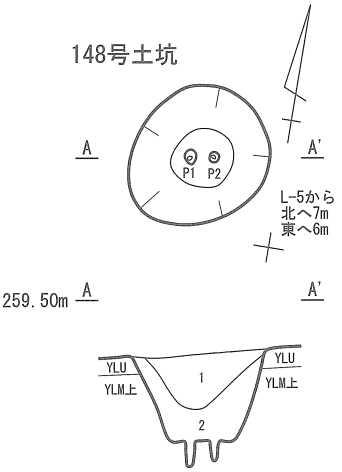
146 号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色土　締まり小、粘性小。径 0.1 ～ 0.2 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.2 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

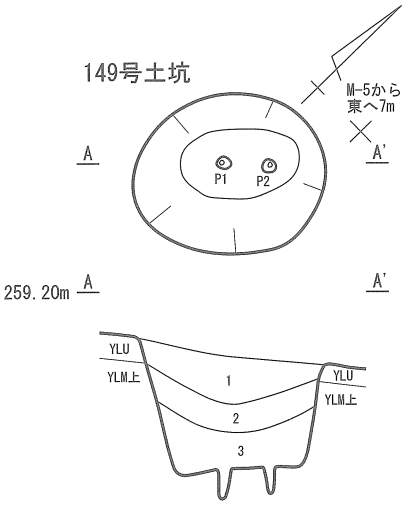
第 41 図　縄文時代 土坑実測図（29）



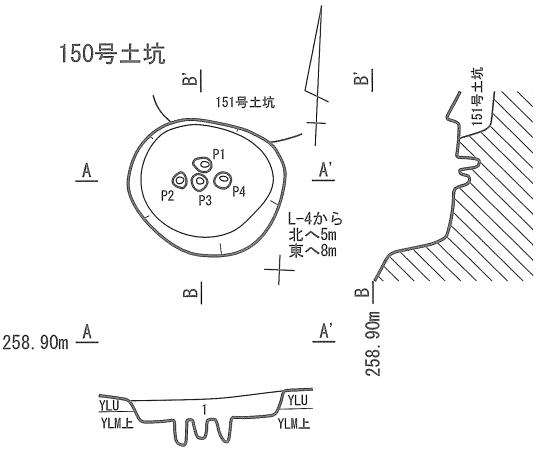
147 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。AN ～ ZN のブロック土、径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.2 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 7.5YR5/4 にぶい褐色土　締まりなし、粘性中。YLM、YLL の小ブロックを少量含む。



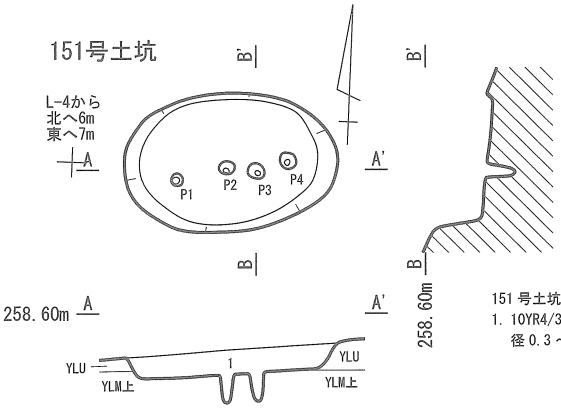
148 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



149 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボソボソの土。径 0.1 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



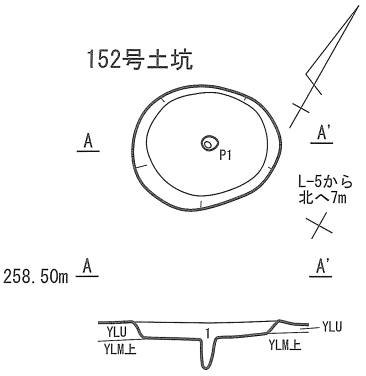
150 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



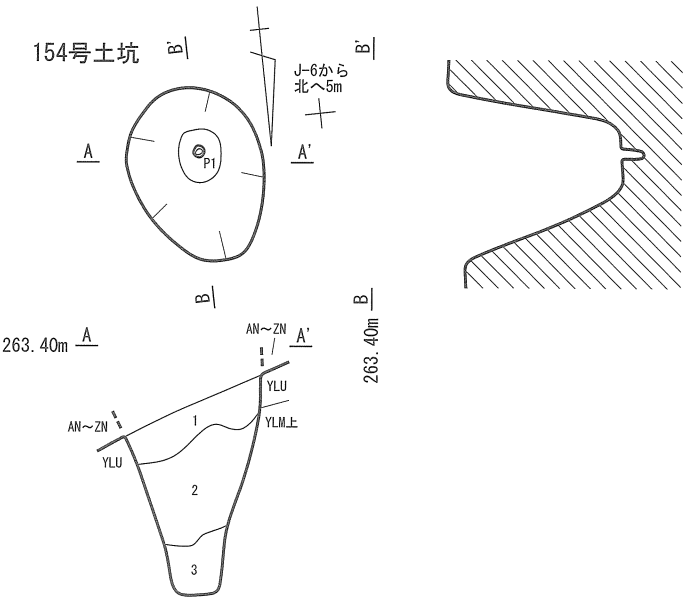
151 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

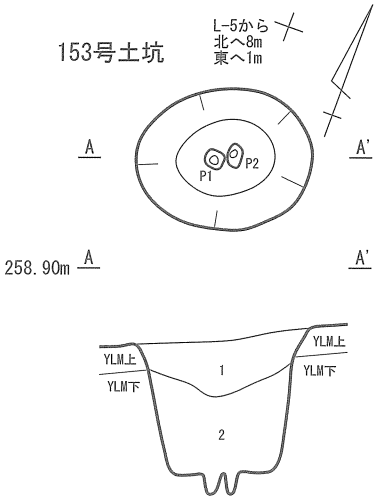
第 42 図　縄文時代 土坑実測図（30）



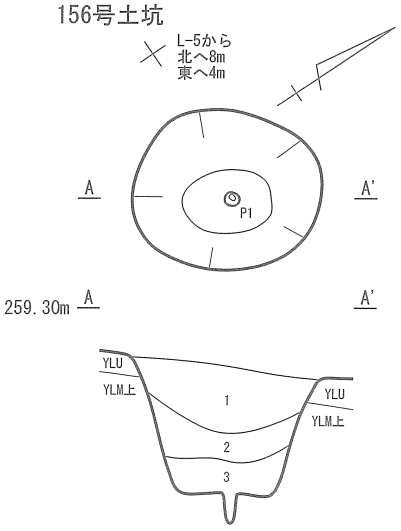
152 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの
　橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



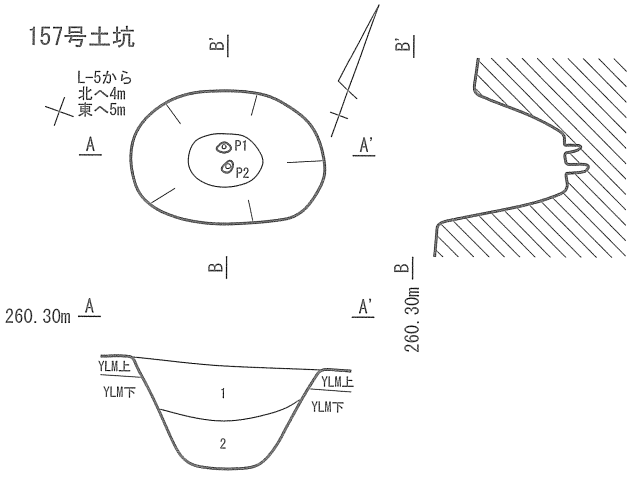
154 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボロボロの土。YLM の
　小ブロックを多量に含む。



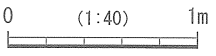
153 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM のブロックを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボロボロの土、YLM、
　YLL の小ブロックを多量に含む。



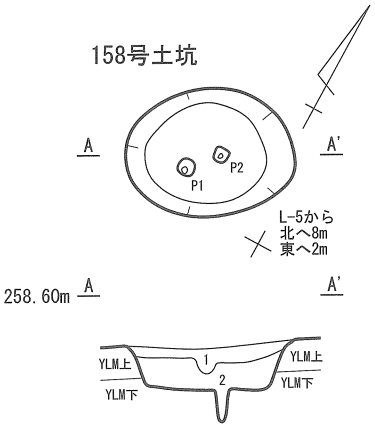
156 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.1 ～ 0.3 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボソボソの土。径 0.1 ～ 0.5 cmの
　橙色スコリア、径 0.1 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



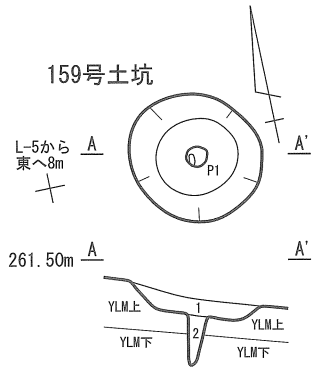
157 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。径 0.3 ～ 0.5 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。



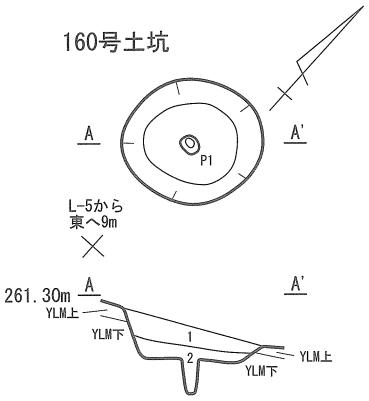
第 43 図　縄文時代 土坑実測図（31）



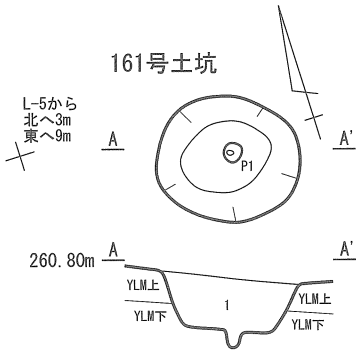
158 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土　締まりなし、粘性なし。YLM の小ブロックを多量に含む。



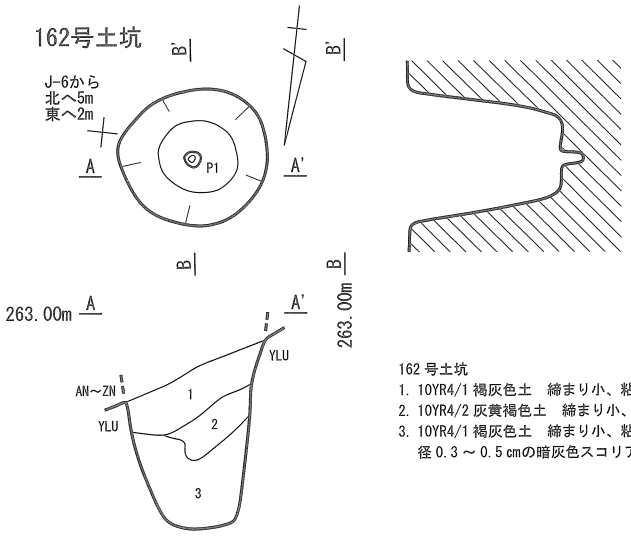
159 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボロボロの土。YLM の小ブロックを多量に含む。



160 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU の小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボロボロの土。YLM の小ブロックを多量に含む。



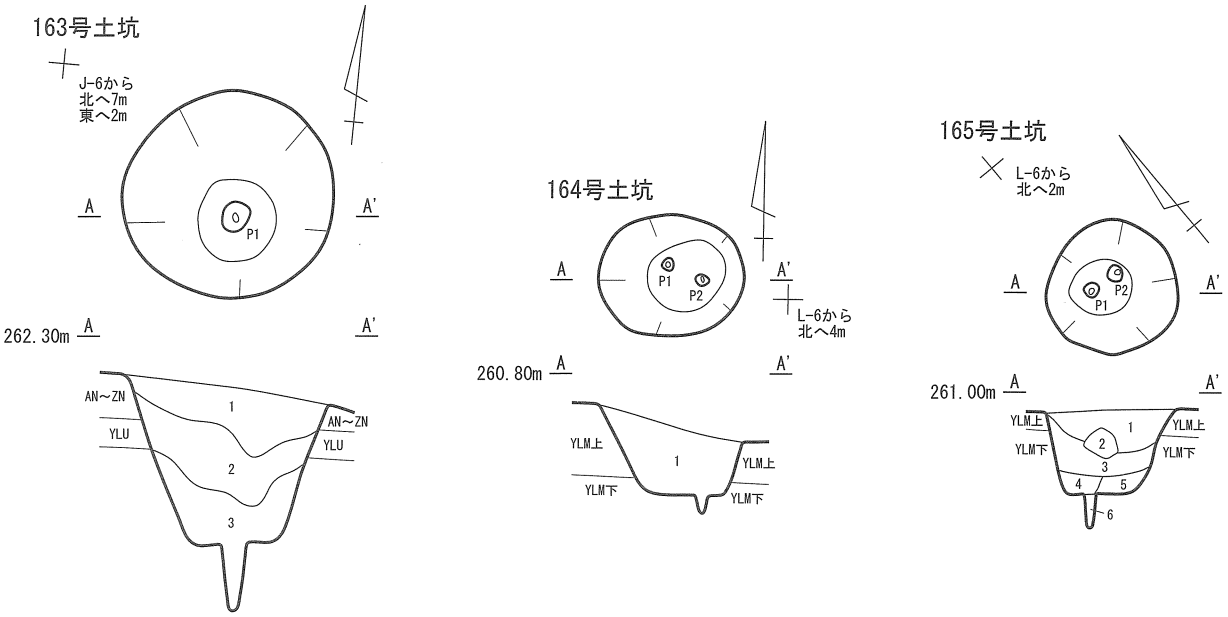
161 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボロボロの土。YLL の小ブロックを多量に含む。



162 号土坑
1. 10YR4/1 褐灰色土　締まり小、粘性小。AN ～ ZN の小ブロックを含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性あり。YLU の小ブロックを多量に含む。
3. 10YR4/1 褐灰色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。

0　(1:40)　1m

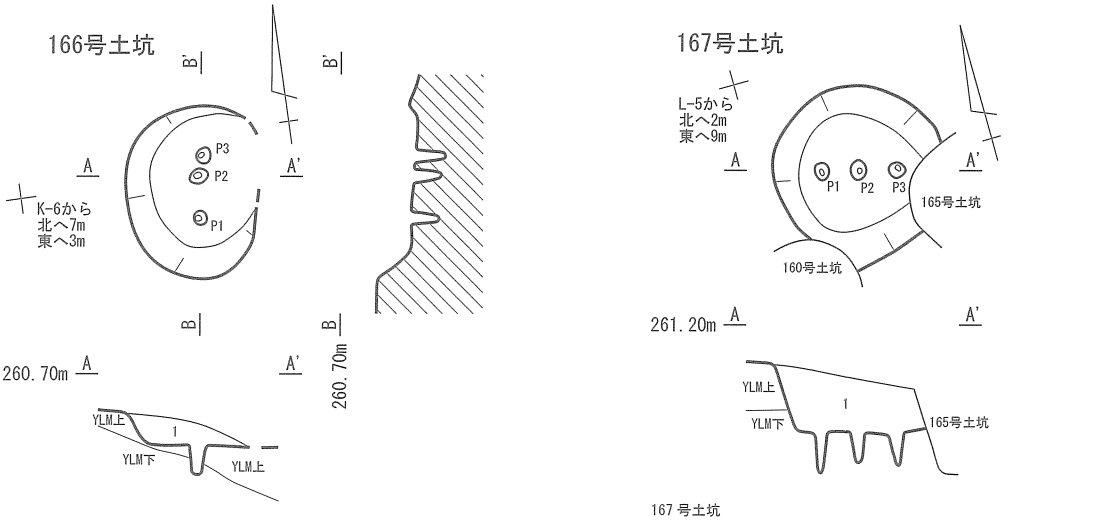
第 44 図　縄文時代 土坑実測図（32）



163 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。ボロボロの土。
　YLM の小ブロックを多量に含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLU ～ YLM の小ブロックを少量含む。

164 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの橙色スコリア、
　径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。

165 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。YLU 土が主体で、わずかに
　AN ～ ZN 土が混じる。
2. YLL のブロック。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM 土が主体で、わずかに
　YLU 土が混じる。
4. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。YLM 土が主体で橙色スコリア、
　暗灰色スコリアの量が 3 より多い。
5. YLM 下のブロック。
6. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。YLM 土が主体で、わずかに
　YLU 土が混じる。

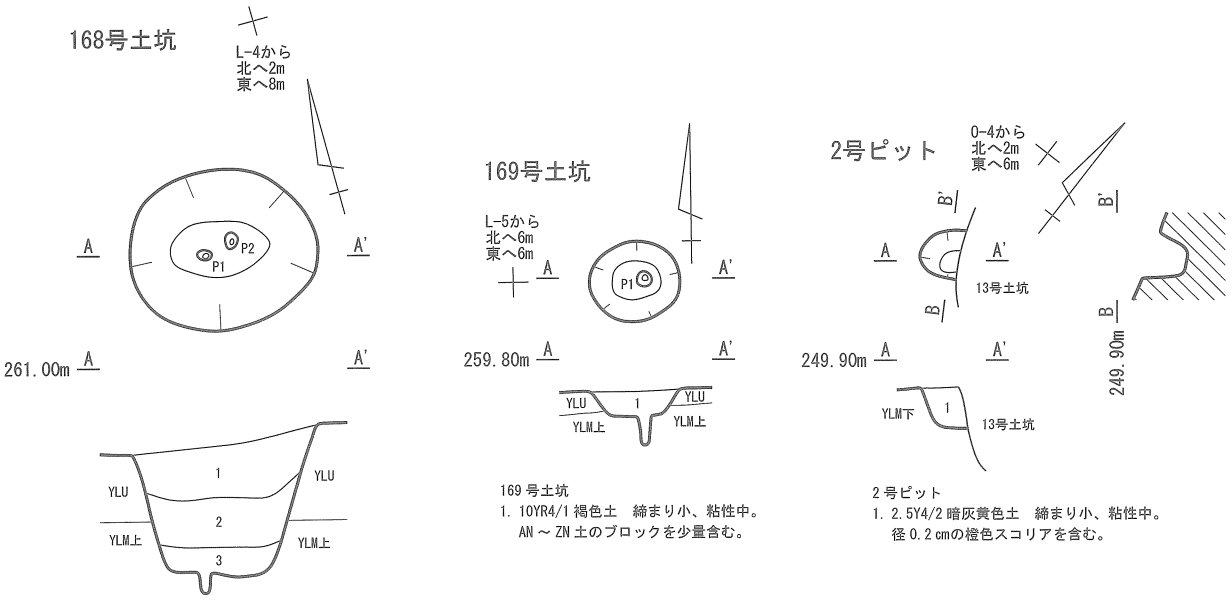


166 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性なし。
　YLM のブロック土を多く含む。

167 号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。YLU 土が主体で、
　わずかに AN ～ ZN 土が混じる。

0　(1:40)　1m

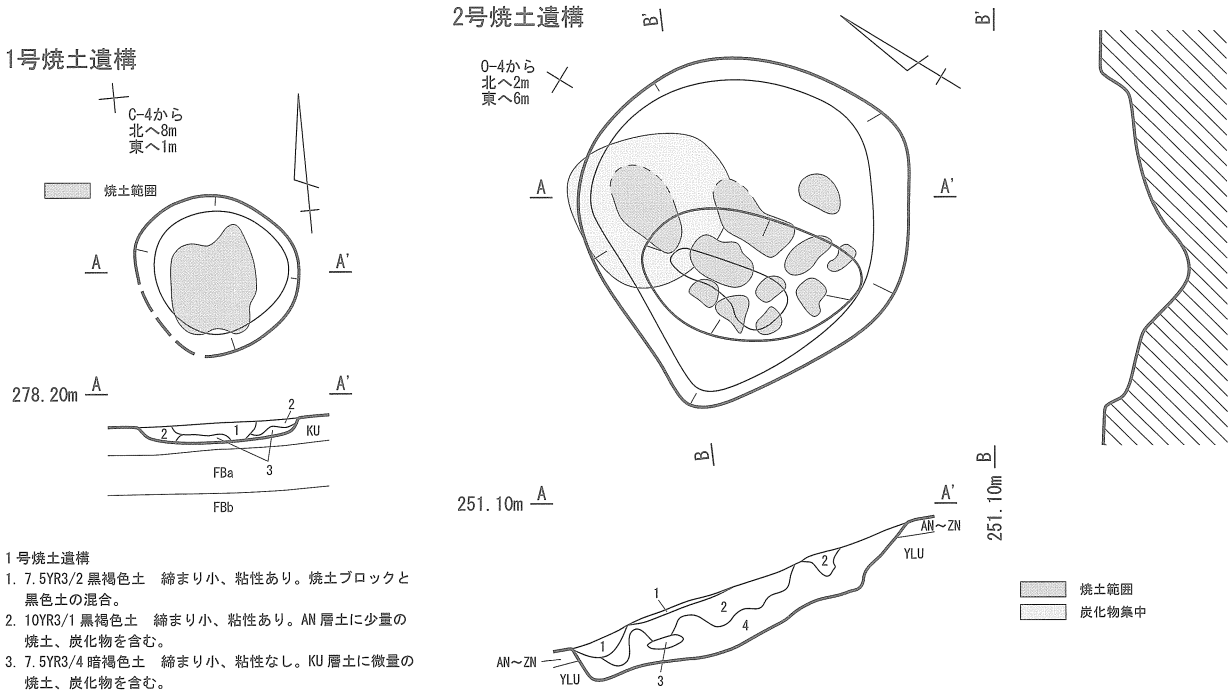
第 45 図　縄文時代 土坑実測図（33）



168 号土坑
1. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まり小、粘性中。径 0.1 ～ 0.3 cmの
　橙色スコリア、径 0.3 ～ 0.5 cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まりなし、粘性中。径 0.1 ～ 0.5 cmの
　橙色スコリア、YLM の小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土　締まりなし、粘性なし。径 0.1 ～ 0.5 cmの
　橙色スコリア、YLL の小ブロックを少量含む。

169 号土坑
1. 10YR4/1 褐色土　締まり小、粘性中。
　AN ～ ZN 土のブロックを少量含む。

2 号ピット
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色土　締まり小、粘性中。
　径 0.2 cmの橙色スコリアを含む。

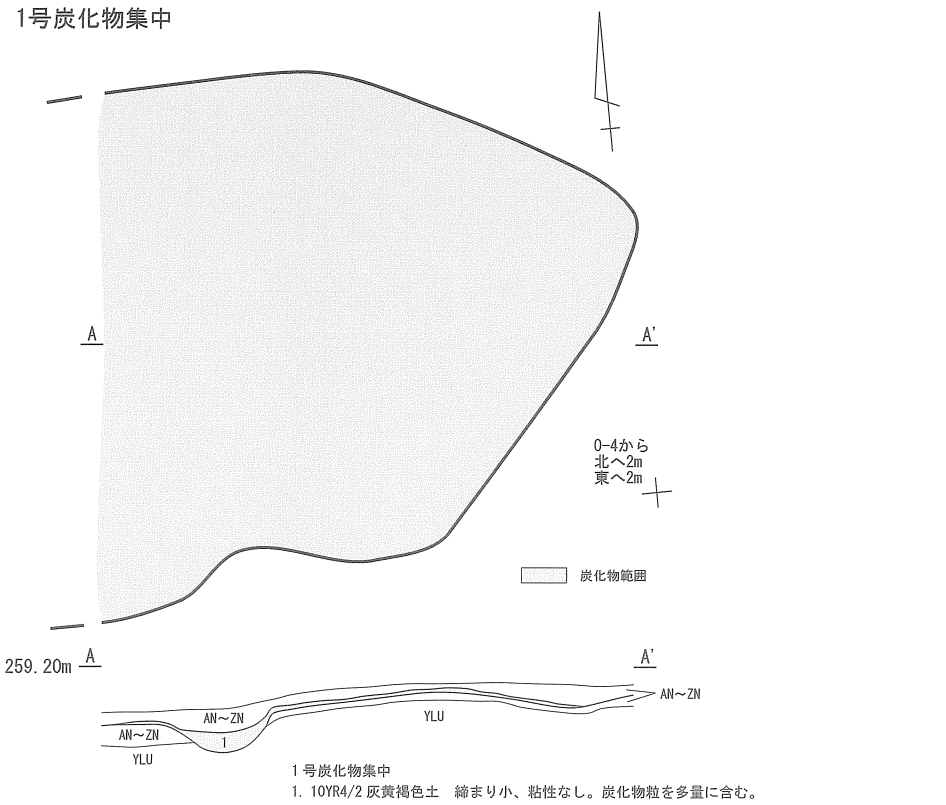


1 号焼土遺構
1. 7.5YR3/2 黒褐色土　締まり小、粘性あり。焼土ブロックと
　黒色土の混合。
2. 10YR3/1 黒褐色土　締まり小、粘性あり。AN 層土に少量の
　焼土、炭化物を含む。
3. 7.5YR3/4 暗褐色土　締まり小、粘性なし。KU 層土に微量の
　焼土、炭化物を含む。

2 号焼土遺構
1. 10YR3/1 黒褐色土　締まり小、粘性あり。AN 層土に少量の焼土、炭化物を含む。
2. 5YR5/6 明赤褐色土　焼土　締まり小、粘性あり。
3. 炭化物ブロック。
4. 7.5YR3/4 暗褐色土　締まり小、粘性なし。微量の焼土、炭化物を含む。

0　(1:40)　1m

第 46 図　縄文時代 土坑実測図（34）・焼土遺構・ピット実測図



第47図　縄文時代 炭化物集中実測図

表５－１　遺構計測表（焼土遺構）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)
46	1号	C-4	KU	楕円形	なし	なし	0.88	0.82	0.14
46	2号	O-4	AN～ZN	不整円形	なし	2号ピット・13号土坑より新	1.86	1.76	0.27

表５－２　遺構計測表（炭化物集中）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)
47	1号	O-3･4	AN～ZN	不整楕円形	なし	東西	(3.00)	2.70	0.07

表５－３　遺構計測表（ピット）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)
46	2号	O-4	YLM下	円形	なし	13号土坑より古	0.25	(0.21)	0.22

表５－４　遺構計測表（土坑①）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m) 上	最大幅(m) 上	最大長(m) 下	最大幅(m) 下	最大深(m)	P1径	深さ	P2径	深さ	P3径	深さ	P4径	深さ	P5径	深さ	P6径	深さ	P7径	深さ
13	2号	D-3	KU	円形	なし	なし	0.81	0.73	0.61	0.51	0.39														
13	3号	D-3	KU	長楕円形	北北東	なし	1.28	0.70	1.21	0.58	0.29														
13	4号	E-3	FBb	楕円形	西北西	なし	0.84	0.69	0.51	0.44	1.20														
13	5号	E-4	YL	円形	なし	なし	1.65	1.48	0.70	0.48	1.24														
13	6号	F-3	SC Ⅰ	長楕円形	西北西	なし	1.07	0.55	0.89	0.44	0.41	0.15×0.14	0.25	0.20×0.14	0.28	0.18×0.14	0.24								
14	7号	P-7	YLM下	楕円形	北北東	なし	0.94	0.73	0.64	0.58	0.30														
14	9号	N-3	ZN	楕円形	西北西	なし	(1.02)	0.70	0.28	0.25	1.87	0.18×0.17	0.16												
14	10号	Q-8	AN～ZN	楕円形	西北西	なし	0.88	0.63	0.78	0.49	0.34														
14	11号	N-3	YLM上	楕円形	北北西	なし	0.77	0.54	0.59	0.42	0.20														
15	12号	N-4	YLM上	円形	なし	なし	0.76	0.66	0.29	0.28	0.60	0.08×0.08	0.15												
15	13号	O-4	YLM上	円形	なし	2号ﾋﾟｯﾄより新 2号焼土遺構より古	1.13	0.98	0.80	0.48	0.52														
15	14号	N-3,O-3	AN～ZN	楕円形	西北西	なし	(0.89)	0.77	0.35	0.30	1.08	0.09×0.07	0.15												
15	15号	N-3	YLM上	楕円形	東西	なし	0.96	0.68	0.75	0.43	0.40														
16	16号	O-3･4	YLM上	楕円形	東北東	なし	1.30	0.90	1.15	0.75	0.40	0.20×0.17	0.36	0.20×0.17	0.38										
16	17号	O-4	YLM上	円形	なし	18号土坑より古	(0.42)	1.08	0.68	0.24	0.39														
16	18号	O-4	YLM上	円形	なし	17号土坑より新	1.03	0.91	0.41	0.40	1.05	0.08×0.07	0.14												
16	19号	O-4	YLM上	楕円形	東北東	なし	1.05	0.85	0.94	0.69	0.33														
16	20号	O-3	AN～ZN	円形	なし	なし	0.70	(0.66)	0.41	0.27	0.70	0.08×0.07	0.08												
17	21号	O-3	AN～ZN	楕円形	西北西	なし	(1.12)	(1.07)	0.68	0.51	1.00	0.08×0.06	0.15												
17	22号	R-8	YLM下	長楕円形	北北東	なし	1.39	0.71	1.28	0.60	0.28	0.13×0.13	0.08	0.16×0.15	0.10	0.15×0.14	0.10	0.16×0.13	0.12						
17	23号	R-8	YLL	円形	なし	なし	0.93	0.85	0.80	0.72	0.32														
17	24号	Q-7	YLL	楕円形	東西	なし	1.08	0.78	1.00	0.65	0.19														
17	25号	P-8	YLL	長楕円形	西北西	なし	0.93	0.53	0.80	0.45	0.29														
18	26号	O-5	AN～ZN	円形	なし	なし	(0.77)	1.38	(0.48)	0.59	0.90														
18	27号	P-4	YLM上	長楕円形	東北東	なし	1.28	0.78	1.08	0.59	0.25	0.18×0.18	0.27	0.20×0.18	0.33	0.17×0.17	0.35								
18	28号	P-4	AN～ZN	円形	なし	なし	0.63	(0.65)	0.34	0.26	0.94	0.12×0.08	0.10												
18	29号	P-4	AN～ZN	円形	なし	なし	(0.74)	0.65	0.41	0.35	0.73	0.11×0.09	0.08	0.10×0.08	0.06										
18	30号	P-4	AN～ZN	楕円形	西北西	なし	(1.13)	0.82	0.85	0.58	0.60	0.17×0.15	0.22												
19	31号	P-4	YLM上	長楕円形	東北東	なし	1.13	0.68	0.91	0.49	0.36	0.13×0.13	0.12	0.11×0.11	0.15	0.13×0.09	0.16	0.13×0.10	0.14	0.09×0.09	0.16	0.28×0.23	0.23		
19	32号	P-4	YLM上	円形	なし	なし	1.04	1.00	0.54	0.43	1.15	0.10×0.07	0.15												
19	33号	P-4	YLM上	長楕円形	東北東	なし	1.06	0.65	0.55	0.35	0.58	0.08×0.07	0.14	0.07×0.07	0.12	0.07×0.07	0.12	0.07×0.05	0.06	0.07×0.06	0.14				
19	34号	P-8	YLL	円形	なし	なし	0.85	0.80	0.75	0.70	0.29														
20	35号	Q-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	1.77	1.20	0.80	0.70	1.00	0.11×0.10	0.17	0.10×0.07	0.16	0.12×0.11	0.2	0.15×0.14	0.16	0.07×0.07	0.10				
20	36号	Q-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	0.95	0.72	0.65	0.48	0.77	0.12×0.10	0.17	0.16×0.15	0.25										
20	37号	Q-4	AN～ZN	円形	なし	なし	0.88	(0.82)	0.50	0.31	0.70	0.10×0.09	0.11	0.10×0.07	0.10										
20	38号	Q-4	YLM上	長楕円形	東北東	なし	1.17	0.65	0.88	0.48	0.47	0.08×0.07	0.09	0.09×0.06	0.09	0.08×0.07	0.09	0.09×0.08	0.13						
20	39号	M-3･4	YLM上	楕円形	北北東	なし	0.67	0.55	0.50	0.46	0.25	0.13×0.13	0.17	0.17×0.14	0.18	0.21×0.14	0.16	0.11×0.07	0.08	0.16×0.13	0.13				
21	40号	M-4	YLM上	円形	なし	なし	0.76	0.72	0.48	0.43	1.01	0.16×0.13	0.23												
21	41号	M-4	YLM上	円形	なし	なし	0.91	0.78	0.45	0.40	1.10														

表５－４　遺構計測表（土坑②）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m) 上	最大幅(m) 上	最大長(m) 下	最大幅(m) 下	最大深(m)	P1径	深さ	P2径	深さ	P3径	深さ	P4径	深さ	P5径	深さ	P6径	深さ	P7径	深さ
21	42号	M-3	AN～ZN	円形	なし	なし	(1.00)	0.73	0.55	0.49	0.97	0.18×0.13	0.27	0.15×0.13	0.23										
21	43号	M-4	AN～ZN	円形	なし	なし	0.85	(0.41)	0.32	(0.17)	0.71	0.10×0.08	0.21												
22	44号	M-4	AN～ZN	円形	なし	なし	(0.50)	0.70	(0.30)	0.32	0.78	0.15×0.05	0.20												
22	45号	M-4	AN～ZN	円形	なし	なし	0.96	(0.59)	0.75	(0.38)	0.43	0.13×(0.08)	0.34												
22	46号	M-3	AN～ZN	円形	なし	なし	0.81	(0.44)	0.49	(0.25)	0.43	0.11×(0.05)	0.12												
22	47号	M-3	KGP	長楕円形	西北西	なし	1.15	(0.58)	1.02	(0.56)	0.34	0.12×0.09	0.32	(0.15)×(0.13)	0.40										
22	48号	N-4	YLM上	円形	なし	なし	0.67	0.65	0.45	0.32	0.47	0.07×0.07	0.08	0.07×0.06	0.12	0.09×0.07	0.07	0.07×0.06	0.10						
23	49号	N-4	YLM上	円形	なし	なし	0.70	0.65	0.55	0.48	0.40														
23	50号	M-4	AN～ZN	円形	なし	なし	(1.00)	0.85	0.42	0.35	1.78	0.09×0.08	0.20												
23	51号	N-4	YLM上	長楕円形	東北東	なし	0.87	0.57	0.71	0.38	0.25	0.12×0.12	0.10	0.10×0.09	0.11	0.13×0.12	0.17	0.13×0.12	0.12						
23	52号	N-4	YLM上	楕円形	北北西	53号土坑より新	0.80	0.60	0.55	0.48	0.32	0.14×0.14	0.15	0.17×0.13	0.13										
23	53号	N-4	YLM上	楕円形	北北西	52号土坑より古	(0.44)	0.61	(0.45)	0.29	0.38	0.12×(0.10)	0.08	0.13×0.13	0.28										
24	54号	L-4, M-4	AN～ZN	円形	なし	なし	0.73	(0.65)	0.38	0.35	0.45	0.08×0.08	0.14												
24	55号	M-4	AN～ZN	楕円形	西北西	なし	1.04	(0.78)	0.81	0.55	0.68	0.08×0.07	0.14	0.06×0.06	0.12	0.07×0.06	0.12	0.08×0.06	0.13						
24	56号	M-4	KGP	楕円形	北北西	なし	0.73	(0.30)	0.40	(0.15)	0.63	0.07×(0.03)	0.06												
23	57号	M-4	KGP	円形	なし	なし	(0.90)	(0.82)	0.68	0.58	1.05														
24	58号	M-4	AN～ZN	楕円形	東北東	60号土坑より新	0.92	(0.57)	0.60	0.42	0.80	0.13×0.11	0.10	0.15×0.13	0.11	0.13×0.12	0.23	0.14×0.14	0.25						
25	59号	N-5	AN～ZN	円形	なし	69·72·74号土坑より新	0.92	(0.82)	0.64	0.45	1.38	0.10×0.10	0.11	0.09×0.06	0.12	0.10×0.06	0.09	0.14×0.13	0.14	0.13×0.09	0.13				
24	60号	M-4	AN～ZN	楕円形	東北東	110号土坑より新 58号土坑より古	(0.90)	(0.59)	0.65	0.38	0.89	0.38×0.22	0.68	0.13×0.12	0.15	0.15×0.12	0.14								
25	61号	N-5	YLM上	長楕円形	南東	72·74号土坑より新	1.26	0.80	0.50	0.49	0.80	0.10×0.09	0.18	0.12×0.11	0.21										
24	62号	N-5, O-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	0.82	0.63	0.66	0.45	0.66	0.12×0.11	0.13	0.11×0.08	0.14										
25	63号	N-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	1.23	0.93	0.78	0.65	0.69	0.47×0.45	0.30	0.15×0.13	0.16										
25	64号	N-4	YLM上	楕円形	東北東	なし	1.00	0.67	0.90	0.57	0.14	0.11×0.08	0.16	0.13×0.13	0.18	0.33×0.25	0.14	0.13×0.12	0.08						
26	65号	O-5	YLM上	長楕円形	東北東	なし	1.35	0.87	1.15	0.66	0.60	0.13×0.13	0.22	0.09×0.08	0.10										
26	66号	N-4, O-4	YLM上	長楕円形	北北東	なし	0.97	0.61	0.78	0.51	0.18	0.12×0.10	0.14	0.14×0.12	0.18	0.12×0.10	0.12	0.16×0.15	0.16	0.12×0.12	0.12	0.09×0.07	0.10	0.17×0.12	0.18
26	67号	O-5	YLM上	長楕円形	東北東	なし	1.28	0.78	0.98	0.45	1.08	0.21×0.17	0.25	0.17×0.14	0.27	0.15×0.12	0.24								
26	68号	O-5	YLM上	円形	北東	なし	1.06	0.92	0.61	0.50	0.54	0.17×0.14	0.10	0.12×0.11	0.27										
25	69号	N-5	AN～ZN	円形	なし	74号土坑より新 59号土坑より古	(1.13)	(0.98)	0.65	0.48	1.32	0.06×0.06	0.13	0.08×0.07	0.10	0.08×0.07	0.09								
27	70号	O-5	YLM上	円形	なし	71号土坑より古	(1.29)	1.13	0.92	0.72	0.70	0.08×0.07	0.18	0.12×0.11	0.18	0.09×0.08	0.12								
27	71号	O-5	YLM上	円形	なし	70号土坑より新	(1.09)	1.08	0.85	0.85	0.72	0.09×0.08	0.07	0.19×0.08	0.15	0.10×0.09	0.21								
25	72号	N-5	YLM上	楕円形	不明	73号土坑より新 59·61号土坑より古	(1.40)	(0.80)	(0.70)	(0.50)	0.93	0.06×0.06	0.15	0.07×0.06	0.11										
25	73号	N-5	YLM上	楕円形	不明	72号土坑より古	(0.78)	(0.66)	(0.48)	(0.30)	0.75	0.15×0.10	0.09												

表５－４　遺構計測表（土坑③）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m) 上	最大幅(m) 上	最大長(m) 下	最大幅(m) 下	最大深(m)	P1径	深さ	P2径	深さ	P3径	深さ	P4径	深さ	P5径	深さ	P6径	深さ	P7径	深さ
25	74号	N-5	YLM上	楕円形	不明	59･61･69号土坑より古	(1.60)	(1.03)	(1.03)	(0.73)	0.79	0.13×0.12	0.13	0.13×0.10	0.17										
27	75号	O-5	YLM上	楕円形	北北西	なし	1.10	0.88	0.66	0.49	0.78	0.06×0.06	0.10	0.09×0.07	0.14										
27	76号	O-5	YLM上	円形	なし	なし	1.14	1.11	0.80	0.80	0.74	0.11×0.10	0.21	0.13×0.13	0.13										
27	77号	O-5	AN～ZN	円形	なし	なし	0.95	(0.50)	0.64	(0.35)	0.81	0.10×0.08	0.33												
28	78号	O-6	AN～ZN	円形	なし	なし	0.85	(0.53)	0.50	(0.35)	0.64	0.08×0.06	0.07	0.08×0.05	0.11	0.06×0.05	0.12								
28	79号	Q-4	AN～ZN	円形	なし	なし	1.05	(0.58)	0.49	(0.38)	0.85	0.18×(0.15)	0.34												
28	80号	Q-4	AN～ZN	楕円形	東北東	なし	0.60	(0.43)	(0.30)	0.28	0.66	0.12×0.11	0.22												
28	81号	Q-4,R-4	AN～ZN	楕円形	不明	なし	0.70	(0.47)	0.40	(0.18)	0.70	0.08×(0.03)	0.13												
29	82号	R-3･4	AN～ZN	円形	なし	なし	(1.22)	(1.15)	0.41	0.29	2.20														
28	83号	Q-4	YLM上	円形	なし	なし	0.93	0.84	0.60	0.45	0.53	0.11×0.08	0.10	0.07×0.06	0.09	0.07×0.06	0.10	0.11×0.11	0.12						
29	84号	Q-4	YLM上	楕円形	北北東	なし	1.10	0.87	0.60	0.44	1.47	0.08×0.07	0.10	0.07×0.07	0.11	0.08×0.08	0.10								
29	85号	R-4	YLM上	円形	なし	なし	0.75	0.69	0.45	0.42	0.75	0.08×0.08	0.12	0.08×0.06	0.14										
29	86号	M-5	KGP	楕円形	不明	なし	(0.84)	(0.35)	0.34	(0.25)	1.33	(0.06)×0.11	0.10												
30	87号	M-5	AN～ZN	楕円形	不明	なし	1.15	(0.46)	0.58	(0.29)	0.87	0.10×(0.07)	0.12	0.10×0.10	0.15										
30	88号	M-4	YLM上	円形	なし	なし	0.86	0.72	0.65	0.50	0.35	0.10×0.10	0.19	0.08×0.08	0.14										
30	89号	N-5	YLM上	楕円形	北北東	なし	0.69	0.52	0.30	(0.28)	0.48	0.09×0.08	0.10	(0.15)×(0.23)	0.40										
30	90号	N-5	YLM上	円形	なし	なし	0.65	0.58	0.52	0.51	0.15	0.08×0.05	0.12	0.06×0.06	0.07	0.07×0.06	0.13								
30	91号	M-5	YLM上	楕円形	北北東	なし	0.60	0.46	0.50	0.35	0.18	0.09×0.06	0.12	0.09×0.09	0.16	0.08×0.06	0.14	0.07×0.07	0.12						
30	92号	M-5	YLM上	長楕円形	北北東	なし	0.96	0.60	0.80	0.45	0.33	0.11×(0.10)	0.23	0.10×0.08	0.17	0.10×0.09	0.22								
31	93号	N-5	YLM上	長楕円形	北北東	なし	1.05	0.67	0.90	0.55	0.28	0.13×0.11	0.23	0.10×0.10	0.20	0.10×0.09	0.18	0.08×0.08	0.15	0.09×0.09	0.16				
31	94号	M-5	YLM上	円形	なし	なし	0.73	0.65	0.59	0.49	0.40	0.09×0.08	0.13	0.10×0.07	0.14	0.13×0.11	0.14								
31	95号	Q-5	YLM上	円形	なし	なし	1.23	1.11	0.79	0.55	0.70														
31	96号	Q-5･6	YLM上	円形	なし	なし	0.98	0.95	0.55	0.49	0.93	0.13×0.11	0.14	0.14×0.12	0.13										
31	97号	Q-5,R-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	1.03	0.76	0.80	0.52	0.32	0.09×0.09	0.14												
32	98号	R-5	YLM上	円形	なし	なし	0.94	0.94	0.50	0.45	0.89	0.10×0.09	0.16	0.10×0.07	0.11										
32	99号	R-6	AN～ZN	長楕円形	南北	なし	(1.30)	0.80	0.75	0.49	1.43														
32	100号	O-6	YLM上	円形	なし	なし	0.64	0.56	0.48	0.35	0.37	0.07×0.06	0.11	0.07×0.06	0.15										
32	101号	O-6	YLM上	楕円形	西北西	なし	1.25	0.86	1.00	0.69	0.50	0.09×0.09	0.08	0.10×0.08	0.11	0.08×0.07	0.15	0.07×0.06	0.17						
32	102号	L-5	KGP	円形	なし	なし	0.85	(0.75)	0.30	0.25	1.16	0.06×0.05	0.13												
33	103号	L-5,M-5	AN～ZN	楕円形	東北東	104･109号土坑より新	1.50	(1.15)	0.50	0.33	1.82	0.10×0.07	0.15	0.10×0.10	0.16										
33	104号	M-5	YLM上	円形	なし	109号土坑より新 103号土坑より古	0.80	(0.55)	0.39	(0.36)	0.72	0.07×0.07	0.10	0.07×0.06	0.20										
33	105号	M-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	1.07	0.83	0.70	0.45	0.84	0.07×0.07	0.12	0.07×0.06	0.20										
33	106号	M-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	0.48	0.35	0.32	0.20	0.20														
33	107号	M-5	YLM上	楕円形	北北東	なし	1.08	0.81	0.50	0.28	0.55														
34	108号	M-5	YLM上	円形	なし	なし	0.77	0.73	0.52	0.50	0.35	0.12×0.09	0.15	0.10×0.09	0.18										
34	109号	M-5	AN～ZN	円形	なし	103･104号土坑より古	(1.60)	1.36	0.50	0.42	1.27	0.13×0.13	0.17												

表５－４　遺構計測表（土坑④）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m) 上	最大幅(m) 上	最大長(m) 下	最大幅(m) 下	最大深(m)	P1径	深さ	P2径	深さ	P3径	深さ	P4径	深さ	P5径	深さ	P6径	深さ	P7径	深さ
34	110号	M-4	YLM上	円形	なし	60号土坑より古	(0.69)	0.70	(0.65)	0.53	0.26	0.10×0.07	0.12	0.09×0.09	0.13	0.17×0.12	0.15	0.15×0.13	0.17						
34	111号	R-6	YLM上	長楕円形	西北西	112号土坑より新	1.14	0.66	0.90	0.48	0.38	0.10×0.10	0.08	0.12×0.11	0.10	0.08×0.08	0.08								
35	112号	R-6	AN～ZN	円形	なし	111号土坑より古	(0.90)	(0.84)	0.39	0.29	1.25	0.07×0.06	0.14	0.09×0.07	0.14										
34	113号	R-7	KGP	長楕円形	北北東	なし	(0.70)	(0.50)	0.54	0.25	1.03	0.13×0.12	0.16	0.09×0.08	0.28										
35	114号	R-7	AN～ZN	楕円形	東西	119号土坑より新 115号土坑より古	(1.15)	(0.75)	0.65	0.39	0.94	0.16×0.13	0.21	0.09×0.08	0.13	0.10×0.10	0.22								
35	115号	R-7	AN～ZN	長楕円形	北北西	114･119号土坑より新	(1.10)	(0.65)	0.75	0.49	0.73	0.08×0.08	0.16	0.08×0.07	0.13	0.08×0.07	0.13	0.09×0.07	0.15						
36	116号	R-6	YLM上	円形	なし	なし	0.68	0.64	0.41	0.33	0.63	0.11×0.08	0.14												
36	117号	Q-6	YLM上	円形	なし	なし	1.30	1.14	0.61	0.50	0.92	0.17×0.15	0.31												
36	118号	Q-7	YLM上	長楕円形	不明	なし	(0.21)	(1.00)	(0.95)	(0.75)	0.67	0.08×0.08	0.20	0.09×0.08	0.14	0.08×0.07	0.18								
35	119号	R-7	YLU	楕円形	不明	120号土坑より新 114･115号土坑より古	(1.05)	(0.87)	0.38	0.25	0.93	0.09×0.07	0.19												
35	120号	R-7	AN～ZN	円形	なし	119号土坑より古	(1.09)	(0.95)	0.59	0.17	0.80														
36	121号	J-4	AN～ZN	円形	なし	なし	(0.65)	0.60	0.39	0.33	0.85	0.10×0.08	0.10												
36	122号	J-4	YLM上	楕円形	北北東	なし	1.00	0.80	0.68	0.45	0.29	0.16×0.14	0.19	0.20×0.18	0.24										
37	123号	J-4	YLM上	長楕円形	東北東	126号土坑より新	1.20	0.73	0.84	0.50	0.60	0.11×0.08	0.21	0.11×0.10	0.19										
37	124号	J-4	YLM上	長楕円形	西北西	132･134号土坑より古	1.00	(0.50)	0.80	(0.36)	0.32	0.14×0.12	0.13	0.10×0.10	0.16										
37	125号	K-4	YLM上	円形	なし	なし	0.95	0.86	0.60	0.55	0.58	0.09×0.08	0.15	0.12×0.10	0.15	0.13×0.11	0.13								
37	126号	J-4	YLM上	円形	なし	123号土坑より古	0.95	(0.82)	0.50	0.45	0.59	0.10×0.10	0.15												
37	127号	K-4	YLM上	楕円形	北西	なし	1.10	0.83	0.48	0.31	1.04	0.10×0.08	0.12												
38	128号	K-4	YLM上	長楕円形	東北東	なし	1.20	0.77	0.50	0.45	0.85	0.09×0.08	0.15	0.09×0.07	0.13										
38	129号	K-4,L-4	AN～ZN	楕円形	北北東	なし	1.20	(0.90)	0.32	0.29	1.53	0.13×0.08	0.15												
38	130号	J-5,K-5	YLM上	楕円形	西北西	131号土坑より新	0.98	0.68	0.51	0.45	0.43	0.13×0.12	0.18	0.08×0.07	0.14	0.08×0.08	0.14								
38	131号	K-5	YLM上	楕円形	北北西	130号土坑り古	1.45	0.97	1.27	0.67	0.43	0.10×0.09	0.17	0.10×0.07	0.15	0.10×0.08	0.11	0.11×0.10	0.16						
39	132号	J-4	YLM上	楕円形	西北西	124･134号土坑より新	1.15	0.90	0.51	0.30	0.62	0.09×0.09	0.18												
39	133号	K-5･6	YLM上	楕円形	北北西	なし	0.86	0.70	0.55	0.42	0.32	0.13×0.11	0.13	0.13×0.12	0.09										
39	134号	J-4	YLM上	円形	なし	124号土坑より新 132号土坑より古	(0.94)	0.83	0.34	0.25	1.85														
39	135号	L-5	YLM上	円形	なし	なし	1.33	1.18	0.80	0.56	0.97	0.08×0.08	0.10	0.08×0.07	0.08	0.10×0.09	0.08	0.10×0.09	0.14						

表５－４　遺構計測表（土坑⑤）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m) 上	最大幅(m) 上	最大長(m) 下	最大幅(m) 下	最大深(m)	P1径	深さ	P2径	深さ	P3径	深さ	P4径	深さ	P5径	深さ	P6径	深さ	P7径	深さ
40	136号	L-4	YLM上	円形	なし	なし	0.81	0.77	0.55	0.50	0.43	0.16×0.15	0.28												
40	137号	L-4	YLM上	長楕円形	東北東	155号土坑より新	1.37	0.90	0.67	0.39	1.07	0.18×0.17	0.18												
40	138号	L-5	YLM上	円形	なし	なし	1.03	0.90	0.74	0.60	0.49	0.10×0.07	0.19	0.13×0.12	0.17	0.13×0.13	0.16								
40	139号	K-5	AN～ZN	円形	なし	なし	0.83	(0.65)	0.40	0.30	0.80	0.08×0.08	0.08	0.08×0.06	0.10										
40	140号	K-5	AN～ZN	長楕円形	西北西	なし	(0.50)	0.48	(0.32)	0.21	0.48	0.08×0.06	0.15												
41	141号	L-5	AN～ZN	円形	なし	なし	0.64	(0.39)	0.23	(0.17)	0.56														
41	142号	L-5	AN～ZN	円形	なし	なし	(0.50)	0.50	0.20	(0.20)	0.68	0.08×0.08	0.25												
41	143号	K-5	AN～ZN	円形	なし	なし	0.79	(0.60)	0.64	(0.45)	0.43	0.35×(0.37)	0.60												
41	144号	L-5・6	AN～ZN	円形	なし	なし	1.00	(0.58)	0.68	(0.31)	0.51	0.10×0.09	0.15	0.08×0.07	0.15										
41	145号	J-5	YLM上	円形	なし	なし	0.82	0.75	0.50	0.50	0.26	0.16×0.14	0.18												
41	146号	J-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	(1.09)	(0.83)	1.00	0.72	0.36	0.14×0.13	0.28	0.16×0.15	0.19										
42	147号	L-5	YLU	円形	なし	なし	0.83	0.80	0.59	0.49	0.66	0.09×0.09	0.15												
42	148号	L-5	YLU	円形	なし	なし	0.78	0.69	0.32	0.32	0.57	0.08×0.07	0.14	0.06×0.06	0.12										
42	149号	L-5	YLU	楕円形	東北東	なし	1.02	0.85	0.62	0.35	0.78	0.08×0.07	0.15	0.08×0.07	0.14										
42	150号	L-4	YLU	円形	なし	151号土坑より新	0.81	0.73	0.70	0.60	0.39	0.10×0.08	0.12	0.08×0.08	0.14	0.08×0.08	0.10	0.10×0.09	0.13						
42	151号	L-4	YLU	長楕円形	東北東	150号土坑より古	1.12	0.74	0.94	0.65	0.30	0.08×0.07	0.15	0.08×0.07	0.14	0.09×0.08	0.15	0.09×0.09	0.15						
43	152号	L-4	YLU	円形	なし	なし	0.77	0.66	0.63	0.55	0.25	0.09×0.07	0.15												
43	153号	L-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	0.93	0.75	0.50	0.40	0.91	0.12×0.11	0.11	0.12×0.08	0.13										
43	154号	J-6	AN～ZN	楕円形	北北西	なし	0.95	0.70	0.28	0.22	1.15	0.07×0.06	0.12												
40	155号	L-4	YLM上	楕円形	不明	137号土坑より古	(0.65)	0.70	(0.49)	0.45	0.42														
41	156号	L-5	YLU	円形	なし	なし	1.00	0.85	0.48	0.31	0.77	0.08×0.07	0.18												
41	157号	L-5	YLM上	楕円形	西北西	なし	1.02	0.71	0.40	0.28	0.67	0.08×0.06	0.09	0.07×0.05	0.12										
44	158号	L-5	YLM上	楕円形	東北東	なし	0.90	0.69	0.62	0.53	0.43	0.10×0.09	0.17	0.09×0.09	0.17										
44	159号	K-5,L-5	YLM上	円形	なし	なし	0.72	0.65	0.42	0.41	0.30	0.13×0.10	0.25												
44	160号	L-5	YLM上	円形	なし	167号土坑より新	0.75	0.67	0.49	0.41	0.29	0.10×0.09	0.18												
44	161号	J-5・6	YLM上	円形	なし	なし	0.74	0.66	0.49	0.39	0.35	0.10×0.10	0.13												
44	162号	J-6	AN～ZN	円形	なし	なし	0.79	0.73	0.42	0.38	1.00	0.10×0.08	0.13												
45	163号	J-6	AN～ZN	円形	なし	なし	1.10	1.12	0.45	0.40	0.90	0.16×0.14	0.36												
45	164号	L-5	YLM上	円形	なし	なし	0.78	0.65	0.41	0.35	0.47	0.07×0.07	0.13	0.07×0.06	0.11										
45	165号	L-5・6	YLM上	円形	なし	167号土坑より新	0.70	0.70	0.35	0.30	0.55	0.08×0.08	0.18	0.08×0.08	0.16										
45	166号	K-6	YLM上	楕円形	北北西	なし	0.96	(0.70)	0.69	(0.58)	0.22	0.08×0.08	0.15	0.12×0.08	0.15	0.10×0.08	0.17								
45	167号	L-5	YLM上	円形	なし	160・165号土坑より古	0.95	0.94	0.67	0.62	0.40	0.10×0.07	0.2	0.10×0.09	0.15	0.10×0.10	0.17								
46	168号	L-4	YLU	円形	なし	なし	0.98	0.83	0.51	0.30	0.89	0.08×0.05	0.11	0.09×0.07	0.12										
46	169号	L-5	YLU	円形	なし	なし	0.48	0.43	0.25	0.20	0.20	0.08×0.08	0.15												

第３節　土　器

本遺跡で出土した縄文土器を一括して報告する。出土した土器は、破片数で417点である。ただしこれは接合するものや、明らかに同一個体と認定できるものも、それぞれ総破片数を数え上げた数字であって、個体数ではない。

土器は縄文時代前期～後期と考えられるものが出土した。このうち73点を報告する。小破片が多く、かつ個体数認定の困難な資料もあることから、個体数は算出していない。紋様のあるもの、口縁部、底部については可能な限り図を作成して掲載した。分類は以下のとおりである。なお、個々の土器の詳細については表６の観察表を参照のこと。また、土器の分布状況についてはドットマップを作成した（第48～50図）。

第Ⅰ群　前　期（第51図１～第53図58）
　１類　後葉の土器　　ａ種　沈線紋を主とするもの
　　ｂ種　浮線紋を主とするもの
　　ｃ種　浅鉢形土器
　２類　終末期の土器
　３類　縄紋施紋のみの土器
　４類　無紋の底部
第Ⅱ群　中　期（第54図59～65）
　１類　曽利Ⅰ式に属するもの
　２類　曽利Ⅱ式に属するもの
　３類　後葉の壷形土器、注口土器ないし鍔付土器の可能性のあるもの
第Ⅲ群　後　期（第54図66～73）
　１類　初頭の土器
　２類　中葉の土器
　３類　底部

第Ⅰ群　前　期（第51図１～第53図58）

１類　後葉の土器（１～18）

浮線紋、平行沈線紋を有する諸磯ｂ式を本類として分類した。第51図１～７は沈線紋を主とするａ種である。口縁部が残存している破片は全て波状口縁となり、内湾するものもある。１はＬＲの縄紋が施されている。18は一応ａ種にしたが、「く」の字状に屈曲する器形を呈し、浅鉢の可能性がある。器壁は薄く、他のａ種の破片とは明らかに顔付きが異なっている。

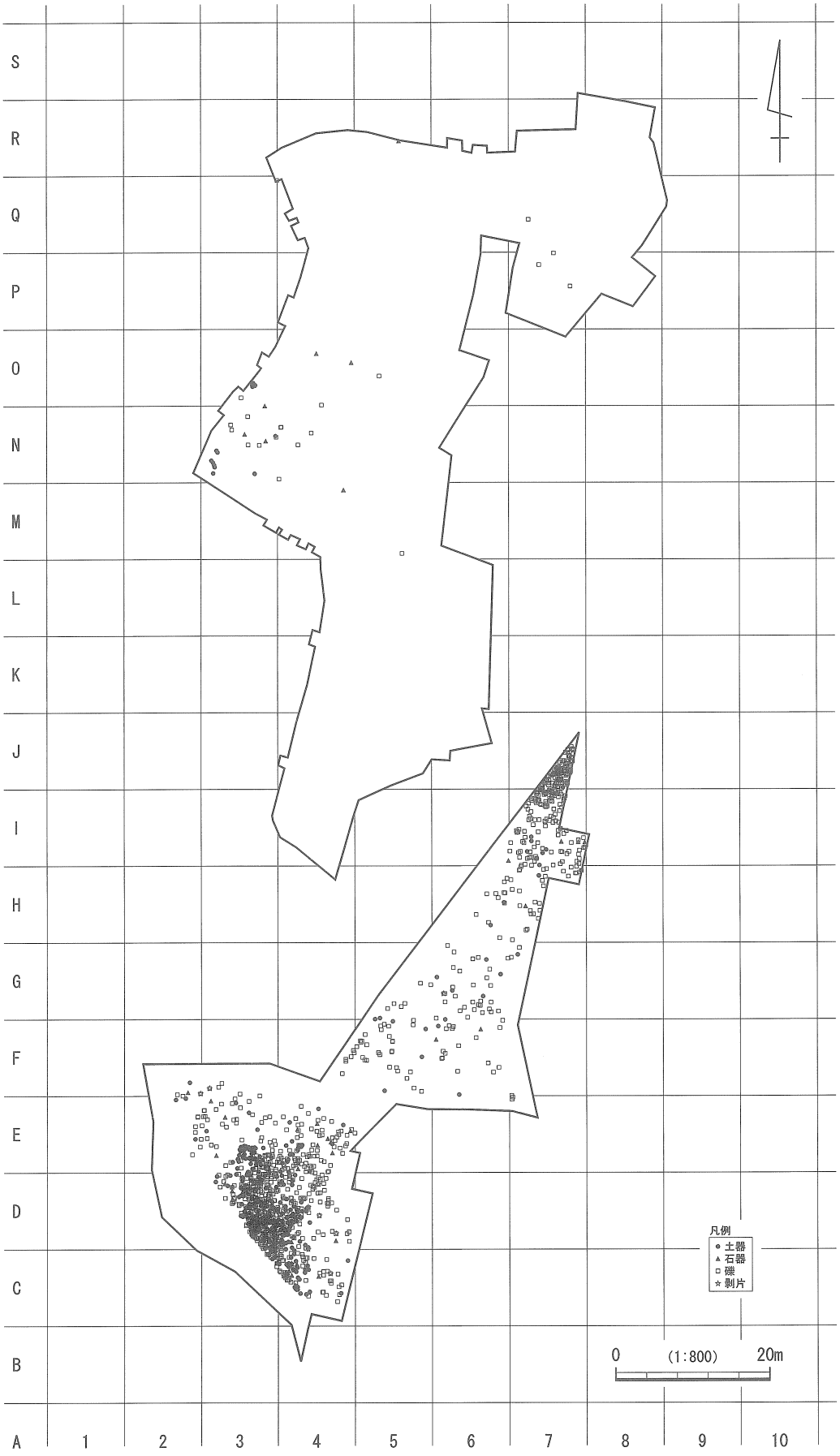
ｂ種は浮線紋を有するもので、第51図８～16が該当する。このうち８～10と、11～16は、胎土・施文の状況からそれぞれ同一個体である可能性が高い。出土した資料は全て胴部の破片であり、口縁部は存在しない。断片的な資料であるため器体の形状は不明である。浮線紋上に矢羽根状の刻みを施すものが多い。地紋の縄紋は、判明するものに関しては全てＲＬである。

ｃ種は浅鉢形土器である。口縁部が強く内屈し、その部分が文様帯となり、木葉状紋を施す。

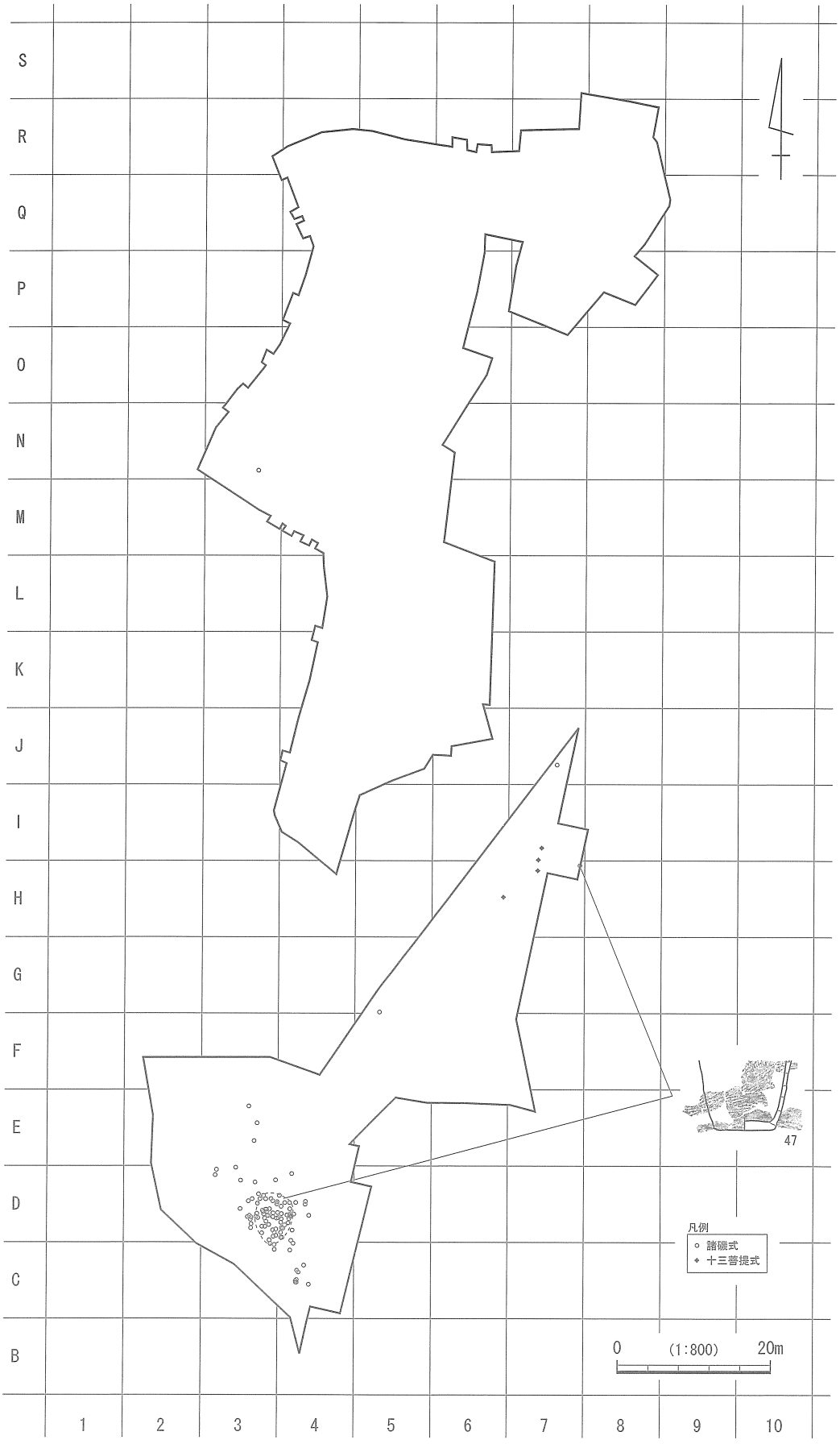
２類　終末期の土器（19・20）

19・20は同一個体である。何れも十三菩提式特有の渦巻状等のモチーフを描く。

３類　縄紋施紋のみの土器（第52図21～第53図57）



第 48 図　縄文土器・石器・剥片・礫分布図



第 49 図　縄文土器分布図（前期）

第 50 図　縄文土器分布図（中・後期）

ここで３類として分類したものは、縄紋（撚糸紋？も含む）を施紋しただけであるが、第53図48のように、貼付けをもつものもある。ほとんどが単節ＲＬないしはＬＲの斜縄紋を施す。少数であるが、縄端結束の見られるもの（第52図33、43？、44）があり、羽状縄紋が見られるものもある。また、1片ずつだが、無節縄紋（第53図57）と、０段の条の組紐による撚糸紋と思われるもの（56）がある。口縁部の形態は、緩やかに外反するもの（第52図21～27）と、内湾するもの（第53図48、50、51）がある。後者は器形の上で、明らかに諸磯ｂ式に比定できるものである。48の貼付けもそれを傍証する。

４類　無紋の底部（第53図58）

一応本群に含めたが、前期以外の時期の可能性もある。

第Ⅰ群土器のまとめと編年的位置

第Ⅰ群土器は、土器出土量の極めて少ない本遺跡において、量的には主体をなすものである。現在の土器研究に照らし合わせ、細別時期の比定を行ないたい。

第１類の諸磯ｂ式土器であるが、古い段階に特有の爪形紋を施す土器はない。また、新しい段階に見られる集合沈線を施紋する土器も存在しない。細片が多いため、文様帯や全体のモチーフなど不明な点が多いが、以下の点も勘案したい。①口縁の屈曲の強いものが多い。②木葉状紋を有する浅鉢が伴う。③獣面把手は見られないが、それが形骸化した楕円形の貼付をもつ土器がある（第53図48）。

以上の点から、第Ⅰ群１類及び３類の一部について、先行研究の細別案に対する比定を行なう。今村啓爾氏の細別案（今村　1981）は、諸磯ｂ式を（古）（中）（新）に分け、（中）を前半・後半に細分するものである。本遺跡の例は、明らかに（中）段階の後半に属する。神奈川県の土器を扱った松田光太郎氏の案（松田　1999）は、古段階、中１段階、中２段階前半、中２段階後半、新段階の５期に細分する。本遺跡例は、中２段階前半に比定出来ると思われる。山梨県の土器を扱った櫛原功一氏の案（櫛原1999）は１～６段階に細分する。本遺跡例はそのうちの３段階に比定出来ると考えられる。ただし櫛原編年では、古い要素である「平行沈線による鋸歯文をもつ土器もこの段階まで残る」とされているが、本遺跡では見当たらない。最も新しい関根慎二氏の細分（関根　2008）は、古段階、中１段階、中２段階、新段階の４期細分である。本遺跡例は、中２段階だと考えられる。結論的には本遺跡の諸磯ｂ式土器は、時期的な同時性が強く、いずれの編年案においても、３段階に分類する場合には中段階であり、中段階でも中ごろ、ないしは中段階後半の古い時期であることが共通していると思われる（註1）。

次に第２類の十三菩提式土器について述べる。僅か２片のみであり、接合はしないが同一個体と判断できるため、１個体のみの出土ということになる。松田光太郎氏の６期細分案（古１、古２、中１、中２、新１、新２の段階に分ける）（松田　2002）の中２段階に比定できる。関東系の土器である。

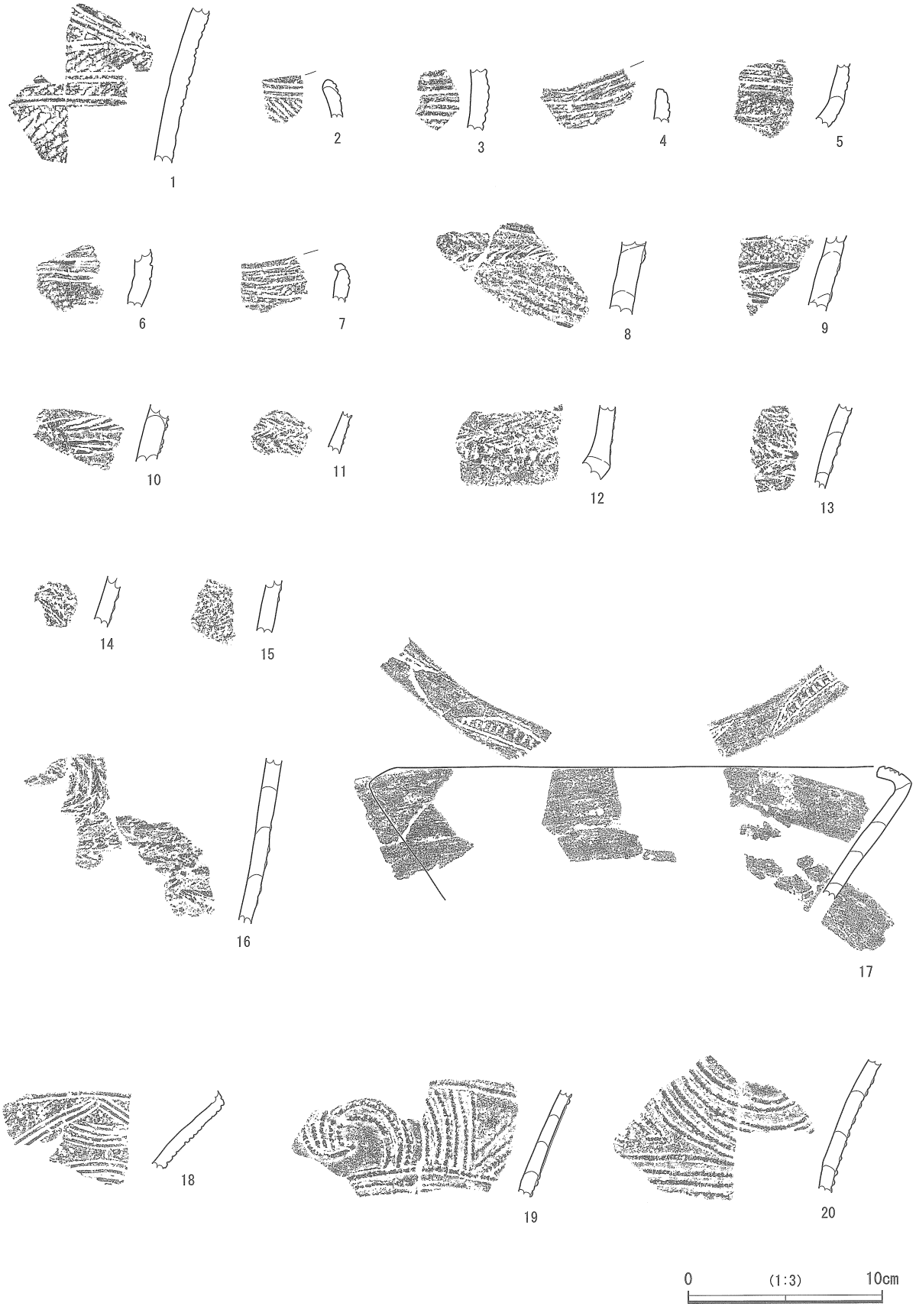
第３類として分類した土器は、縄紋のみが施される土器で、一部を除き帰属型式が不明である。型式がわかるのは、強く内湾する口縁部の土器（第53図48～51）である。何れも器形や顔付きの点から諸磯ｂ式であるのは明らかである。その他の土器については、残念ながら明確な比定は困難である。ただし、多くの土器が胎土・焼成・顔付きの点で、１類の諸磯ｂ式土器と類似する。また、大半の土器が裏面に丁寧なナデ調整を施すなど、いわゆる「粗製土器」的ではない。以上の点から、３類のほとんどの土器は諸磯ｂ式期と思われる。

なお、本遺跡からは北白川下層式土器は出土していない。

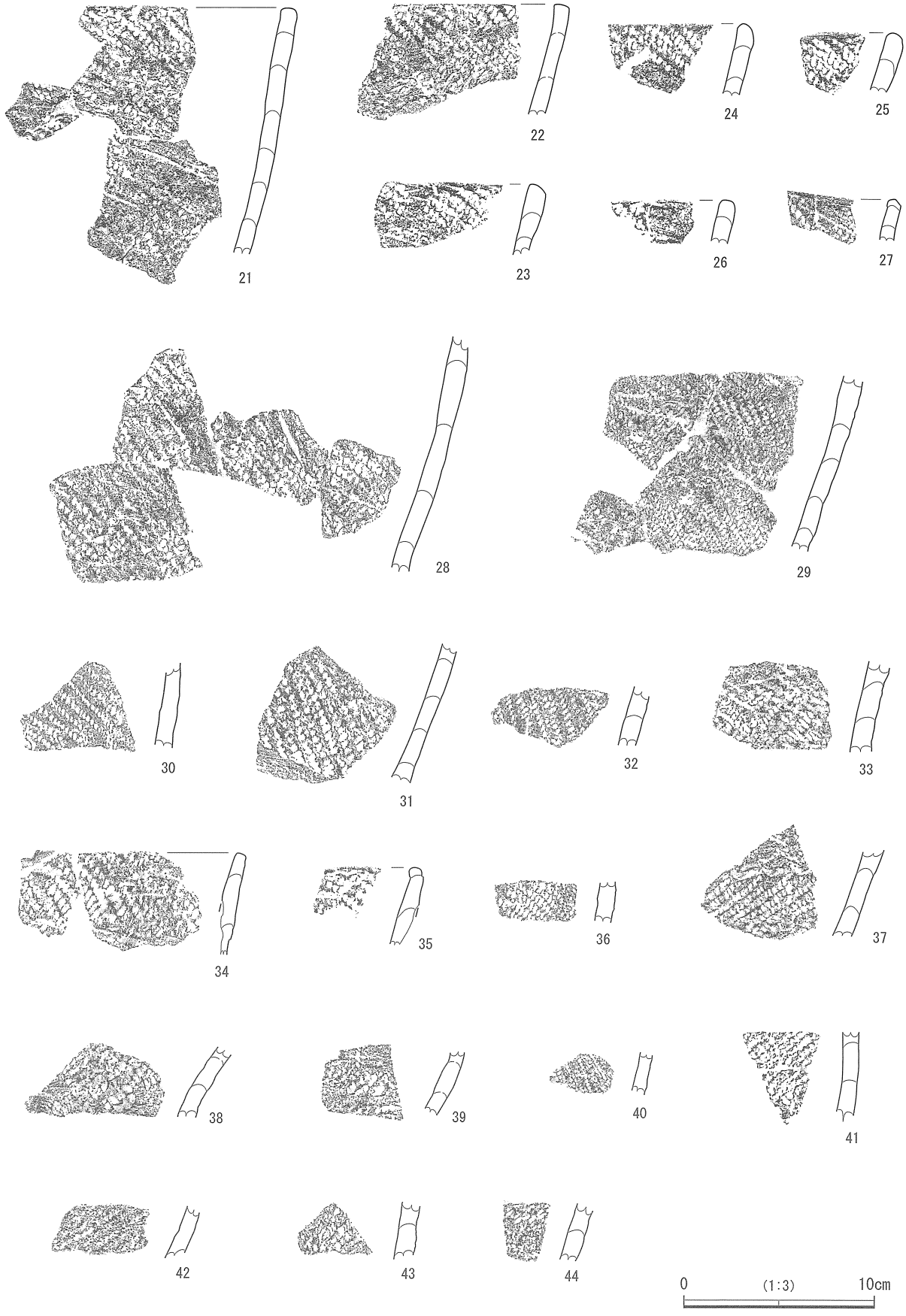
第Ⅱ群　中　期（第54図59～65）

１類　曽利Ⅰ式に属するもの（59・60・61・64）

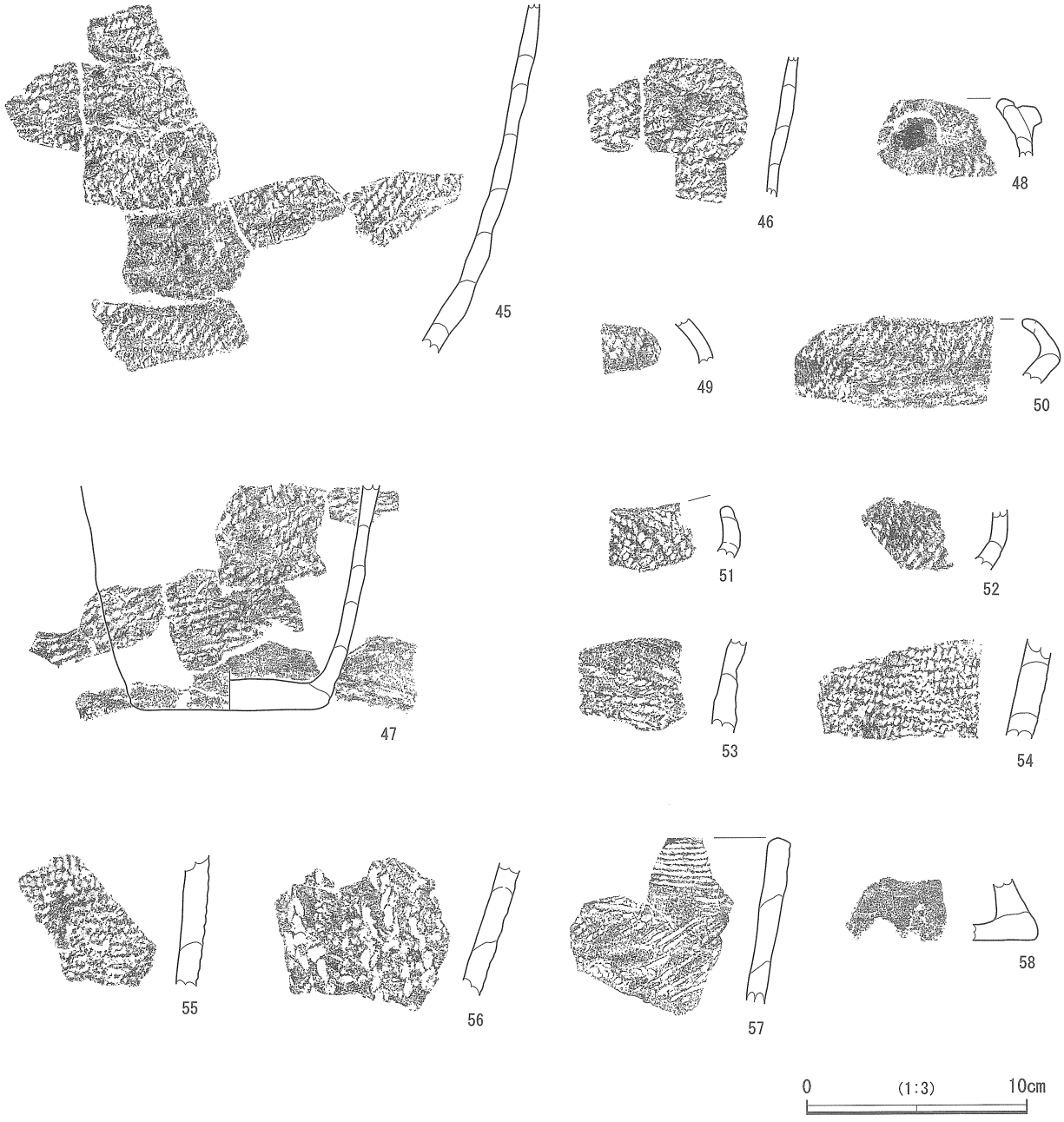
僅か４片の出土であり、59～61は明らかに同一個体である。64もその可能性が強い。そうであるならば、１個体のみの出土ということになる。小甕の胴部であると考えられ、隆帯上に半裁竹管の内側に



第 51 図　縄文土器（１）


21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
0
(1:3)
10cm

第 52 図　縄文土器（２）



第53図　縄文土器（３）

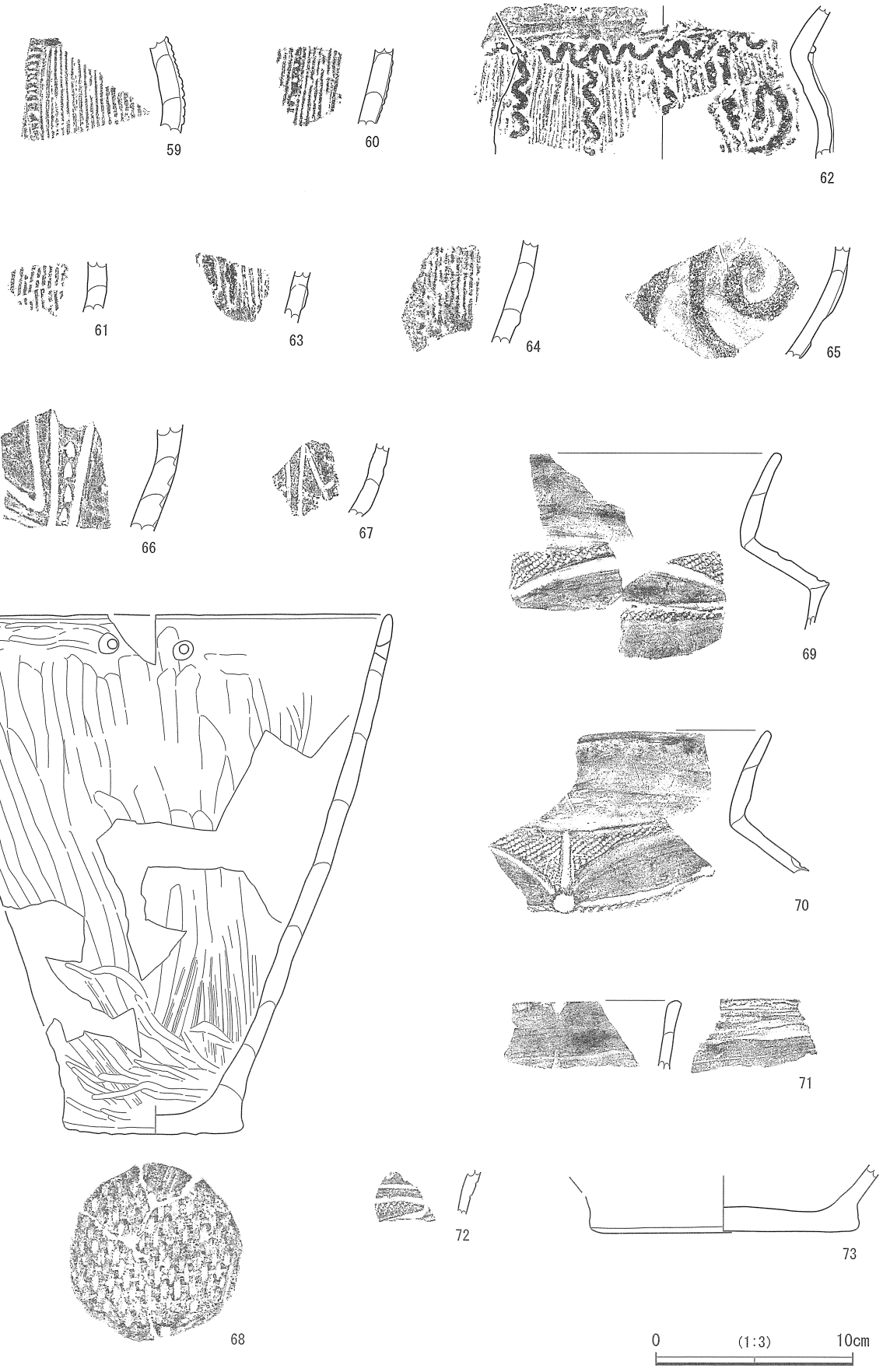
よる押し引き紋を施す。

２類　曽利Ⅱ式に属するもの（62・63）

62・63は同一個体の可能性が強い。そうであるならば、１個体のみの出土ということになる。62は口縁部を無紋にする小甕である。頚部～胴部は、明らかに、粘土紐の貼付けより先に地紋の半裁竹管による条線施紋を行なっている。また、貼付けた粘土紐の観察から、胴部の垂直方向の隆線を先に貼付けた後、頚部の水平方向の蛇行隆線を貼付けている。

３類　後葉の壷形土器、注口土器、鍔付土器の可能性のあるもの（65）

非常に太い凹線による渦巻紋を描くものである。凸部は隆帯の貼付けによると思われるが、極めて低平である。断面の傾きは図とは異なる可能性もある。



第 54 図　縄文土器（４）

第Ⅱ群土器のまとめと編年的位置

１類の土器の隆帯は、山形眞理子氏の懸垂紋２類である（山形　1996)。近年、曽利Ⅰ式を２細分するのが通例になっている（前掲山形論文、(今福　2005)、(櫛原　2008）など)。本遺跡の例は細片のため、頚部文様を基準とする細分は不可能であるが、山形氏の細分で言えば、曽利古２式に比定できる。従来の編年ならば、曽利Ⅰ式の新しい段階である。新地平編年(小林他　2004)では10a ～ｂ期に相当しよう。

２類の62は地紋の条線施紋を、隆線の貼付けに先立って行なっている。これは山形氏の、「施紋順序Ｂ」であり、山形氏細分の曽利古３式に分類される。新地平編年の11c1期に相当するか。

３類は後葉でも新しい部分に帰属するであろう。

第Ⅲ群　後　期（第54図66 ～ 73）

１類　初頭の土器（66 ～ 67）

２片出土しているが、胎土、器厚、顔付き等より明らかに別の個体であると認識できる。66は器厚がやや厚い土器で、区画の詳細については不明であるが、三角形を基調とするモチーフを有すると思われる。棒状工具による列点状の刻みを区画内に充填する。67は小片のため本類に含めて良いのか、やや迷う点もある。同様に三角形状の区画になる可能性がある。

２類　後葉の土器（68 ～ 73）

本類には、加曽利Ｂ式であることが明確なもの（69・70）と、他の型式の可能性も存在するものに分かれる。69･70は典型的な算盤玉形土器であり、接合はしないが、同一個体であることは明らかである。68は無紋の土器で、口縁から底部まで揃い、器形がわかるということでは注目すべき個体である。底部に網代痕を残している。72は磨消縄紋を有する土器で、小片のため明確な型式比定は難しい。73は底部の形状から本類に含めたが、１類の可能性もある。

第Ⅲ群土器のまとめと編年的位置

１類のうち、66は明確な称名寺Ⅱ式である。モチーフ全体の構図が不明のため、やや明確さを欠くが、石井　寛氏の細分（称名寺式全体を古・中・新に大別し、それぞれを２段階に細別する。さらに古と中の間に第３段階を入れ、結果として７段階に細分する。従来の称名寺Ⅰ式は１～５段階、称名寺Ⅱ式は６・７段階に比定される。）（石井　1992）によるならば、６段階に比定されると思われる。称名寺Ⅱ式の古い段階である。67は細片のため、比定困難だが、やはり称名寺Ⅱ式の可能性が高い。

２類は、確実に加曽利Ｂ式土器に比定できるものと、やや不確実なものが含まれている。まず算盤玉形土器の69･70である。算盤玉形土器は加曽利Ｂ２式からＢ３式にかけて一般的に存在する器形であり、東京都大森貝塚の出土例でも有名である。問題となるのは、本遺跡の出土例がＢ２式かＢ３式かという点である。本遺跡例で注意すべき点として、以下の点がある。①口縁の外反の程度が強いこと（69・70は、作成した図より外反の程度が更に強い可能性がある)、②最大径をもつくびれ部の直下に無紋部分がある（69より)。この点を斟酌して論を進めたい。

秋田かな子氏は、「加曽利Ｂ２式中段階は、西部関東におけるソロバン玉形土器の成立を指標とする」とされる。また、Ｂ３式になると「崩れた感のあるものに変わってしまう」とする（秋田　2008)。秋田氏の編年図では、くびれ部以下の紋様に、①水平方向の矢羽根状の沈線を持つものと、②斜方向ないし横方向の直線的な沈線で矢羽根状とはならないものとの間に線を引き、前者をＢ２式、後者をＢ３式に分けている。また、添付された編年図では、口縁部の無紋部が幅広く、強く外反する小振りの土器（長野県離山遺跡例)をＢ３式の古い段階に、わずかに外反気味となる(本遺跡例に比べて外反の程度は弱い)千葉県西根遺跡例を、Ｂ３式の中頃の段階としている。また、同様に新しい研究である菅谷通保氏の論文（菅谷　2008）では、外反の程度が西根遺跡例より更に強い（本遺跡例に類似する）千葉県祇園原貝塚50号住居址例を掲げ、Ｂ３式の例としてとりあげている。これらの研究や事例を参考にするならば、

口縁部のあり方からは、本遺跡出土の 69・70 はＢ３式の特徴をそなえている。

②の、くびれ下の無紋部分であるが、前述の長野県離山遺跡例も同様に無紋部分が存在する。他の例としては、秋田氏がとり上げている埼玉県寿納泥炭層遺跡例と、東京都大森貝塚例（鈴木正博他 1980）等がある。ただし後二者はともに、無紋部分の下に文様帯があり、上下を横方向の沈線で区画した中に沈線で横方向の矢羽根状紋を施している。前述した秋田氏の基準に照らし合わせると、両者ともにＢ２式である。従って、くびれ下の無紋部分を有する算盤玉形土器はＢ２式にもＢ３式にも存在することになり、型式分類の基準とはなり得ない。以上の点から判断して、本遺跡例は、加曽利Ｂ３式に比定できると考えられる。ただし、Ｂ３式の中でどれくらいの細別時期に属するかという点については、ここでは詳述は避けたいと思う。

68 は無紋土器で、編年的な位置付けは難しい。しかし器形全体や口縁部の形態、本遺跡から出土している他の土器の諸型式などの点から考えて、後期初頭～前葉ではなく、中葉の土器と考えた。類例は神奈川県の東正院遺跡（鈴木保彦他　1972）や下北原遺跡（鈴木保彦他　1976）などにある。71 ～ 73 は他の時期の可能性も考えられる。

（註１）

付け加えるならば、本遺跡の南西約３～ 400 ｍの距離に位置する、諸磯ｂ式期の集落遺跡である細野沢遺跡も、本遺跡と同一時期の土器が多数出土しており、本遺跡との関連性が注目される。また、集落の可能性のある千福市場平第１遺跡でも本遺跡と同時期の諸磯ｂ式土器が検出されている（井上他　1982）。

引用・参考文献

秋田かな子　2008　「加曽利式Ｂ式土器」『総覧　縄文土器』 アム・プロモーション

石井　寛　　1992　「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』 第９冊　（財）横浜市ふるさと歴史財団

井上輝夫・宮井栄一他　1982　『裾野市千福市場平第１、第２　小杉平第１、第２　細野沢遺跡発掘調査報告書』 裾野市文化財調査報告第３集　裾野市教育委員会

今福利恵　　2005　「曽利式土器編年再考－甲府盆地域を中心に－」『山梨県考古学協会誌』 第 15 号

今村啓爾　　1981　「諸磯式土器」『縄文文化の研究　３　縄文土器Ⅰ』 雄山閣

櫛原功一　　1999　「山梨県内の諸磯式土器」『第 12 回縄文セミナー　前期後半の再検討　資料集・記録集』 縄文セミナーの会

櫛原功一　　2008　「曽利式土器」『総覧　縄文土器』 アム・プロモーション

小林謙一・中山真治・黒尾和久　2004　「１、多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定（補）」『シンポジウム　縄文集落研究の新地平３－勝坂から曽利へ－発表要旨』 縄文集落研究グループセツルメント研究会

菅谷通保　　2008　「曽谷式・後期安行式土器」『総覧　縄文土器』 アム・プロモーション

鈴木正博他　1980　『大田区史（資料編）　考古Ⅱ』 大田区

鈴木保彦他　1972　『東正院遺跡調査報告』 神奈川県教育委員会・東正院遺跡調査団

鈴木保彦他　1978　『下北原遺跡』 神奈川県埋蔵文化財調査報告 14　神奈川県教育委員会

関根慎二　　2008　「諸磯式土器」『総覧　縄文土器』 アム・プロモーション

松田光太郎　1999　「神奈川県における諸磯ａ・ｂ式土器の様相」『第 12 回縄文セミナー　前期後半の再検討　資料集・記録集』 縄文セミナーの会

松田光太郎　2002　「関東・中部地方における十三菩提式土器の変遷」『神奈川考古』 第 38 号

山形眞理子　1996　「曽利式土器の研究（上）－内的展開と外的交渉の歴史－」『東京大学文学部考古学研究室紀要』 第 14 号

表６　土器観察表①

図版番号	掲載番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	層位	時期・型式	分類	残存部位	外面色調 内面色調	胎土・混和材	文　様・調　整　等
51	1	D-3	KGP ～AN	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	胴部	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	やや粗、長石径1mm以下、石英径1mm以下を含む。	縄紋LR→半裁竹管の内面による平行沈線で水平方向に区画→半裁竹管の内面による平行沈線を斜方向に施し三角形状のモチーフ?を描く。内面ヨコナデ。
51	2	D-3	FB	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	口縁部	10YR4/2灰黄褐色 7.5YR4/2灰褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	口縁直下に半裁竹管による平行沈線→斜方向の平行沈線。波状口縁。
51	3	C-4	AN	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	胴部	10YR4/2灰黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	やや粗、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.2mm以下を含む。	半裁竹管による横位の集合沈線。
51	4	D-4	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	口縁部	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	やや粗、長石径0.2mm以下、石英径0.2mm以下、金雲母径0.5mm以下を含む。	縄紋→半裁竹管により口縁に沿って集合沈線。波状口縁。
51	5	D-3	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋→半裁竹管により横位に集合沈線。内面ヨコナデ。
51	6	D-3	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.5mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	縄紋→半裁竹管により横位に沈線。
51	7	D-4	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	口縁部	10YR4/3にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径0.3mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋→半裁竹管により口縁に沿って集合沈線。波状口縁。
51	8	C.D-3	AN	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	5YR4/6赤褐色 5YR4/3にぶい赤褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL→浮線紋を横位に施紋→浮線紋上に斜めの刻み(刻みの施されない浮線紋もある)。9･10と同一個体と思われる。
51	9	D-3	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	5YR3/2暗赤褐色 5YR3/2暗赤褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL→浮線紋を横位に施紋→浮線紋上に斜めの刻み(刻みの傾きは浮線紋ごとに反対方向になり、矢羽根状となる)。8･10と同一個体と思われる。
51	10	D-3	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	5YR4/6赤褐色 7.5YR4/3褐色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL→浮線紋を横位に施紋→浮線紋上に斜めの刻み(刻みの傾きは浮線紋ごとに反対方向になり、矢羽根状となる)。8･9と同一個体と思われる。
51	11	D-3	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	7.5YR5/4にぶい橙色 7.5YR4/1褐灰色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.3mm以下を含む。	矢羽根状の刻みを持つ浮線紋が横位に施紋される。浮線紋は極めて低平である。内面は丁寧なヨコナデ。12～16と同一個体と思われる。
51	12	D-3	AN	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部～ 底部	7.5YR4/6褐色 10YR3/1黒褐色	密、長石径0.5mm以下、石英径0.2mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	矢羽根状の刻みを持つ浮線紋が横位に施紋される。浮線紋は極めて低平である。内面は丁寧なヨコナデ。11･13～16と同一個体と思われる。
51	13	D-3	AN	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	7.5YR5/4にぶい橙色 7.50YR4/1褐灰色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.3mm以下を含む。	矢羽根状の刻みを持つ浮線紋が横位に施紋され、渦巻状を呈すか。浮線紋は低平である。内面はやや丁寧なヨコナデ。11･12･14～16と同一個体と思われる。
51	14	D-3	KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	7.5YR6/4にぶい橙色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.3mm以下を含む。	矢羽根状の刻みを持つ浮線紋が横位に施紋され、渦巻状を呈すか。浮線紋は低平である。内面は丁寧なヨコナデ。11～13･15･16と同一個体と思われる。
51	15	D-3	AN	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	7.5YR5/4にぶい橙色 7.50YR4/1褐灰色	やや粗、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.3mm以下を含む。	矢羽根状の刻みを持つ浮線紋が横位(及び縦位も?)に施紋される。浮線紋は極めて低平である。内面はやや丁寧なヨコナデ。11～14･16と同一個体と思われる。
51	16	D-3	AN. KU. FB	前期・諸磯式	Ⅰ-1b	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 10YR3/2黒褐色	やや粗、長石径0.3mm以下、石英径0.2mm以下、赤褐色粒径0.1mm以下を含む。	矢羽根状の刻みを持つ浮線紋が渦巻状(上位)及び横位(下位)に施紋される。11～15と同一個体と思われる。内面は丁寧なヨコナデ。
51	17	C.D-4. D-3	KGP. AN. KU	前期・諸磯式	Ⅰ-1c	口縁部	5YR5/3にぶい赤褐色 5YR5/6明赤褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	口縁端部近くで強く内折する浅鉢。胴部は無紋。内折した外面に木葉状紋(沈線により輪郭を区画→多裁竹管?の先端による連続刺突により区画内部を充填)。内外面とも良く磨かれ、光沢を有す。
51	18	D-3	FB ～AN	前期・諸磯式	Ⅰ-1a	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/2灰褐色	密、長石径0.5mm以下、石英径0.5mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	鋭く屈曲する器形で器厚は薄い。縄紋→屈曲部に半裁竹管の内面による水平方向の平行沈線を施して上下に区画→半裁竹管の内面による平行沈線で三角形状のモチーフを描く→モチーフの角部に半裁竹管の内面による弧状の平行集合沈線を上下対称に描く。屈折部より上に連続する刻目?あり。浅鉢の可能性あり。
51	19	H-6.7	AN	前期・ 十三菩提式	Ⅰ-2	胴部	10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	密、長石径1mm以下、石英径1mm以下、径1mm以下の金雲母を含む。	水平方向の浮線(2本以上)により上下を区画→水平方向の浮線上を半裁竹管で押し引きして結節浮線紋とする→区画内に浮線により逆「J」字･鋸歯状?のモチーフを描く→モチーフの浮線上を半裁竹管で押し引きする。20と同一個体。
51	20	I-7	暗褐 色土	前期・ 十三菩提式	Ⅰ-2	胴部	10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	密、長石径1mm以下、石英径1mm以下、径1mm以下の金雲母を含む。	水平方向の浮線(4本以上)により上下を区画し、区画内に浮線により渦巻状のモチーフを描く→浮線上を半裁竹管で押し引きして結節浮線紋とする。19と同一個体。
52	21	C.D-4	KGP. FB	前期・ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、赤褐色粒径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。擦痕状の斜方向のナデ調整。内面は丁寧なヨコナデ。22～26･28･30と同一個体と思われる。
52	22	D-4	AN	前期・ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	10YR4/3にぶい黄褐色 10YR4/6褐色	密、長石径0.3mm以下、白色粒径0.1mm以下を含む。	擦痕状の横～斜方向のナデ調整。縄紋RL。内面は丁寧なヨコナデ。21･23～26･28･30と同一個体と思われる。
52	23	D-4	KGP	前期・ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、赤褐色粒径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は丁寧なヨコナデ。21･22･24～26･28･30と同一個体と思われる。
52	24	D-4	AN	前期・ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	10YR4/2灰黄褐色 7.5YR5/4にぶい橙色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面はヨコナデ。21～23･25･26･28･30と同一個体と思われる。
52	25	D-4	AN	前期・ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	10YR4/3にぶい黄褐色 10YR4/6褐色	密、長石径0.3mm以下、白色粒径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は丁寧なヨコナデ。21～24･26･28･30と同一個体と思われる。
52	26	D-3	AN	前期・ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	密、長石径0.5mm以下、石英径0.5mm以下を含む。	縄紋RL。内面は丁寧なヨコナデ。21～25･28･30と同一個体と思われる。

表６　土器観察表②

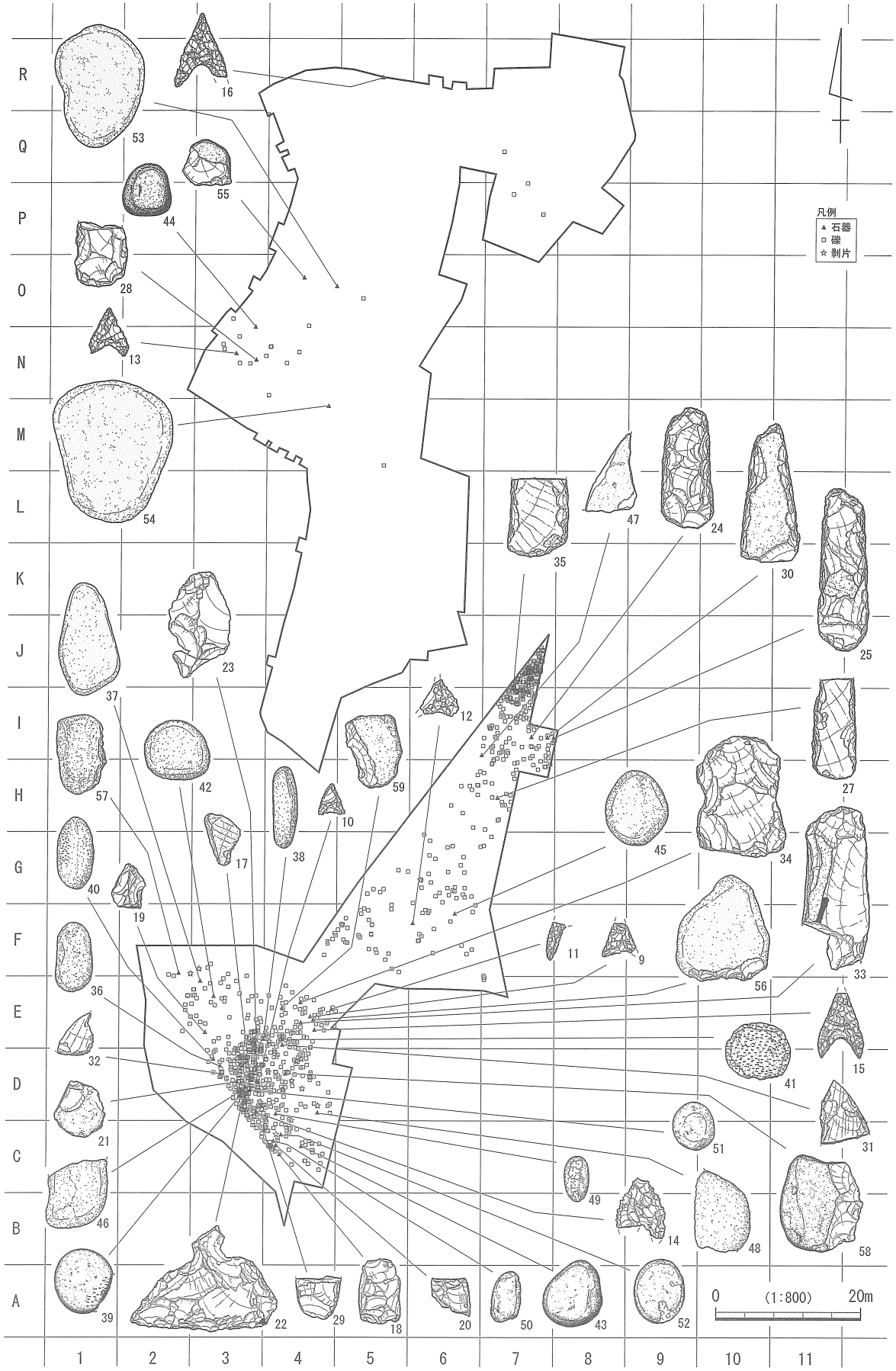
図版番号	掲載番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	層位	時期･型式	分類	残存部位	外面色調 内面色調	胎土･混和材	文　様・調　整　等
52	27	D-4	KGP	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径0.5mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	縄紋RL。内面はヨコナデ。波状口縁か。
52	28	C-4. D-3	SSC ～AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR4/1褐灰色 7.5YR4/6褐灰色	密、長石径2mm以下、石英径1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は斜方向のナデ。21～26･30と同一個体と思われる。
52	29	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	5YR5/6明赤褐色 7.5YR橙色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	擦痕状の斜方向のナデ調整。縄紋RL。内面は縦方向のナデ。
52	30	D-4	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/2灰褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は縦方向の丁寧なナデ。21～26･28と同一個体と思われる。
52	31	D-4	KGP	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR4/3にぶい黄褐色 10YR4/6褐色	密、長石径0.3mm以下、白色粒径0.1mm以下を含む。	擦痕状の横方向のナデ調整→縄紋RL。内面は丁寧なヨコナデ。
52	32	D-3	AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	5YR4/6赤褐色 5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は斜～縦方向の丁寧なナデ。
52	33	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR3/1黒褐色 7.5YR5/6明褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋LR。縄端結束による羽状縄紋。内面は丁寧なヨコナデ。
52	34	D-4	FB	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR5/4にぶい橙色 7.5YR6/6橙色	密、長石径0.6mm以下、石英径0.6mm以下を含む	擦痕状の横方向のナデ調整。縄紋RL。口唇部及び内面ヨコナデ。
52	35	D-3	AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は横方向の丁寧なナデ。外面に煤付着。
52	36	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は斜方向の丁寧なナデ。
52	37	E-3	KGP	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR4/6褐色 10YR4/2灰黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋LR。縄端結束(羽状縄紋か)。内面はヨコナデ。
52	38	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR4/2灰黄褐色 10YR4/4褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下黒色粒を含む。	縄紋LR。内面剥落多し。
52	39	D-4	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR6/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径0.2mm以下黒色粒径0.1mm以下を含む。	縄紋LRを疎らに施紋。内面はヨコナデ。
52	40	D-3	AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR5/6明褐色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。内面は縦方向の丁寧なナデ。
52	41	D-3	AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR5/4にぶい橙色 7.5YR6/6橙色	密、長石径0.6mm以下、石英径0.6mm以下を含む。	縄紋LR。内面はヨコナデ。
52	42	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR4/2灰黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	やや粗、長石径0.1mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	縄紋LR。内面剥落多し。
52	43	D-3	AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR4/3褐色 7.5YR4/2灰褐色	やや粗、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下を含む。	縄紋LR。縄端結束?(羽状縄紋か)。内面は丁寧なヨコナデ。
52	44	D-3	AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR4/3褐色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	縄紋RL。縄端結束。内面は丁寧なヨコナデ。
53	45	D-3.4	AN. KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	2.5Y6/4にぶい黄色 2.5Y4/2暗灰黄色	密、長石径1mm以下、石英径0.5mm以下を含む。	縄紋LR→指頭により凹線状の窪みを横方向につける。内面剥落多し。外面上位が若干赤色化している。46･47と同一個体。
53	46	D-3.4	AN. KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.6mm以下、石英径0.6mm以下を含む。	縄紋LR→指頭により凹線状の窪みを横方向につける。内面剥落多し。45･47と同一個体。
53	47	C-3. D-3.4	AN. KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	底部	7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.6mm以下、石英径0.6mm以下を含む。	縄紋LR。内面剥落多し。外面上位が若干赤色化している。内面に煤が付着し、黒変している。45･46と同一個体。
53	48	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR4/2灰褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗、長石径1mm以下、石英径0.5mm以下を含む。	楕円形貼り付け→縄紋LR。波状口縁か。49･50･52と同一個体と思われる。
53	49	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部?	7.5YR4/2灰褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗、長石径1mm以下、石英径0.5mm以下を含む。	縄紋LR。波状口縁か。48･50･52と同一個体と思われる。
53	50	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/2灰黄褐色	やや粗、長石径0.3mm以下、石英径0.1mm以下を含む。	縄紋LR。付着炭化物を年代測定(附編分析参照)。48･49･52と同一個体と思われる。
53	51	D-4	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	7.5YR6/6橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下を含む。	波状口縁。縄紋RL。内面はやや丁寧なヨコナデ。
53	52	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、チャート径0.2mm以下を含む。	縄紋LR。48～50と同一個体と思われる。
53	53	D-3	KU	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR6/6明黄褐色 10YR7/4にぶい黄橙色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下を含む。	縄紋LR→ヨコナデにより凹線状の効果を出す。内面黒変。
53	54	D-4	KGP	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、赤褐色粒径0.1mm以下を含む。	縄紋LRを斜方向に回転施紋。内面は丁寧なヨコナデ。
53	55	E-3	SSC	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、暗褐色径0.1mm以下を含む。	縄紋LRを斜方向に回転施紋。内面はヨコナデ。
53	56	J-7	AN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	0段の条の組紐による撚糸紋か。内面は斜方向の丁寧なナデ。
53	57	N-3	KGP. ZN	前期･ 後葉～末	Ⅰ-3	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR7/6明黄褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径0.1mm以下を含む。	縦方向のナデ→口縁下に無節縄紋Lを条を口縁に平行させて施紋→その下に無節縄紋Lを条を斜めにして施紋→その下に縄紋RLを横方向に回転させ縄端の結節を施紋。口唇部及び内面はヨコナデ(特に口唇部は丁寧に行い,光沢をもつ)。

表６　土器観察表③

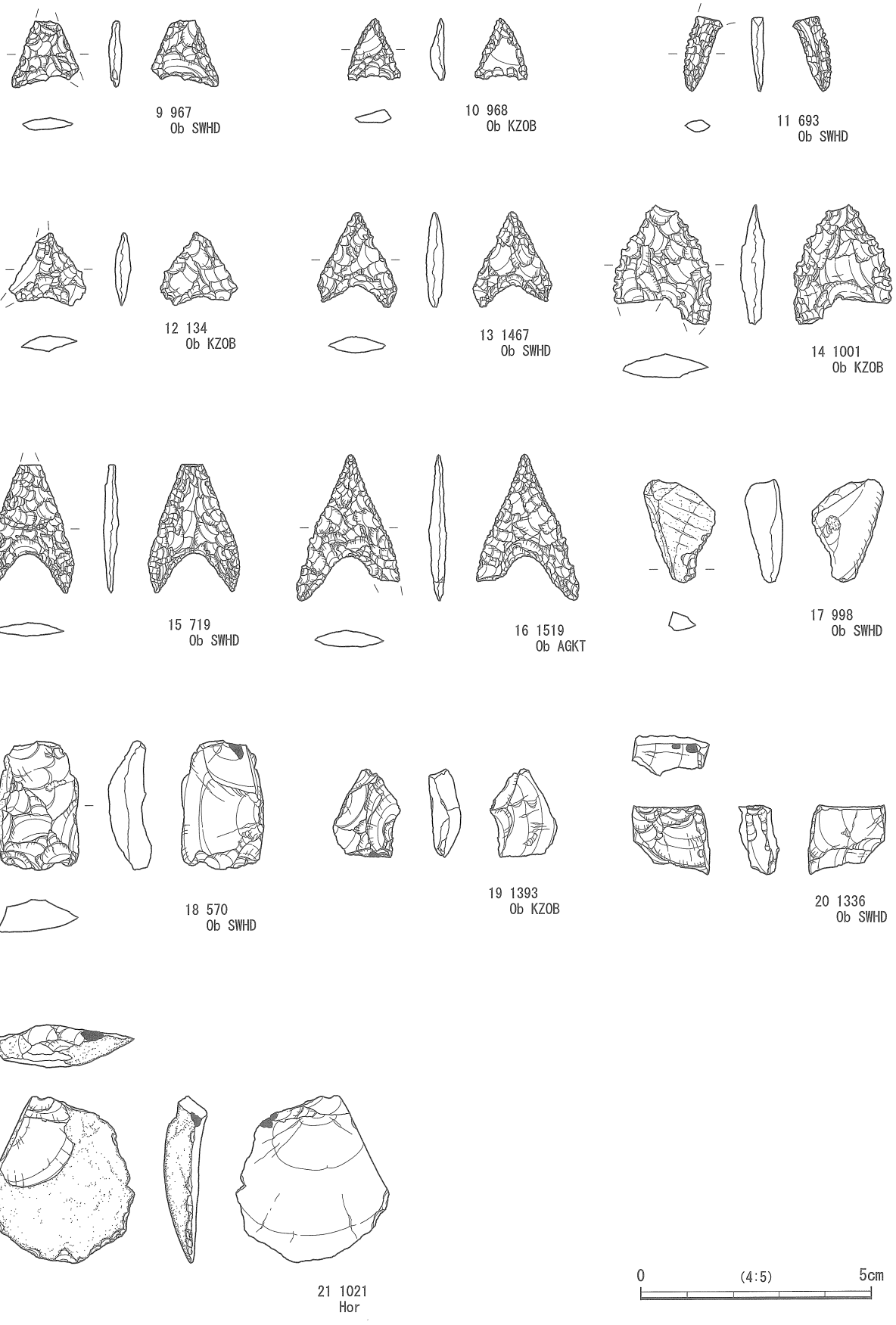
図版番号	掲載番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	層位	時期･型式	分類	残存部位	外面色調 内面色調	胎土･混和材	文　様　･　調　整　等
53	58	D-4	KGP	前期?	Ⅰ-4	底部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.2mm以下、微小な黒色粒を含む。	外側に張り出した無紋の底部。器面は丁寧に磨かれる。特に底部に顕著である。
54	59	E-4	KU	中期･曽利式	Ⅱ-1	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3褐灰色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.2mm以下、黒色粒を含む。	頸部に水平方向の隆帯を巡らして懸垂紋の隆帯を垂直に貼り付ける→半裁竹管内面による条線を垂直に施紋→半裁竹管端部による押し引きを上から下方向に施し懸垂紋を完成させる。内面は丁寧なヨコナデを行い、一部光沢を有する。60･61と同一個体。64は同一個体か。
54	60	E-4	KU	中期･曽利式	Ⅱ-1	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3褐灰色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下黒色粒を含む。	隆帯を垂直に貼り付ける。半裁竹管内面による条線を垂直に施紋→半裁竹管端部による押し引きを上から下方向に施し懸垂紋を完成させる。内面は丁寧なヨコナデを行い、一部光沢を有する。隆帯の高さは極めて低い。59･61と同一個体。64は同一個体か。
54	61	E-4	AN	中期･曽利式	Ⅱ-1	胴部	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR4/1褐灰色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、金雲母径0.1mm以下を含む。	半裁竹管内面による条線を垂直に施紋。59･60と同一個体。64は同一個体か。
54	62	E-4. I-7	KGP	中期･曽利式	Ⅱ-2	頸～胴部	5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/6明赤褐色	やや緻密、長石径0.5mm以下、石英径0.5mm以下、黒色粒径0.4mm以下を含む。	頸部より下部に半裁竹管内面による条線を垂直に施紋→胴部に一本単位の隆帯による蛇行懸垂紋を垂直に貼り付ける→頸部に水平方向の蛇行隆帯を巡らす→胴部に二本単位の隆帯による「J」字紋(左右逆)を貼り付ける。口縁部は無紋。内面は剥落がかなり著しい。63と同一個体か。
54	63	G-7	KU	中期･曽利式	Ⅱ-2	胴部	5YR5/6明赤褐色 5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	半裁竹管内面による条線を斜めに施紋し、二本単位の隆帯を斜めに貼り付ける。内面はヨコナデ。62と同一個体か。
54	64	E-4	AN	中期･曽利式	Ⅱ-1	胴部	7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径1mm以下、石英径2mm以下を含む。	半裁竹管内面による条線を垂直に施紋。59～61と同一個体か。
54	65	G-6	AN	中期･曽利式	Ⅱ-3	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	やや緻密、長石径1mm以下、石英径0.5mm以下、黒色粒径0.4mm以下を含む。	隆帯を貼り付け、ナデにより整形し、凹線により渦巻紋を描く。隆帯の高さは極めて低い。内面は丁寧なヨコナデ。鉢形土器ないし鍔付土器の可能性あり。
54	66	J-7	黒	後期･ 称名寺式	Ⅲ-1	胴部	7.5YR6/6橙色 5YR6/8橙色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	単沈線による縦方向及び三角形の区画を描く→縦区画内に棒状工具の切断した先端部を斜めに刺突し(上方より)列点紋として区画内に充填する。
54	67	I-7	AN	後期･ 称名寺式?	Ⅲ-1	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	密、長石径0.5mm以下、石英径0.5mm以下を含む。	沈線により鋸歯状と思われるモチーフが施紋される。
54	68	I-7. E-3. D-3	SSC ～AN	後期･ 加曽利B式?	Ⅲ-2	口縁部(底部も揃う半完形)	7.5YR6/6橙色 5YR6/8橙色	やや緻密、長石径1mm以下、石英径1mm以下を含む。	無紋土器。胴部全体を縦方向にナデる→口縁に沿った部分は横方向にナデ(指によるか)て下半部は斜方向のナデ(竹管の背によるヘラナデか)。外底面網代痕(経2本潜り2本超え、緯2本超え2本潜り、1本送り)。内面は上半部ヨコナデ→下半部縦方向のナデ。内外面共に黒変部分あり。補修のための穿孔あり。
54	69	N-3	SSC. KGP	後期･ 加曽利B式	Ⅲ-2	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	算盤玉形の土器。縄紋LR→単沈線でモチーフ(頸部を水平方向の沈線で区画し、弧線紋を連続させる。弧線紋の連結部に沈線を垂下させる)を描く→極めて丁寧なヨコナデ(磨き)により縄紋を磨消し弧線状のモチーフの連結部に円形紋(指頭によるものか)を施す。外面の無紋部分は極めて丁寧なヨコナデ(磨き)。内面は口縁部のみ極めて丁寧なヨコナデ(磨き)。頸部以下は擦痕の残る粗いヨコナデ。70と同一個体。
54	70	N-3	SSC	後期･ 加曽利B式	Ⅲ-2	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	算盤玉形の土器。縄紋LR→単沈線でモチーフ(頸部を水平方向の沈線で区画し、弧線紋を連続させる。弧線紋の連結部に沈線を垂下させる)を描く→極めて丁寧なヨコナデ(磨き)により縄紋を磨消し弧線状のモチーフの連結部に円形紋(指頭によるものか)を施す。外面の無紋部分は極めて丁寧なヨコナデ(磨き)。内面は口縁部のみ極めて丁寧なヨコナデ(磨き)。頸部以下は擦痕の残る粗いヨコナデ。69と同一個体。
54	71	N-3	KGP	後期･ 加曽利B式	Ⅲ-2	口縁部	7.5YR4/1褐灰色 10YR5/2灰黄褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径2mm以下を含む。	水平方向の沈線で口縁直下に無紋帯を描くか?→極めて丁寧なヨコナデ(磨き)。内面は口縁直下のみ擦痕の残る粗いヨコナデ。それ以下は比較的丁寧なヨコナデ。微量の炭化物が付着。
54	72	D-3	KGP	後期･ 加曽利B式?	Ⅲ-2	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/5にぶい褐色	密、長石径0.2mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	縄紋LR→沈線により形状不明なモチーフを描く→ナデにより縄紋を磨り消す。内面はやや丁寧なヨコナデ。
54	73	D-3	KU	後期?	Ⅲ-3	底部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/3褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径0.2mm以下、黒色粒径0.1mmを含む。	胴部外面は無紋。底部外面は同心円上の方向で丁寧なナデ。内面は底部中央のみ直線状にやや丁寧なナデ。底部内面外側～胴部内面は(同心円条の)ナデで、この部分のみ黒変が著しく、微量の炭化物が付着していた。

第4節　石　器

本遺跡で出土した縄文時代の石器総数は51点で、他に剥片が23点出土した。器種は石鏃、石錐、楔形石器、両極石器、石核、掻器、石匙、削器、打製石斧、磨石類、台石、礫器がある。出土層位はＳＳＣ層からＺＮ層までである。遺構覆土中からも１点だけ出土している（表７）。石器の多くは、グリッドの南北軸Ｃ～Ｅ、東西軸の２～４の北東方向に緩く傾斜する平坦部面に集中するほか、Ｈ－７、Ｉ－７グリッドに打製石斧が集中して出土している（第55図）。これらの分布はほぼ土器の分布と共通して



第 55 図　縄文時代石器分布図



第 56 図　縄文時代石器実測図（１）

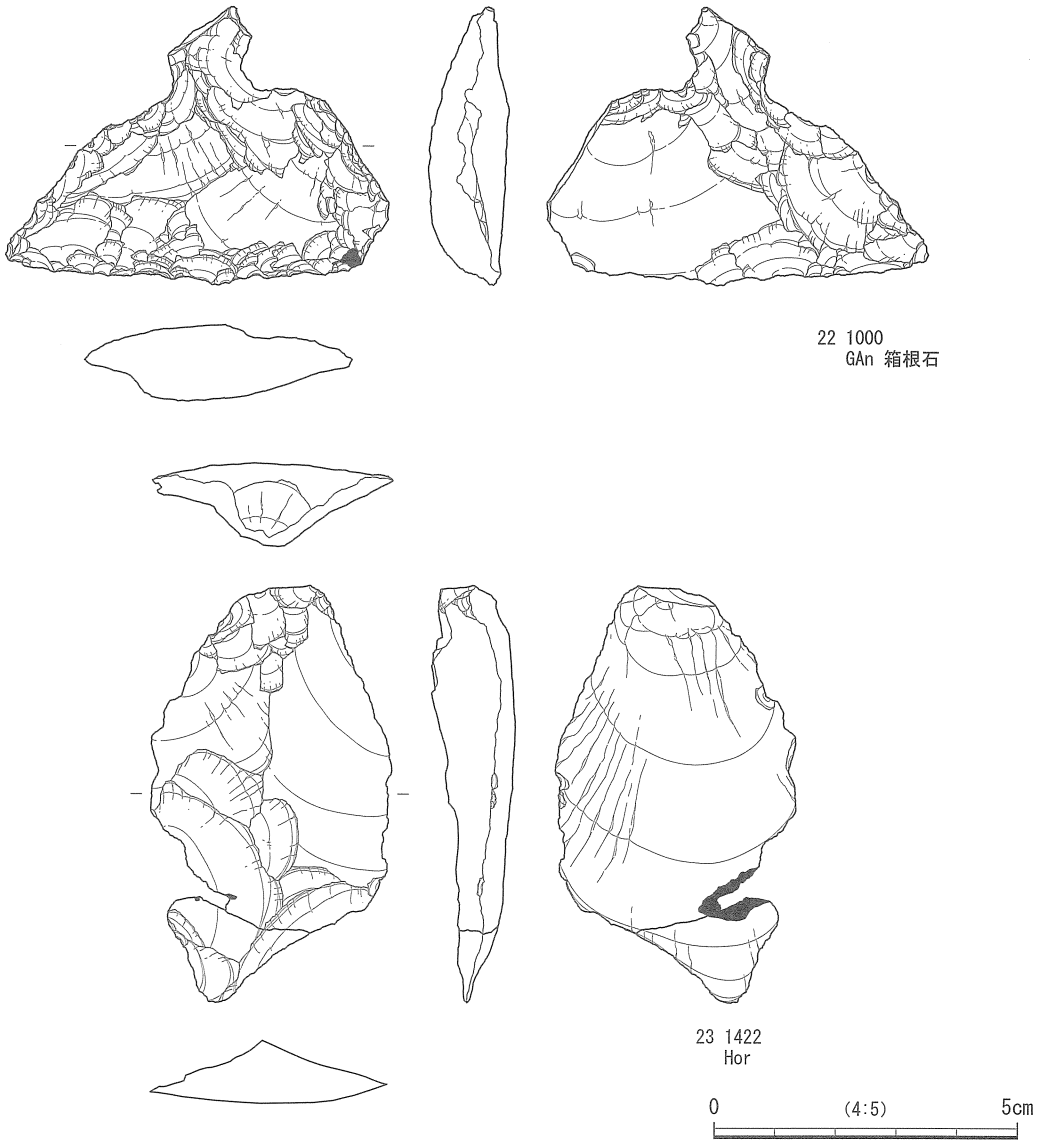
いる。

石鏃（第 56 図 9 ～ 16）

石鏃は 8 点出土した。いずれも無茎鏃で、黒曜石製である。基部がわずかに抉れるもの（ 9 、10、12、13）と、大きく抉れ脚部が燕尾状を呈するもの（11、15、16）がある。また、浅く抉れるもののうち、側縁が鋸歯状に加工されたもの（14）がみられる。 9 は、薄い剥片を利用した石鏃で、先端部と右の脚部を欠損している。10 は、裏面に主要剥離面を残し、側縁を比較的急角度で周縁調整している。11 は、脚部の片側で側縁がわずかに鋸歯状を呈する。12 は、表面の左側縁に無調整な大きな剥離面をそのまま残す関係でやや不整形な感じを残すものである。先端と左の脚部先端を欠損する。13 は、表裏面とも押圧による剥離である。脚部の先端がＶ字形に整形されているのが特徴的である。15 は、脚部の外側縁がやや丸みを帯びる。16 は、やはり押圧剥離による調整で、剥離方向は表裏とも基部側の抉り部分に向いている。剥離の新旧関係から、基部の抉りは面の調整が終わった後で行われていることが判る。

石錐（第 56 図 17）

17 は、黒曜石製の錐である。断面三角形の剥片の端部を利用したもので、右側縁に錐部を作り出すための調整が見られる。



第 57 図　縄文時代石器実測図（２）

楔形石器・両極石器（第 56 図 18、19）

18 は、黒曜石製で左側縁に風化面を残す。この面を打面として作出された横長剥片に両極加撃を施し、楔形状を呈するものを楔形石器とする。19 は両極打法によるものだが、はっきりとした楔形状でないところから両極石器とした。黒曜石の横長剥片を利用した石器で、表面の左右に方向の異なる剥離がみられる。

石核（第 56 図 20）

20 は、黒曜石製で、90° の打面転移を繰り返して小型の剥片を取り出した石核の残核である。打点部の潰れの状況から間接打撃による剥片剥離を行ったと思われる。

掻器（第 56 図 21）

21 は、ホルンフェルス製で、略円形の剥片の下縁に調整を加えたもので、右側縁から末端に微細剥離が観察されるものである。打面を残す。

石匙（第 57 図 22）

22 は、ガラス質黒色安山岩（箱根石）の横長剥片を素材としたもので、摘みを打面側に打撃により作出している。刃部は急傾斜の剥離で調整されている。

削器（第 57 図 23）

23 は、ホルンフェルス製の打面を残す縦長剥片で、右側縁部にわずかに微細な剥離が認められるが風化が著しく詳細は不明である。

打製石斧（第 58 図 24 ～ 29、第 59 図 30 ～ 33、第 60 図 34、35）

打製石斧は、12 点が出土した。形態的には短冊型のものが 10 点、分銅型のものが 2 点である。

短冊型のものは刃部の形状が円弧状を呈するもの（24、26、27、28、29、35）、直線的なもの（30）、円弧状だが、先端がやや尖っているもの（25、33）に分けられる。素材はいずれも大型の剥片で、このうち素材の形状が判るものは、横長の剥片から製作されたもの（24、25、27、30、34、35）と、縦長の剥片から製作され片面に礫面を残すもの（25、28、30）、両面に礫面を残すもの（26、33）があり、礫面の摩滅の状況から石材が川原石であったことが推測できる。石材は、24、26、27、31、32、33 が輝石安山岩、25、29 が緑色片岩、30 が緑色凝灰岩、28 がホルンフェルスである。31 は折り取られているため全体像は不明である。33 には両側縁に敲打痕が見られる。35 は、輝石安山岩製で上半分を欠損している。

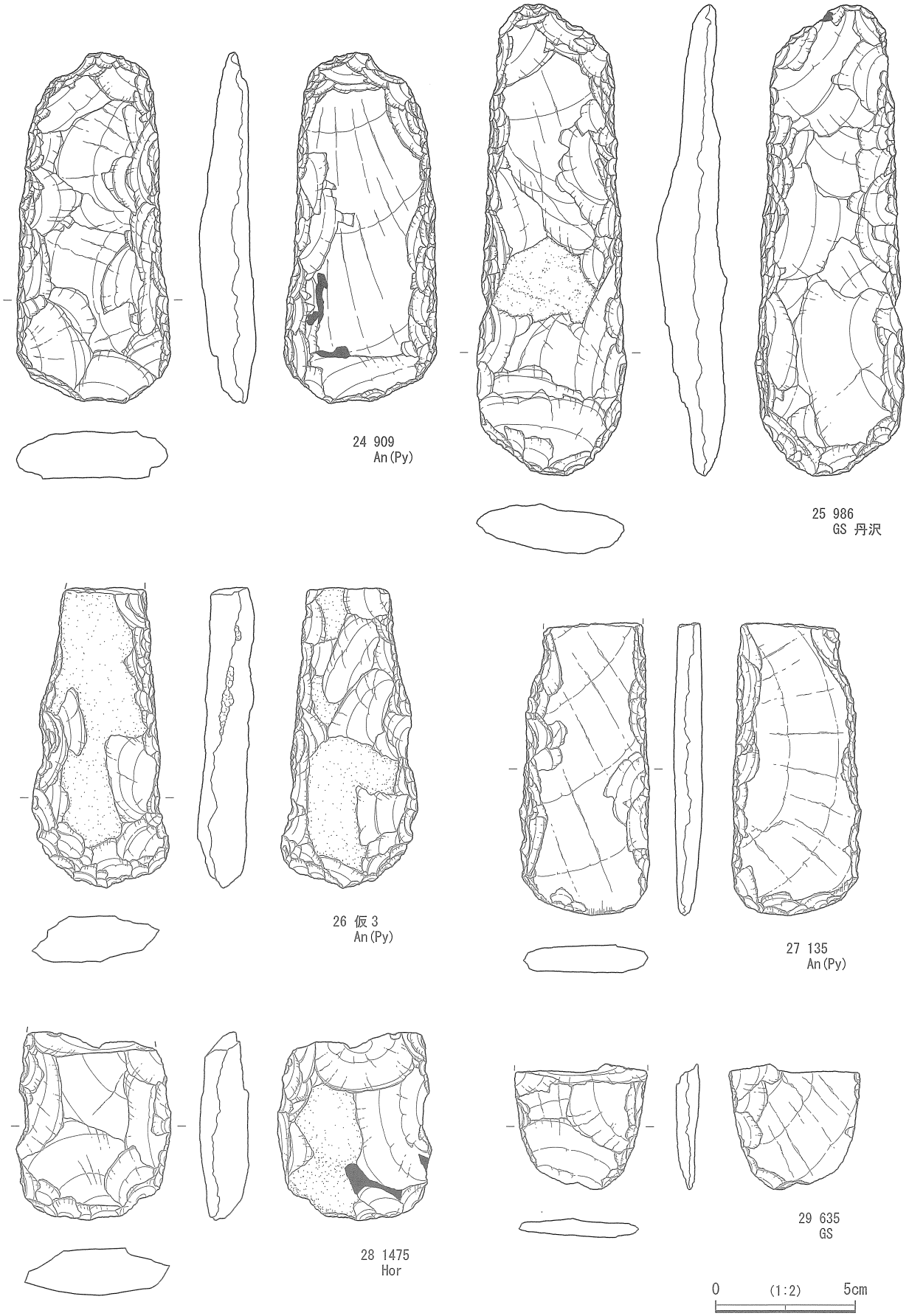
分銅型のものには小型で薄い器肉の 32 と、大型の 34 がある。32 は、刃部の形状が直線的である。上半部を欠損している。34 は、輝石安山岩製で、下端部は直線的な刃部となっている。

磨石類（第 60 図 36 ～ 38、第 61 図 39 ～ 45、第 62 図 46 ～ 52）

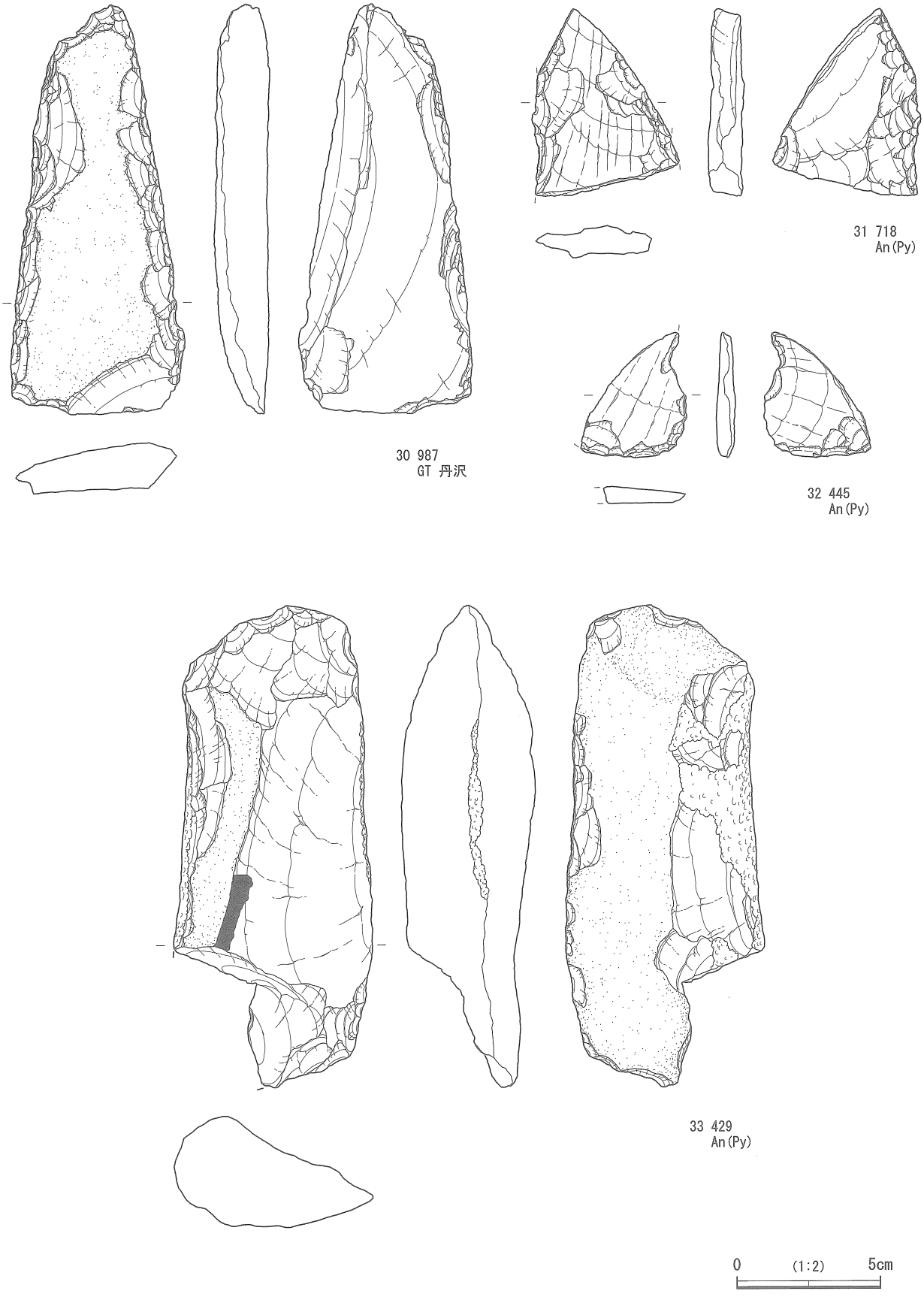
円礫もしくは扁平礫に磨面、敲打痕がみられるものを磨石類として一括した。36 は、多孔質玄武岩の楕円礫の 1 面に磨面を持つものである。37 ～ 45 は、平坦部に磨面をもつものである。このうち、39、40 は、コゲ痕を持つもの、41 は、被熱により全体が脆くなっている。37 は、断面が三角形を呈する礫で、形状的には特殊磨石に類似するが、特殊磨石のメルクマールである側縁の磨面が認められない。石材は、37、38、40、41、43、44 は輝石安山岩、39 は、石英閃緑岩、42、45 が玄武岩である。46 ～ 48 は、やや大型の扁平礫でいずれも欠損している。台石の可能性もあるが磨石類に分類しておく。石材はいずれも輝石安山岩である。42・49 ～ 52 は、側縁部に敲打痕を持つもので、このうち 50 ～ 52 については、磨面も併せ持つものである。石材は、49、50 が多孔質玄武岩、51 が多孔質安山岩、52 が輝石安山岩である。

台石（第 62 図 53、第 63 図 54）

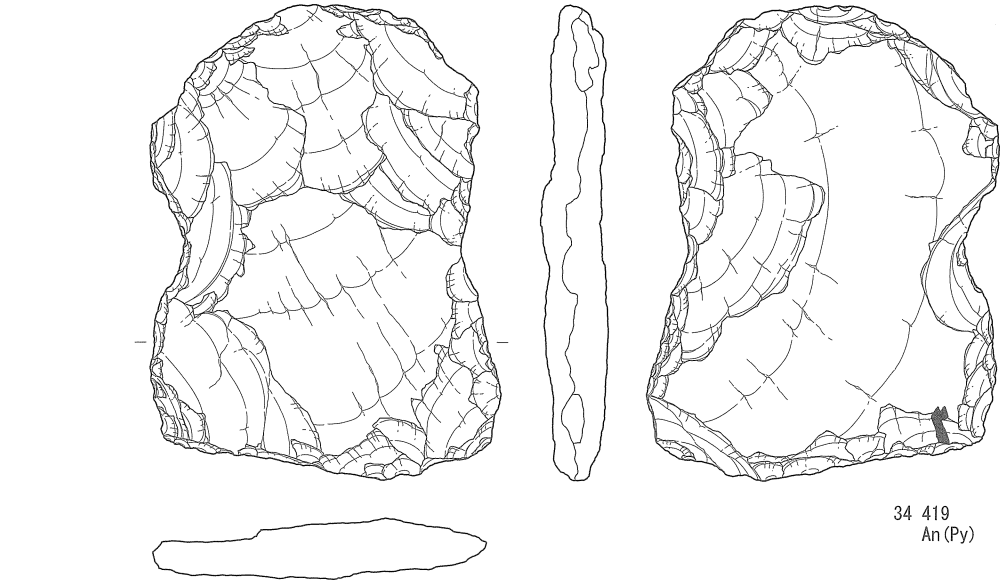
やや大型の礫で平坦面もしくは凹みを持ち、その面を作業面としているものをそれとした。53 は、



第58図　縄文時代石器実測図（３）

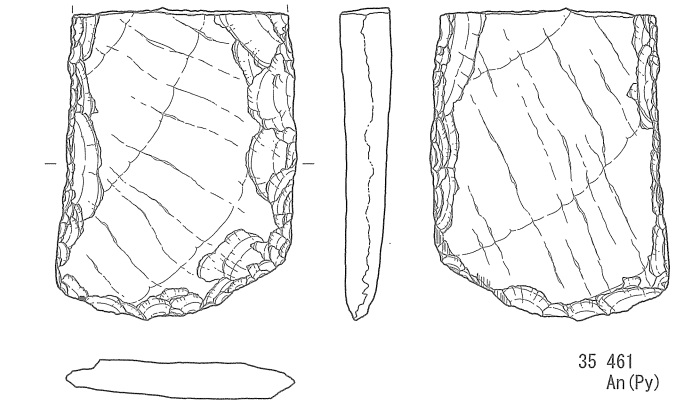


第59図　縄文時代石器実測図（4）

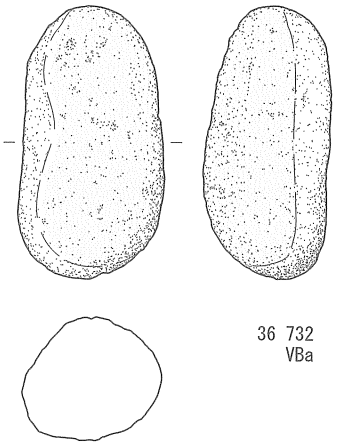


34 419
An (Py)

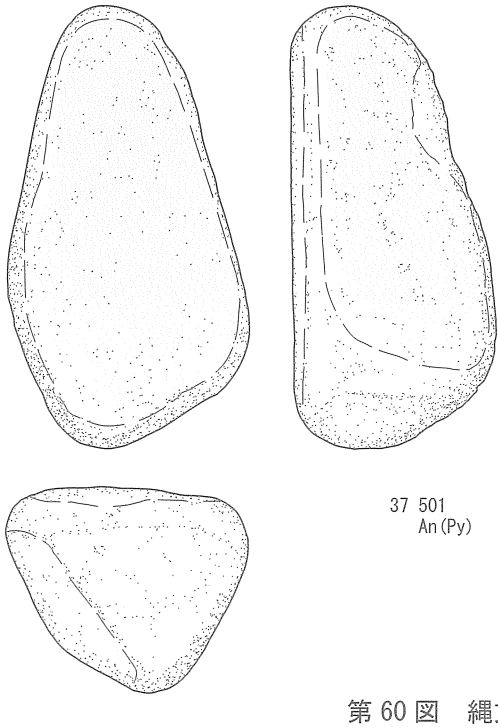
0　(1:2)　5cm



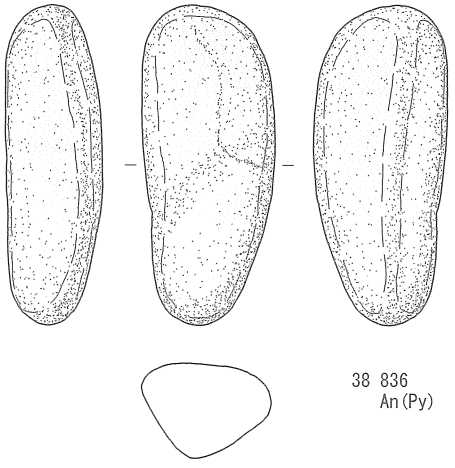
35 461
An (Py)



36 732
VBa



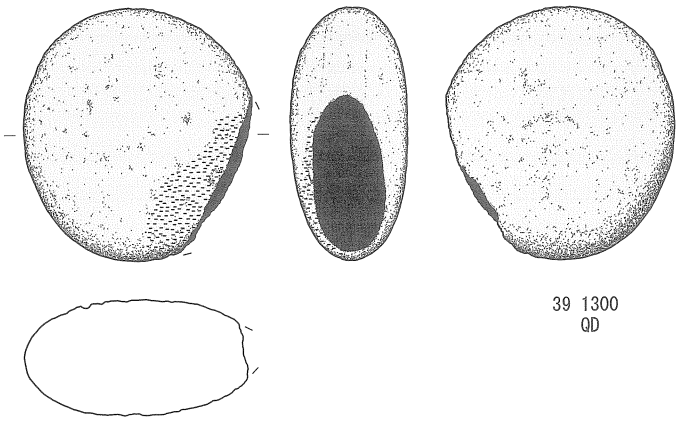
37 501
An (Py)



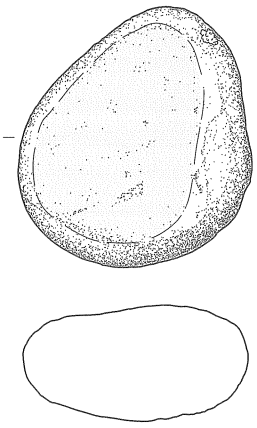
38 836
An (Py)

0　(1:3)　10cm

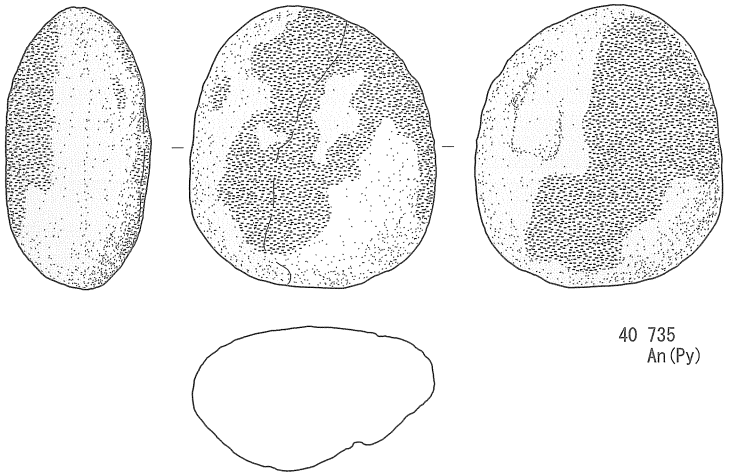
第 60 図　縄文時代石器実測図（５）



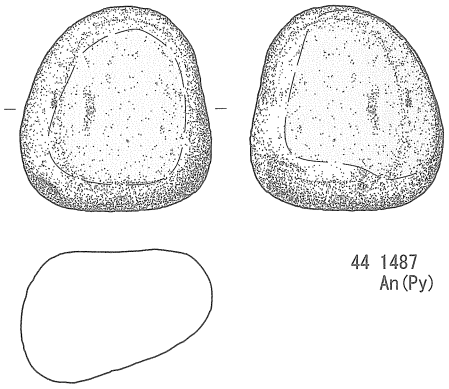
39 1300
QD



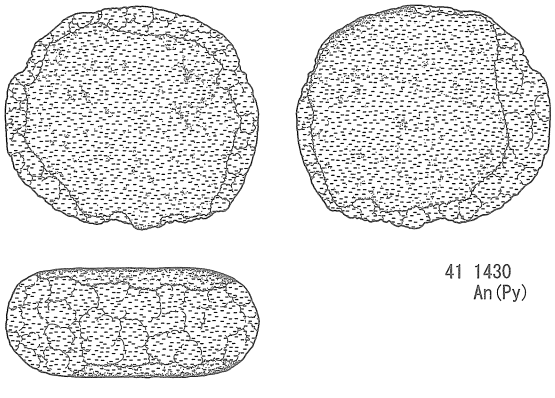
43 462
An (Py)



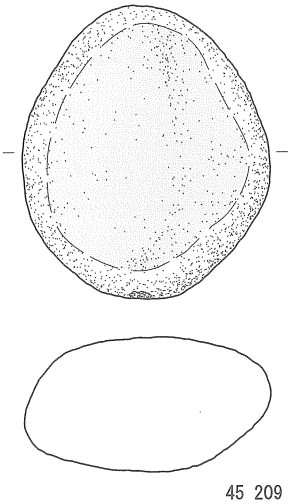
40 735
An (Py)



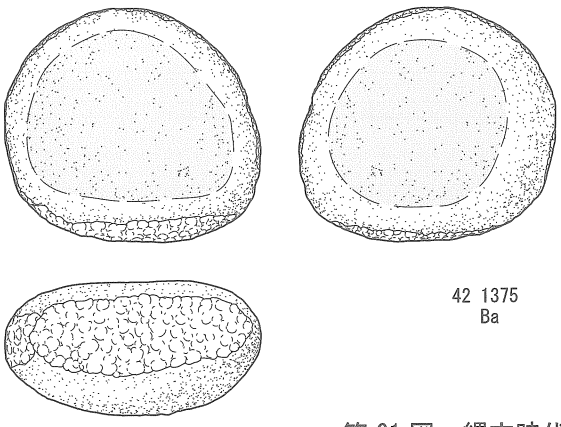
44 1487
An (Py)



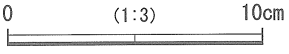
41 1430
An (Py)



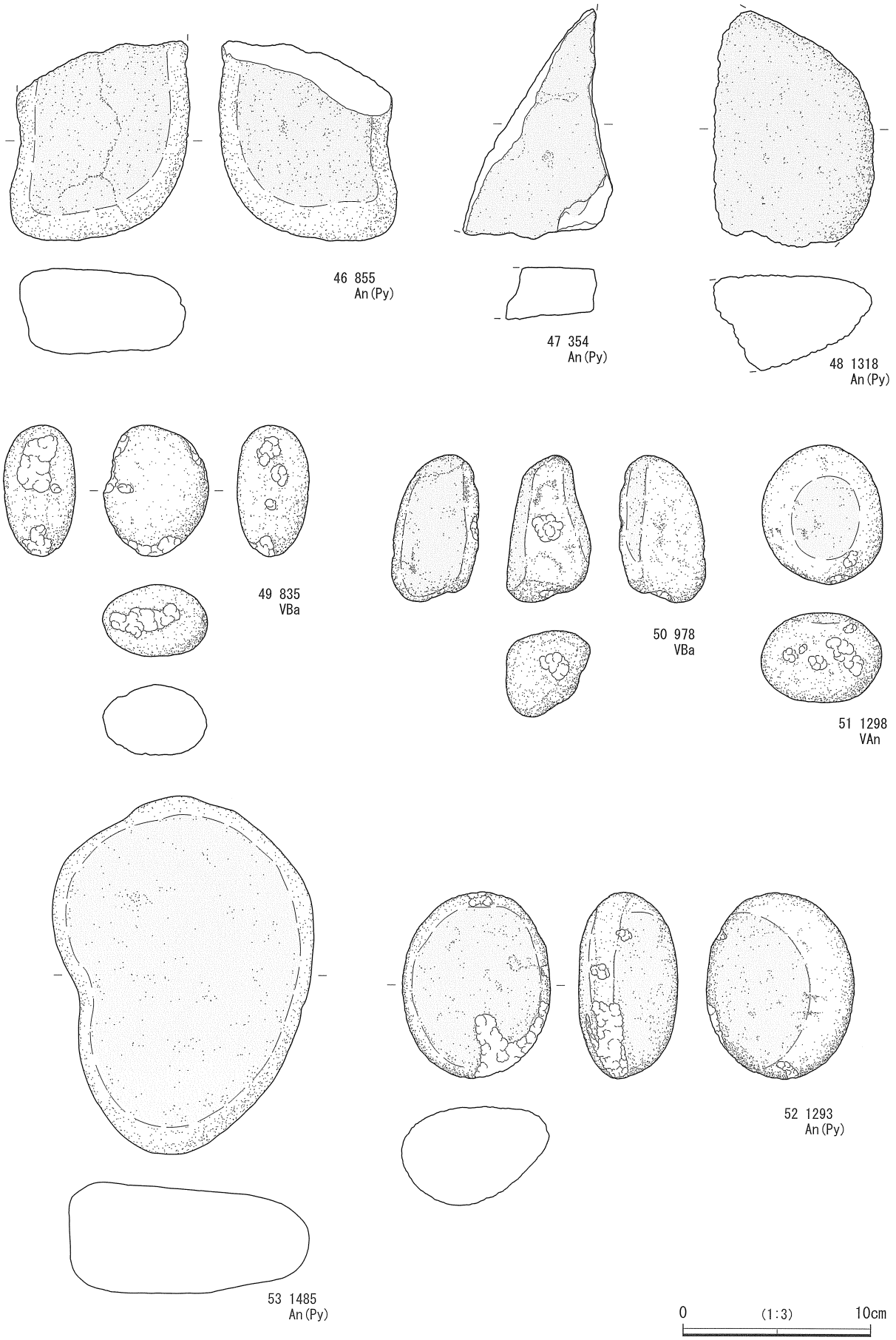
45 209
Ba



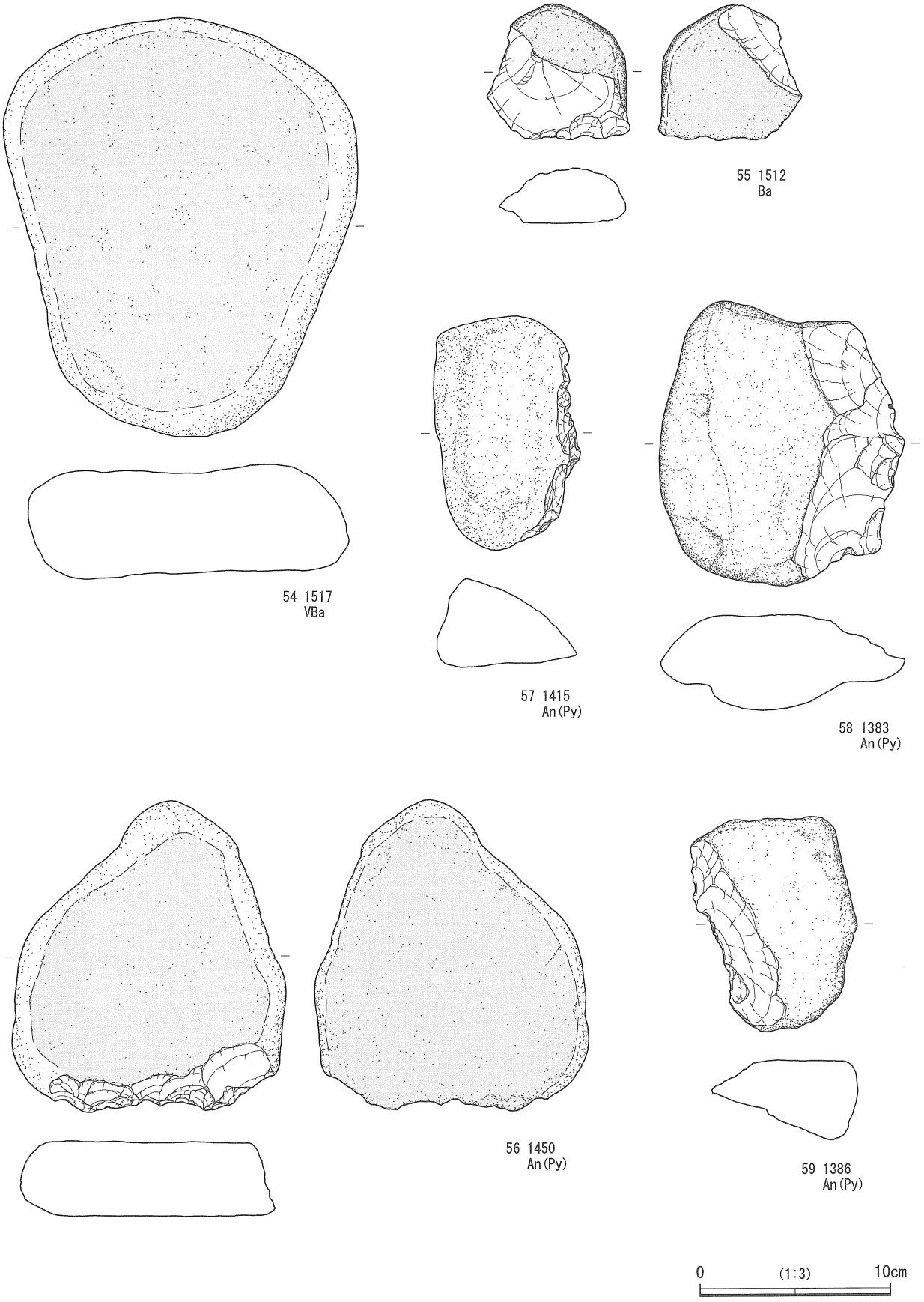
42 1375
Ba



第 61 図　縄文時代石器実測図（６）



第 62 図　縄文時代石器実測図（７）



第 63 図　縄文時代石器実測図（８）

輝石安山岩製の扁平な礫の一面に磨り面をもつもので、台石と思われる。54は、同じく扁平な礫の一面に磨面をもつもので、磨面はやや内側に凹んでいる。石材は、多孔質玄武岩である。

礫器（第63図55～59）

やや扁平な礫岩の縁辺部に連続した剥離による刃部を持つものを礫器とした。55～59は、いずれも扁平な礫の側縁に剥離があるもので、剥離には急傾斜のもの（56、57）と、やや緩傾斜のもの（55、58、59）がある。56は、表裏に磨面を持つ。磨石を転用したものかと思われる。石材は、55が玄武岩、56～59は輝石安山岩である。

表7　石器計測表

図版番号	遺物番号	器種	層位	グリッド・遺構	石材	Ob産地	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)
56-9	967	石鏃	KU	E-4	Ob	SWHD	0.43	1.50	1.50	0.30	-88935.560	35576.418	278.607
56-10	968	石鏃	KU	D-3	Ob	KZOB	0.51	0.90	0.65	0.32	-88944.709	35569.238	278.334
56-11	693	石鏃	AN	E-4	Ob	SWHD	0.23	1.60	0.60	0.20	-88934.547	35579.361	278.448
56-12	134	石鏃	FB	F-6	Ob	KZOB	0.60	1.65	1.70	0.40	-88922.619	35590.515	271.402
56-13	1467	石鏃	SSC	N-3	Ob	SWHD	0.83	2.13	1.70	0.40	-88843.682	35565.719	251.226
56-14	1001	石鏃	KU	D-3	Ob	KZOB	2.03	2.70	2.10	0.51	-88948.849	35568.939	278.074
56-15	719	石鏃	AN	E-4	Ob	SWHD	1.09	2.80	2.00	0.31	-88937.420	35577.029	278.973
56-16	1519	石鏃	AN～ZN	R-5	Ob	AGKT	1.37	2.20	2.20	0.40	-88805.433	35585.788	241.631
56-17	998	石錐	KU	D-3	Ob	SWHD	1.84	2.30	1.60	0.80	-88944.398	35568.158	278.217
56-18	570	楔形石器	KU	C-4	Ob	SWHD	4.27	2.85	1.80	0.95	-88954.661	35572.225	277.842
56-19	1393	両極石器	FB	E-3	Ob	KZOB	1.23	1.92	1.50	0.65	-88937.745	35561.916	278.783
56-20	1336	石核	FB	C-4	Ob	SWHD	2.25	1.52	1.65	0.9	-88953.380	35571.739	277.921
56-21	1021	掻器	KU	D-3	Hor		9.75	3.75	3.30	0.75	-88944.524	35566.320	278.153
57-22	1000	石匙	KU	D-3	GAn	箱根石	27.39	4.60	6.20	0.80	-88945.320	35567.463	278.190
57-23	1422	削器	FB	D-3	Hor		26.93	6.90	3.95	1.35	-88944.450	35569.096	276.817
58-24	909	打製石斧	AN	I-7	An(Py)		157.89	12.55	5.50	5.50	-88896.838	35606.747	258.092
58-25	986	打製石斧	AN	I-7	GS	丹沢	238.81	16.90	5.30	2.55	-88896.931	35609.817	257.368
58-26	仮3	打製石斧	攪乱		An(Py)		112.5	10.70	4.80	1.75			
58-27	135	打製石斧	AN	H-7	An(Py)		78.57	16.00	4.60	1.00	-88905.244	35602.106	261.829
58-28	1475	打製石斧	KGP	N-3	Hor		82.6	6.70	5.60	1.75	-88844.577	35568.474	251.713
58-29	635	打製石斧	KGP	C-4	GS		19.59	4.50	4.70	0.80	-88951.261	35570.066	278.526
59-30	987	打製石斧	AN	I-7	GT	丹沢	198.70	14.40	6.10	1.90	-88896.893	35608.955	257.389
59-31	718	打製石斧	AN	E-4	An(Py)		43.8	6.60	5.15	1.20	-88939.497	35572.565	278.865
59-32	445	打製石斧	暗褐色土層	D-3	An(Py)		10.41	4.45	3.80	0.70	-88943.446	35564.022	279.130
59-33	429	打製石斧	暗褐色土層	E-4	An(Py)		523.77	16.95	7.00	4.65	-88936.429	35575.111	279.029
60-34	419	打製石斧	暗褐色土層	E-4	An(Py)		252.88	12.50	9.20	1.70	-88933.592	35575.057	278.909
60-35	461	打製石斧	FB	I-7	An(Py)		99.13	8.20	6.20	1.30	-88890.035	35604.180	257.455
60-36	732	磨石類	AN	D-3	VBa		360	10.90	5.90	4.90	-88942.380	35563.974	278.685
60-37	501	磨石類	KGP	E-3	An(Py)		1610	17.70	9.60	8.25	-88930.641	35561.224	280.212
60-38	836	磨石類	AN	E-3	An(Py)		330	12.80	5.30	3.80	-88938.670	35569.953	278.765
61-39	1300	磨石類	KU	D-3	QD		600	10.10	9.10	4.65	-88946.589	35566.659	278.200
61-40	735	磨石類	AN	D-3	An(Py)		710	11.25	9.80	5.80	-88941.451	35563.044	278.884
61-41	1430	磨石類	FB	E-4	An(Py)		600	10.10	9.00	4.40	-88938.708	35572.548	278.475
61-42	1375	磨石類	FB	E-3	Ba		740	10.30	9.30	5.35	-88932.762	35563.062	279.130
61-43	462	磨石類	KGP	C-4	An(Py)		590	10.45	9.30	4.70	-88953.521	35575.234	278.667
61-44	1487	磨石類	SSC	N-3	An(Py)		403.7	8.75	7.70	5.20	-88840.011	35568.356	249.831
61-45	209	磨石類	AN	F-6	Ba		770	11.70	9.85	5.40	-88921.296	35596.305	269.219
62-46	855	磨石類	AN	D-3	An(Py)		630	10.55	9.80	4.65	-88945.789	35566.884	278.616
62-47	354	磨石類	AN	I-6	An(Py)		310	12.85	8.10	2.85	-88899.332	35599.913	261.162
62-48	1318	磨石類	暗褐色土層	D-4	An(Py)		680	12.85	8.70	5.20	-88948.872	35577.481	279.543
62-49	835	磨石類	AN	D-4	VBa		170	7.10	5.65	3.90	-88949.013	35571.686	278.451
62-50	978	磨石類	3層	1号焼土遺構	VBa		190	9.00	4.65	4.35	-88952.785	35571.380	277.951
62-51	1298	磨石類	KU	D-3	VAn		280	7.55	6.55	4.80	-88945.737	35568.102	278.234
62-52	1293	磨石類	KU	C-4	An(Py)		570	10.10	8.00	5.30	-88951.931	35572.417	278.039
62-53	1485	台石	KGP	O-4	An(Py)		2198.5	19.35	14.00	6.10	-88834.348	35579.596	250.192
63-54	1517	台石	KGP	M-4	VBa		3481.6	22.35	18.85	5.70	-88850.975	35578.564	254.371
63-55	1512	礫器	1層	18号土坑	Ba		186	7.80	7.20	3.30	-88833.169	35575.061	247.868
63-56	1450	礫器	FB	E-4	An(Py)		1540	16.60	14.75	14.00	-88936.006	35576.843	278.291
63-57	1415	礫器	FB	F-2	An(Py)		600	12.60	7.80	4.75	-88929.538	35558.245	279.540
63-58	1383	礫器	FB	D-4	An(Py)		1320	15.35	13.15	5.00	-88943.493	35573.002	278.131
63-59	1386	礫器	FB	E-4	An(Py)		510	11.40	8.80	4.20	-88934.378	35572.484	278.613

第Ⅴ章　中世以降

第１節　中世以降の概要

本章では、中・近世および近現代に属すると思われる遺構をまとめて記述する。中世～近世に属すると思われる遺構は、本調査Ⅰ期で土坑１基（１号土坑）、確認調査Ⅱ期では土坑１基（８号土坑）、ピット１基（Ｐ１）をそれぞれ検出した。検出面は、１号土坑が新期スコリア層面、８号土坑がＹＬＭ層面、1号ピットが新期スコリア層面で検出している。また、建設年は不明だが昭和30年代まで木材切り出し用に使用していた道路遺構（第65図）を１条調査した。

第２節　遺　構（第64図）

１号土坑（第67図）

確認調査Ⅰ期のテストピット（ＴＰ６）の新期スコリア層面で検出した。本遺跡の主体部が位置する尾根の東側谷部の、急斜面に立地する。いわゆる中世～近世の円形土坑と思われる。規模は平面が長軸1.27ｍ、短軸1.26ｍ、底面は長軸1.02ｍ、短軸0.98ｍ、深さは0.4ｍである。壁の立ち上がりは、西南側は垂直に近いが、それ以外は緩やかである。底面は平坦である。覆土は単層だが人為的な埋め戻し土の可能性が高い。出土遺物はない。

８号土坑（第67図）

確認調査Ⅱ期のテストピット（ＴＰ11）のＹＬＭ層面で検出した。遺構は本遺跡の主体部が位置する尾根上の平坦部に立地する。平面形は隅丸長方形で規模は長軸1.41ｍ、短軸0.77ｍである。壁はややオーバーハングして立ち上がる。底面にはやや凹凸がある。覆土は黒色土が主体で、これにＹＬＵ層土、ＹＬＭ層土が混じる。覆土内から10㎝大の自然礫が４点出土している。覆土の状況から近世以降の遺構と判断した。

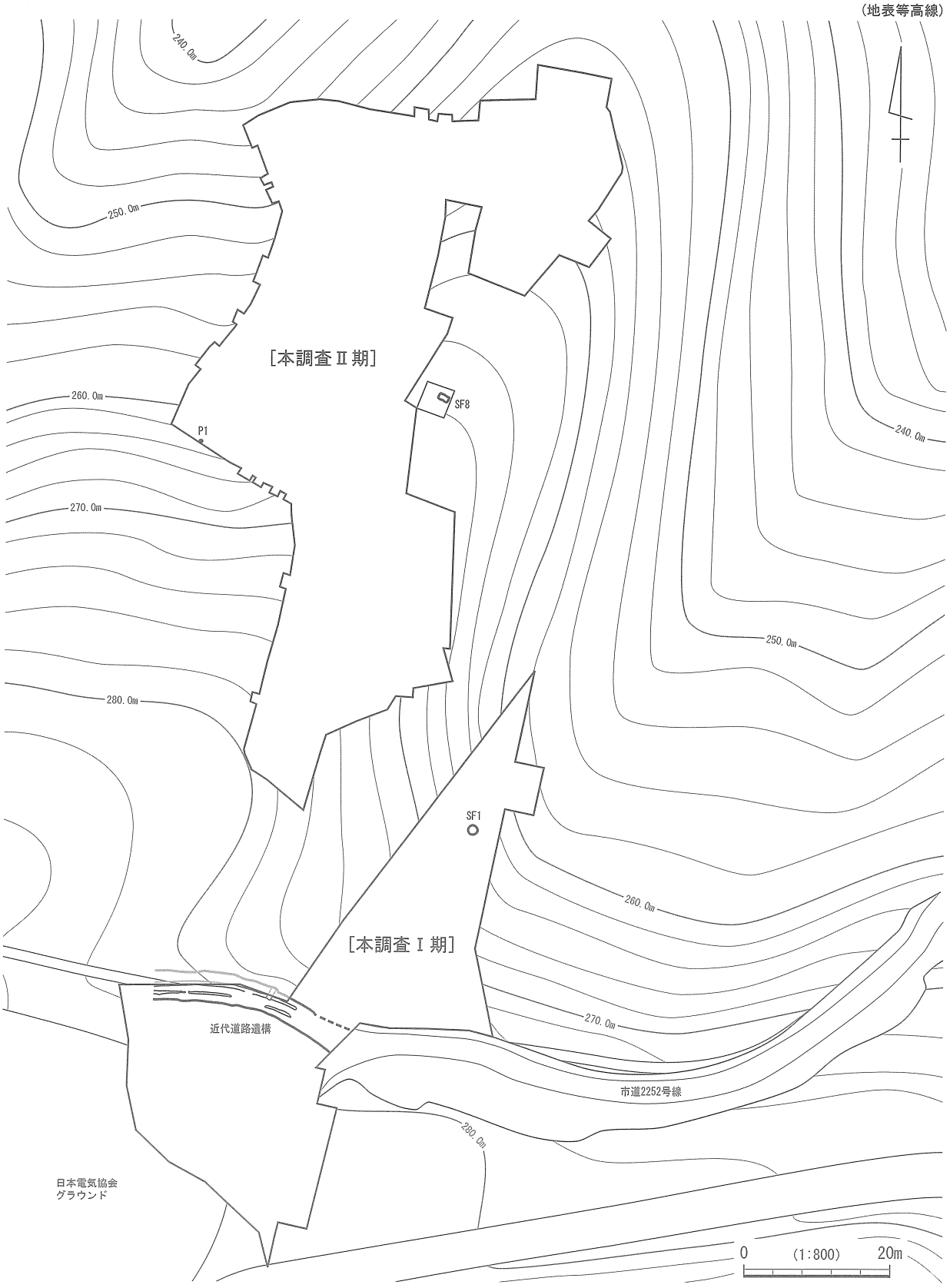
１号ピット（第67図）

確認調査Ⅱ期のテストピット（ＴＰ13）の南西隅部の新期スコリア層面で検出した。平面形は楕円形で長軸0.36ｍ、短軸0.33ｍ、深さ0.41ｍを測る。覆土は黒色土に新期スコリアがブロック状に混じる。覆土の状況から近世以降の遺構と判断した。

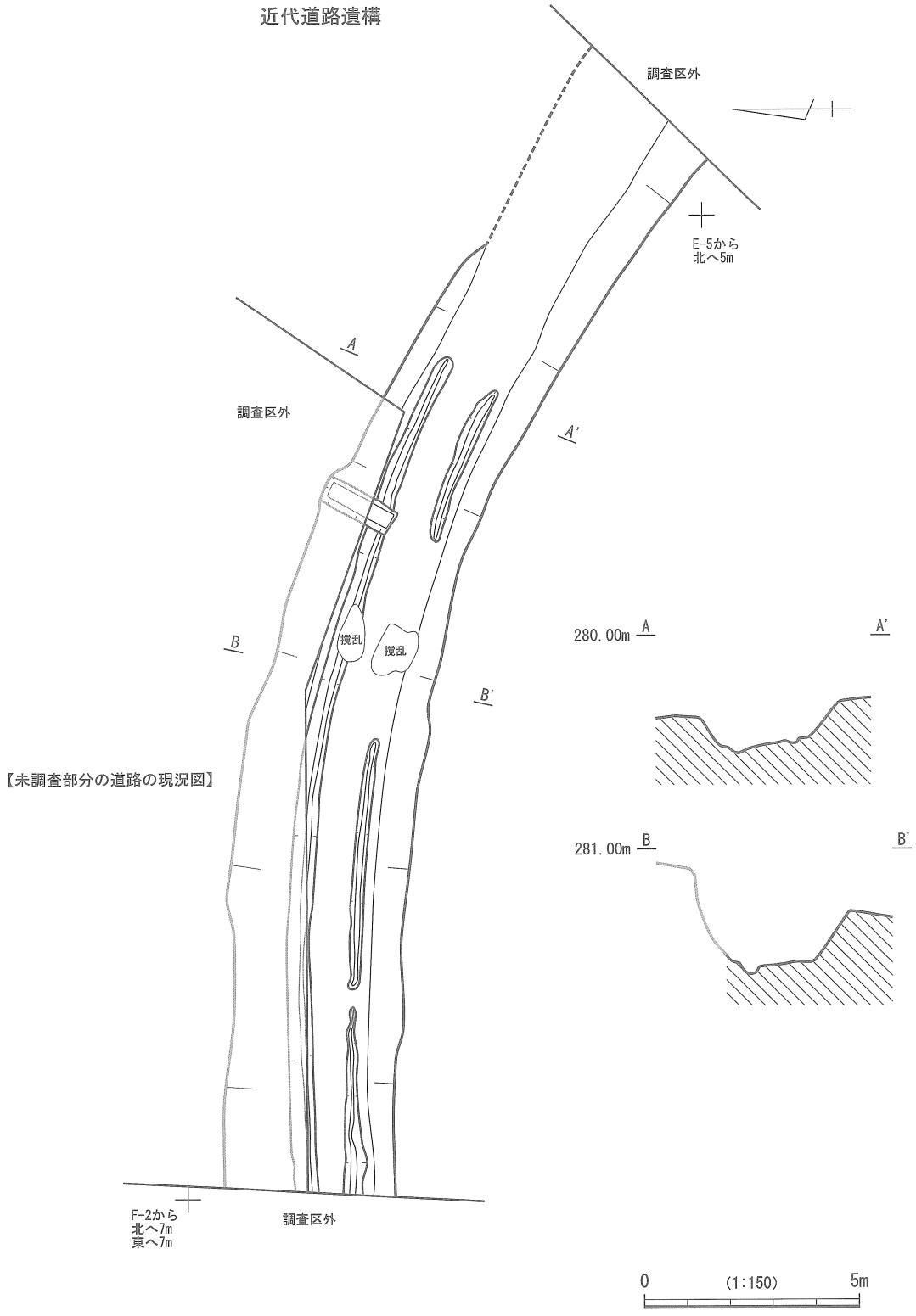
道路遺構（第65・66図）

本調査Ⅰ期調査区を横断する形で敷設された市道2252号線の下から道路遺構が検出された。尾根を逆台形状に掘削して道路を構築している。この道路跡は現況で切り通し状に確認でき、調査区の外へと伸びている（第65・66図）。路面には馬車の轍と考えられる浅い溝が側溝状に残されている。路面は北側に傾斜しており、多数の蹄鉄跡が残されている。法面の頂部から路面までの深さは約2.5ｍで道幅は法の上面で４ｍ、下面で1.7ｍ、轍の幅は0.9ｍ（内輪）前後である。道路の東側は北側の道路法面が一部失われており、点線で表記した（第65図）。また、第65図の中ほどに長軸3.4m、短軸1.2m、深さ1.1mの長方形の土坑がある。覆土の状況から現代のものと判断したが性格は不明である。道路は調査区内に27ｍに亘って検出した。この道路は、裾野市葛山地区中村の集落から大久保川に平行して敷設されたもので、葛山や千福周辺では同様な道路が散見され、本道路を含めて地図上（第66図）に破線で示さ

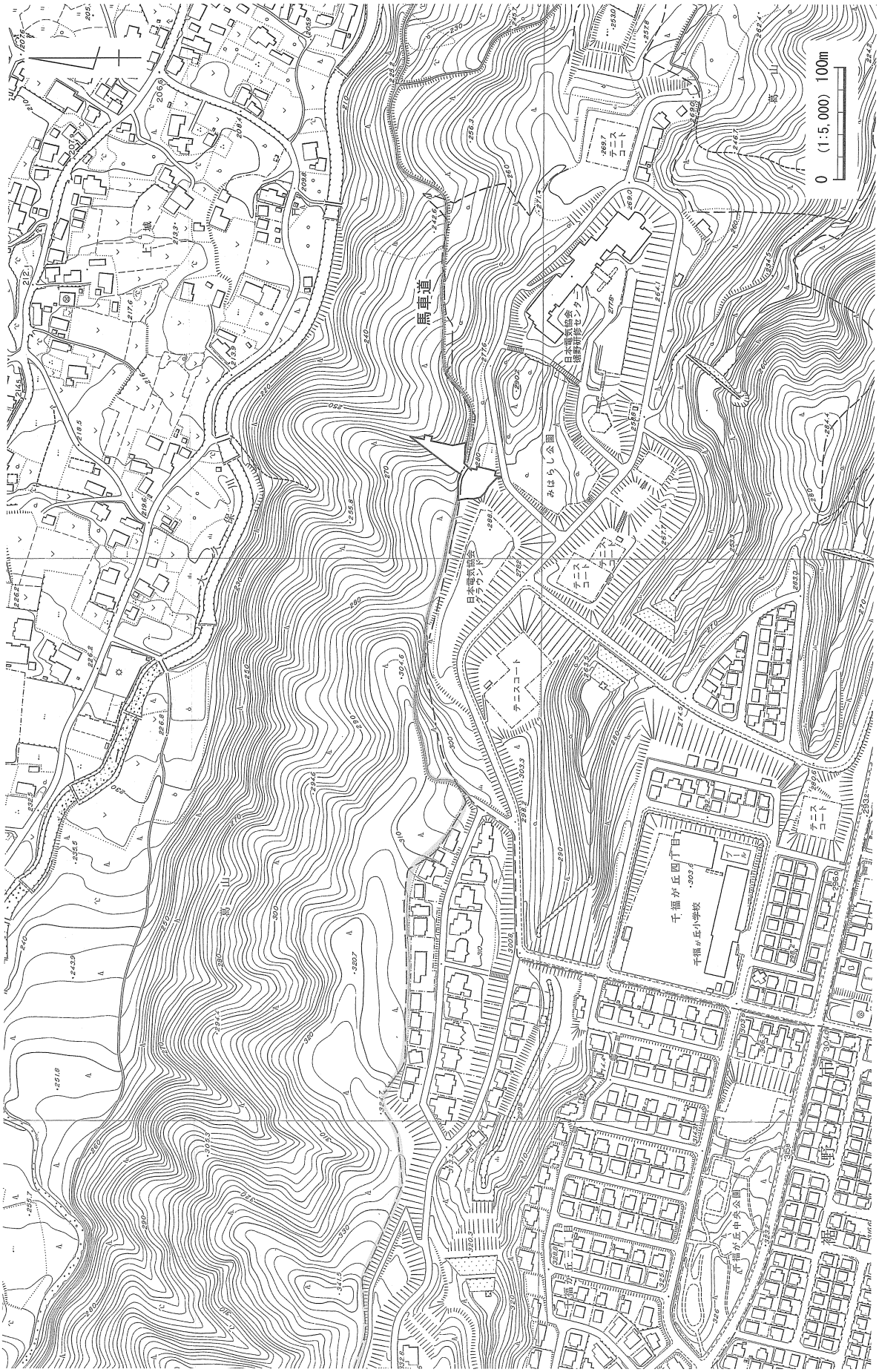
れている。馬車による木材運搬用道路として昭和30年頃まで使用していたとの地元の方からの聞き取りがある。



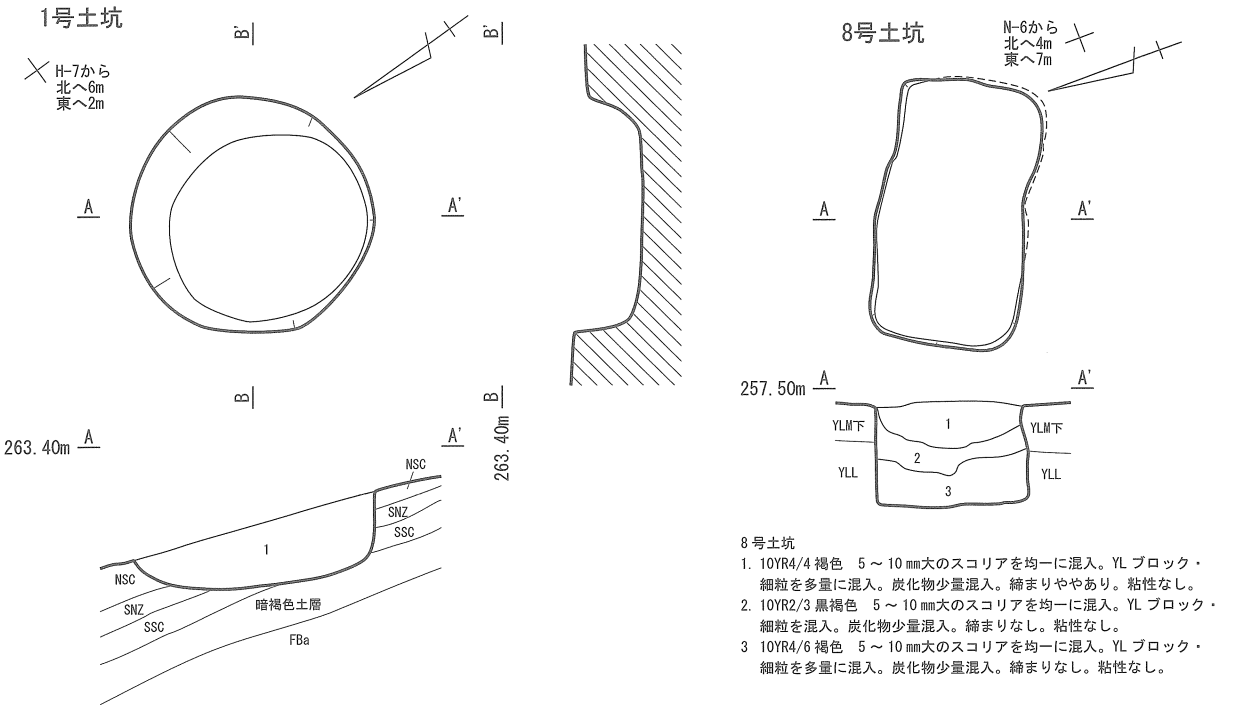
第64図　中世以降の遺構配置図


近代道路遺構
調査区外
E-5から
北へ5m
A
A'
調査区外
B
B'
撹乱
撹乱
【未調査部分の道路の現況図】
280.00m
A
A'
281.00m
B
B'
F-2から
北へ7m
東へ7m
調査区外
0
(1:150)
5m

第 65 図　道路実測図

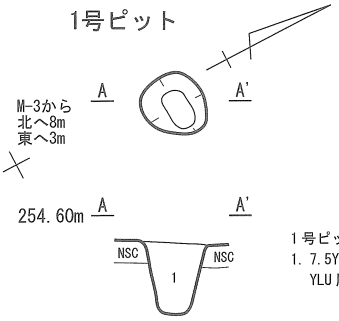

馬車道
0 (1:5,000) 100m
テニスコート
日本電気協会 信野研修センター
みはらし公園
日本電気協会 グラウンド
千福が丘四丁目
千福が丘小学校
千福が丘中央公園
千福が丘三丁目
葛山
上城

第66図　道路図



1号土坑
1. 7.5YR2/1 黒色　締まりなし、粘性なし。NSC、SNZ、KGP、炭化物を含む。

8号土坑
1. 10YR4/4 褐色　5～10㎜大のスコリアを均一に混入。YL ブロック・細粒を多量に混入。炭化物少量混入。締まりややあり。粘性なし。
2. 10YR2/3 黒褐色　5～10㎜大のスコリアを均一に混入。YL ブロック・細粒を混入。炭化物少量混入。締まりなし。粘性なし。
3 10YR4/6 褐色　5～10㎜大のスコリアを均一に混入。YL ブロック・細粒を多量に混入。炭化物少量混入。締まりなし。粘性なし。



1号ピット
1. 7.5YR3/2 黒褐色土　締まり小、粘性あり。
YLU 層土のブロックと黒色土の混合。

0　(1:40)　1m

第67図　中世以降 土坑・ピット実測図

表8－1　遺構計測表（土坑）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m)	最大幅(m)	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)
							上		下		
67	1号	H-7	NSC	円形	北北東	なし	1.27	1.26	1.02	0.98	0.40
67	8号	N-6	YL	隅丸長方形	西北西	なし	1.41	0.77	1.4	0.72	0.55

表8－2　遺構計測表（近代道路）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	帰属時期	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)	備　考
65	1号	E-4.5,F2～4	表土	近代	溝状	東西～南西	なし	27	4	2.5	馬の蹄鉄跡多数あり。

表8－3　遺構計測表（ピット）

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	新旧関係	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)
67	1号	M-3	NSC	不整円形	なし	なし	0.36	0.33	0.41

第VI章　調査の成果

第１節　旧石器時代

本遺跡出土の石器点数はわずか８点であり、これをもって遺跡の性格ならびに石器組成などの特徴を積極的に述べるにはやや難がある。第Ⅲ章において、本遺跡出土の石器が高尾編年の４期後半の所産であるとすでに述べたところであるが、それを踏まえながら若干補足しておきたい。

石器組成はこの期の特徴であるナイフ形石器と石槍からなると思われる。旧石器分布図（第10図）をみると、２の石槍が北側斜面に離れて出土している以外は全て近位置にあり、小規模な石器ブロックを形成していると云って良い。このブロックに属する石槍（１．３）は大きな剥離痕を残し、側縁をやや急角度で調整する。石材を異にしている（１の石材は天城柏峠群の黒曜石、３はガラス質黒色安山岩）が、形状は良く類似している。この類例としては、前嶋秀張（1995）により第４期ｃ段階末の様相を示す石器として分類された、山中城三ノ丸第１地点第Ⅱ文化層出土の石槍がある。これに対し２（ＹＬＭ層出土）の石槍は、両端を折断しているため、やや正確さに欠けるが、中央がやや幅広で両端が鋭角に窄まる形と思われる。前掲前嶋論文で第４期ｂ段階に比定された山中城三ノ丸第１地点第Ⅲ文化層の石槍に類似するものと思われる。石材は黒曜石で箱根畑宿群と推定されている。

次にナイフ形石器であるが、５の基部調整が入る小型ナイフと、６の基部側を欠損して全体像は不明ながら二側縁加工が施されたナイフが、同一ブロック内で検出されている。双方の石器は、検出層位が異なるが発掘深度は僅かなレベル差でしかなく、同時期としても良いものと判断される。５の黒曜石産地は、諏訪星ヶ台群、６の黒曜石産地は、１の石槍と同じ天城柏峠産と推定されている。

他の石器としては、使用痕のある剥片（Ｕ・Ｆ）の類があるだけで、台石や敲石類は見られない。他に剥片が３点出土している。石器については他から持ち込まれたものと考えられる。

第２節　縄文時代

１．遺　構

土　坑

土坑については、陥穴と考えられる土坑群の存在が特徴的である。関東・東北地方に比べ少ないながら愛鷹・箱根山麓でも陥穴と思われる土坑が多く検出されている。主なものをあげると駿東郡長泉町では西願寺遺跡（平林他　1978）、野台遺跡（平川他　1986）、向田Ａ遺跡（富樫他　2007）、柏窪Ａ遺跡（三好他　2009）、柏窪Ｂ遺跡（望月他　2003）、桜畑上遺跡（伊藤他　2009）、梅ノ木沢遺跡（笹原千賀子他　2008）。裾野市では棚返遺跡（壬生他　2008）、佛ヶ尾遺跡（野田他　2007）、塚松遺跡（藁科他　2008）。三島市では観音洞Ｂ遺跡（池谷初恵他　1994）、天台Ｂ遺跡（池谷初恵他　1998）、下原遺跡（小野千賀子他　1995）、八田原遺跡（笹原他　1997）。沼津市では広合遺跡（高尾他　1987）（池谷信之他　1990）、元野遺跡（柴田他　2008）、植出遺跡（羽二生他　1996・1997）、佐野片平山Ｇ遺跡（小野真一他　2002）、清水柳北遺跡（関野他　1989・1990）などがあげられる。このうち陥穴が多く検出された遺跡は、棚返遺跡（107基）、塚松遺跡（74基）、梅ノ木沢遺跡（63基）、植出遺跡（47基）、向田Ａ遺跡（報告書の記載から判断し陥穴と思われるもの24基）、佐野片山Ｇ遺跡（15基）、桜畑上遺跡（報

告書の記載から陥穴と判断できる土坑10基）である。これらの遺跡での土坑の立地は、大部分が南斜面もしくは尾根上の平坦部の端部に位置するものが多い。土坑の配置について、列を成すと報告されているものに柏窪A遺跡がある。竪穴住居跡、焼土、集石などの遺構群が位置する平坦面からやや西に離れた台地縁辺部と、集落から120ｍほど西に離れた地点の南に傾斜する沢から尾根上に登る斜面で検出されている。土坑の平面形はいずれも隅丸長方形で規模もほぼ同じであることから同一時期の遺構の可能性が高い。

塚松遺跡では、ＹＬ層上面の褐色土で検出され、覆土がＦＢ層土を主体とする土坑（Ⅰ群）と、ＫＵ層下部もしくはＦＢ層上面で検出され、覆土がＫＵ層土を主体とするものや、ＡＮ層以上の新期スコリア等を含む土坑（Ⅱ群）に分類している。Ⅰ群土坑は南北方向の斜面で、等高線に平行する土坑配置2列、直交する配置を1列、Ⅱ群土坑では、等高線に対し斜交する土坑の配列を3列報告している。

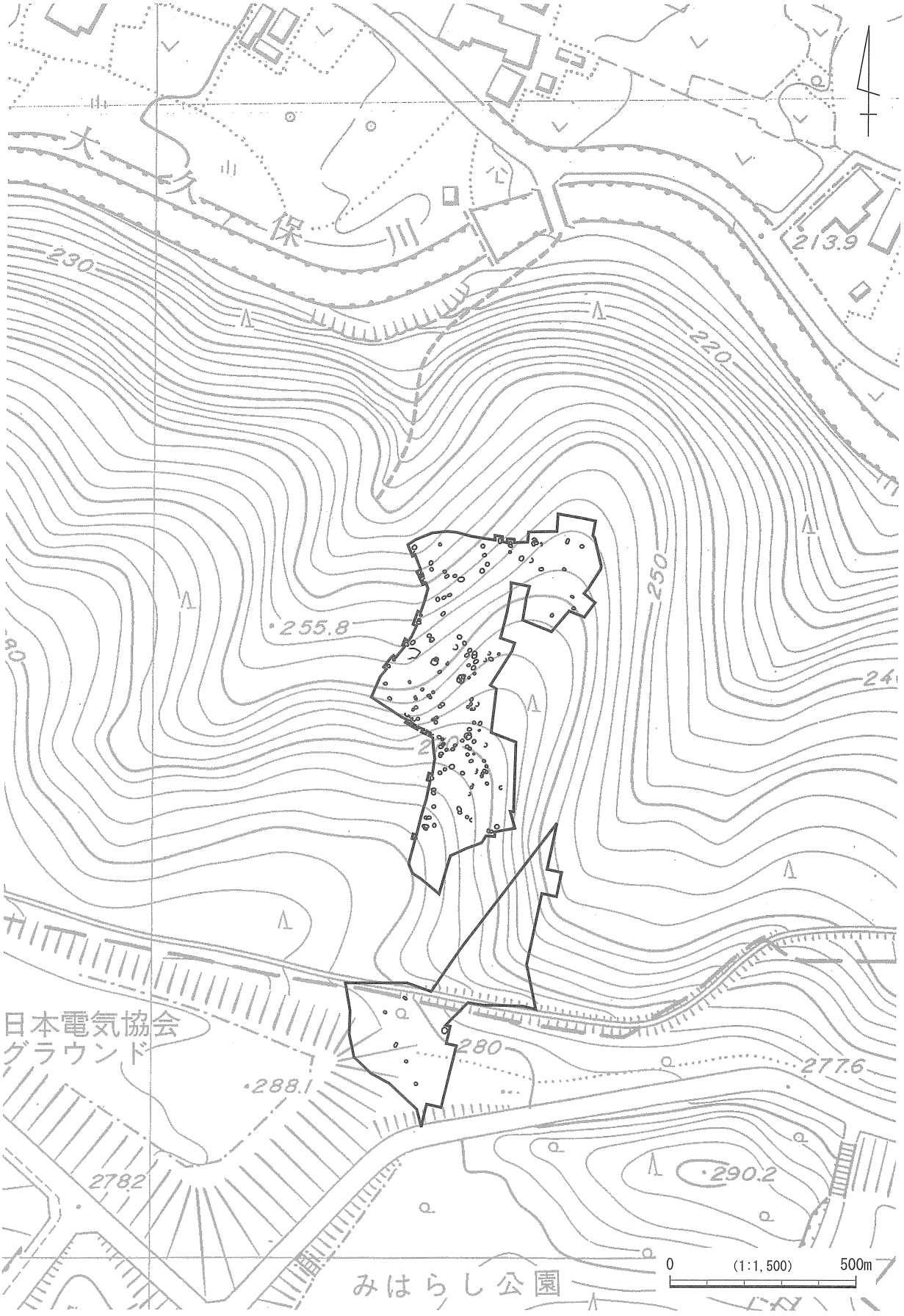
梅ノ木沢遺跡では土坑の大部分が遺跡の平坦部と、さらに上位に位置する台地上に続く斜面部に位置している。陥穴の時期は特定されていないが、報告書では「逆茂木状のピットを底面に持つものは長楕円形から方形の底部を持ち、台地の張り出し部縁辺に並ぶように分布し、ピットを持たない土坑は大きさ平面形状にバラつきがあり、異なる機能を持つものが混在している」と記述している。

この両遺跡を含めた多くの遺跡間で土坑配置には類似性が覗える。土坑配置について大秦司統(2007)は、秋田県で集成を行った磯村　享（1990）の説を紹介している。それによると「鹿やイノシシは平坦部が丘に移行する斜面の下端や台地の縁辺を通ることが多いためテラス部分に罠を仕掛けた」とする。さらに、千葉徳爾（1975）の「追い立てられた鹿は、廃絶した集落のような開地を逃げ道として利用する」という説を示している。また、自身も狩猟活動の見学体験から、動物の歩行跡が藪や潅木を避ける傾向にあり、開地や人間利用跡を歩行する例を述べている。土坑の配置については、狩猟対象動物の種類、追い込み猟か待ち受けの罠猟なのかにより異なることを、多くの研究者が指摘している。しかし、いずれも仮説の段階にとどまっているのが現状である。

本遺跡の土坑の配置と周辺の地形については第68図に示した。地形図から現在、日本電気協会グランドとなっているところが、尾根上の平坦部であった。また、この部分に縄文時代の集落があった可能性が考えられよう。本調査Ⅰ期調査区で出土した土器・石器の集中がこの平坦部の東端に当たることからもその可能性が高いといえる。本調査Ⅱ期調査区の土坑の配置はかなりランダムであるが、尾根中央部の上方から西側斜面にかけて集中しており、低地部に流れる大久保川につながる谷筋方向を意識して設置された可能性が高い。「ヌタ場」を必要とするイノシシが急斜面をまっすぐ登らず、斜面を折り返しながら尾根から沢へ行き来する性質があることが指摘されている。本遺跡の土坑の分布から、「水場」「ヌタ場」へ向かうルート上に設置された罠である陥穴という想定もできる。

土坑の構築時期については、近隣地区のほとんどの遺跡で、時期を特定できていないのが現状である。この地域で構築年代を想定している僅かな例として、以下の事例がある。植出遺跡では、土坑ＴＰ19の覆土下層に鬼界アカホヤ火山灰が含まれることから、構築時期を早期末以前としている。梅ノ木沢遺跡では、Ⅱ群として分類された土坑覆土にＦＢ層土を含むことから、縄文早期以降と報告している。さらに裾野市棚返遺跡では、Ⅱ群ａ類土坑がカワゴ平パミスを含む暗褐色土層を掘り込む形で構築され、砂沢スコリアを含む層に被覆されていたとの報告例がある。広域火山灰の降灰年代を参考にして、その構築時期の幅を推定している。

本遺跡については、第Ⅳ章第2節で記述したように、遺構の掘り込み面が、ＫＧＰ層下及びＫＧＰ中位からのものと、ＡＮ～ＺＮ層（分層可能であった本調査Ⅰ期検出のものでは、ＫＵ層及びＦＢ層から掘りこまれている例もある。）からのものがある。土坑内からの遺物出土はなく、また覆土についても明確に指標となるものはない。しかし大多数の遺構は覆土の状況からＡＮ～ＺＮ層中から掘り込まれた



第 68 図　陥穴と周辺の地形図

ものと考えられる。

焼土遺構

土坑群と同一遺跡で検出される例が、元野遺跡、向田Ａ遺跡、桜畑上遺跡、棚返遺跡などにみられる。焼土遺構ＦＰ１は、桜畑上遺跡や棚返遺跡のものと形態が類似すると同時に、土坑群から離れて検出されるという点においても近似性がある。向田Ａ遺跡では、「落とし穴は谷、焼土土坑は丘陵上に集中しており、地形による活動域の区別がみられる。」としており、本遺跡でも遺物の集中域がこのＦＰ１の検出位置と重なることから、なんらかの生活関連遺構と考えておきたい。西側斜面部で土坑群に重なって検出されたＦＰ２については、ＡＮ～ＺＮ層中で検出されたもので、やや大型の掘り込みを伴う点でＦＰ１とは異なっており、その位置も土坑群内にあるところから、本遺跡のＦＰ１や桜畑上遺跡や棚返遺跡、向田Ａ遺跡の例とは性格が異なるのではないかと思われる。なお、類例としては、八田原遺跡において大型で不整円形の窪み内に焼土が伴う例が報告されている。

２．遺　物

土　器

分類や編年的位置づけについては、第Ⅳ章第２節において詳述したので、ここではあらためて触れない。以下第Ⅳ章で言及しなかった若干の点についてのみ触れる。

土器の分布状況を、縄文前期（第 49 図）と縄文中、後期（第 50 図）に分けて示した。これによると土器の分布範囲は前期と中､後期ではまとまる位置に微妙なずれが見て取れる。前期の土器はＤ－３．４グリッド、中、後期の土器はやや北にずれてＥ－３．４、Ｄ－３．４グリッドでまとまっている。

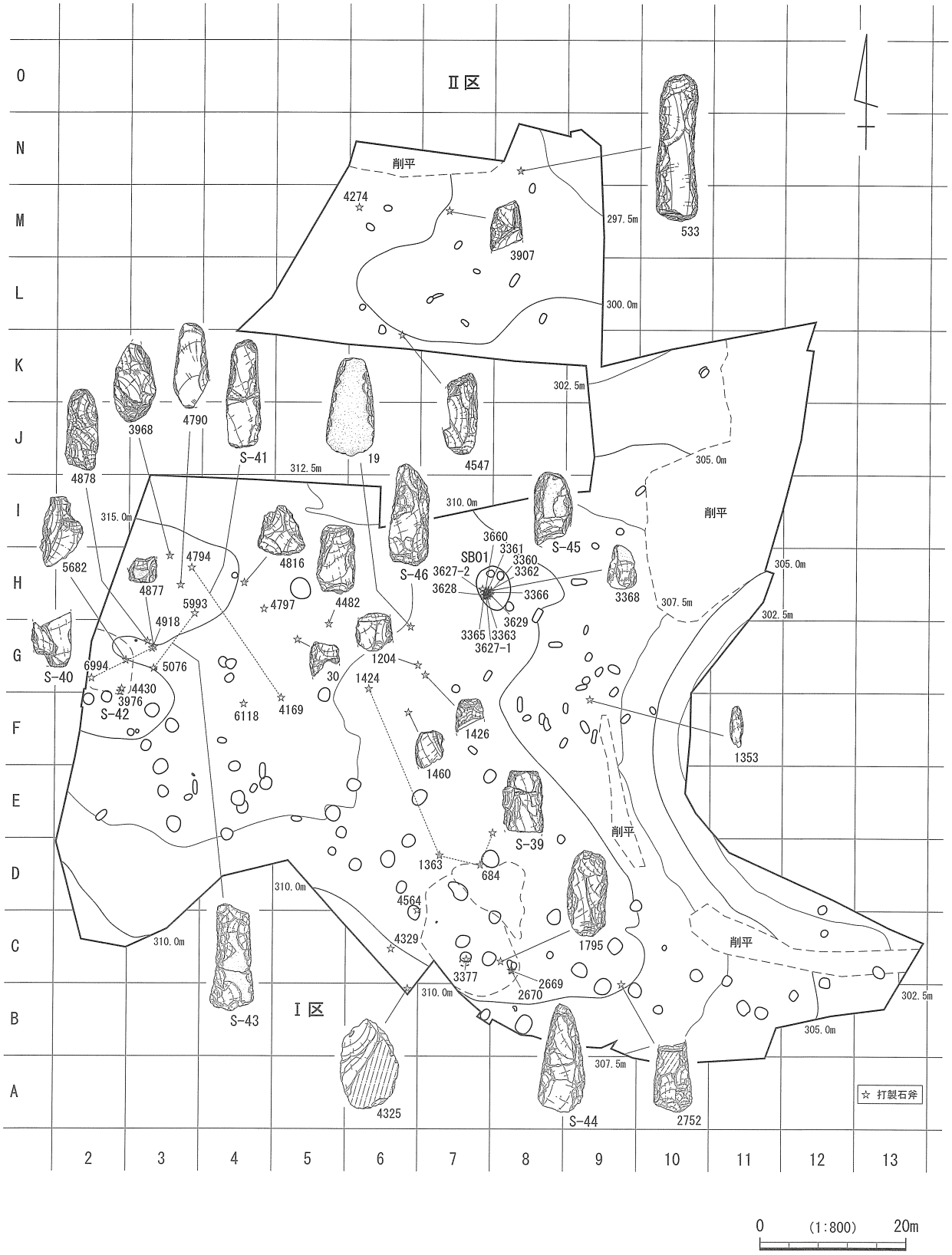
次に、炭化物が付着していたため、ＡＭＳ法による年代測定を行なった土器について述べたい。対象試料は４点で、図化したのはＩ群３類に分類した第 53 図 50 の土器のみである（試料番号 12)。試料番号８、９は無紋だが、整形や胎土の特徴から後期の土器と思われる。11 は底部に近い胴部片で、無紋だが胎土の特徴はＩ群土器に類似する。試料№８、９の ^{14}C 年代は 3890 ± 40yr ＢＰで後期初頭、11 は、5100 ± 40yr ＢＰ、12 は 5020 ± 40yr ＢＰで前期後半の年代と報告された。これらの数値は、他遺跡で行なわれた当該時期のＡＭＳ法による測定データと近似している（附編参照)。

石　器

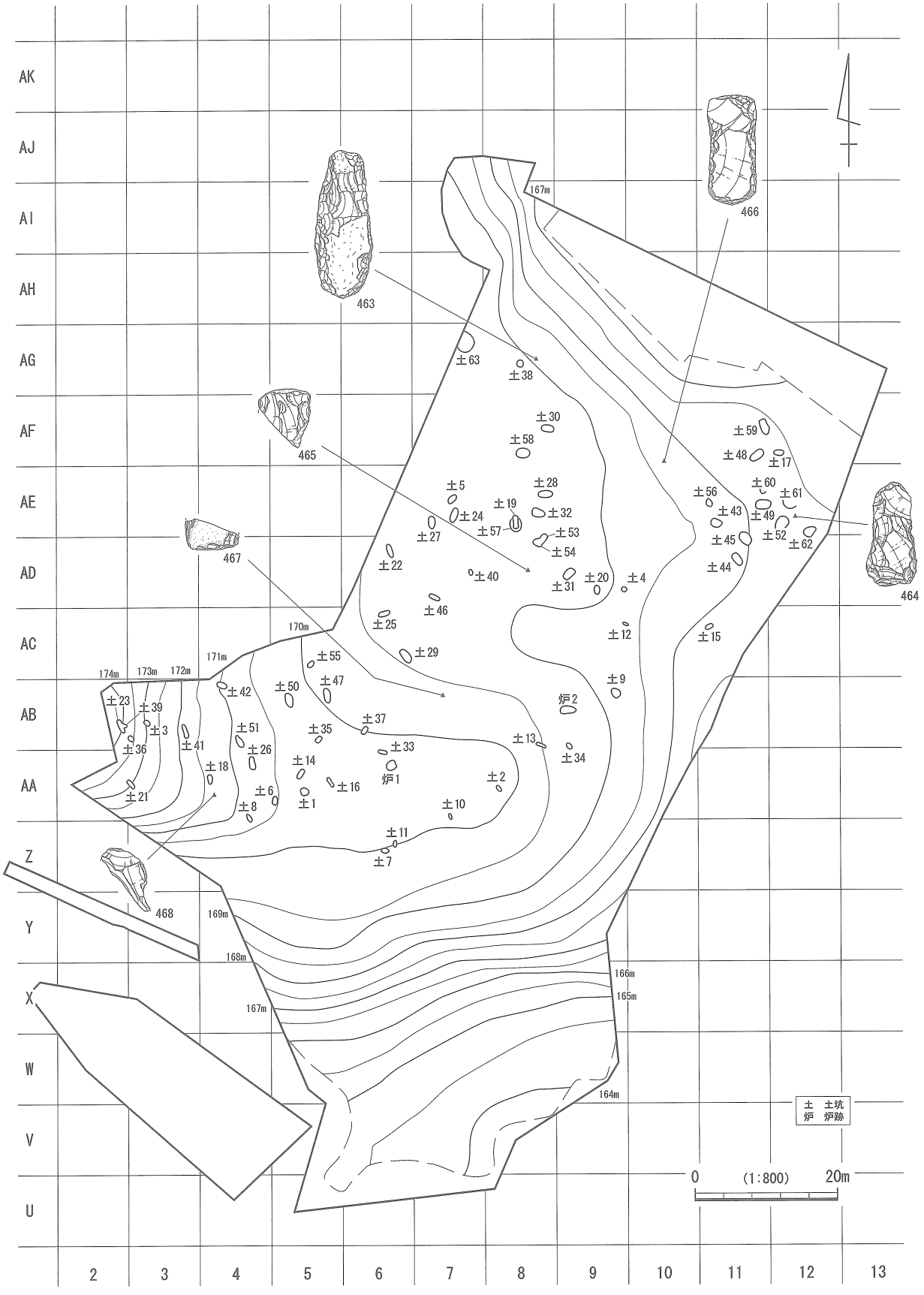
機能別分類の構成比率は、狩猟具（石鏃）15.6%、加工・生産具（石錐、掻器、削器、石匙、両極石器、楔形石器、磨石・台石類、礫器）58.8%、土木具（打製石斧）23.5%、その他 1.9%となる。

ここでは遺跡と石器の関係を少しみておきたい。第 55 図で石器の分布を示した。これによると狩猟具、加工・生産具の類は本調査Ｉ期調査区の南西隅部に集中しており、土器の分布域とも重なっている。ただし、この部分で検出した遺構は焼土遺構が１基、土坑２基だけなので、この部分が生活領域の中心部とは考えにくい。一方、この地点から北東方向に 60 ｍほど離れた急斜面の地点に、径 15 ｍの範囲で打製石斧が６点集中して出土しているのが注目される。この打製石斧が土掘り具としての機能を持つとすると、陥穴群との関連性を想定することが可能である。

同じ裾野市で 104 基の陥穴群が検出された棚返遺跡では、遺構配置図に打製石斧の分布（第 69 図）を示している。これによると、陥穴群内に打製石斧が分布しており、出土打製石斧 31 点中 24 点が図示されている。図示されたもののうち７点が接合関係を持つもので、土坑分布域で破損遺棄されたものと考えられる。また、63 基の陥穴群が検出された長泉町梅ノ木沢遺跡では、打製石斧の数こそ少ないが、同じように土坑が配置されている部分に打製石斧の出土がみられる（第 70 図)。性急に結論を出す必要はないが、陥穴の土掘り具は今後の検討課題のひとつといえよう。



第 69 図　棚返遺跡の打製石斧分布図（(壬生他　2008）の第 68 図を改編）



第 70 図　梅ノ木沢遺跡の打製石斧分布図（(笹原他　2008）の第 92 図を改編）

第３節　中世以降

本遺跡で検出した中世以降の遺構は、道路跡を除けば、土坑２基とピット１基のみである。出土遺物もないことからその時代が特定できるものではなく、覆土や形状からその所属時期を推定したものである。所属時期を近代とし、「馬車路」と地元で呼称されている木材運搬道路跡は、馬車の轍や馬の蹄鉄跡が残され、この地域の林業における運搬形態を知りうる近代産業遺構として評価され記録されるべきものである。ちなみに1915（大正４）年版製の２万５千分の１裾野図幅（大日本帝国陸地測量部）では、この馬車道は記載されていない。そこから、この地図作成以降の建設であったことも想定できる。

引用・参考文献

青嶋邦夫　2002　「縄文時代の陥し穴について～愛鷹山麓・箱根山麓の遺跡から～」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』　第９号　（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所

池谷信之　2009　『黒曜石考古学』新泉社

池谷信之他　1990　『広合遺跡（b・c・d区）・広合南遺跡発掘調査報告書』　沼津市教育委員会調査報告書　第49集

池谷初恵他　1994　『五輪・観音洞・元山中・陰洞遺跡Ⅰ、Ⅱ』　三島市教育委員会

池谷初恵他　1998　『中村分遺跡　天台Ｂ遺跡　台崎Ｃ遺跡』　三島市教育委員会

磯村　亨他　1990　『東北横断自動車道発掘調査報告書Ⅵ　石神遺跡』　秋田県埋蔵文化財報告書　191集

伊藤和彦他　2009　『桜畑上遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所報告　第208集

井上輝夫・勝又　淳　1998　『富沢内畑遺跡　調査報告』　裾野市教育委員会

今村啓爾　1973　「霧ヶ丘遺跡の土壙群に関する考察」『霧ヶ丘』　霧ヶ丘遺跡調査団

大泰司　統　2007　「北日本の陥し穴猟」『縄文時代の考古学５　なりわい　食料生産の技術』　同成社

小田静雄　2003　『日本の旧石器文化』同成社

小野真一他　2002　『佐野片平山遺跡群』　三島市教育委員会他

小野千賀子他　1995　『下原遺跡Ⅰ』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第64集

織笠　昭　2005　『石器文化の研究』　新泉社

金持健司　2002　「多摩ニュータウン遺跡群における早期後半の遺構と遺物」『研究論集ⅩⅨ』　東京都埋蔵文化財センター

菊池　実　1986　「十二原Ⅱ遺跡検出の陥し穴群について」『三後沢遺跡・十二原Ⅱ遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団他

小菅将夫　2004　「両面加工尖頭器の製作技術」『石器作りの実験考古学』　学生社

笹原千賀子他　1997　『八田原遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第87集

笹原千賀子他　2008　『梅ノ木沢遺跡Ⅰ』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第194集

佐藤宏之　1999　「遺構研究　陥し穴」『縄文時代』　10　第３分冊　縄文時代文化研究会

佐藤宏之　2000　『北方狩猟民の民族考古学』　北海道出版企画センター

柴田亮平他　2008　『元野遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所報告　第189集

白石浩之　1989　『旧石器時代の石槍』　東京大学出版会

裾野市史編さん専門委員会　2000　『裾野市史』　第８巻　通史編Ⅰ　裾野市

裾野市史編さん専門委員会　2001　『裾野市史』　第９巻　通史編Ⅱ　裾野市

関野哲夫他　1989　『清水柳北遺跡発掘調査報告書　その１』　発掘調査報告書第47集　沼津市

関野哲夫他　1990　『清水柳北遺跡発掘調査報告書　その２』　発掘調査報告書第48集　沼津市

大工原　豊　2004　「打製石斧の製作技術について」『石器作りの実験考古学』　学生社

高尾好之　2006　「東海地方の地域編年」『旧石器時代の地域編年的研究』　同成社

高尾好之他　1987　『広合遺跡発掘調査報告書』　沼津市文化財調査報告書　第41集

千葉徳爾　1975　『狩猟伝承』　法政大学出版局

富樫孝志他　2007　『向田Ａ遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所報告　第178集
中村信博　2007　「関東地方の陥し穴猟」『縄文時代の考古学５　なりわい　食料生産の技術』 同成社
野田正人他　2007　『佛ヶ尾遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第175集
羽二生保他　1996　『北神馬土手遺跡他Ⅰ』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第74集
羽二生保他　1997　『北神馬土手遺跡他Ⅱ』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第89集
平川昭夫他　1986　『中尾・イラウネ・野台』 長泉町教育委員会他
平林将信他　1978　『西願寺遺跡（Ａ地区）・長久保城址（二の丸）』 静岡県長泉町他
前嶋秀張　1995　「第４期・５期の石器群」『静岡県考古学会シンポジュウムⅨ　愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』 静岡県考古学会編
御堂島　正　2005　『石器使用痕の研究』 同成社
壬生亮輔他　2008　『棚返遺跡・今里遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第191集
三好元樹他　2009　『大岡元長窪線関連遺跡Ⅲ』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第205集
望月由佳子他　2003　『大岡元長窪線関連遺跡Ⅰ』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第138集
吉田政行　2004　「両極剥離技術と楔形石器」『石器作りの実験考古学』 学生社
渡瀬　治他　1989　『富沢原・千福馬場添・大畑・桃園入ノ洞』 裾野市教育委員会他
藁科泰裕他　2008　『裾野市富沢・桃園の遺跡群』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所報告　第193集

附編　自然科学分析

第二東名千福南山Ⅲ西遺跡出土黒曜石産地推定結果

沼津工業高等専門学校名誉教授　望月明彦

１．分析法　　エネルギー分散蛍光Ｘ線分析（EDX）

２．分析装置　セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光Ｘ線分析計　SEA-2110L

３．産地推定法

（１）得られた蛍光Ｘ線スペクトル強度を元素記号で表す。

指標　Sum=Rb+Sr+Y+Zr とする。

Rb 分率 =Rb/Sum　Sr 分率 =Sr/Sum　Zr 分率 =Zr/Sum　Mn*100/Fe　log（Fe/K）

（２）産地のシートに挙げた黒曜石産地から原石を採集し、測定する。

（３）測定結果から上記の指標を算出する。

（４）以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

（５）出土遺物について下記の二つの方法で産地推定を行う。

①　判別図法

用いる指標：横軸：Rb 分率、縦軸：Mn/Fe　　横軸：Sr 分率、縦軸：log（Fe/K）

推 定 方 法：遺跡出土試料を蛍光Ｘ線分析し、指標を計算。指標を図にプロットする。
重なった判別群を推定結果とする。

②　判別分析（推定結果表参照）

用いる指標：算出された指標全て

推 定 方 法：判別図法では遺跡出土試料と重なっている判別群を推定結果とする。
この判別群は試料と判別図上で２次元的に最も距離が近い。
判別分析ではこの距離を数学的に n 次元で計算する。
試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い判別群を推定結果とする。
この距離から、各判別群に属する確率を計算する。

４．出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MK09-06638	SPM-1	1423	天城柏峠群
MK09-06639	SPM-2	1359	箱根畑宿群
MK09-06640	SPM-3	1435	諏訪星ヶ台群
MK09-06641	SPM-4	1424	天城柏峠群
MK09-06642	SPM-5	1436	和田鷹山群
MK09-06643	SPM-6	1372	諏訪星ヶ台群
MK09-06644	SPM-7	967	諏訪星ヶ台群
MK09-06645	SPM-8	968	神津島恩馳島群
MK09-06646	SPM-9	693	諏訪星ヶ台群
MK09-06647	SPM-10	134	神津島恩馳島群
MK09-06648	SPM-11	1467	諏訪星ヶ台群
MK09-06649	SPM-12	1001	神津島恩馳島群
MK09-06650	SPM-13	719	諏訪星ヶ台群
MK09-06651	SPM-14	1519	天城柏峠群
MK09-06652	SPM-15	998	諏訪星ヶ台群
MK09-06653	SPM-16	570	諏訪星ヶ台群
MK09-06654	SPM-17	1393	神津島恩馳島群
MK09-06655	SPM-18	1336	諏訪星ヶ台群

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

判別図判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
AGKT	AGKT	1.54	1	HNKT	123.66	0
HNHJ	HNHJ	6.64	1	HNKI	94.04	0
SWHD	SWHD	6.53	1	SBIY	94.33	0
AGKT	AGKT	6.5	1	HNKT	146.61	0
WDTY	WDTY	4.8	0.9999	WDHY	21.76	0.0001
SWHD	SWHD	7.9	1	SBIY	66.79	0
SWHD	SWHD	4.2	1	SBIY	76.04	0
KZOB	KZOB	2.54	1	KZSN	53.67	0
SWHD	SWHD	9.73	1	SBIY	76.08	0
KZOB	KZOB	4.19	1	KZSN	49.43	0
SWHD	SWHD	9.57	1	WDTN	108.21	0
KZOB	KZOB	3.19	1	KZSN	42.63	0
SWHD	SWHD	5.64	1	WDTN	84.87	0
AGKT	AGKT	3.99	1	HNKT	133.71	0
SWHD	SWHD	3.07	1	SBIY	95.26	0
SWHD	SWHD	6.4	1	SBIY	80.36	0
KZOB	KZOB	1.61	1	KZSN	56.06	0
SWHD	SWHD	4.63	1	SBIY	120.97	0

〈表中用語〉

判別図判別群：判別図法によって推定された産地

判別分析：第１候補産地…判別分析により推定された産地の第１候補　第２候補産地…判別分析により推定された産地の第２候補

判別群：候補産地記号

距離：試料から候補産地までのマハラノビス距離。値が小さいほど候補産地と類似性が高い。

確率：試料が候補産地に属する確率。１に近いほど類似性が高い。

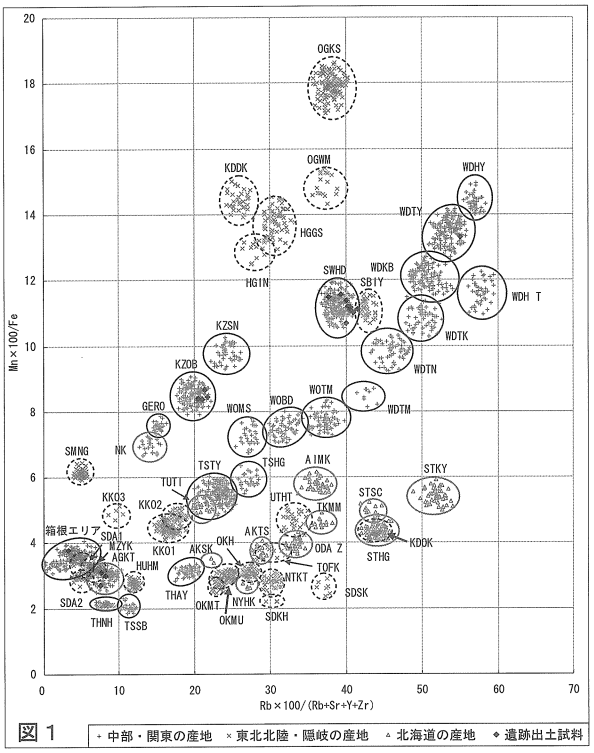


図 1　◦ 中部・関東の産地　× 東北北陸・隠岐の産地　△ 北海道の産地　◆ 遺跡出土試料

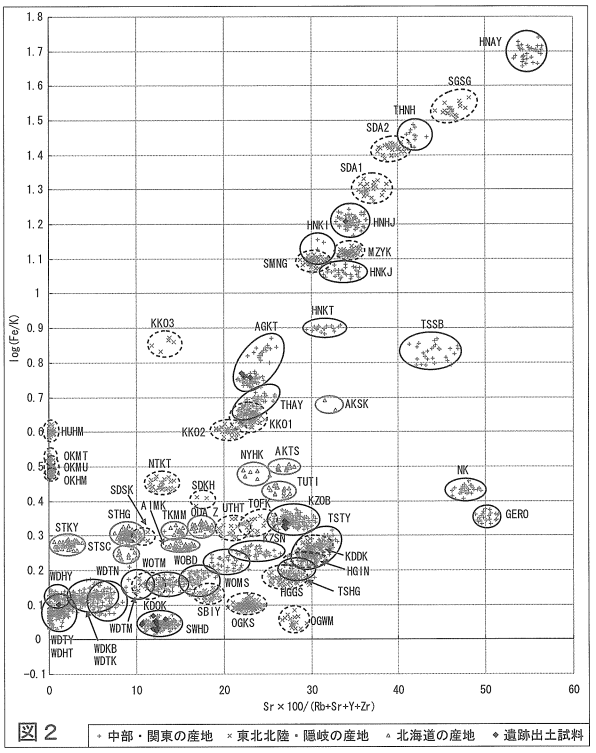


図 2　◦ 中部・関東の産地　× 東北北陸・隠岐の産地　△ 北海道の産地　◆ 遺跡出土試料

千福南山Ⅲ西（No. 148-2 地点）出土黒曜石産地組成

エリア	判別群	記号	試料数	%	エリア	判別群	記号	試料数	%
和田（WO）	ブドウ沢	WOBD	0	0	北上川	折居 1 群	KKO1	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0		折居 2 群	KKO2	0	0
	高松沢	WOTM	0	0		折居 3 群	KKO3	0	0
和田（WD）	芙蓉ライト	WDHY	0	0	宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0
	鷹山	WDTY	1	5.56	仙台	秋保 1 群	SDA1	0	0
	小深沢	WDKB	0	0		秋保 2 群	SDA2	0	0
	土屋橋北	WDTK	0	0	色麻	根岸	SMNG	0	0
	土屋橋西	WDTN	0	0	塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0
	土屋橋南	WDTM	0	0	小泊	折腰内	KDOK	0	0
	古峠	WDHT	0	0	魚津	草月上野	UTHT	0	0
諏訪	星ヶ台	SWHD	9	50	高岡	二上山	TOFK	0	0
蓼科	冷山	TSTY	0	0	佐渡	真光寺	SDSK	0	0
	双子山	TSHG	0	0		金井二ッ坂	SDKH	0	0
	擂鉢山	TSSB	0	0	隠岐	久見	OKHM	0	0
天城	柏峠 1	AGKT	3	16.67		岬地区	OKMT	0	0
箱根	畑宿	HNHJ	1	5.56		箕浦	OKMU	0	0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0	白滝	8 号沢	STHG	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0		黒曜の沢	STKY	0	0
	上多賀	HNKT	0	0		赤石山頂	STSC	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0	赤井川	曲川	AIMK	0	0
神津島	恩馳島	KZOB	4	22.22	豊浦	豊泉	TUTI	0	0
	砂糠崎	KZSN	0	0	置戸	安住	ODAZ	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0	十勝	三股	TKMM	0	0
	七尋沢	THNH	0	0	名寄	布川	NYHA	0	0
新津	金津	NTKT	0	0	旭川	高砂台	AKTS	0	0
新発田	板山	SBIY	0	0		春光台	AKSK	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0	不明産地 1	NK	NK	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0	下呂石		GERO	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0	合計			18	100
	脇本	OGWM	0	0					
羽黒	月山	HGGS	0	0	不可など			0	
	今野川	HGIN	0	0	総計			18	

データの個数 / 判別群	判別群					
器種	AGKT	HNHJ	KZOB	SWHD	WDTY	総計
ナイフ形石器	1			1		2
使用痕ある剥片				1	1	2
石核				1		1
石錐				1		1
石鏃	1		3	4		8
尖頭器	1	1				2
両極石器			1			1
楔形石器				1		1
総計	3	1	4	9	1	18

データの個数 / 判別群	判別群					
層位	AGKT	HNHJ	KZOB	SWHD	WDTY	総計
暗褐色土層				2		2
暗褐色土層～漸移層	1					1
休場層上位	2			1		3
休場層中位		1		1	1	3
栗色土層			2	3		5
仙石スコリア包含層				1		1
富士黒土層			2	1		3
総計	3	1	4	9	1	18

5．産地原石判別群一覧表（SEIKO SEA-2110L 蛍光 X 線分析装置による）

都道府県	地図 No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地（分析数）
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂（19）、八号沢露頭（31）、八号沢（79）、黒曜の沢（6）、幌加林道（4）
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢（16）
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住（25）、清水ノ沢（9）
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台（6）、雨紛台（5）、春光台（5）
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川（10）
	6	新十津川	須田群		STSD		須田（6）
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川（25）、土木川（15）
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉（16）
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸（34）
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園（8）、六角沢（8）、岡崎浜（40）
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉（37）、脇本海岸（98）
			脇本群		OGWM		脇本海岸（16）
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前（30）、朝日町田代沢（18）、櫛引町中沢（18）
			今野川群		HGIN		今野川（9）、大網川（5）
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津（29）
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場（40）
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山 1 群	THAY	TKH1	甘湯沢（50）、桜沢（20）
			七尋沢群	高原山 2 群	THNH	TKH2	七尋沢（9）、自然の家（9）
長野	16	和田（WD）	鷹山群	和田峠 1 群	WDTY	WDT1	鷹山（53）、小深沢（54）、東餅屋（36）、芙蓉ライト（87）、古峠（50）、土屋橋北（83）、土屋橋西（29）、土屋橋南（68）、丁字御領（18）
			小深沢群	和田峠 2 群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠 3 群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠 4 群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠 5 群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
		和田（WO）	ブドウ沢群	男女倉 1 群	WOBD	OMG1	ブドウ沢（36）、ブドウ沢右岸（18）、牧ヶ沢上（33）、牧ヶ沢下（36）、高松沢（40）
			牧ヶ沢群	男女倉 2 群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉 3 群	WOTM	OMG3	
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第 1 鉱区（36）、星ヶ塔第 2 鉱区（36）、星ヶ台 A(36)、星ヶ台 B(11)、水月霊園（36）、水月公園（13）、星ヶ塔のりこし（36）
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山（33）、麦草峠（36）、麦草峠東（33）、渋ノ湯（29）、美し森（4）、八ヶ岳 7(17)、八ヶ岳 9(18)、双子池（34）
			双子山群		TSHG		双子池（26）
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山（31）、亀甲池（8）
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯（34）
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿（71）
			黒岩橋群	箱根系 A 群	HNKI	HKNA	黒岩橋（9）
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋（30）
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀（18）
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠（80）
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島 1 群	KZOB	KOZ1	恩馳島（100）、長浜（43）、沢尻湾（8）
			砂糠崎群	神津島 2 群	KZSN	KOZ2	砂糠崎（40）、長浜（5）
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中（30）、久見採掘現場（18）
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸（30）、加茂（19）、岸浜（35）
			岬群		OKMT		岬地区（16）
その他			NK 群		NK		中ッ原 1G、5G（遺跡試料）、原石産地は未発見

佐々木繁喜氏提供試料（まだ地図には入れていない）

都道府県	エリア	判別群	記号	原石採取地（分析数）
青森	小泊	折腰内群	KDOK	小泊市折腰内（8）
岩手	北上川	北上折居 1 群	KKO1	水沢市折居（36）、花巻日形田ノ沢（36）、雫石小赤沢（22）
		北上折居 2 群	KKO2	水沢市折居（23）、花巻日形田ノ沢（8）、雫石小赤沢（2）
		北上折居 3 群	KKO3	水沢市折居（5）
宮城	宮崎	湯ノ倉群	MZYK	宮崎町湯ノ倉（54）
	色麻	根岸群	SMNG	色麻町根岸（48）
	仙台	秋保 1 群	SDA1	仙台市秋保土蔵（17）
		秋保 2 群	SDA2	仙台市秋保土蔵（35）
	塩竈	塩竈群	SGSG	塩竈市塩竈漁港（22）

千福南山Ⅲ西遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

１．測定対象試料

千福南山Ⅲ西遺跡は、静岡県裾野市葛山字西ノ窪 148 番地他（北緯 35° 12′ 05″、東経 138° 53′ 16″）に所在する。愛鷹山東麓の丘陵北端部でかなり急傾斜な部分に立地し、丘陵北側は大久保川が東流する谷部に接する。測定対象試料は、1 号炭化物集中出土炭化物（分析番号No.1：IAAA-91346、分析番号No.2：IAAA-91347、分析番号No.14：IAAA-91355、分析番号No.15：IAAA-91358)、2 号焼土遺構出土炭化物（分析番号No.3：IAAA-91348)、カワゴ平パミス層（ＫＧＰ）出土炭化物（分析番号No.4：IAAA-91349)、仙石スコリア層（ＳＳＣ）出土炭化物（分析番号No.5：IAAA-91350)、暗褐色土層（ＡＮ）～漸移層（ＺＮ）相当層出土炭化物（分析番号No.6：IAAA-91351)、漸移層（ＺＮ）出土炭化物（分析番号No.7：IAAA-91352)、富士黒土層（ＦＢ）出土土器付着炭化物（分析番号No.8：IAAA-91353、分析番号No.9:IAAA-91354)、漸移層（ＺＮ）出土土器付着炭化物（分析番号No.11:IAAA-91356)、栗色土層（ＫＵ）出土土器付着炭化物（分析番号No.12：IAAA-91357)、合計 13 点である。

２．測定の意義

炭化物集中や焼土跡の年代測定により、遺構の性格と斜面地での土地利用のあり方を明らかにする。また、火山灰層の噴出年代、遺物包含層の堆積年代、炭化物が付着した土器の年代を検討する。

３．化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

（２）酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸(80℃)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

（３）試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。

（４）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

（５）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

（６）グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

４．測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５．算出方法

（１）年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、$\delta^{13}C$によって補正された値である。^{14}C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

（３）$\delta^{13}C$は、試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により$^{13}C/^{12}C$を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

（４）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。

（５）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 1995　Bronk Ramsey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001）を使用した。

６．測定結果

1号炭化物集中出土炭化物の^{14}C年代は、分析番号№.1が4510±40yrBP、分析番号№.2が4540±40yrBP、分析番号№.14が4520±40yrBP、分析番号№.15が4510±30yrBPである。誤差（1σ）の範囲内で重なり合っており、ほぼ同年代を示している。縄文時代中期前葉頃に相当する。2号焼土遺構出土炭化物（分析番号№.3）は3990±40yrBPで、縄文時代中期末頃の年代である。

カワゴ平パミス層（ＫＧＰ）出土炭化物（分析番号№.4）が3910±40yrBP、仙石スコリア層（ＳＳＣ）出土炭化物（分析番号№.5）が1620±40yrBP、暗褐色土層（ＡＮ）～漸移層（ＺＮ）相当層出土炭化物（分析番号№.6）が4060±40yrBP、漸移層（ＺＮ）出土炭化物（分析番号№.7）が3860±40yrBPである。№.5は古墳時代、その他は縄文時代中期末から後期初頭頃の年代を示している。

富士黒土層（ＦＢ）出土土器付着炭化物（分析番号№.8、№.9）の^{14}C年代は3890±40yrBPで縄文時代後期初頭頃である。漸移層（ＺＮ）出土土器付着炭化物の（分析番号№.11）の^{14}C年代が5100±40yrBP、栗色土層（ＫＵ）出土土器付着炭化物（分析番号№.12）^{14}C年代が5020±40yrBPで、縄文時代前期後半の年代に相当する。

層位と出土炭化物、出土土器付着炭化物の年代が類例と必ずしも一致しない試料が認められるが、試料の年代は縄文時代前期後半、中期前葉、中期末から後期初頭、古墳時代（**補註**）といういくつかの時期にまとまっており、ランダムな現れ方ではない。急傾斜地における不安定な堆積層に、限られた年代の試料が包含された可能性を考慮する必要がある。

炭素含有率は炭化物が60%以上、土器付着炭化物はこれらよりも低い値であるが、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-91346	分析番号 No.1	1号炭化物集中　覆土？(AN(暗褐色土層)～ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AaA	**-27.63 ± 0.46**	**4,510 ± 40**	**57.05 ± 0.28**
IAAA-91347	分析番号 No.2	1号炭化物集中　覆土？(AN(暗褐色土層)～ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AAA	**-25.83 ± 0.39**	**4,540 ± 40**	**56.85 ± 0.27**
IAAA-91348	分析番号 No.3	2号焼土遺構　覆土2層より下の炭化物ブロック	炭化物	AaA	**-25.13 ± 0.51**	**3,990 ± 40**	**60.83 ± 0.29**
IAAA-91349	分析番号 No.4	遺構外　カワゴ平パミス層(KGP)	炭化物	AaA	**-24.84 ± 0.72**	**3,910 ± 40**	**61.44 ± 0.29**
IAAA-91350	分析番号 No.5	遺構外　仙石スコリア層(SSC)	炭化物	AAA	**-23.16 ± 0.22**	**1,620 ± 40**	**81.69 ± 0.35**
IAAA-91351	分析番号 No.6	遺構外　暗褐色土層(AN)～漸移層(ZN)相当層	炭化物	AaA	**-25.19 ± 0.48**	**4,060 ± 40**	**60.35 ± 0.29**
IAAA-91352	分析番号 No.7	遺構外　漸移層(ZN)	炭化物	AAA	**-23.83 ± 0.65**	**3,860 ± 40**	**61.82 ± 0.27**
IAAA-91353	分析番号 No.8	遺構外　富士黒土層(FB)	土器付着炭化物	AaA	**-24.31 ± 0.84**	**3,890 ± 40**	**61.61 ± 0.30**
IAAA-91354	分析番号 No.9	遺構外　富士黒土層(FB)	土器付着炭化物	AaA	**-24.14 ± 0.68**	**3,890 ± 40**	**61.65 ± 0.29**
IAAA-91355	分析番号 No.14	1号炭化物集中　覆土？(AN(暗褐色土層)～ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AAA	**-23.92 ± 0.63**	**4,520 ± 40**	**56.94 ± 0.25**
IAAA-91356	分析番号 No.11	遺構外　漸移層(ZN)	土器付着炭化物	AaA	**-22.32 ± 0.59**	**5,100 ± 40**	**53.03 ± 0.26**
IAAA-91357	分析番号 No.12	遺構外　栗色土層(KU)	土器付着炭化物	AaA	**-26.81 ± 0.82**	**5,020 ± 40**	**53.53 ± 0.26**
IAAA-91358	分析番号 No.15	1号炭化物集中　覆土？(AN(暗褐色土層)～ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AAA	**-27.92 ± 0.51**	**4,510 ± 30**	**57.06 ± 0.24**

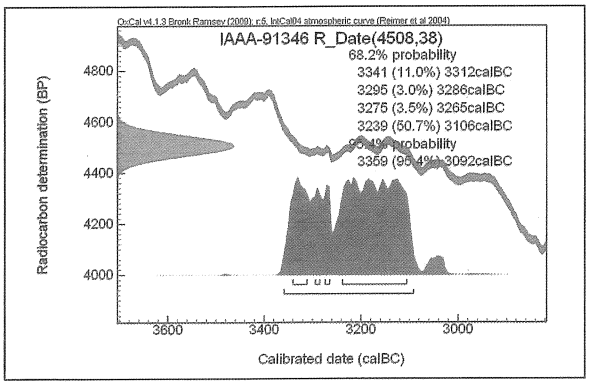
[#3187]

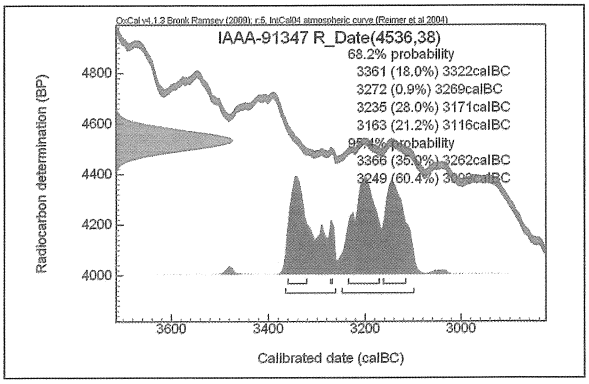
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-91346	4,550 ± 40	56.74 ± 0.27	4,508 ± 38	3341BC - 3312BC (11.0%) 3295BC - 3286BC (3.0%) 3275BC - 3265BC (3.5%) 3239BC - 3106BC (50.7%)	3359BC - 3092BC (95.4%)

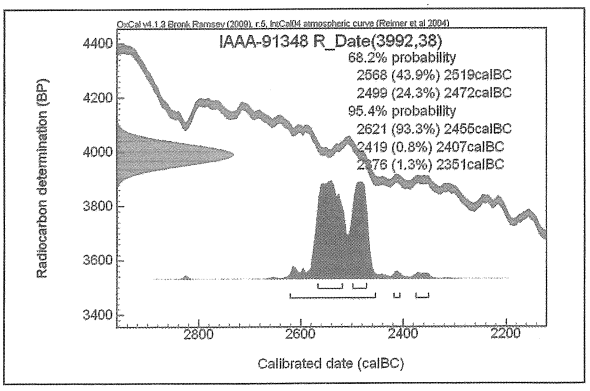
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-91347	4,550 ± 40	56.75 ± 0.27	4,536 ± 38	3361BC - 3322BC (18.0%) 3272BC - 3269BC (0.9%) 3235BC - 3171BC (28.0%) 3163BC - 3116BC (21.2%)	3366BC - 3262BC (35.0%) 3249BC - 3099BC (60.4%)
IAAA-91348	3,990 ± 40	60.82 ± 0.28	3,992 ± 38	2568BC - 2519BC (43.9%) 2499BC - 2472BC (24.3%)	2621BC - 2455BC (93.3%) 2419BC - 2407BC (0.8%) 2376BC - 2351BC (1.3%)
IAAA-91349	3,910 ± 40	61.46 ± 0.28	3,913 ± 38	2469BC - 2391BC (44.4%) 2385BC - 2346BC (23.8%)	2558BC - 2537BC (1.5%) 2491BC - 2286BC (93.9%)
IAAA-91350	1,590 ± 40	82.00 ± 0.35	1,624 ± 34	390AD - 441AD (39.8%) 485AD - 532AD (28.4%)	347AD - 370AD (4.6%) 378AD - 539AD (90.8%)
IAAA-91351	4,060 ± 40	60.33 ± 0.28	4,056 ± 38	2832BC - 2821BC (4.6%) 2632BC - 2563BC (40.7%) 2535BC - 2493BC (22.9%)	2851BC - 2812BC (9.1%) 2744BC - 2728BC (1.6%) 2695BC - 2474BC (84.7%)
IAAA-91352	3,840 ± 30	61.97 ± 0.26	3,863 ± 35	2457BC - 2418BC (16.8%) 2408BC - 2375BC (15.5%) 2367BC - 2362BC (1.9%) 2351BC - 2288BC (33.9%)	2465BC - 2274BC (83.1%) 2256BC - 2208BC (12.3%)
IAAA-91353	3,880 ± 40	61.70 ± 0.28	3,890 ± 39	2461BC - 2341BC (68.2%)	2474BC - 2280BC (91.5%) 2250BC - 2230BC (2.9%) 2220BC - 2211BC (1.0%)
IAAA-91354	3,870 ± 40	61.76 ± 0.28	3,885 ± 37	2458BC - 2339BC (65.6%) 2315BC - 2310BC (2.6%)	2471BC - 2280BC (91.2%) 2250BC - 2230BC (3.1%) 2220BC - 2211BC (1.1%)
IAAA-91355	4,510 ± 30	57.07 ± 0.24	4,523 ± 35	3352BC - 3321BC (14.0%) 3272BC - 3268BC (1.6%) 3236BC - 3171BC (29.9%) 3163BC - 3114BC (22.7%)	3361BC - 3262BC (33.5%) 3250BC - 3099BC (61.9%)
IAAA-91356	5,050 ± 40	53.32 ± 0.25	5,095 ± 38	3960BC - 3932BC (19.2%) 3876BC - 3806BC (49.0%)	3970BC - 3797BC (95.4%)
IAAA-91357	5,050 ± 40	53.33 ± 0.24	5,020 ± 38	3936BC - 3873BC (34.1%) 3810BC - 3761BC (26.8%) 3740BC - 3732BC (2.9%) 3726BC - 3715BC (4.5%)	3944BC - 3854BC (42.1%) 3848BC - 3709BC (53.3%)

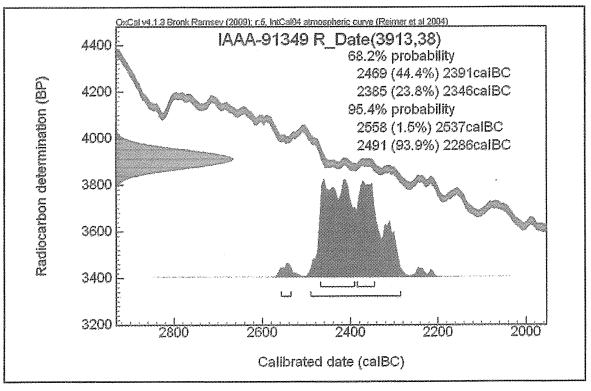
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-91358	4,560 ± 30	56.72 ± 0.23	4,507 ± 33	3340BC - 3312BC (11.0%) 3295BC - 3287BC (2.9%) 3275BC - 3265BC (3.6%) 3239BC - 3203BC (14.3%) 3198BC - 3107BC (36.3%)	3352BC - 3097BC (95.4%)

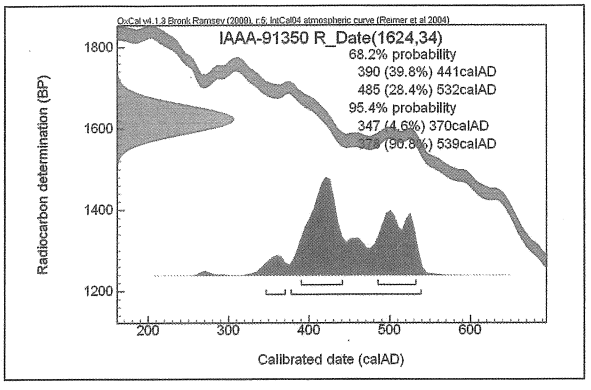
[参考値]

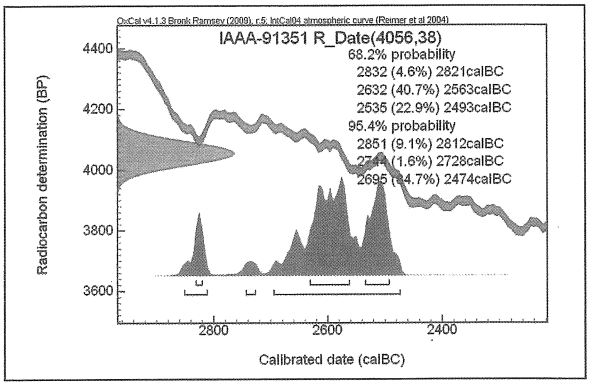


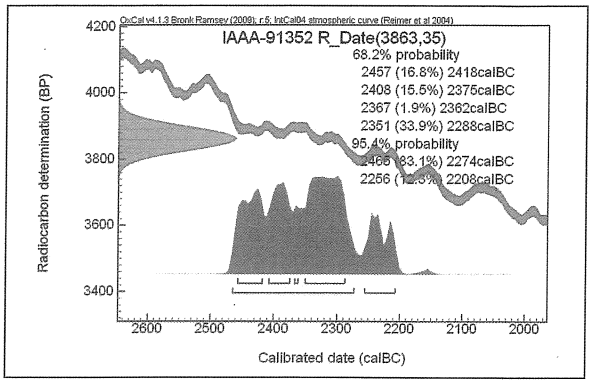


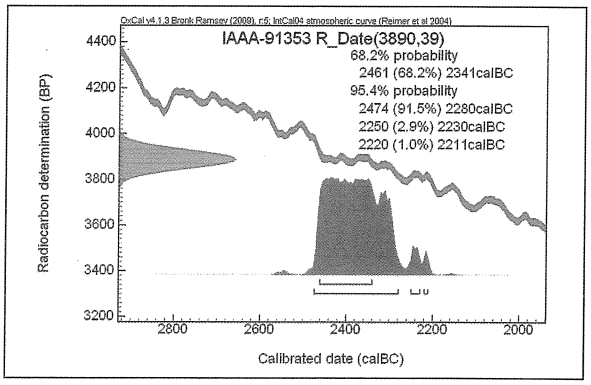


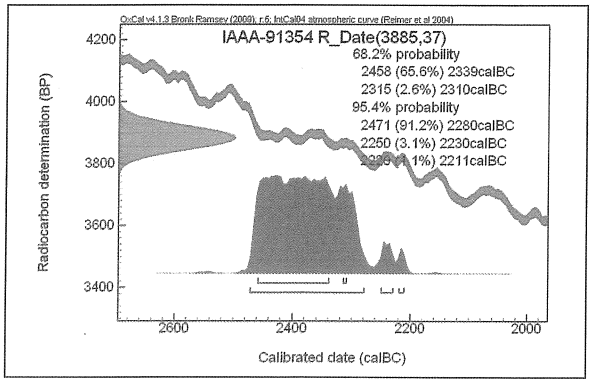


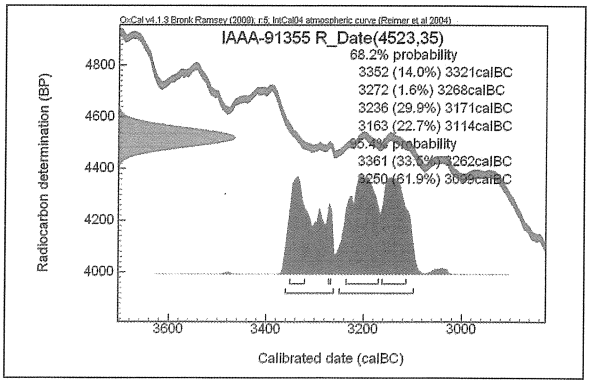


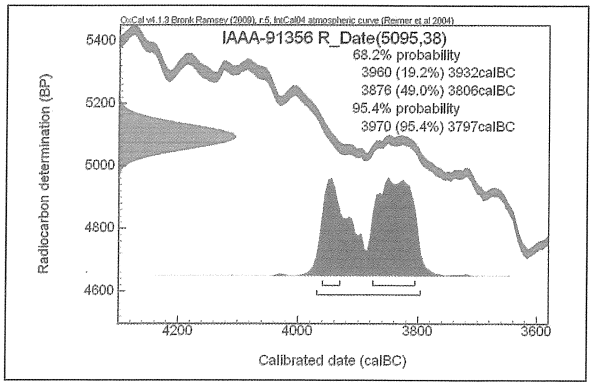


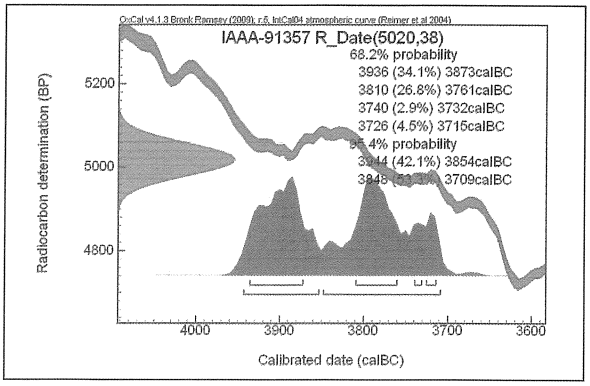


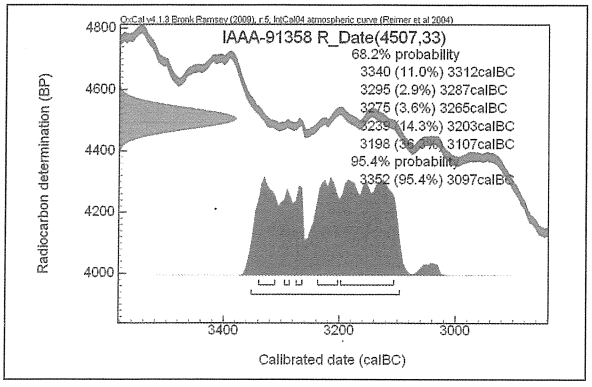












[参考] 暦年較正年代グラフ

参考文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A) , 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

(補注)

分析番号№５の資料は、仙石スコリア層から採取したもので、1,620 ± 40yr ＢＰの測定値が得られており、古墳時代の年代を示している。仙石スコリアの降下年代は、町田　洋氏の研究によれば（町田　1980）縄文時代晩期の噴出物と考えられており、2,500 ～ 2,800 ＢＰと推定されている。縄文晩期とする説は、カワゴ平パミスの降下年代（縄文後期末～晩期初頭）と、御殿場市関屋塚遺跡（小野他　1979）・宮ノ台遺跡（静文研　2001）の事例（仙石スコリア層より上層に堆積する砂沢スコリア層の直上の泥流層より縄文晩期末の浮線網状紋をもつ土器が出土している）等より明らかである。従って、今回の測定値で得られた古墳時代の年代が、仙石スコリアの降下年代であるとは到底考えられない。

今回の試料は、現地で層位を確認しながら、ドットで記録をとり取り上げた炭化物である。出土状態についての詳細な記録は残されていない。ただし、現地の調査所見によれば、この試料が出土した箇所付近では層の乱れや誤認などの可能性は極めて少ない。プライマリーな仙石スコリア層から採取したと認識している。従って、今回の測定値が得られた理由は、上層より木の根等が入りこみ、それが炭化したなどの理由しか考えられない。なお、他の試料の樹種がほとんどケヤキなのに対して、この試料のみヒノキであることも、他の試料に比べて異質であることを示唆する。（木崎道昭）

(補注の引用・参考文献)

小野真一他　1979 『関屋塚遺跡』 御殿場市文化財調査報告第２集　御殿場市教育委員会

(財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所　2001 『静岡県埋蔵文化財研究所　年報　17』

町田　洋　　1980 「富士テフラと古代遺跡」『考古学ジャーナル』 178 号

町田　洋・新井房夫　1992 『新編火山灰アトラス』 東京大学出版会

千福南山Ⅲ西遺跡出土炭化材の樹種（※）

（株）加速器分析研究所

はじめに

千福南山Ⅲ西遺跡は、愛鷹山東麓の丘陵北端部急傾斜地（大久保川右岸谷斜面）に位置する。発掘調査により、炭化物集中や焼土遺構等から炭化材が出土している。また、カワゴ平パミス層や仙石スコリア層からも炭化材が出土している。

今回の分析調査では、これらの炭化材の樹種を明らかにするための樹種同定を実施する。

１．試料

試料は、1号炭化物集中、2号焼土遺構、カワゴ平パミス層、仙石スコリア層、暗褐色土層～漸移層相当層、漸移層から出土した炭化材７点（分析番号１～７）である。

２．分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地･伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

３．結果

樹種同定結果を表１に示す。炭化材は、針葉樹１分類群（ヒノキ科）と広葉樹２分類群（アサダ近似種・ケヤキ）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

表1.　樹種同定結果

分析番号	遺構・層位	層位	遺物名	遺物No.	樹種
1	1号炭化物集中	暗褐色土層～漸移層相当層	炭化物		ケヤキ
2	1号炭化物集中	暗褐色土層～漸移層相当層	炭化物		ケヤキ
3	2号焼土遺構	暗褐色土層～漸移層相当層	炭化物		ケヤキ
4	－	カワゴ平パミス層	炭化物	1492	ケヤキ
5	－	仙石スコリア層	炭化物	1473	ヒノキ科
6	－	暗褐色土層～漸移層	炭化物	1508	アサダ近似種
7	－	漸移層	炭化物	1504	ケヤキ

・ヒノキ科（Cupressaceae）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は、いずれも壊れて輪郭のみであるが、輪郭の形状等からスギ型あるいはヒノキ型と考えられる。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・アサダ近似種（cf. Ostrya japonica Sarg.）　カバノキ科アサダ属

散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2-4 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織はいずれも潰れており、幅や高さは不明である。

組織の特徴からアサダの可能性が高いが、放射組織が潰れて観察できないため、近似種とした。

・ケヤキ（Zelkova serrata （Thunb.） Makino） ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は一部が潰れているが、異性で、1-6細胞幅程度、1-50細胞高程度となる。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

4．考察

遺構から出土した炭化材は、1号炭化物集中の2点と2号焼土遺構の1点がある。炭化していること、分析番号3が焼土遺構から出土していること等から、燃料材などして利用され、火を受けたことが推定される。これらの遺構はいずれも暗褐色土層～漸移層相当層から出土しており、樹種は全て落葉広葉樹のケヤキであった。ケヤキは川沿い・谷沿いの肥沃な土地に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。ケヤキは現在の愛鷹山麓で普通にみられる樹木であることから、当時の本遺跡周辺にも生育し、その木材を燃料材等に利用したことが推定される。

遺構外から出土した炭化材は、暗褐色土層～漸移層相当層、漸移層、カワゴ平パミス層、仙石スコリア層から出土した4点がある。漸移層はケヤキであり、暗褐色土層～漸移層相当層の遺構出土炭化材と樹種が同一であることから、遺構で使用された炭化材が周囲にも飛散して堆積物中に取り込まれた可能性がある。一方、暗褐色土層～漸移層相当層から出土した炭化材は、アサダ近似種であった。アサダは沢沿い等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。この結果から、ケヤキと共にアサダも利用されていた可能性がある。

暗褐色土層の上部に堆積するカワゴ平パミス層から出土した炭化材は、ケヤキであった。出土状況が不明であるが、樹種が遺構出土炭化材と同一であることから、暗褐色土層～覆土層のケヤキがカワゴ平パミス層中にも混入している可能性がある。

カワゴ平パミス層の上部に堆積する仙石スコリア層から出土した炭化材は、ヒノキ科であった。ヒノキ科には、ヒノキ、サワラ、アスナロ等の有用材が含まれ、木理が通直で割裂性・耐水性が高く、加工が容易な木材が多い。本地域では、雌鹿塚遺跡から出土した2640 ± 100BPの年代値が得られた木片がヒノキ属に同定されており（パリノ・サーヴェイ株式会社，1990）、当該期にヒノキ属が分布していた可能性がある。

引用文献

林　昭三，1991，日本産木材　顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181.

伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所．66-176.

伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201.

伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166.

伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216.

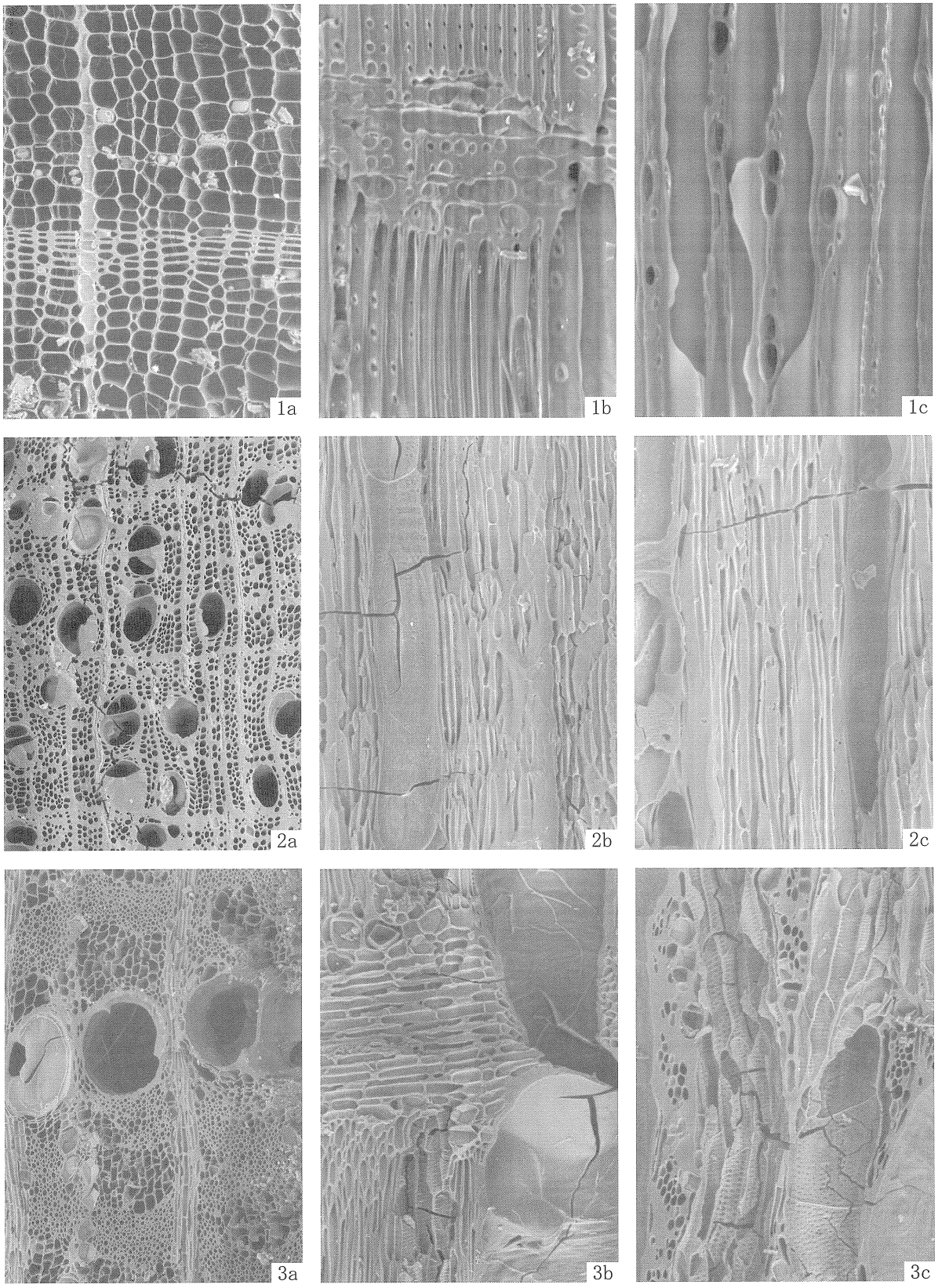
パリノ・サーヴェイ株式会社，1990，雌鹿塚遺跡の自然科学分析結果．「雌鹿塚遺跡発掘調査報告書Ⅰ　遺構編　－狩野川西部流域下水道事業処理場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」，沼津市文化財調査報告書第51集，沼津市教育委員会，153-170.

Richter H.G.，Grosser D.，Heinz I. and Gasson P.E.（編），2006，針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修），海青社，70p. [Richter H.G.，Grosser D.，Heinz

I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
島地　謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

（※）本分析は、当社協力会社・パリノ・サーヴェイ株式会社にて実施した。

図版１　炭化材



1. ヒノキ科(分析番号5)
2. アサダ近似種(分析番号6)
3. ケヤキ(分析番号7)
　a:木口,b:柾目,c:板目

200μm:2-3a
200μm:1a, 2-3b, c
100μm:1b, c

写 真 図 版

本調査Ⅱ期　縄文時代遺構検出状況（合成写真）

図版 2

本調査Ⅰ期　縄文時代完掘状況

本調査Ⅱ期　調査区近景（南から）

本調査Ⅰ期土層断面（Ｅライン北壁）

本調査Ⅰ期土層断面（土層帯 01）

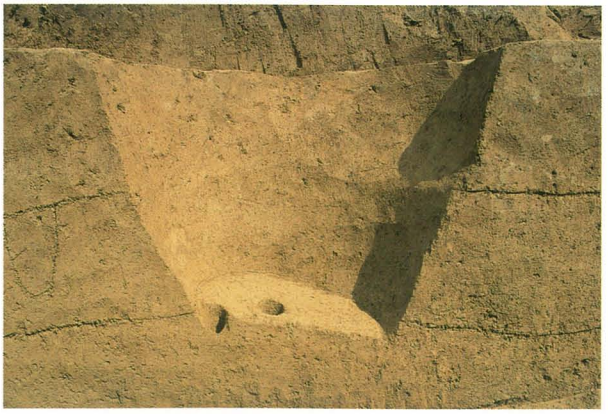
本調査Ⅱ期土層断面（ａ－ｂライン）

ＴＰ９土層断面（東から）

5 号土坑土層断面

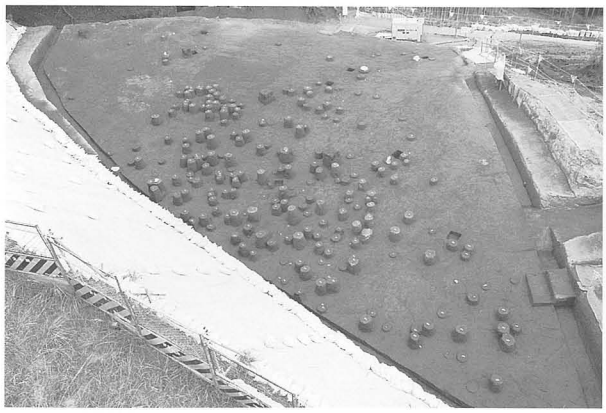
82 号土坑土層断面

86 号土坑完掘状況

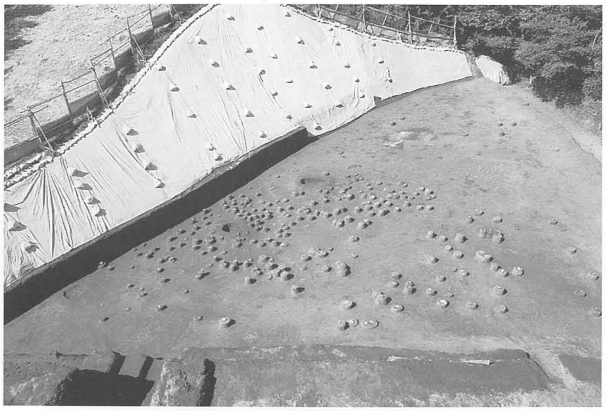


87 号土坑完掘状況

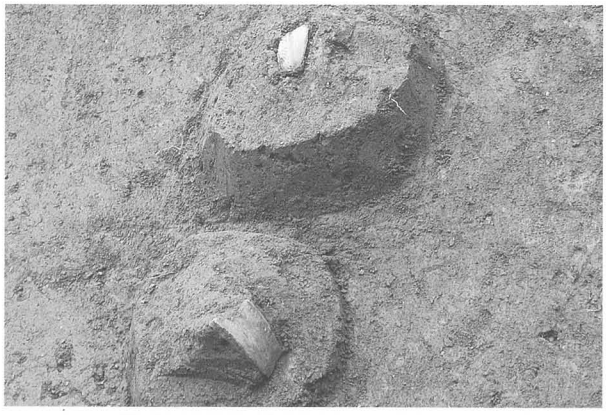
図版 4



本調査Ⅰ期ＫＧＰ層遺物出土状況（南から）



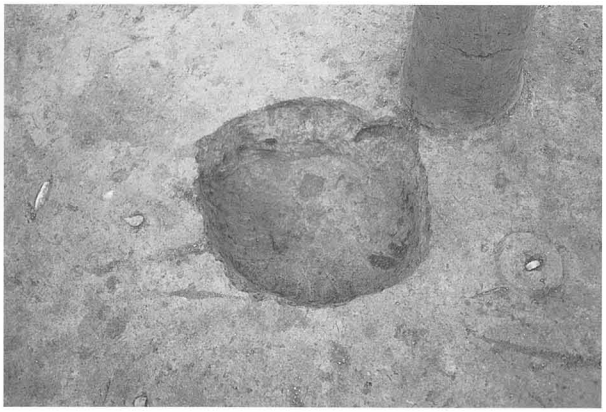
本調査Ⅰ期ＫＵ層遺物出土状況（東から）



本調査Ⅱ期加曽利Ｂ式土器出土状況

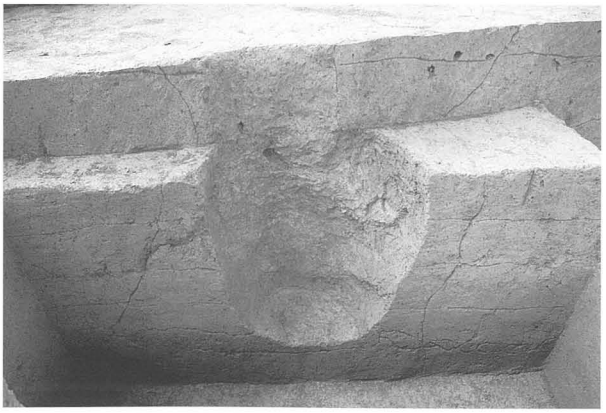
本調査Ⅱ期打製石斧出土状況

1 号配石遺構検出状況（旧石器時代）



2 号土坑完掘状況

3 号土坑完掘状況

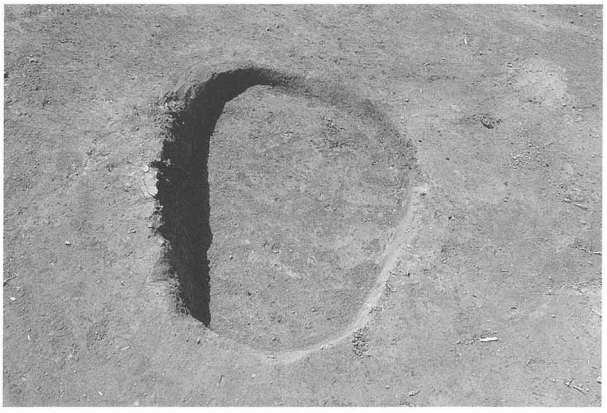


4 号土坑完掘状況

6 号土坑完掘状況

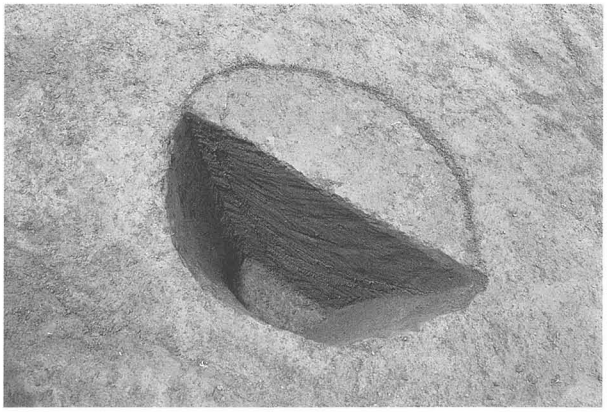
7 号土坑完掘状況

9 号土坑完掘状況



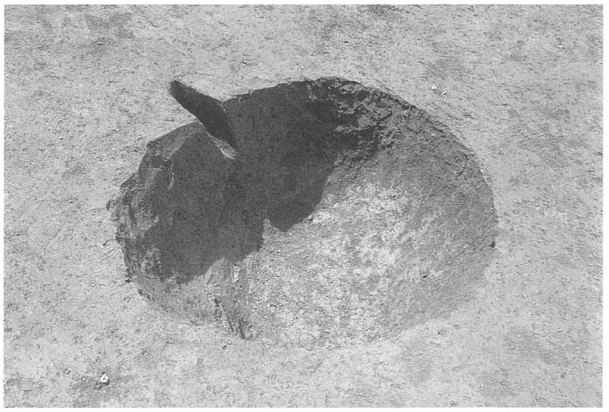
10 号土坑完掘状況

11 号土坑完掘状況



12 号土坑土層断面

12 号土坑完掘状況



13 号土坑完掘状況

図版 6

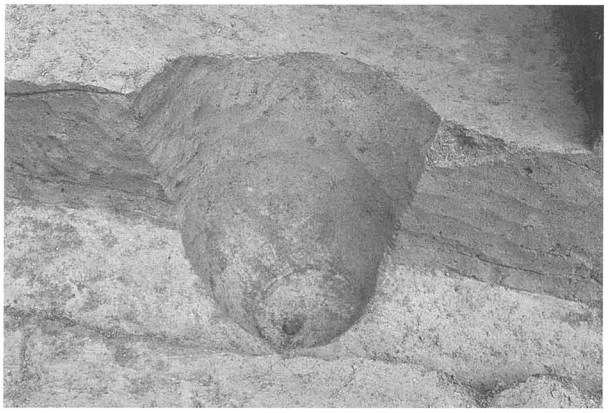
14 号土坑完掘状況

15 号土坑完掘状況

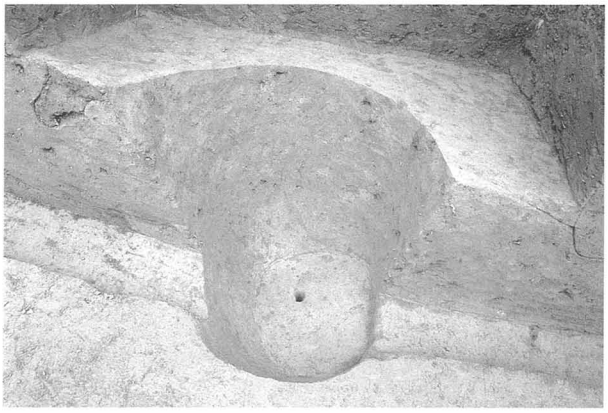
16 号土坑完掘状況

17・18 号土坑完掘状況

19 号土坑完掘状況

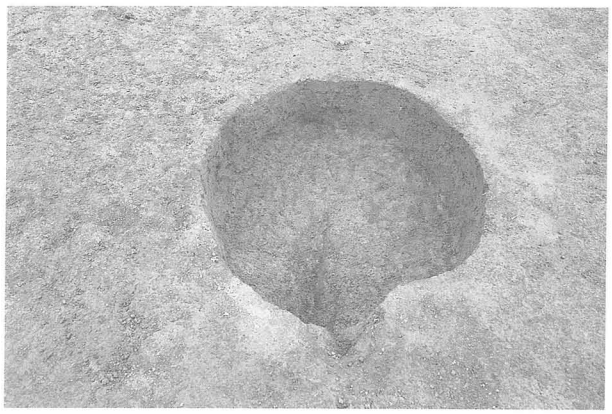


20 号土坑完掘状況



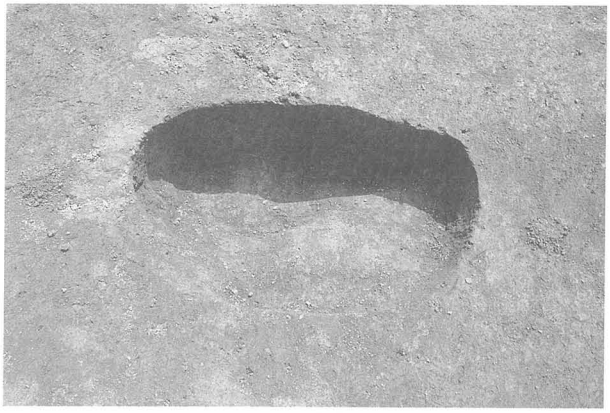
21 号土坑完掘状況

22 号土坑完掘状況

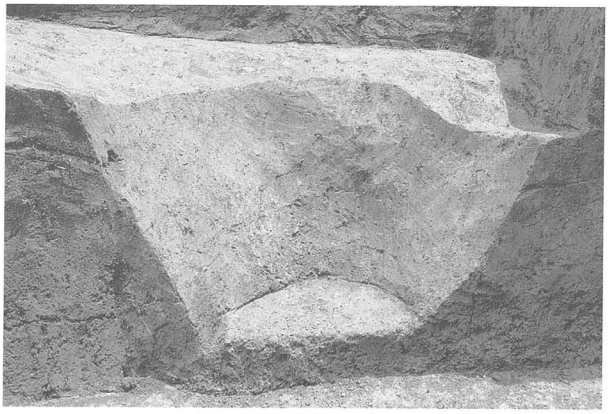


23 号土坑完掘状況

24 号土坑完掘状況



25 号土坑完掘状況

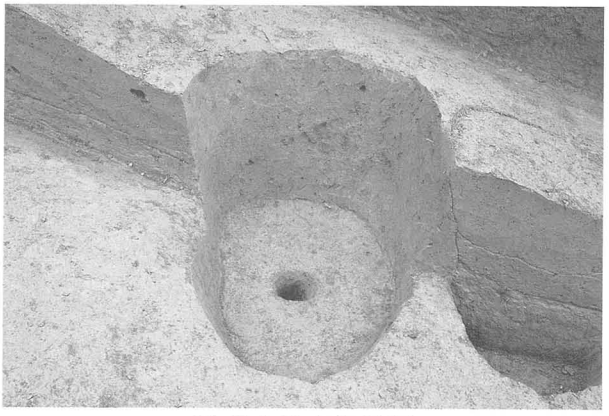


26 号土坑完掘状況

27 号土坑完掘状況

28 号土坑完掘状況

29 号土坑完掘状況

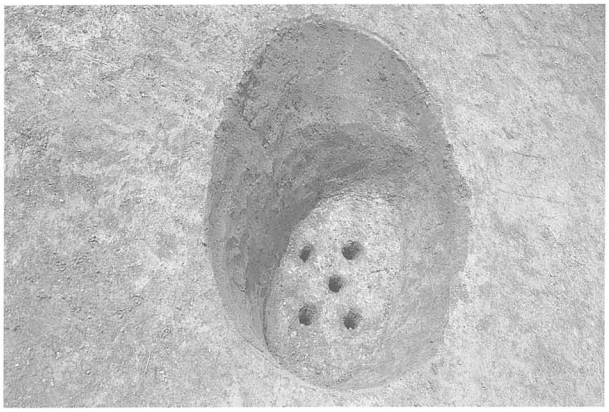


30 号土坑完掘状況

図版 8

31 号土坑完掘状況

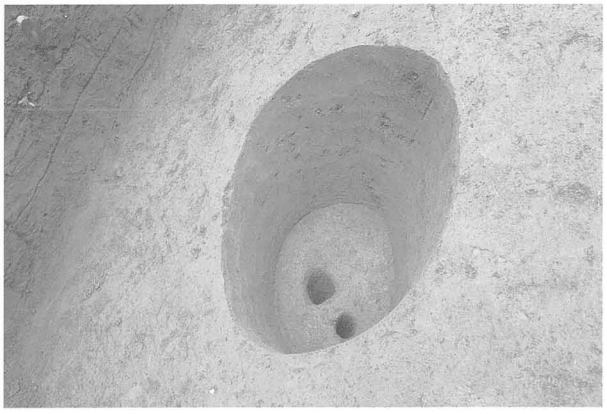
32 号土坑完掘状況



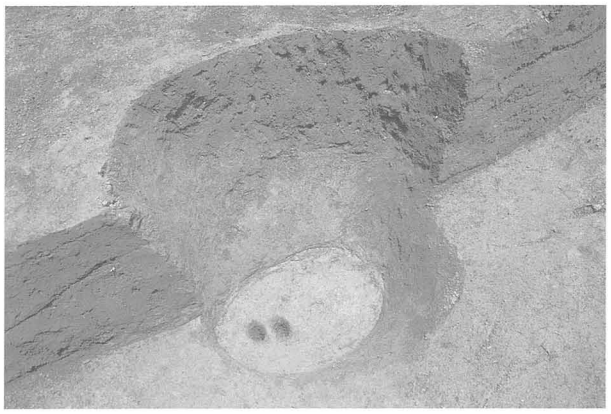
33 号土坑完掘状況

34 号土坑完掘状況

35 号土坑完掘状況



36 号土坑完掘状況

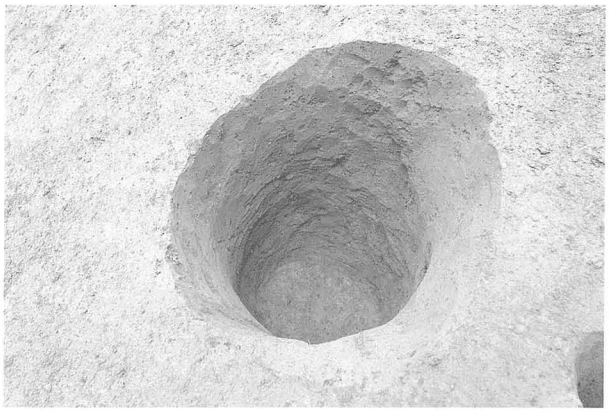


37 号土坑完掘状況

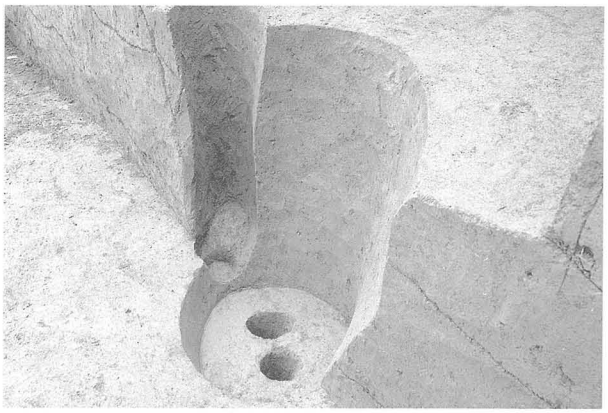
38 号土坑完掘状況

39 号土坑完掘状況

40 号土坑完掘状況



41 号土坑完掘状況



42 号土坑完掘状況

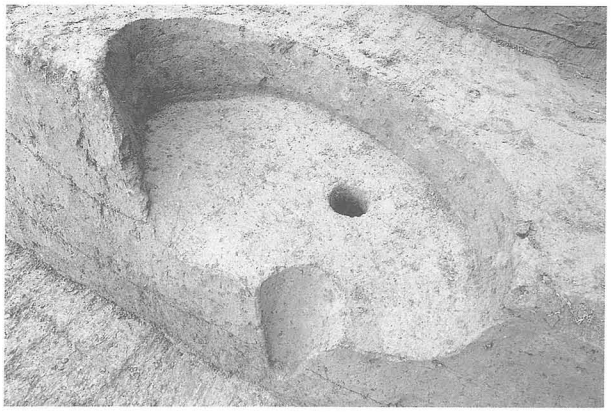
43 号土坑完掘状況

44 号土坑完掘状況

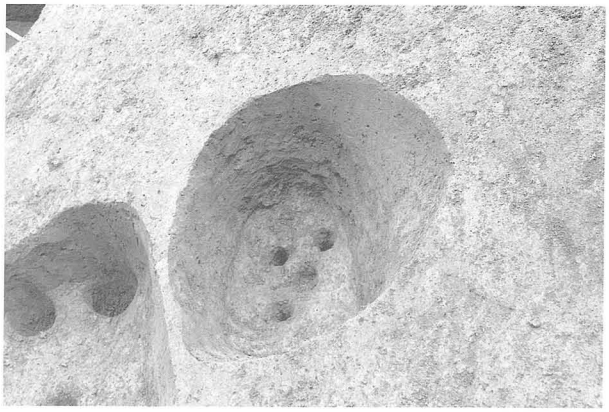
45 号土坑完掘状況

46 号土坑完掘状況

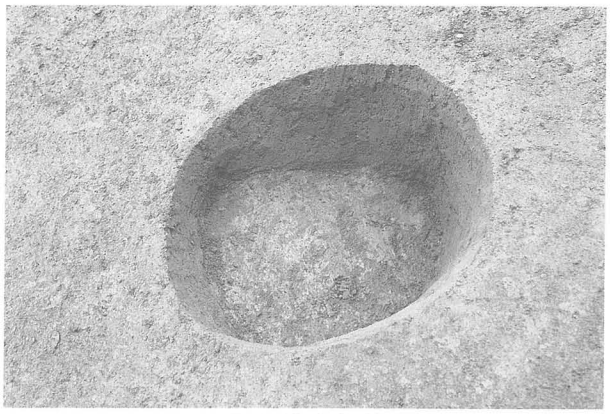
図版 10



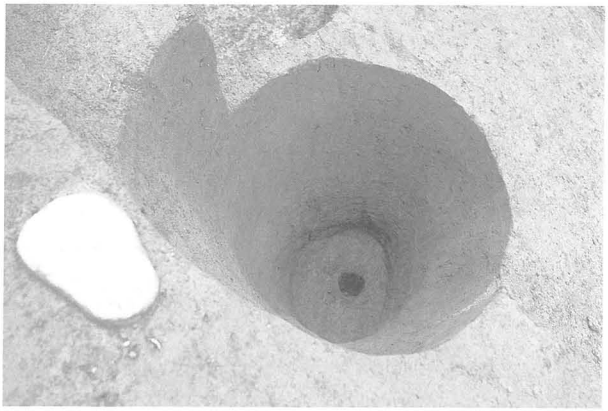
47 号土坑完掘状況



48 号土坑完掘状況



49 号土坑完掘状況

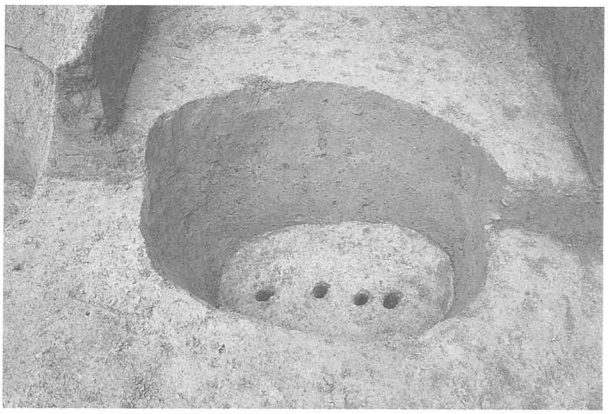


50 号土坑完掘状況

51 号土坑完掘状況

52・53 号土坑完掘状況

54 号土坑完掘状況



55 号土坑完掘状況

56 号土坑完掘状況

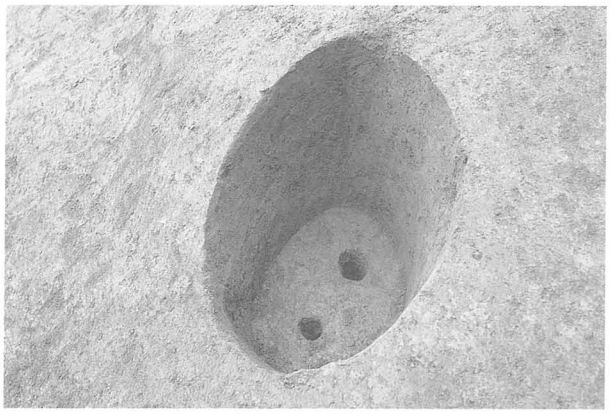
57 号土坑完掘状況

58 号土坑完掘状況

59 号土坑完掘状況

60 号土坑完掘状況

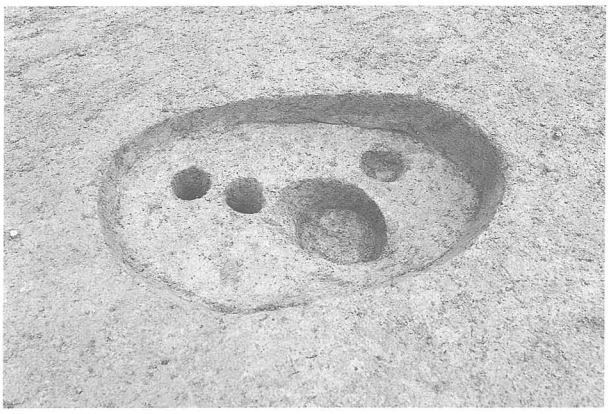
61 号土坑完掘状況



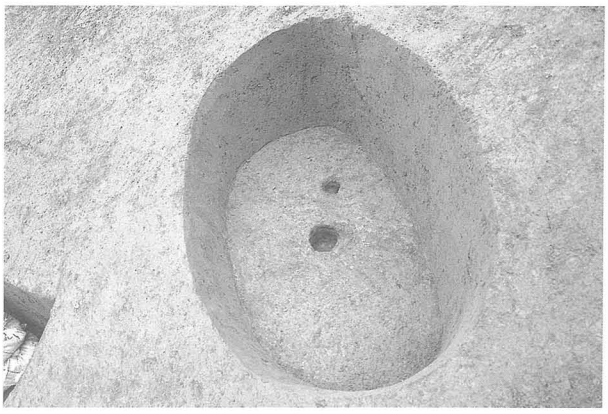
62 号土坑完掘状況

63 号土坑完掘状況

図版 12



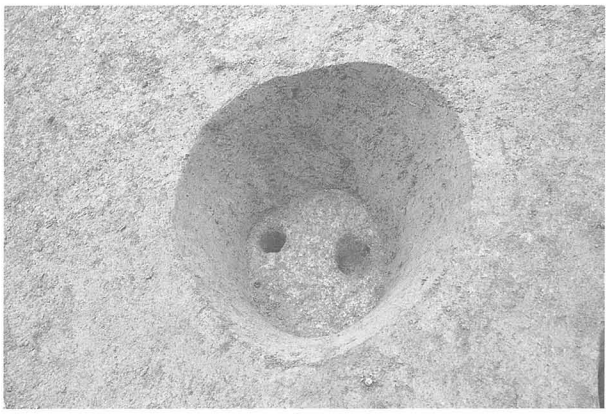
64 号土坑完掘状況



65 号土坑完掘状況

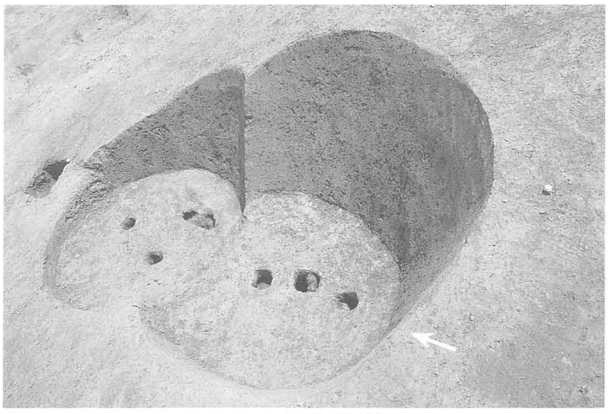
66 号土坑完掘状況

67 号土坑完掘状況

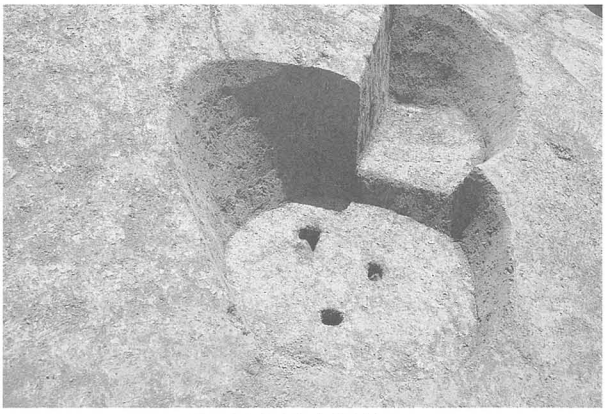


68 号土坑完掘状況

69 号土坑完掘状況



70 号土坑完掘状況

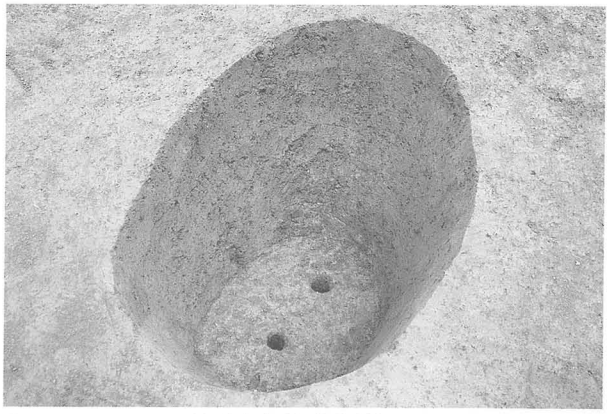


71 号土坑完掘状況

72 号土坑完掘状況

73 号土坑完掘状況

74 号土坑完掘状況



75 号土坑完掘状況

76 号土坑完掘状況

77 号土坑完掘状況

78 号土坑完掘状況

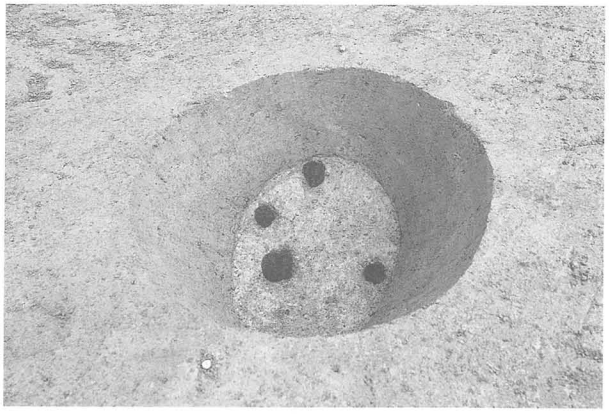
79 号土坑完掘状況

図版 14

80 号土坑完掘状況

81 号土坑完掘状況

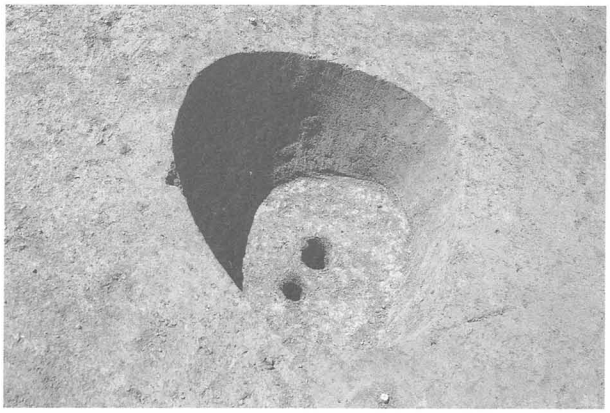
82 号土坑完掘状況



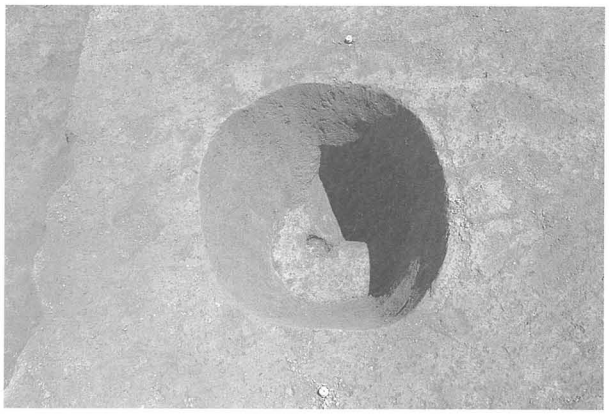
83 号土坑完掘状況

84 号土坑完掘状況

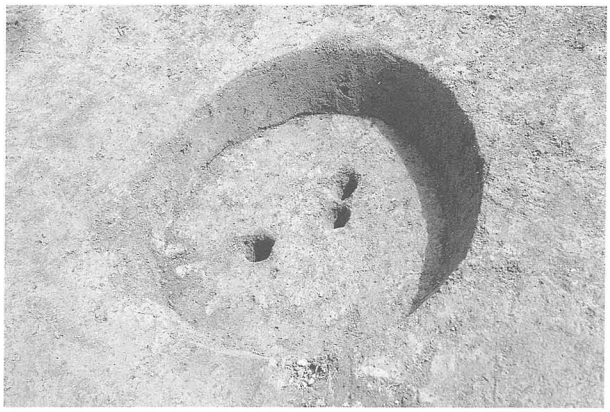
85 号土坑完掘状況



88 号土坑完掘状況

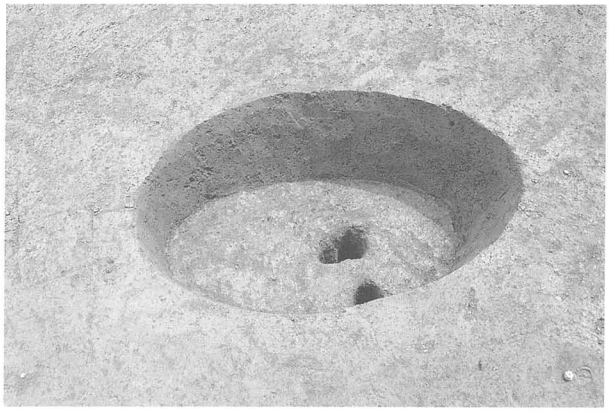


89 号土坑完掘状況

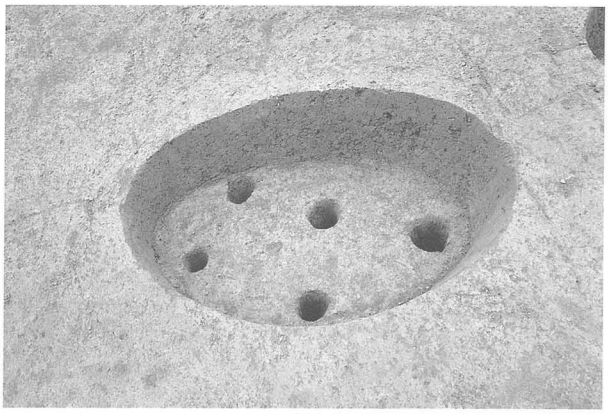


90 号土坑完掘状況

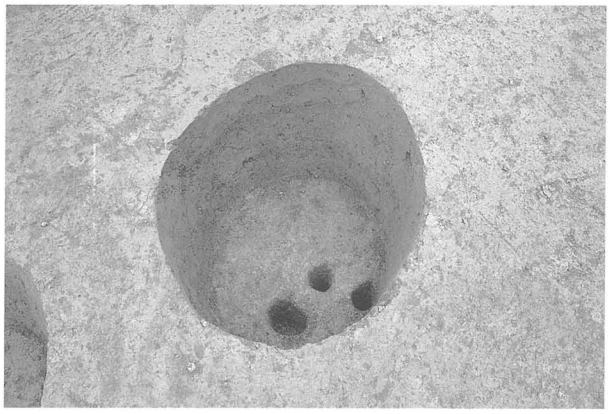
91 号土坑完掘状況



92 号土坑完掘状況

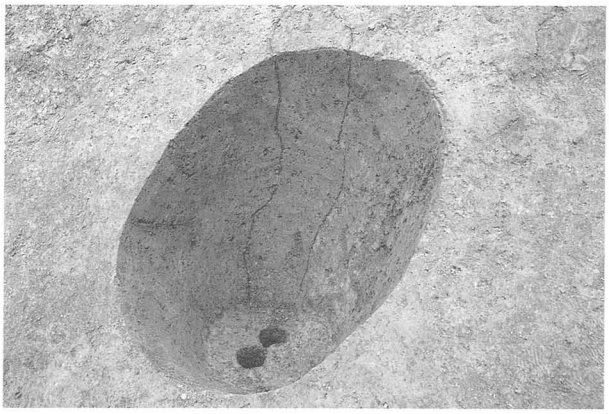


93 号土坑完掘状況



94 号土坑完掘状況

95 号土坑完掘状況

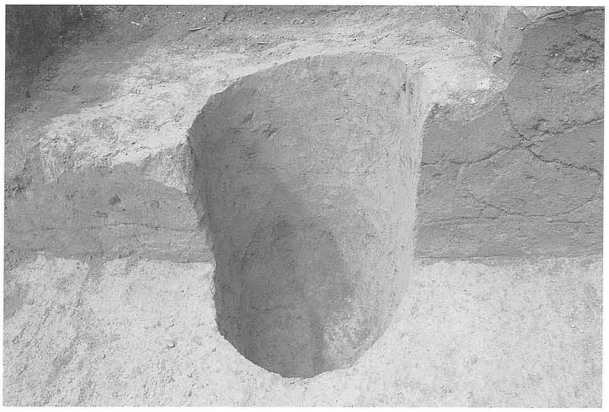


96 号土坑完掘状況

97 号土坑完掘状況

図版 16

98 号土坑完掘状況

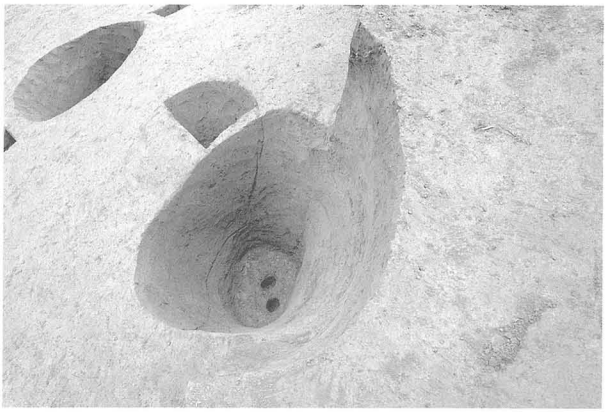


99 号土坑完掘状況

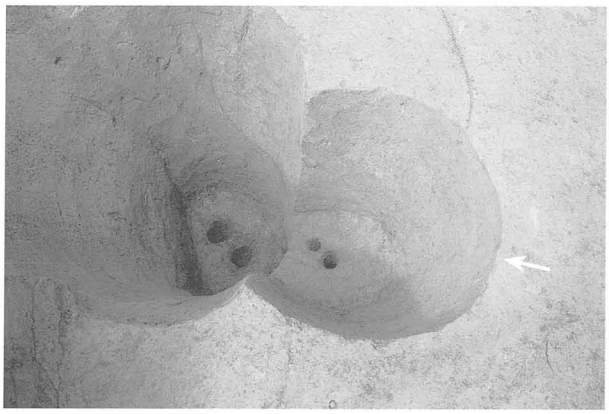
100 号土坑完掘状況

101 号土坑完掘状況

102 号土坑完掘状況



103 号土坑完掘状況

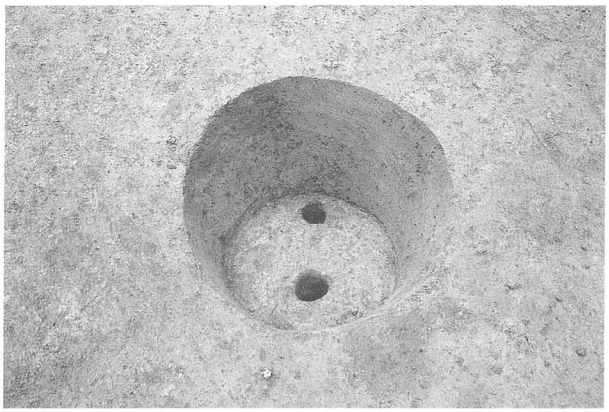


104 号土坑完掘状況（右側）

105 号土坑完掘状況

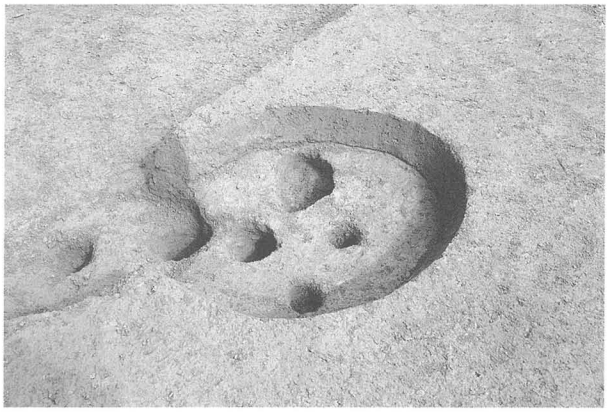
106 号土坑完掘状況

107 号土坑完掘状況



108 号土坑完掘状況

109 号土坑完掘状況



110 号土坑完掘状況

111 号土坑完掘状況

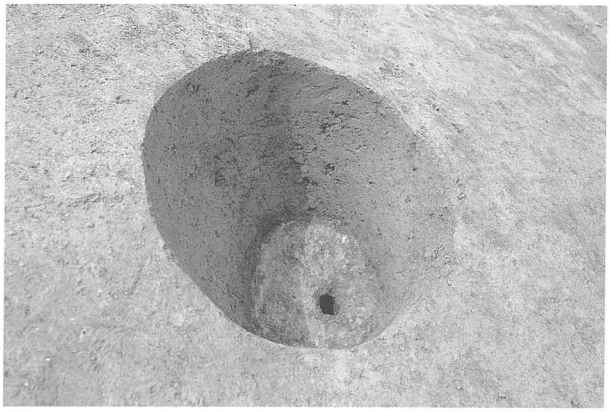
112 号土坑完掘状況

113 号土坑完掘状況

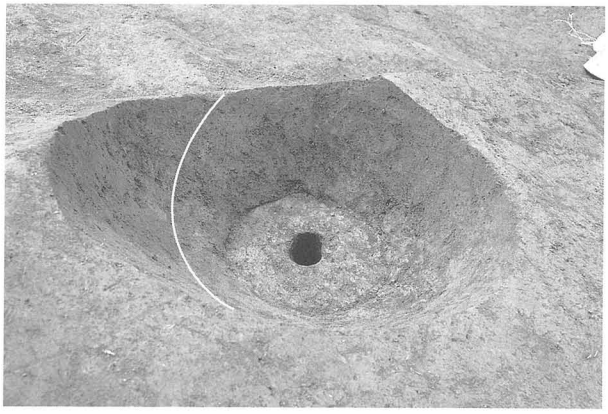
図版 18

114 号土坑完掘状況

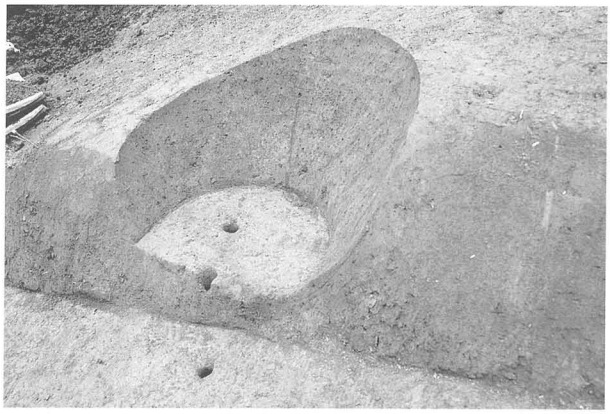
115 号土坑完掘状況



116 号土坑完掘状況



117 号土坑完掘状況



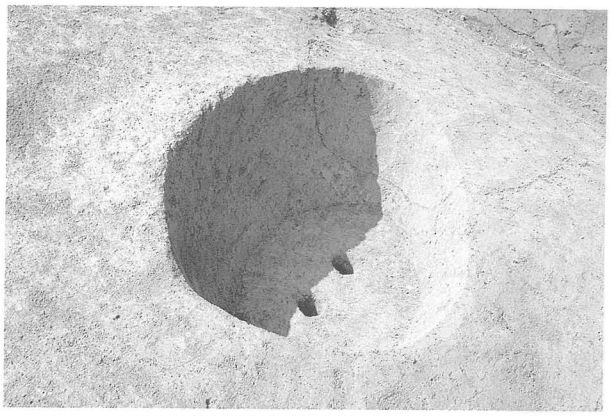
118 号土坑完掘状況

119 号土坑完掘状況

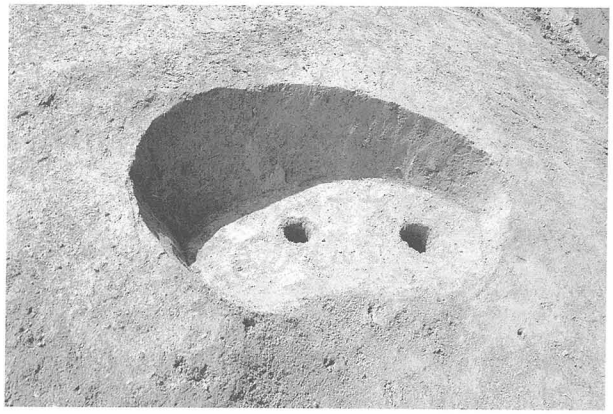
120 号土坑完掘状況

121 号土坑完掘状況

122 号土坑完掘状況

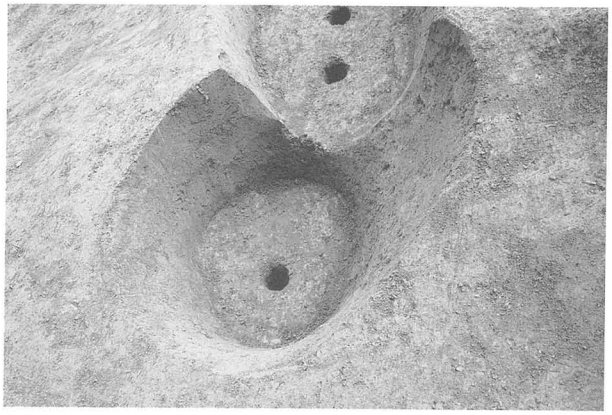


123 号土坑完掘状況



124 号土坑完掘状況

125 号土坑完掘状況



126 号土坑完掘状況

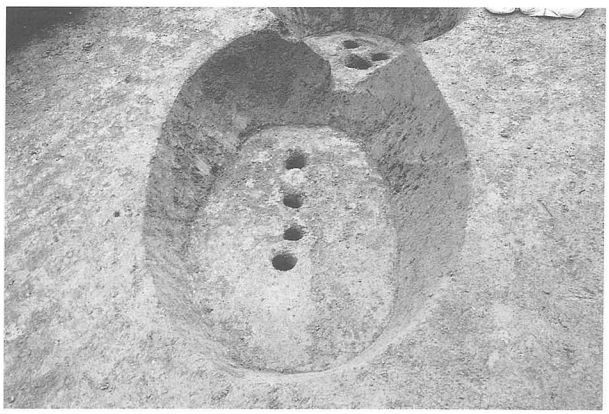
127 号土坑完掘状況

128 号土坑完掘状況

129 号土坑完掘状況

図版 20

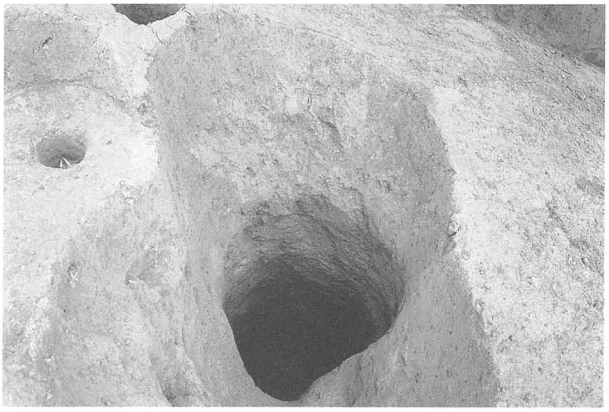
130 号土坑完掘状況



131 号土坑完掘状況

132 号土坑完掘状況

133 号土坑完掘状況



134 号土坑完掘状況

135 号土坑完掘状況

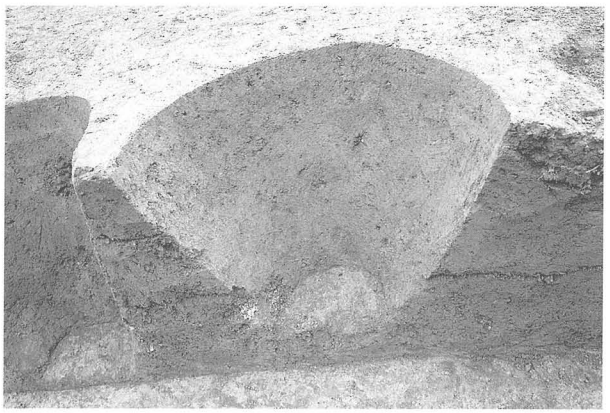
136 号土坑完掘状況

137 号土坑完掘状況

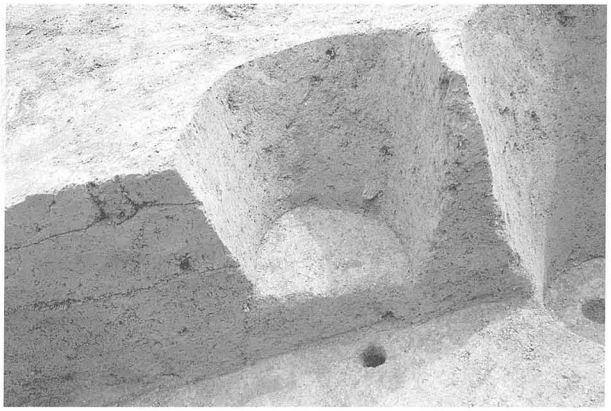
138 号土坑完掘状況

139 号土坑完掘状況

140 号土坑完掘状況

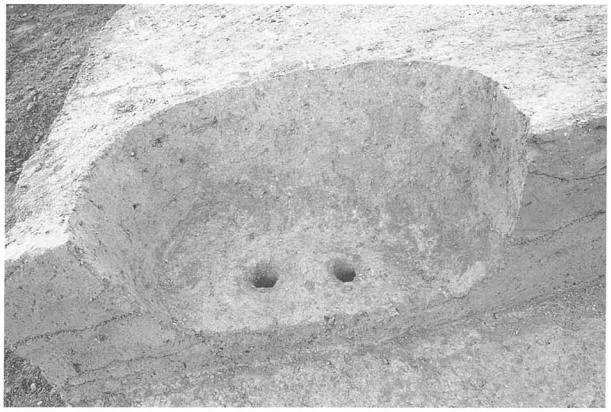


141 号土坑完掘状況



142 号土坑完掘状況

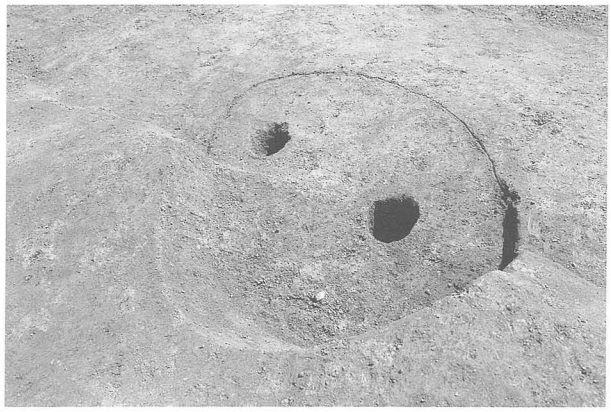
143 号土坑完掘状況



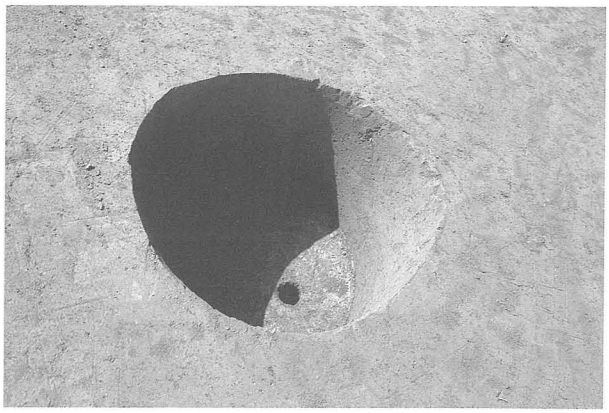
144 号土坑完掘状況

145 号土坑完掘状況

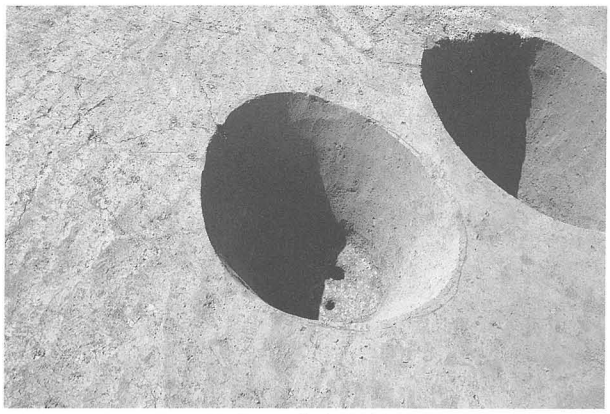
図版 22



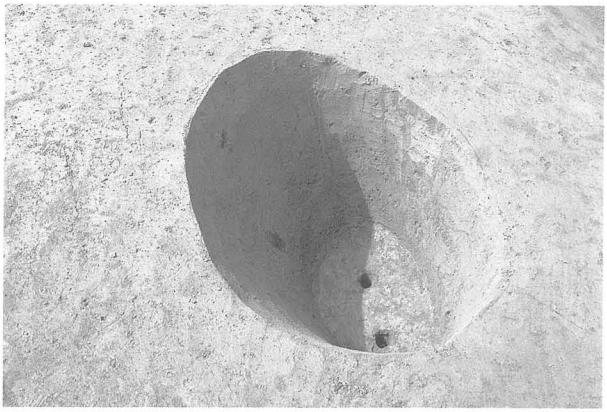
146 号土坑完掘状況



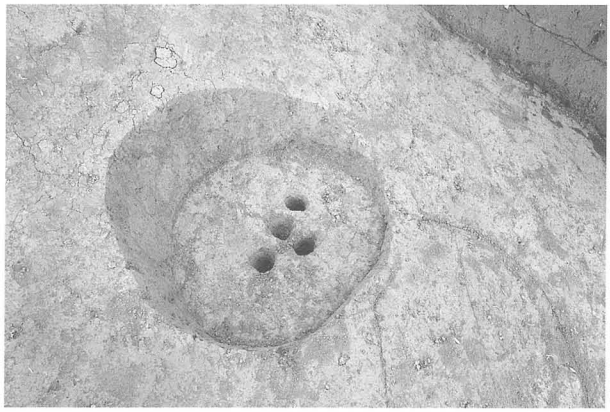
147 号土坑完掘状況



148 号土坑完掘状況



149 号土坑完掘状況



150 号土坑完掘状況

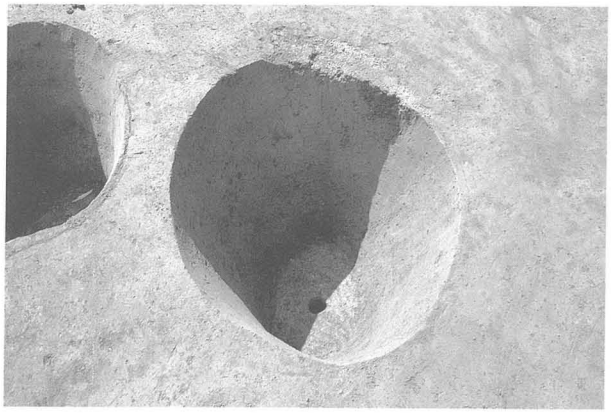
151 号土坑完掘状況

152 号土坑完掘状況

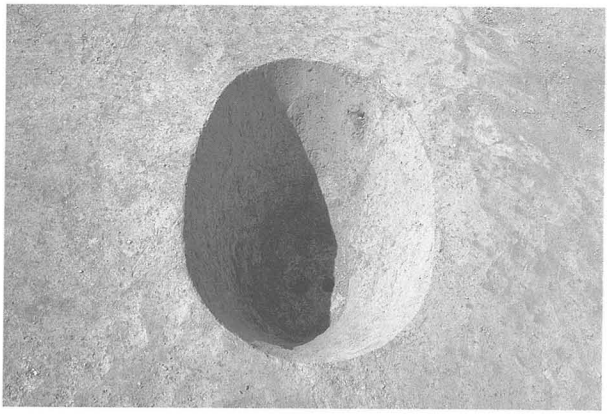
153 号土坑完掘状況

154 号土坑完掘状況

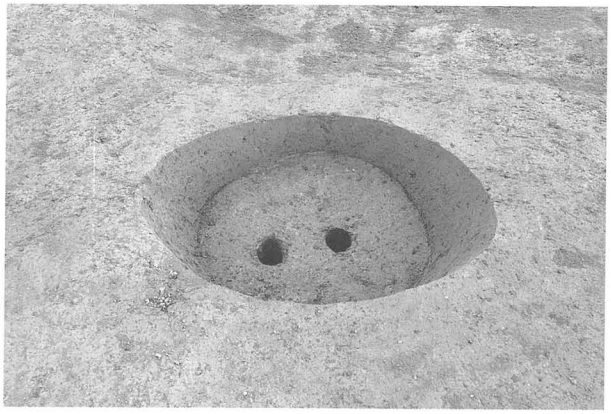
155 号土坑完掘状況



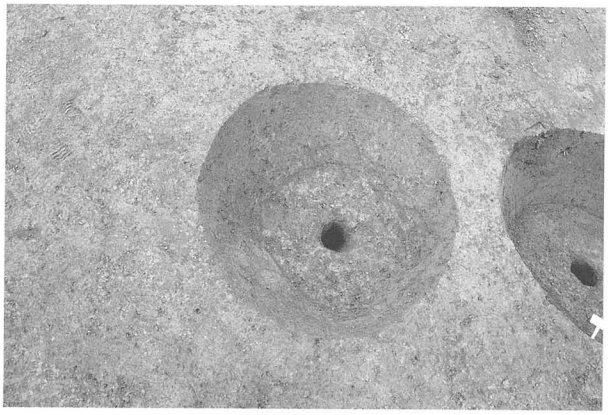
156 号土坑完掘状況



157 号土坑完掘状況



158 号土坑完掘状況



159 号土坑完掘状況

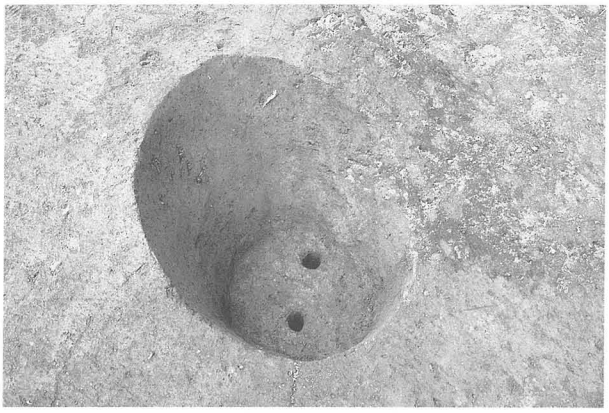
160 号土坑完掘状況

161 号土坑完掘状況

図版 24

162 号土坑完掘状況

163 号土坑完掘状況

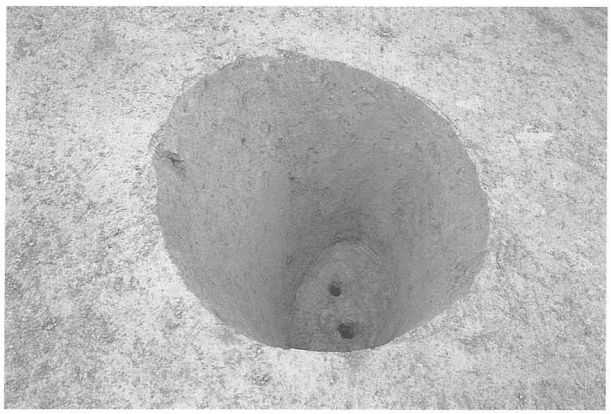


164 号土坑完掘状況

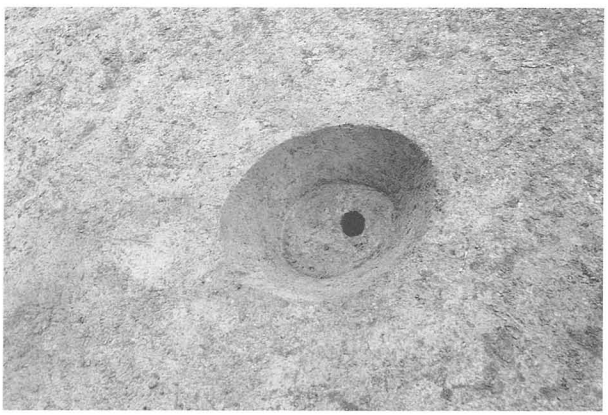
165 号土坑完掘状況

166 号土坑完掘状況

167 号土坑完掘状況



168 号土坑完掘状況

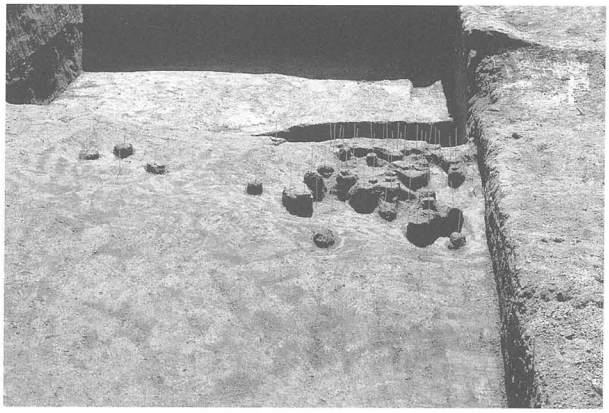


169 号土坑完掘状況

1号焼土遺構完掘状況

2号焼土遺構焼土検出状況

2号焼土遺構完掘状況



1号炭化物集中（北から）

1号炭化物集中（西から）

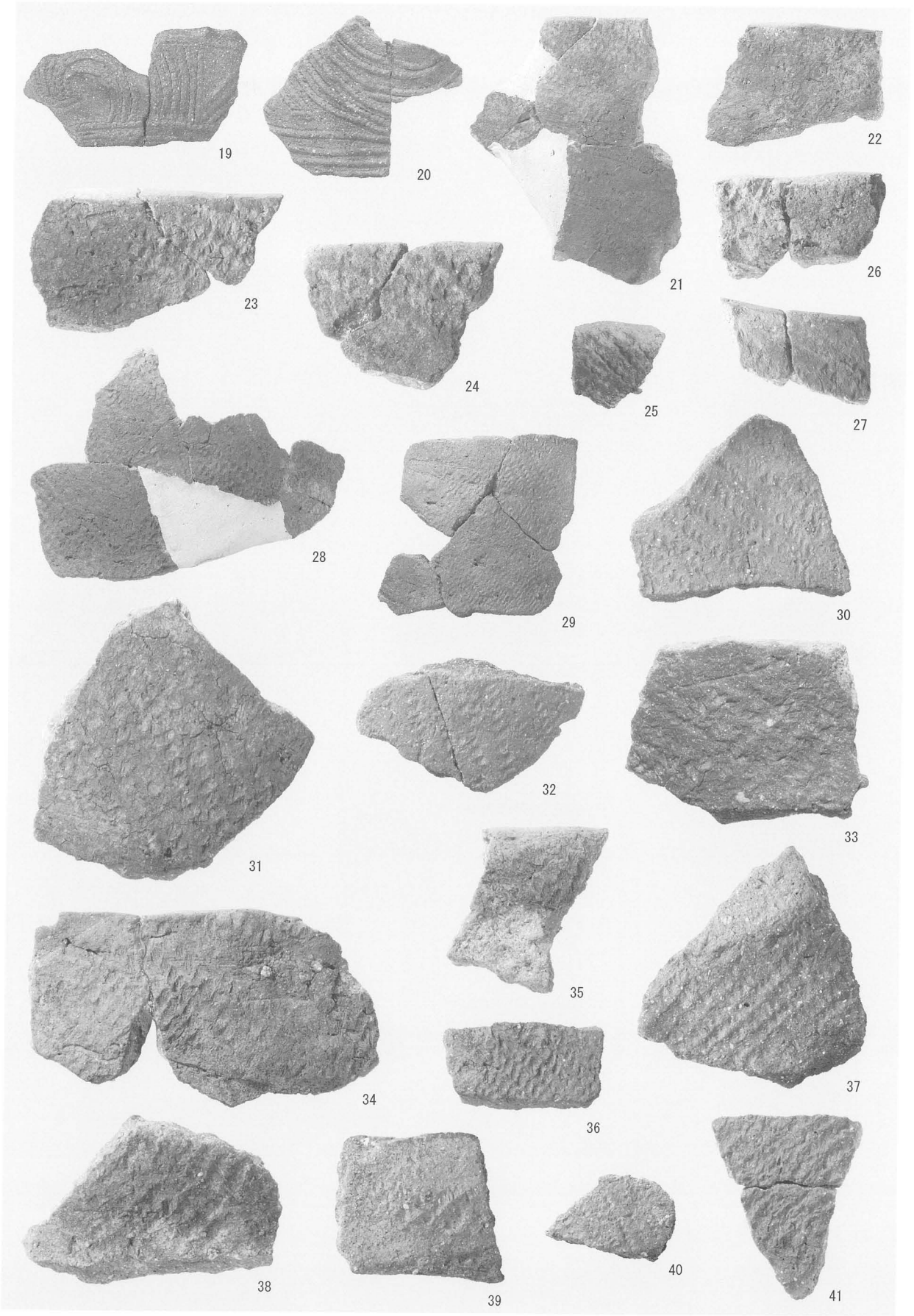
1号土坑完掘状況

8号土坑完掘状況

道路遺構完掘状況（西から）

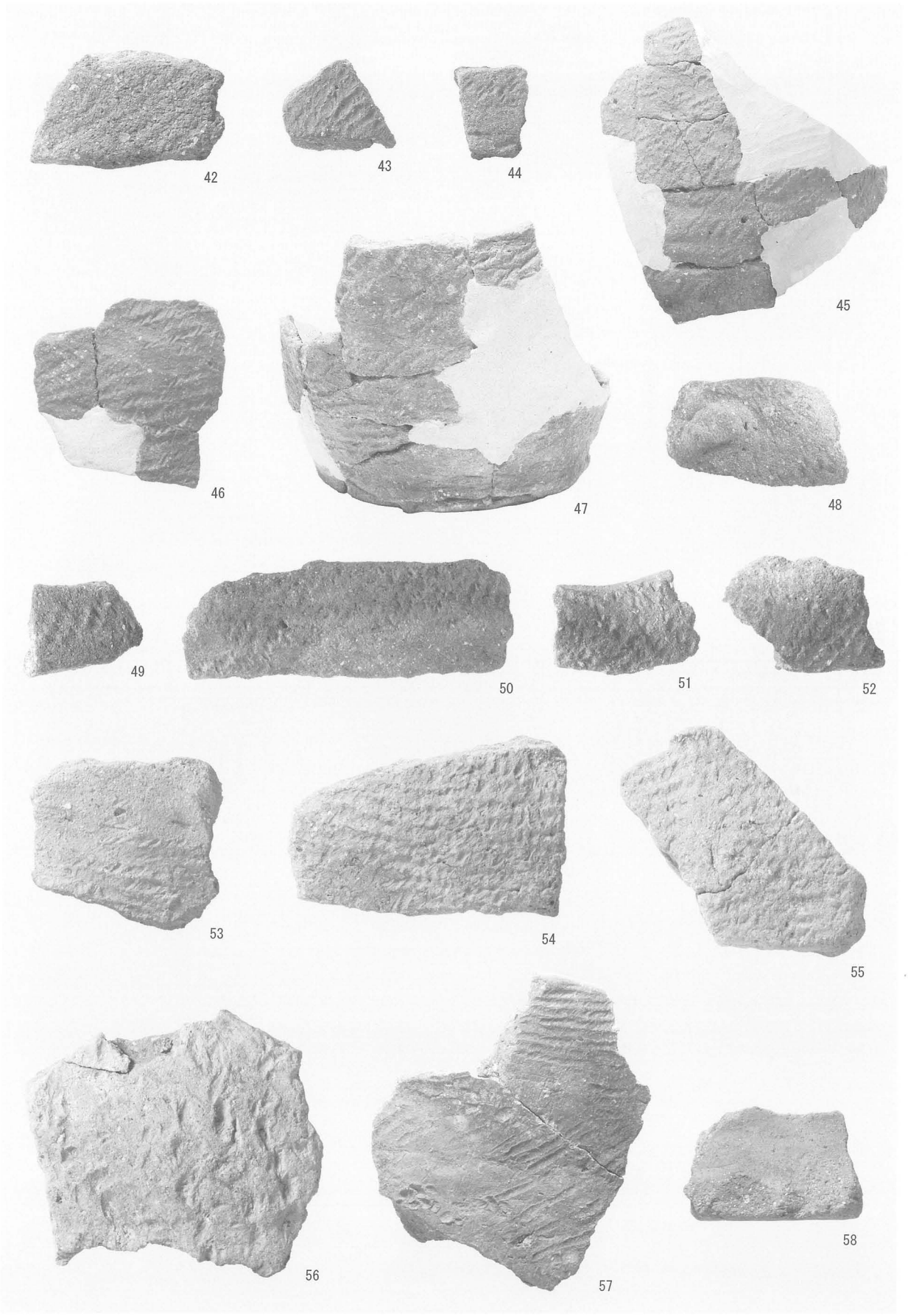
図版 26

縄文土器（１）



縄文土器（２）

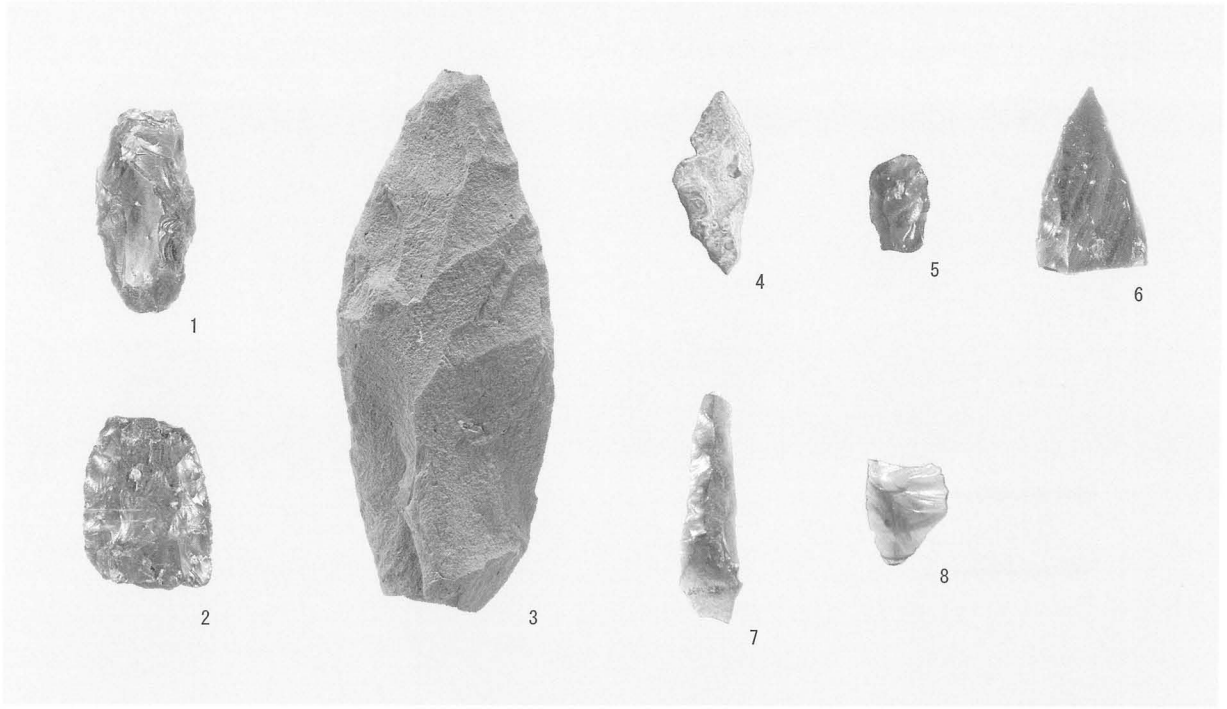
図版 28



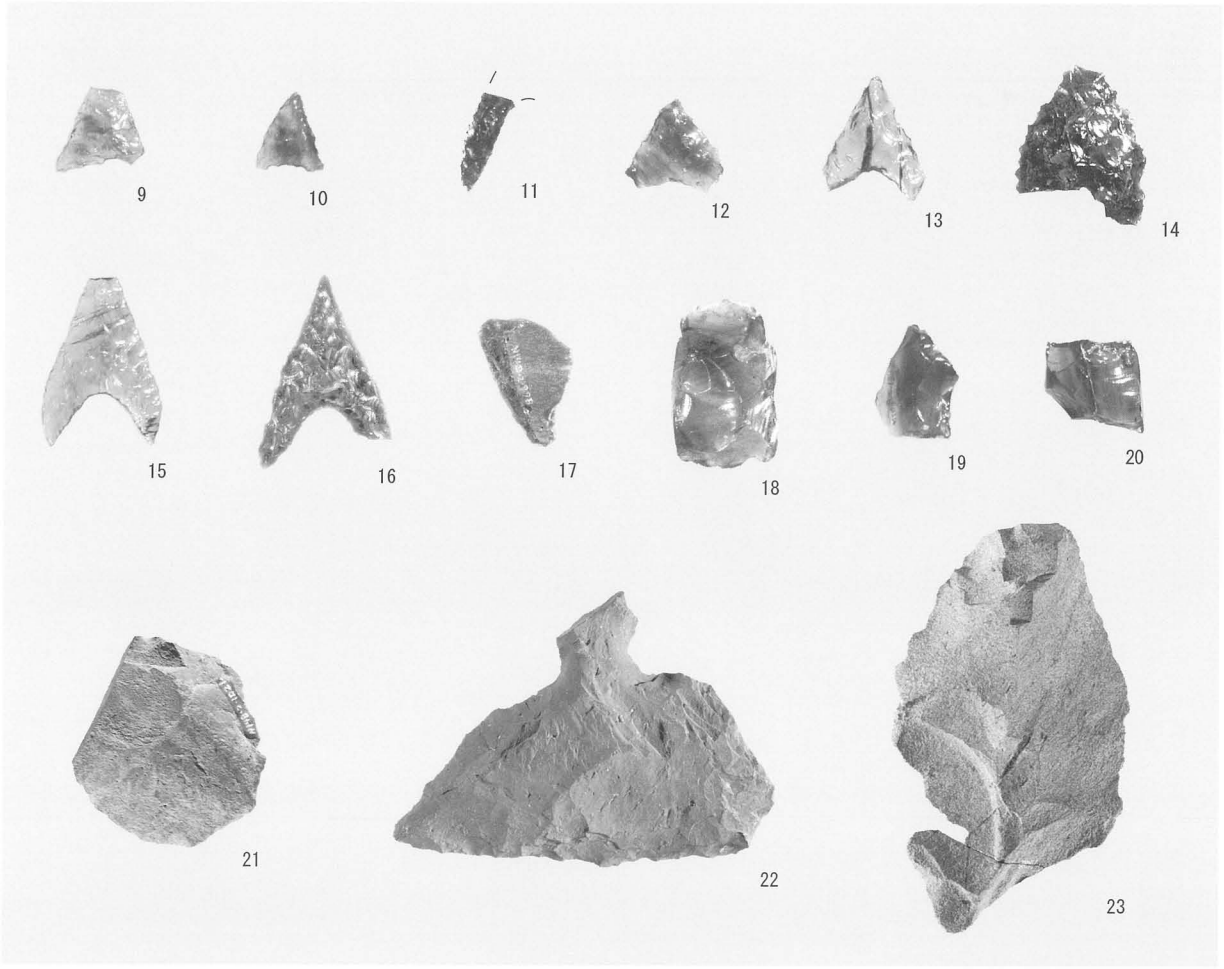
縄文土器（３）

縄文土器（４）

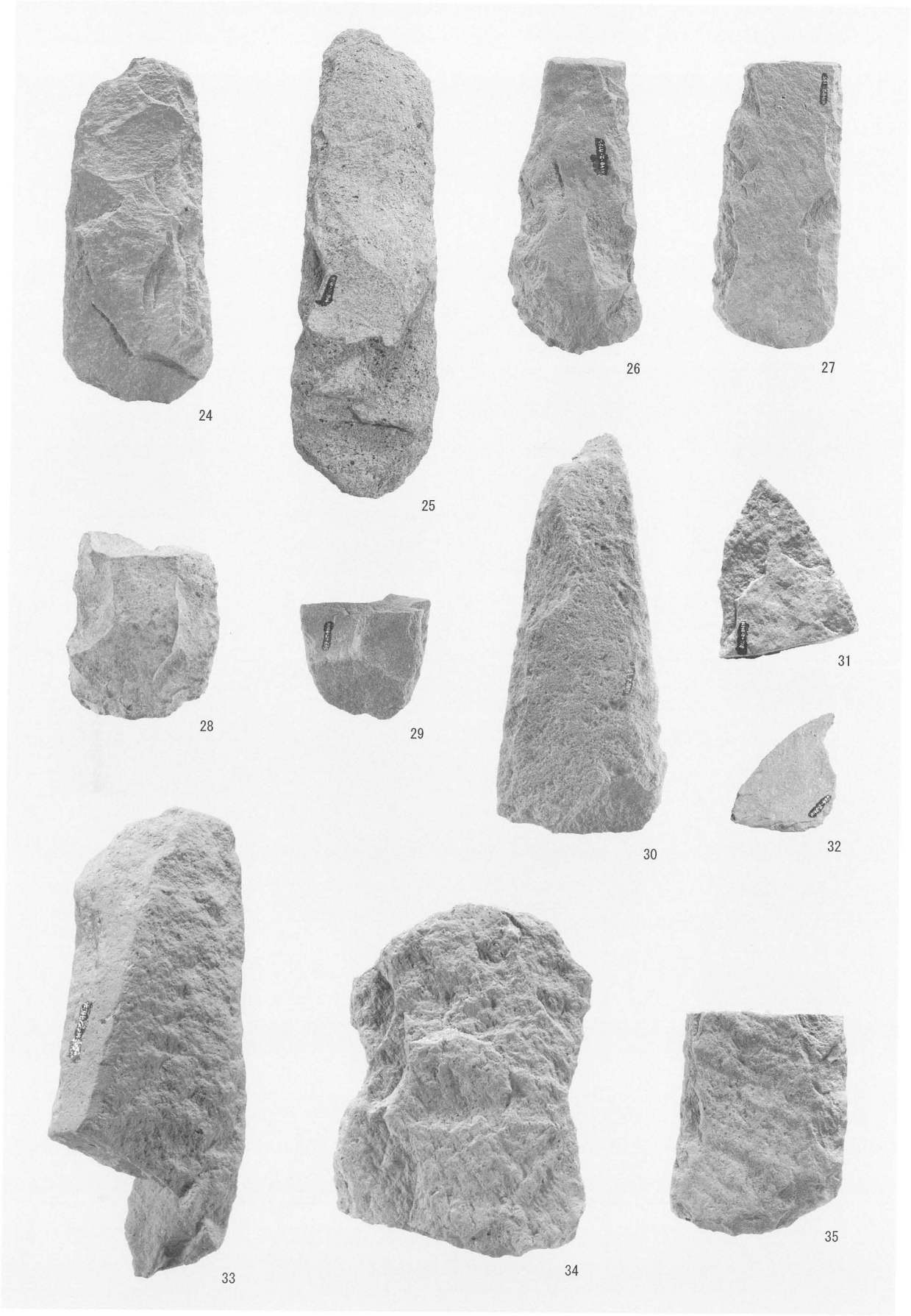
図版 30



旧石器時代の石器

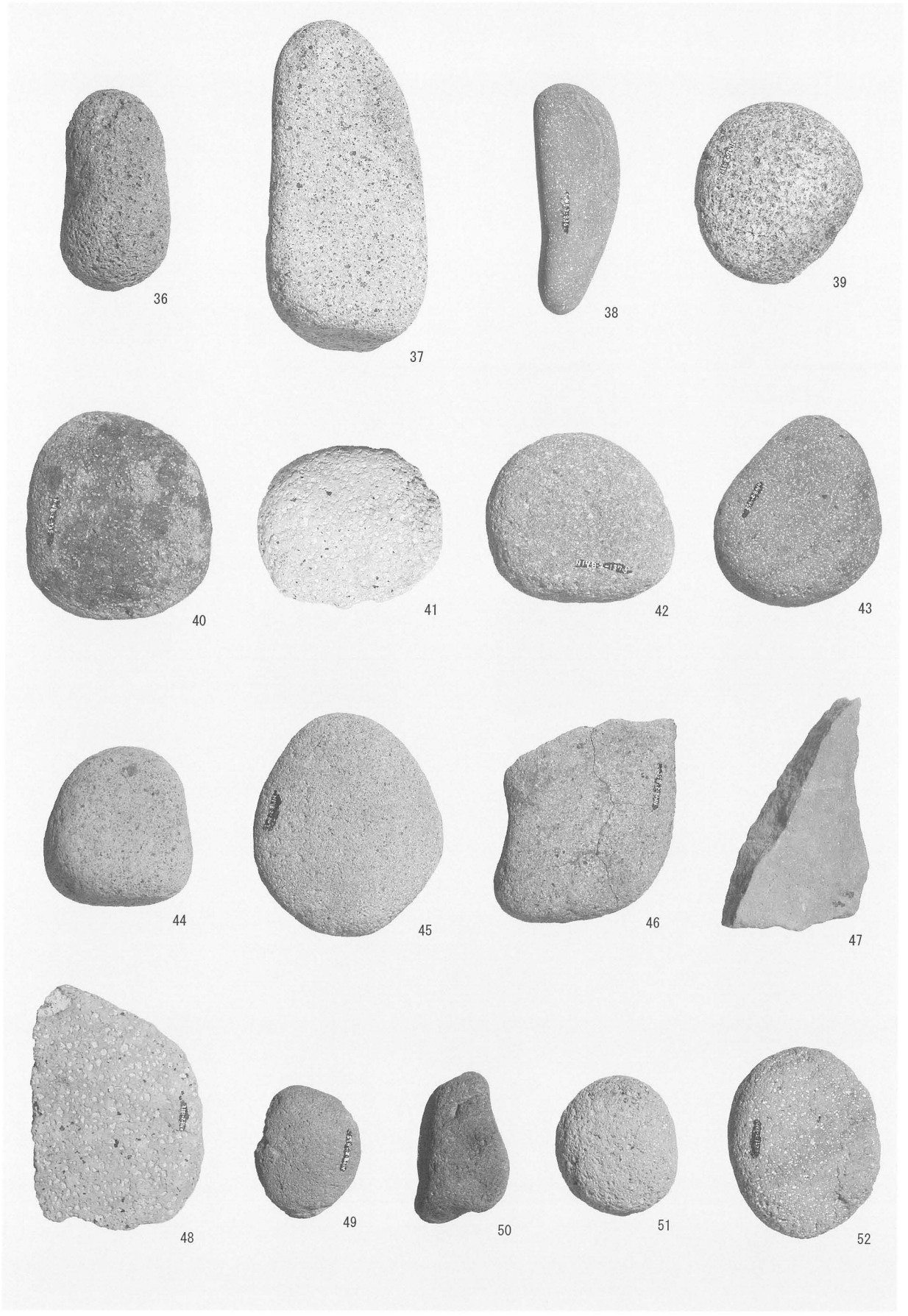


縄文時代の石器（１）

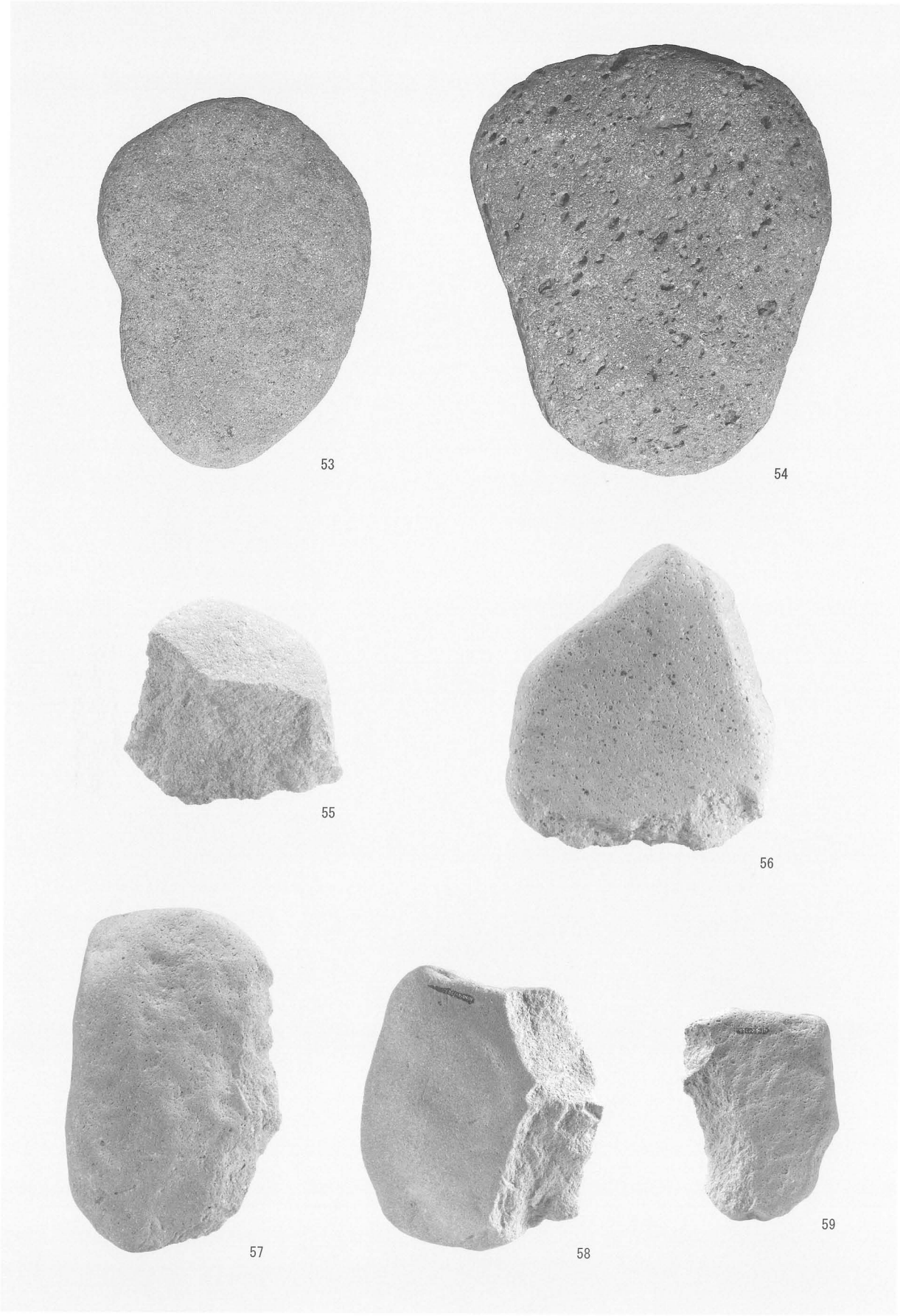


縄文時代の石器（２）

図版 32



縄文時代の石器（３）



縄文時代の石器（４）

報告書抄録

ふりがな	せんぷくみなみやま３にしいせき
書名	千福南山Ⅲ西遺跡
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第226集
編著者名	木崎道昭／大島秀俊／望月明彦（黒曜石産地分析）／㈱加速器分析研究所（年代測定・樹種同定）
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23－20　TEL 054-262-4261(代表) FAX 054-262-4266
発行年月日	2011年１月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
せんぷくみなみやま３ 千福南山Ⅲ にしいせき 西遺跡	しずおかけん 静岡県 すその し 裾野市 かずらやま 葛山 あざにし のくぼ 字西ノ窪 ほか 148他	22220		35°12'24"	138°53'16"	確認調査Ⅰ期 20060410～ 20060525 本調査Ⅰ期 20060627～ 20070112 確認調査Ⅱ期 20090223～ 20090328 確認調査Ⅲ期 20090406～ 20090421 本調査Ⅱ期 20090406～ 20090911	4,177㎡	記録保存調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
せんぷくみなみやま３ 千福南山Ⅲ にしいせき 西遺跡	散布地	旧石器 ＹＬＵ ＹＬＭ	配石遺構１	石槍３、ナイフ形石器３、使用痕のある剥片２	小規模なブロック状の遺物分布。石器製作の痕跡乏しい。
	散布地 その他 （狩猟場）	縄文 前～ 後期	土坑167 焼土遺構２ 炭化物集中１ ピット１	縄文土器417（破片数）、石鏃８、石錐１、楔形石器１、両極石器１、石核１、掻器１、石匙１、削器１、打製石斧12、磨石類17、台石２、礫器５	県内最多の陥穴状土坑の検出。複雑に重複する陥穴あり。諸磯ｂ式期の集落の周辺部か。加曽利Ｂ式の算盤玉形土器出土。
	墓？	中世～ 近世	土坑２ ピット１		土坑は円形と長方形。近代以降のものが含まれるか。
	交通	近代～ 現代	道路遺構１		戦後まで使用されていた材木運搬用道路。馬車の車輪や馬の蹄の跡を検出。

要約

旧石器時代ではブロック状に少量の遺物が出土。休場層からの出土で、高尾編年の４期後半に比定される。石器製作の痕跡は乏しい。縄文時代では167基の土坑が検出されている。ごく少数を除いてほとんどが陥穴状の土坑であり、陥穴状土坑としては静岡県最多の検出数である。重複する土坑もかなり見られ、多数が激しく重複する例もある。少量だが、縄文前期～後期の土器が出土しており、県東部では類例の少ない加曽利Ｂ式土器も存在する。諸磯ｂ式土器がやや多く出土した。また、中世以降の土坑等の他に、戦後まで使用された材木運搬用の馬車道が検出された。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第226集

千福南山Ⅲ西遺跡

第二東名№148－２地点
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
裾野市－６

平成23年１月31日

編集・発行　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡市駿河区谷田23－20
TEL　054－262－4261㈹
FAX　054－262－4266
印　刷　所　みどり美術印刷株式会社
〒410-0058　沼津市沼北町２丁目16番19号
TEL　055－921－1839㈹